

建築工事特記仕様書

【1】 工事概要

1. 工事場所 京都府船井郡京丹波町篠原堂ノ下31

2. 敷地面積 5831.71 m²

3. 建築物概要

棟名	構造	階数	建築面積 (m ²)	延べ面積 (m ²)	備考
屋内多目的グラウンド敷造	鉄骨造	1			
屋外便所棟	木造	1			

4. その他

【2】 適用範囲

現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、標準仕様書に示す範囲とする。

すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。

上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成25年版）」をいう。（以下、これを「標仕」という。）

本書に特に記載のない事項であっても、すべて、「標仕」の適用を受けるものとする。

【3】 工事区分

設計図書による。

別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工事仕様

1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「標仕」のほか別記の適用基準による。

2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。

4. 項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項	目	特	記	事	項
①	一般共通事項	① 適用基準等	※ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）	平成25年版	（監修：国土交通省）	
		※ 建築工事標準詳細図	平成22年版	（監修：国土交通省）		
②	建築材料等	※ 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。	※ 下記材料品目は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」にある材料とする。			
		※ 下記材料品目は、国土交通省大臣官房官庁営繕部を「建設大臣」は建設大臣官房官庁営繕部を示す）				

章	項	目	特	記	事	項	
①	一般共通事項	③ 特別な材料の工法	※ 設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。				
		④ 風圧力及び積雪に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地面粗度区分等 風速 (Vo) ※ 3 2 ○ (平成12年5月31日建設省告示第1454号) 地面粗度区分 ○ I ○ II ● III ○ IV 多雪地域の指定 ※ なし ● あり				
		⑤ 現場代理人	※ 本工事の施工にあたっては、請負契約第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。				
		⑥ 工事工程報告	※ 月報は毎月末日に於て、翌月5日までに提出する。 ※ 日報は監督職員の指示による。 ※ 週報は毎週（ ）曜日に提出する。				
		⑦ 工事実績情報の登録	※ 適用する（適用事項は、現場説明書による） ○ 適用しない				
		⑧ 設備工事との取合い	施工範囲 ※ 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ※ 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ※ 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ※ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強				
		⑨ 施工図等の取扱い	※ 施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。				
		⑩ 工事写真	※ 工事写真の撮り方（改訂3版）建築編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）によるほかは監督職員の指示による。 ※ 下記ものを監督職員に提出する。				

章	項	目	特	記	事	項	
①	一般共通事項	14 発生材の処理等 (7/8/10/11/12/13/14)	処理を行う範囲 ※ 図示（仕上表による 床・壁・天井毎に種別を確認） ○ 全ての室 ○ _____ 施工調査 ※ アスベスト成形成板の除去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 (1) アスベスト成形成板使用部位の確認 記載上の成形成板及びその使用範囲以外についても監督職員と協議の上確認を行うこと。 (2) アスベスト成形成板の種別、厚さ等の確認 (3) アスベスト成形成板使用数量の確認 (4) 施工範囲等の確認 確認方法 ※ 成形成板の製造年等の確認 ○ X線解析法 処理方法 ※ 「非飛散性7/8/10/11/12/13/14廃棄物の取扱いに関する技術指針」に従い、あらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。				
		⑮ 技能士	(1.5.2)				

章	項	目	特	記	事	項	
②	仮設工事	⑬ 騒音・振動の防止	低騒音型、低振動型建設機械指定要領に基づき指定された建設機械を使用する。				
		⑭ 質疑と軽微な変更	標準仕様書、標準図に記載されている内容及び、機能上必要と思われるものについては、設計書に記載が無くとも事前に仕様書を確認し請負金額の範囲において施工者の責任において施工のこと。図面及び仕様書の内容に相違がある場合、明記の無い場合又は疑いが生じた場合、監督職員と協議し、軽微な変更は請負金額の範囲において施工者の責任において施工する。各部の納まり、取り合い等の関係で材料の寸法、取付位置、取付方法、数量など多少の増減となる変更は、本工事範囲内とする。				
		⑯ 諸官庁への手続き	工事に必要となる法的手続きは、関係諸官庁との充分な協議を行い、施工者の責任において遅延なく申請手続きを行い、その費用は請負人の負担とする。				
		⑰ 工事書類の提出	工事に必要な工事書類（施工計画書・施工要領書・材料承諾書等）は、監督職員の指示により提出する。				
		⑱ 設計変更	設計変更を生じた場合の請負代金額の変更は、次の算式による。この場合における変更設計工事価格の計算は、本町の元設計単価によるものとする。 変更請負代金額＝変更設計工事価格×落札率÷消費税及び地方消費税相当額				
		① 足場その他	(2.2.4)	○ 足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さ及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式を採用すること。			
		2 監督職員事務所	(2.3.1)	規模 ○ 10m程度 ○ 20m程度 ○ 35m程度 ○ 65m程度 ○ 100m程度			
				仕上 床 ○ 合板張り素地 ○ ビーム床シロキ ○ パンチベアト敷き 内壁、天井 ○ 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エポキシ樹脂系外塗り 屋根 ○ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り ○ 鉄板張り鋼合ベイト塗り 休憩室 ○ 設けない ○ 設ける（畳敷き） ○ _____			
				備品 ○ 机 ○ いす ○ 保護帽 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぱ ○ 衣類（カー） （上記6品、4人分程度） ○ 書棚 ○ 黒板 ○ 製図板 ○ 掛時計 ○ 温度計 ○ 消火器 ○ 掃除具 ○ 懐中電灯 ○ 湯沸器 ○ 加入電話機 ○ 冷暖房機器 ○ コピー機 ○ ネット回線 ○ 流し台 ○ _____ ※ 標仕（平成25年版） ※ 建築工事監理指針（平成25年版） ※ 建築工事施工チェックシート ○ 建築工事標準詳細図（平成22年版） ○ 工事写真の撮り方（改訂3版）建築編			
				③ 工事用水	構内既存の施設 ※ 利用できない ● 利用できる（●有償 ○無償）		
		④ 工事用電力	構内既存の施設 ※ 利用できない ● 利用できる（●有償 ○無償）				
		⑤ 仮囲い等	※ 図示による ○ _____				
		⑥ 設計G.L	※ 図示による ○ 設計G.L＝現状G.L				

						工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
						図面名称 建築工事特記仕様書（その1）
						キタイ設計（株）
						A-01

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																							
3	土 工 事	①埋め戻し及び盛土 (3.2.3)	○ A種 砂質土 (山砂の類) を水締め又は機器による締固め (表3.2.1) ※ B種 根切り土の中の良質土を機器による締固め ○ C種 他現場の建設発生土の中の良質土を機器による締固め ○ D種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め ○ 建設発生土 (盛土材) の外部からの受入土量 (発生場所 () m ³)				5	①鉄筋の種類 (5.2.1)	異形鉄筋 種類の記号 径 (mm) 備 考 ※ SD295A D 16以下 ※ SD345 D 19以上 一般建築物の柱・梁の主筋に適用する ※ SD295Aは F _c :21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する 網目の形状、寸法 鉄筋の径 mm				6	コン ク リ ー ト 工 事	⑦型枠 (せき板) (6.2.5) (6.8.2) (6.8.3)	合板の規格 ※ 「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板 合板の材質 ※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 厚さ (mm) ※ 12 ○ _____ 打ち仕上げのせき板 ※ 合板せき板を用いる場合 (表6.2.4) 種別 板面の品質 施工箇所 ○ A種 ※6.8.3(b)(1) ○ ● B種 ※6.8.3(b)(2) ○ ○ C種 ※6.8.3(b)(2) ○ ○ 合板せき板を用いない場合 せき板の種類 _____ 外部に面する打ち仕上げの打増し厚さ ※ 図示による ○ 20mm ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法 ※ 図示による ○ _____	7	鉄 骨 工 事	⑤普通ボルト (7.2.3)	ボルト径 ○ _____	8	デッキプレート (7.2.7) (7.7.8)	⑧作業図 (7.3.2)	高力ボルト、普通ボルトの「グ」、「L」、「P」、Hあり等 ※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)	10	仮組 (7.3.10)	⑩溶接作業における技能資格者 (7.6.3)	溶接作業者の技量付加試験 ※ 行わない ○ 行う 試験の要領 ○ 図示による () ○ _____	11	溶接接合 (7.6.4) (7.6.7)	開先の形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) による ○ _____ エンドタブの切除 ○ 有 ○ 無 適用箇所 ※ 図示による ○ _____ スカラップの形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) による ○ 改良型スカラップ	12	溶接部の試験 (7.6.11)	完全溶込溶接部の超音波探傷試験 ※ 行う ○ 行わない ○ 工場溶接の場合 A0QL ○ 4.0% ○ 2.5% 検査水準 ○ 第6水準 (節全て) ○ 工事現場溶接の場合 A0QL ○ 4.0% ○ 2.5%	14	耐火被覆 (7.9.2) ~ (7.9.7)	種別 ○ 耐火材吹付け ○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○ ○ 耐火板張り ○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 遊戯室 ○ ○ 耐火材巻付け ○ 高断熱ロックウール ○ ○ 充填剤塗り ○ 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする 性能 性 能 適用箇所 (部 位 ・ 部 分) ○ 30分耐火 ○ 1時間耐火 ○ 2時間耐火 ○ 3時間耐火	15	アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)	適用 ○ 構造用アンカーボルト 材質 ○ SMR400B ○ _____ アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による ○ _____ ○ 建方用アンカーボルト 材質 ○ SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表7.10.1) 種別 ○ A種 ○ B種 ○ C種 柱底均しモルタルの厚さ ○ 50mm ○ 30mm	16	柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3)	モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○ _____ 厚さ ※ 図示による ○ _____ 工法 ※ A種 ○ B種
		②建設発生土の処理 (3.2.5)	※ 下記に定めるほかは、現場説明書による ○ 構外指示の受入場所に処分 受入場所 ※ (一財) 城陽山砂利採取地整備公社 ○ _____ 土壌調査 ※ 行う (受入場所指定の検査) ○ _____ ○ 京都府土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例 施行規則第7条第3項13号及び第4項に規定する方法 仮置場所 ○ _____ ○ 構内指示の場所に敷き均し ○ 構内指示の場所にたい積 ● 構外搬出適切処理 ※ 中丹東土木事務所管内及び丹後土木事務所管内で、 搬出土量が少量 (50m ³ 以内) かつ緊急の場合等	②鉄筋の継手 (5.3.4) (5.5.2) (5.5.3)	部 位 接 合 方 法 径 (mm) 重ね継手の長さ ※ 柱・梁の主筋 ○ 重ね継手 ※ ガス圧接継手 D 19以上 ○ 標仕表5.3.2 による ○ 機械式継手 ○ 溶接継手 ※ その他 ※ 重ね継手 ○ ガス圧接継手 D 16以下 ※ 構造図による ○ 機械式継手 ○ 溶接継手 ○ 機械式継手 工法 _____ 品質確認方法、修正方法等 _____ ○ 溶接継手 種類 工法 _____ 品質確認方法、修正方法等 _____ ○ 鉄筋継手位置 ※ 構造図による ○ 表5.3.3による ○ 柱に取付る梁の引張り鉄筋の定着長さ ※ 構造図による ○ 表5.3.4による	⑧スリーブ (6.8.3)		スリーブの材質 (表6.8.1) 適用箇所 材 種 (規 格 そ の 他) 水密を要する地中部分等 ※ つば付き鋼管 (JIS 63452 の黒管に厚さ6mm、 つば幅50mm以上の鋼管を溶接したもの) 水密を要しない地中部分等 ※ 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 のVU) 上記以外の円形スリーブ ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm 以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上) ○ _____	⑨ワークシート (6.9.2) ~ (6.9.5)	※ フレッシュコンクリートの試験 ○ 省略する	10 軽量コンクリート (6.10.1)	常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可 種別 ○ 1種 ※ 2種 施工箇所 _____ 所要気乾単位容積質量 _____ t/m ³			11 寒中コンクリート	※ 予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節 (寒中コンクリート) による。			12 暑中コンクリート (6.12.2)	※ 暑中における構造体強度補正值 (S) 地 域 日平均気温が25度を超える期間 (打設日) 補 正 値 北 部 地 域 7月11日~8月31日 ※ 6N/mm ² 中 部 地 域 7月21日~8月31日 ○ 3N/mm ² 南 部 地 域 7月1日~9月10日				13 マスコンクリート (6.13.2)				施工箇所 セメントの種類 ○ 中熟熱ポルトランドセメント ○ 低熟熱ポルトランドセメント ○ 高炉セメントB種 ○ フライアッシュセメントB種 ○ 普通ポルトランドセメントに混和材を混合したもの 混和材料 混和剤 ○ AE減水剤又は高性能AE減水剤 (JIS A 6204) ○ _____ 混和材 ○ フライアッシュの1種若しくは2種 (JIS A 6201) 又は 高炉スラグ微粉末の3000又は4000 (JIS A 6206) ○ _____ スランブ ※ 15cm以下 ○ _____			⑭コンクリートミキサー車の過積載防止対策等			受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる集計表を検査時に提出しなければならない。			①鉄骨の製作工場 (7.1.3)			○ 監督職員の承諾する工場 ※ 建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構 (旧(社)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(○ S ○ H ● M ○ R ○ J) グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場			②施工管理技術者 (7.1.3) (7.1.4)
4	地 業 工 事	①基礎種別	○ 杭基礎 杭の種類、本数等 ※ 構造図による 工法 ※ 構造図による 試験杭 ※ 行う (構造図による) 7-オ-ガ-の支持地盤への掘削深さ ※ 構造図による 杭の支持地盤への掘削深さ ※ 構造図による 杭継手 ※ 7-ク-溶接 ○ 無溶接継手 杭の水平方向位置ずれ精度 ※ 構造図による 杭の載荷試験 ○ 行う (構造図による) 継杭溶接部試験 ○ 行う (浸透探傷試験 _____本) 載荷試験 ○ 行う (下記以外は構造図による)			6	コン ク リ ー ト 工 事	①コンクリートの種類 (6.2.1)	種類 ※ 普通コンクリート ○ _____ 類別 ※ I類 ○ II類 (表6.2.1)	②コンクリートの強度 (6.2.2) (6.14.1)	設計基準強度 (F _c) 打 設 部 位 F _c (N/mm ²) スランブ (cm) 備 考 構造体 基礎 ○ 21 ● 24 ※ 15 ○ 18 上部 ○ 21 ● 24 ○ 15 ※ 18 土間スラブを含む 土間コンクリート ○ 18 ● 24 ※ 15 ○ 18 側溝・犬走り 捨コンクリート ※ 18 ○ ※ 15 ○ 18 軽量コンクリート ※ 21 ○ ※ 15 ○ 18 無筋コンクリート ※ 18 ○ ※ 15 ○ 18 標仕6.14.11による	③セメントの種類 (6.3.1)	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA ○ 高炉セメントのB種 (適用箇所 _____) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントのB種 (適用箇所 _____)	④骨材 (6.3.1)	粗骨材 ※ 砂利 (JIS A5308)、砕石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H 細骨材 ※ 砂 (JIS A5308)、砕砂 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 鋼スラグ ○ フロツクスラグ ○ 再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○ _____	⑤混和材料 (6.3.1)	混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種 (JIS A 6204) 防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) 混和材 ※ フライアッシュ (JIS A 6201) I種、II種若しくはIV種 ○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ○ コンクリート用シリカフェューム (JIS A 6207) ○ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)	⑥構造体強度補正值 (6.3.2)	※ 気温による構造体強度補正值 (S) (表6.3.2) 予想平均気温 (°C) 補正值 (S) 期 間 (打 設 日) 普通 早強 (S) 南部地域 中部地域 北部地域 8以上 5以上 3 3/6 ~ 6/30 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10 N/mm ² 9/11 ~ 11/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31 0以上 0以上 6 11/16 ~ 3/5 11/6 ~ 3/10 11/1 ~ 3/10 8未満 5未満 N/mm ² 南部地域 (京都市 (一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む)	⑦地盤改良	● 現場発生土を再利用する。 ○ _____ 改良方法 柱状改良 ※ セメント及びセメント系固結材を使用した改良土を使用する場合、六面クロム溶出試験を実施し、土壌環境基準を勘案して必要に応じ適切な措置を講じること。また、再利用しようとする場合は、基準以下であることを確認すること。 ※ 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(一財)日本建築セクターを参考とすること。	⑧基礎種別 (4.2.4)	※ 平板載荷試験 試験箇所数 _____箇所 (試験位置図示) 設計地耐力 _____ t/m ²	⑨砂利及び砂地業 (4.6.3)	厚さ (mm) ※ 図示による ○ 60 材料 ※ 再生クラッシャー ○ 切込砂利及び切込砕石	⑩捨てコンクリート地業 (4.6.4)	厚さ (mm) ※ 図示による ○ 50	⑪床下防湿層 (4.6.5)	※ ポリエチレンフィルム 厚さ0.15mm 重ね幅縦及び基礎梁際のみ込み 250mm以上 施工範囲 ※ 図示による ○ 建物内の土間スラブ (土間コンクリート含む) の直下 (ピット下を除く) ○ 捨コンクリートの直下	6 土間断熱材	※ 押出法ポリスチレンフォーム3種bのスキム層付き 厚さ ※ 2.5mm ○ _____mm												
		②地盤の載荷試験 (4.2.4)	※ 平板載荷試験 試験箇所数 _____箇所 (試験位置図示) 設計地耐力 _____ t/m ²	③砂利及び砂地業 (4.6.3)	厚さ (mm) ※ 図示による ○ 60 材料 ※ 再生クラッシャー ○ 切込砂利及び切込砕石			④捨てコンクリート地業 (4.6.4)	厚さ (mm) ※ 図示による ○ 50		⑤床下防湿層 (4.6.5)		※ ポリエチレンフィルム 厚さ0.15mm 重ね幅縦及び基礎梁際のみ込み 250mm以上 施工範囲 ※ 図示による ○ 建物内の土間スラブ (土間コンクリート含む) の直下 (ピット下を除く) ○ 捨コンクリートの直下		6 土間断熱材		※ 押出法ポリスチレンフォーム3種bのスキム層付き 厚さ ※ 2.5mm ○ _____mm																										

	工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
	図面名称	建築工事特記仕様書 (その2)
	設計者	キタイ設計 (株) 一級建築士31975番 小川 隆二
	図面番号	A-02

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項
12	木工事	7床張り用合板 (12.2.1)	「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 ○造作用単板積層材			使用箇所			厚さ	表面の品質		防虫処理								
			「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 ○造作用単板積層材			使用箇所			厚さ	表面の品質		含水率 防虫処理								
			普通合板			使用箇所			厚さ	樹種名	接合程度	板面の品質		その他処理						
			構造用合板			使用箇所			等級	厚さ	樹種名	接合程度	板面の品質		その他処理					
13	屋根及び とい 工事	①性能 2長尺金属板葺 (13.2.2) (13.2.3) 3折板葺 (13.3.2) 4粘土瓦葺 (13.4.2) (13.4.3) ⑤とい(雨水) (13.5.2) (13.5.3) ⑥保証書 ⑦カラーベスト葺	※本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。(表13.2.1)			屋根葺形式			材 料 の 種 類 等		厚さ(mm)	下 葺 材 料								
			○横葺 ※JIS G 3322の屋根用コイル ○瓦葺葺 ○改質7ｽﾌﾟﾙｽﾌﾟﾙﾌﾝｸﾞ下葺材 ○平葺 ○一般タイプ ○複層葺材タイプ ○粘着層付タイプ			○0.4 ○7ｽﾌﾟﾙｽﾌﾟﾙﾌﾝｸﾞ940			○改質7ｽﾌﾟﾙｽﾌﾟﾙﾌﾝｸﾞ下葺材		○複層葺材タイプ ○粘着層付タイプ									
			形式による区分			※重ね形 ○はね絡め形 ○嵌合形		山高(mm)	耐力	山ピッチ(mm)										
			材料による区分			※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ○ (表13.2.1)		軒先面戸板		※有り(軒先面戸・換気面戸) ○無し		軒先面戸板								
14	金属 工事	1一般事項 (14.1.3) 2ステンレスの 表面仕上げ (14.2.1) 3ｱﾙﾐﾆｳﾑ及ﾋﾞｱﾙﾐﾆ 合金の表面処理 (14.2.2) 4鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3) 5軽量鉄骨天井地 (14.4.2) (14.4.4) 6軽量鉄骨壁下地 (14.5.3) 7金属成形板張り (14.6.3) 8アルミニウム製 笠木 (14.7.2) (14.7.3) ⑨手すり (14.8.2) 10タラップ及び丸 階段 (14.8.3) 11天井点検口 12床点検口 13屋上点検口	あと施工アンカーの引抜き試験 ※行う (箇所以上、 ___N/箇所) ○行わない			種 別			種 類	施 工 箇 所 (手すり、タラップ、建具以外)										
			種 別			種 類	施 工 箇 所 (手すり、成形板、笠木、建具以外)		陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ○三次電解着色 ○											
			表面処理方法			種 別	試 験	施 工 箇 所		野縁等の種類 屋内 ※19型 ○25型 屋外 ○19型 ※25型 屋外の野縁受け・吊りボルト・インサートの間隔 ___mm 屋外の周辺部の端からの寸法 ___mm 屋外の野縁の間隔 ___mm 屋外のはずれ留め補強 ※有り ○無し 開口補強 吊りボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示による ○ 天井のふところの補強 (1.5m以上3m以下) ※行う (3mを超える) ※行う (図示による) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○行う ○行わない 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ○行う ○行わない										
			形状			製 法	材 種	寸 法 (mm)	表 面 処 理		スタッド、ランナー等の種類 (表14.5.1) ※表14.5.1におけるｽﾀｯﾄﾞの高さに応じた種類 ○ スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示による ○ 形状 製 法 材 種 寸 法 (mm) 表 面 処 理 ○スパンドレル形 ○押し出し ※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 板厚 ___mm ○ローレル ○ 板幅 ___mm ○パネル形 ※プレス ○C-1種 (無着色) ○C-2種 (着色) ○D種 伸縮調整継手 ※設けない ○設ける (施工箇所は図示)									
15	左官 工事	⑩モルタル塗り (15.2.2) ~(15.2.5) 2セルフレベリング 材塗り (15.4.2) ⑪仕上塗材仕上げ (15.5.2)	既製目地材 ○適用する (形状 ___)			床塗り 目地の設置 ※有り (※押目地 ○ ___) ○無し			外壁タイル張り下地等の均しモルタル塗りの確認及び試験 浮きの確認 ※全面打診による確認を行う 接着力試験 ※行う ○行わない			※種類及び品質は表15.4.1による ○せっこう系 ○セメント系 厚さ(mm) ※10 ○15 内装塗材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○ ___								
			薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.5.1)			種 類 (呼び名)		仕 上 げ		工 法		備 考								
			○外装薄塗材Si			○砂壁状 ○ゆず肌状		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 こて塗								
			○外装薄塗材E			●砂壁状 ○ゆず肌状 ○平たん状 ○凹凸状		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
16	建具 工事	⑫性能 ⑬防火戸 (16.1.3) 3見本の製作等 (16.1.4) 4防犯建物部品 (16.1.6) ⑭アルミニウム製 建具 (16.2.2) ~(16.2.4) 6網戸 (16.2.3) 7樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.4) ⑮鋼製建具 (16.4.2) ~(16.4.4)	※本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 ※図示による ○			建具見本の製作 ○行う (建具番号 ___) 特殊な建具の仮組 ○行う (建具番号 ___)			開口部の進入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ドア 適用箇所 (___) ・サッシ 適用箇所 (___) ・シャッター 適用箇所 (___)			外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表16.2.1) 性能等級 ※A種 ○B種 ○C種 耐風圧性 ※S-4 ○S-5 ○S-6 ○ 気密性 ※A-3 ○A-4 ○ 水密性 ※W-4 ○W-5 ○ 枠見込み(mm) ※図示 ○70 ○100 ※100 ○								
			表面処理 (表14.2.1)			種 別		色		施 工 箇 所		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材C			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材E			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
17	工	⑯性能 ⑰防火戸 (16.1.3) 3見本の製作等 (16.1.4) 4防犯建物部品 (16.1.6) ⑱アルミニウム製 建具 (16.2.2) ~(16.2.4) 6網戸 (16.2.3) 7樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.4) ⑲鋼製建具 (16.4.2) ~(16.4.4)	○防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ___) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ___) ○耐震ドアセットの適用 (面内変形追随性の等級 ___) 結露水の処理方法 ※図示による ○ 水切り、ぜん板等 ※図示による ○ ※出入口のくつずりにステンレスを使用する場合は図示による。			防虫網 網の種類 ※合成樹脂製 ○ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス製 (SUS316) 形 式 ※外部可動式 ○固定式 線径、網目 ※0.25mm以上、16~18メッシュ ○			外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表16.3.1) 性能等級 ※A種 ○B種 ○C種 耐風圧性 ※S-4 ○S-5 ○S-6 ○ 気密性 ※A-4 ○ 水密性 ※W-4 ○W-5 ○ 枠見込み(mm) ※図示 ○			○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材C			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材E			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材E			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
18	工	⑳性能 ㉑防火戸 (16.1.3) 3見本の製作等 (16.1.4) 4防犯建物部品 (16.1.6) ㉒アルミニウム製 建具 (16.2.2) ~(16.2.4) 6網戸 (16.2.3) 7樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.4) ㉓鋼製建具 (16.4.2) ~(16.4.4)	○防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ___) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ___) ○耐震ドアセットの適用 (面内変形追随性の等級 ___) 結露水の処理方法 ※図示による ○ 水切り、ぜん板等 ※図示による ○ ※出入口のくつずりにステンレスを使用する場合は図示による。			防虫網 網の種類 ※合成樹脂製 ○ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス製 (SUS316) 形 式 ※外部可動式 ○固定式 線径、網目 ※0.25mm以上、16~18メッシュ ○			外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表16.3.1) 性能等級 ※A種 ○B種 ○C種 耐風圧性 ※S-4 ○S-5 ○S-6 ○ 気密性 ※A-4 ○ 水密性 ※W-4 ○W-5 ○ 枠見込み(mm) ※図示 ○			○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材C			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材E			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材E			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
19	工	㉔性能 ㉕防火戸 (16.1.3) 3見本の製作等 (16.1.4) 4防犯建物部品 (16.1.6) ㉖アルミニウム製 建具 (16.2.2) ~(16.2.4) 6網戸 (16.2.3) 7樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.4) ㉗鋼製建具 (16.4.2) ~(16.4.4)	○防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ___) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ___) ○耐震ドアセットの適用 (面内変形追随性の等級 ___) 結露水の処理方法 ※図示による ○ 水切り、ぜん板等 ※図示による ○ ※出入口のくつずりにステンレスを使用する場合は図示による。			防虫網 網の種類 ※合成樹脂製 ○ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス製 (SUS316) 形 式 ※外部可動式 ○固定式 線径、網目 ※0.25mm以上、16~18メッシュ ○			外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表16.3.1) 性能等級 ※A種 ○B種 ○C種 耐風圧性 ※S-4 ○S-5 ○S-6 ○ 気密性 ※A-4 ○ 水密性 ※W-4 ○W-5 ○ 枠見込み(mm) ※図示 ○			○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材C			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材E			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								
			○外装薄塗材E			○吹放し ○凸部処理		吹付け		吹付け		○吹付用軽量塗材 砂壁状 吹付け ○こて塗用軽量塗材 平たん状 吹付け								

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																					
⑩ 9 鋼製軽量建具 (16.5.2) ~ (16.5.4)	簡易気密型ドアセットの気密性 ※適用する (A-3) ○適用しない ○防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級) ○耐震ドアセットの適用 (面内変形追従性の等級) 鋼板 ※表面処理亜鉛めっき鋼板 ○ビニル被覆鋼板 ○カラー鋼板 ○ステンレス鋼板 鋼板類の厚さ ※表16.5.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm	⑩ 10 ステンレス製建具 (16.6.2) ~ (16.6.4)	外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表16.2.1) 簡易気密性の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表16.4.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級) ○耐震ドアセットの適用 (面内変形追従性の等級) ステンレス鋼板 ※JIS G 4305 ステンレス鋼板 (屋外) ※SUS304 ○SUS430J1L ○SUS443J1 ステンレス鋼板 (屋内) ※SUS304 ○SUS430J1L ○SUS443J1 ○SUS430 JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による) ※製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※HL仕上げ ○鏡面仕上げ 曲げ加工 ※普通曲げ ○角出し曲げ	⑩ 11 木製建具 (16.7.2)	建具材の含水率の種別 ○A種 ※B種 ○C種 代用樹種の適用 ※可 ○不可 フラッシュ戸 表面材の合板の種類及び品質等 ○ 表面板の厚さ ※図示による ○ かまち戸 かまち及び鏡板の樹種 ※図示による ○ 見込み寸法 ※36mm ○ ふすま 上張りの種類 ※図示による ○ 見込み寸法 ※19.5mm ○ 戸ふすま 見込み寸法 ※30mm ○ 紙張り障子 見込み寸法 ※30mm ○ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○	⑩ 12 自動ドア開閉装置 (16.9.2) ~ (16.9.4)	引き戸 (表16.8.1) 金物の種類 見え掛り部の材質 その他 引戸用錠 ○クレセント 建具製作所の仕様による。 引手類 戸車 (上吊りの場合を除く) レール ステンレス、黄銅は木製建具用のみ (上吊りの場合を除く) (○7%ニッケル合金 ○黄銅)	⑩ 13 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3)	種類 閉閉装置性能値 センサの種類 その他 片引き ○SSLD-1 ※表5.8.1 ○マフスイチ ○クワスイチ 補助センサを併用する ○SSLD-2 ○光線スイチ ○押しボタンスイチ 引分け ○DSL-1 ○熱線スイチ ○ペダスイチ ○DSL-2 ○音波スイチ ○多機能トレスイチ 片開き ○SMD-1 ※表5.8.2 ○光電スイチ ○SMD-2 ○電波スイチ	⑩ 14 重量シャッター (16.11.2) ~ (16.11.4)	凍結防止装置 ○設ける ○設けない 性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) ○40以下 ○40を超えるもの 手動開き力(N) ※15以下 ○ ※20以下 ○ 手動閉じ力(N) ※15以下 ○ ※20以下 ○ 性能等 品質・規格	⑩ 15 軽量シャッター (16.12.2) ~ (16.12.4)	種類 ○一般重量シャッター (シャッターケースを設ける) 耐風圧強度 ○外壁用防火シャッター (シャッターケースを設ける) 耐風圧強度 ○屋内用防火シャッター (シャッターケースを設ける) ○屋内用防煙シャッター (シャッターケースを設ける) 開閉方式 ※上部電動式 (手動併用) ○上部手動式 (電動式シャッターには保護装置を設ける。) スラット及びシャッターケース用鋼板 材質 めっきの付着量 ○JIS G 3302 ○Z12又はF12を満足するもの ○ ○JIS G 3312 ○Z12又はF12を満足するもの ○	⑩ 16 オーバーヘッドドア (16.13.2) ~ (16.13.4)	種類 ○一般重量シャッター (シャッターケースを設ける) 耐風圧強度 ○外壁用防火シャッター (シャッターケースを設ける) 耐風圧強度 ○屋内用防火シャッター (シャッターケースを設ける) ○屋内用防煙シャッター (シャッターケースを設ける) 開閉方式 ※上部電動式 (手動併用) ○上部手動式 (電動式シャッターには保護装置を設ける。) スラット 材質 めっきの付着量 ○JIS G 3312 ●Z06又はF06を満足するもの ○ ○JIS G 3322 ○AZ90を満足するもの ○ ○オーバーラッピング形	⑩ 17 カートンウォール (17.1.3) ~ (17.2.3)	※本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 耐風圧性 ○S4 ○S5 ○S6 ○ 耐震性 水平方向(KH) ※1.0 ○ 鉛直方向(KV) ※0.5 ○ 水密性 ○W1 ○W2 ○W3 ○W4 ○W5 気密性 ○A1 ○A2 ○A3 ○A4 ○ 耐火性 ※図示 ○30分 ○1時間 ○ 耐温度差性(℃) ○80 ○70 ○60 ○ 遮音性 ○T1 ○T2 ○T3 ○T4 ○ 断熱性 ○H1 ○H2 ○H3 ○H4 ○H5	⑩ 18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	開閉方式 ○上部電動式 (手動併用) ※手動式 (電動式シャッターには保護装置を設ける。) 耐風圧強度 (680) N/m ² スラット 材質 めっきの付着量 ○JIS G 3312 ●Z06又はF06を満足するもの ○ ○JIS G 3322 ○AZ90を満足するもの ○ ○オーバーラッピング形	⑩ 19 ガラス留め材 (16.14.2)	建具の種類 材 質 アルミニウム製 ※シーリング材(SR-1) ○ガasket ○グレイジングチャンネル 鋼製・軽量鋼製・ステンレス製 ※シーリング材(SR-1) ○パテ ※1種 ○2種 木製 ※パテ (木製用) ※防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 ※防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	⑩ 20 ポリカーボネイト樹脂板 (16.14.5)	寸法(mm) 厚さ(mm) 色 調 パターン 防火認定 ○ クリア ○ カラー () ※なし ○ 図示 ○ 乳白 ○ 熱線反射 ○ あり ※品質規格はJIS A 5212 による ※建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 ○壁用金属枠及び補強材 ○カ骨 材質 ※SUS304 ○ 寸法・形状 ※径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋 ○ ○化粧目地モルタルの色 ○金属製化粧カバー 材質 ※SUS304 ○ 寸法・形状 ※図示による ○ ○伸縮調整目地の位置	⑩ 21 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	種類 ○ A-1種 (無着色) ○ A-2種 (着色) 耐風圧性 耐震性 水密性 気密性 耐火性 形状・仕上げ 材料 取付 ガラスの取付 コンクリート ○種類 ○品質	⑩ 22 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	セクション材 ※Zn-メッキ ○7%ニッケルメッキ ○ファインメッキ 耐風圧性能 開閉方式 ※バランス式 ○チェーン式 ○電動式 (電動式には保護装置を設ける。) 収納形式 ※スタンダード型 ○ローヘッド型 ○ハイリフト型 ○バーチカル型 ガイドレール等 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ○ステンレス鋼板	⑩ 23 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	材料 種 別 種 類 等 種 別 種 類 等 ○フロント板ガラス ●強化ガラス ●型板ガラス ○熱線吸収ガラス ○網入板ガラス ○複層ガラス ○網入板ガラス ○熱線反射ガラス ○合わせガラス ○倍強度ガラス ○ ○ ○	⑩ 24 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	ガラス溝の大きさ (表16.14.1) 種 別 面クリアランス エッジクリアランス 掛り代 ●アルミニウム建具 ※表16.14.1 ※表16.14.1 ※表16.14.1 ●鋼製建具 ○ ○ ○ ●ステンレス建具 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	⑩ 25 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	熱線反射ガラスの映像調整 ○行わない ○行う ()	⑩ 26 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 27 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 28 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 29 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 30 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 31 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 32 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 33 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 34 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 35 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 36 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 37 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 38 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 39 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 40 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 41 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 42 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 43 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 44 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 45 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 46 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 47 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 48 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 49 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 50 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 51 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 52 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 53 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 54 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 55 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 56 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 57 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 58 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 59 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 60 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 61 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 62 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 63 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 64 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 65 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 66 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 67 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 68 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 69 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 70 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 71 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 72 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 73 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 74 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 75 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 76 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 77 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 78 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 79 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 80 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 81 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 82 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 83 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 84 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 85 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 86 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 87 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 88 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 89 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 90 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 91 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 92 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 93 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 94 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 95 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 96 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 97 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 98 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 99 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)	⑩ 100 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4)

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項					
21 排水工事	①排水管 (21.2.1) (21.2.3)	材種 (表21.2.1) ○ 遠心力鉄筋コンクリート管 ※ 外圧管 (※ 1種 ○ 2種) ● 硬質ポリ塩化ビニル管 ※ VP ○ VU ○ RS-VPO RS-VU ○ 硬質ポリ塩化ビニル管継手 ※ DV	呼び径 基床の厚さ	22 舗装工事	5 カラー塗装 (22.6.3) ~ (22.6.6)	種 類 ※ 加熱系777777混合物 添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石 結合材 ○ 777777 ○ 石油樹脂 (添加量 _____) 777777混合物等の抽出試験 ○ 適用する ※ 適用しない 車道部の基層 ○ 適用する ※ 適用しない 舗装の厚さ 車道部(基層なし) _____mm 車道部(基層あり) _____mm 歩道部 _____mm	部 位 ○ 車道部 ○ 歩道部	配合その他	23 植栽及び屋上緑化工事	5 屋上緑化 (23.5.2) ~ (23.5.4)	○ 屋上緑化777777 排水層 ※ 軽量骨材 (厚さ _____) ○ 板状成形品 土壌層 ※ 改良土 (厚さ _____) ○ 人工軽量土 (厚さ _____) ○ 屋上緑化軽量777777 樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による 種類 寸法 数量 備考 芝・地被類の種類 ※ 図示による ○ コウライシバ (※ 目地張り ○ _____) ○ ノシバ (※ 目地張り ○ _____) ○ セダム類 (○ カット ○ ふるい ○ プラグ苗 ○ _____) 材料 ○ 見切材 _____ ○ 舗装材 _____ ○ 水抜き管 _____ ○ マチンク材 _____ かん水装置 ○ 設置する (_____) ○ 設置しない 支柱材 ○ 設置する ※ 杉(焼き丸太) ○ 竹 ○ ひのき ○ から松(皮はぎ) 形式 ※ 図示による ○ _____ 防蟻処理方法 ※ 加圧式防蟻処理丸太 ○ _____ ○ 設置しない ※ 引渡しの日から1年 ○ 引渡しの日から _____年	
	②側塊、排水樹及ふた (21.2.2)	○ 側塊の形状および寸法 ※ 図示による ○ _____ ● 排水樹の種類 ※ 図示による ○ _____ ○ 鋼鉄製マンホールふたの種類 種 類 適用荷重 (安全荷重) ○ 水封形 ○ 密閉形 (777777ハッチ式) ○ T-2用 (5KN) ○ T-6用 (115KN) ○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (ハッチ式) ○ T-20用 (50KN) ● グレーチングふた 種 類 材 質 形 式 適用荷重 タイプ 上面形状 ○ 溝ふた用 ○ 鋼製 受枠 ※ なし ○ 歩行用 ○ 普通目 ○ 平形 ● 樹ふた用 ● ステンレス製 ● あり ○ T-2用 ※ 細目 ※ 凹凸形 ○ 嵩上げ用 ○ 鋼鉄製 ○ 図示 ● T-6用 ○ U字溝用 ○ 樹脂製 ボルト固定 ※ なし ○ T-14用 ● 図示 ○ T-20用	6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6)		舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ _____ 舗装厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない 透水性777777777777混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない	7 水性舗装 (22.8.2) ~ (22.8.6)	舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ _____ 舗装厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない	8 ブロック系舗装 (22.9.2) (22.9.3)		○ コンクリート平板舗装 種 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 目 地 ※ 普通平板 (N) ○ カラー平板 (C) ※ 300角 ※ 60 ※ 砂 ○ 洗出平板 (W) ○ 凝石 (S) ○ ○ ○ 品質・規格 _____ ○ インターロッキングブロック舗装 種 類 厚 さ (mm) 色彩及び表面加工等 ※ 標準ブロック ○ 京13131313 車道部 ※ 80 ○ ※ 標準品 ○ 透水性ブロック 歩道部 ※ 60 ○ 80 ○ ○ 植生ブロック ○ 60 ※ 80 ○ 100 ○ 品質・規格 _____ ○ 鋪石舗装 種 類 厚さ (mm) 工 法 規 格 品 ※ 小鋪石 (花崗岩) ※ 80~100 ※ うろこ張り ※ 2等品 ○ ○ ○ ○ 品質・規格 _____ 9 砂利敷き (22.10.2)	通路 ※ A種 ○ B種 建物周囲その他 ○ A種 ※ B種 ※ 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする 種 類 ● 熔融式 ○ ペイント式 幅 (cm) ● 15 ○ _____ ● コロニアルグラッサ t=5.2mm/ケイミュー (株) 他同等品以上	6 新植、移植樹木、芝等の枯補償 (23.3.4) (23.3.6) (23.4.7) (23.5.5)
	③縁石 (21.4.2)	歩車道境界ブロックのJISによる呼び名 ※ A ○ _____ 地先境界ブロックのJISによる呼び名 ● A ○ C ○ _____ 砂利地業の厚さ ※ 100mm ○ _____	6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6)		舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ _____ 舗装厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない 透水性777777777777混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない	7 水性舗装 (22.8.2) ~ (22.8.6)	舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ _____ 舗装厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない	8 ブロック系舗装 (22.9.2) (22.9.3)		○ コンクリート平板舗装 種 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 目 地 ※ 普通平板 (N) ○ カラー平板 (C) ※ 300角 ※ 60 ※ 砂 ○ 洗出平板 (W) ○ 凝石 (S) ○ ○ ○ 品質・規格 _____ ○ インターロッキングブロック舗装 種 類 厚 さ (mm) 色彩及び表面加工等 ※ 標準ブロック ○ 京13131313 車道部 ※ 80 ○ ※ 標準品 ○ 透水性ブロック 歩道部 ※ 60 ○ 80 ○ ○ 植生ブロック ○ 60 ※ 80 ○ 100 ○ 品質・規格 _____ ○ 鋪石舗装 種 類 厚さ (mm) 工 法 規 格 品 ※ 小鋪石 (花崗岩) ※ 80~100 ※ うろこ張り ※ 2等品 ○ ○ ○ ○ 品質・規格 _____ 9 砂利敷き (22.10.2)	通路 ※ A種 ○ B種 建物周囲その他 ○ A種 ※ B種 ※ 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする 種 類 ● 熔融式 ○ ペイント式 幅 (cm) ● 15 ○ _____ ● コロニアルグラッサ t=5.2mm/ケイミュー (株) 他同等品以上	6 新植、移植樹木、芝等の枯補償 (23.3.4) (23.3.6) (23.4.7) (23.5.5)
	④コンクリート側溝 (21.4.2)	鉄筋コンクリートL形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____ コンクリートL形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____ 鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名 ○ 240 ● 300B ○ 360A ● 180 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²) ○ 18 ○ _____ 地業の材料 ○ C-40 ※ RC-40 ○ C-30 ○ RC-30 ○ C-20 ○ RC-20	6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6)		舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ _____ 舗装厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない 透水性777777777777混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない	7 水性舗装 (22.8.2) ~ (22.8.6)	舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ _____ 舗装厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない	8 ブロック系舗装 (22.9.2) (22.9.3)		○ コンクリート平板舗装 種 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 目 地 ※ 普通平板 (N) ○ カラー平板 (C) ※ 300角 ※ 60 ※ 砂 ○ 洗出平板 (W) ○ 凝石 (S) ○ ○ ○ 品質・規格 _____ ○ インターロッキングブロック舗装 種 類 厚 さ (mm) 色彩及び表面加工等 ※ 標準ブロック ○ 京13131313 車道部 ※ 80 ○ ※ 標準品 ○ 透水性ブロック 歩道部 ※ 60 ○ 80 ○ ○ 植生ブロック ○ 60 ※ 80 ○ 100 ○ 品質・規格 _____ ○ 鋪石舗装 種 類 厚さ (mm) 工 法 規 格 品 ※ 小鋪石 (花崗岩) ※ 80~100 ※ うろこ張り ※ 2等品 ○ ○ ○ ○ 品質・規格 _____ 9 砂利敷き (22.10.2)	通路 ※ A種 ○ B種 建物周囲その他 ○ A種 ※ B種 ※ 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする 種 類 ● 熔融式 ○ ペイント式 幅 (cm) ● 15 ○ _____ ● コロニアルグラッサ t=5.2mm/ケイミュー (株) 他同等品以上	6 新植、移植樹木、芝等の枯補償 (23.3.4) (23.3.6) (23.4.7) (23.5.5)
22 舗装工事	①路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)	路床の構成 ○ 遮断層 厚さ ○ 図示による ○ _____ 材料 ○ 図示による ○ _____ ○ 凍上抑制層 厚さ ○ 図示による ○ _____ ○ 透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○ 150mm ○ _____ 歩道部 ○ 図示による ○ 50mm ○ _____ 盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 (表22.2.1) 路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない 路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 (表22.2.2) 種 類 ○ 地盤改良材 () ○ 高炉セメントB種 ○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号 ○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号 添加量 _____ kg/m ³ 路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う (※ 乱した土 ○ 乱さない土) 路床締固め度の試験 ※ 行う (埋戻し部、盛土部) ○ 行わない 砂の粒度試験 ○ 行う ○ 行わない	9 砂利敷き (22.10.2)	通路 ※ A種 ○ B種 建物周囲その他 ○ A種 ※ B種 ※ 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする 種 類 ● 熔融式 ○ ペイント式 幅 (cm) ● 15 ○ _____ ● コロニアルグラッサ t=5.2mm/ケイミュー (株) 他同等品以上	23 植栽及び屋上緑化工事	1 植栽基盤整備 (23.2.2) (23.2.3)	※ 行う 樹木の樹高 有効土層の厚さ (cm) 工 法 整 備 範 囲 12m以上 ※ 100 ○ 120 ○ 150 ※ A種 ※ 植込み部分 7~12m未満 ※ 80 ○ 100 ○ B種 ○ 葉張りの範囲 3~7m未満 ※ 60 ○ 80 ○ C種 (樹高7m以上) 3m未満 ※ 50 ○ 60 ○ D種 ○ 図示 芝、地被類 ※ 20 ※ B種 ○ ※ 植栽範囲 ○ ※ 工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。 植込み用土 ※ 現場発生土の良質土 ○ 客土 (※ 畑土 ○ 黒土) 土壌改良材 ※ 行う (※ バーク堆肥 ○ 下水汚泥コンポスト) 施工箇所 ※ 植込み部分 ○ 図示による					
	②路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)	路盤の厚さ _____mm 材料 ※ 再生クラッシュラン (RC-40, 30, 20) ○ クラッシュラン (C-40, 30, 20) ○ クラッシュ鉄鋼スラグ (GS-40) 路盤締固め度の試験 ※ 行う ○ 行わない	1 植栽基盤整備 (23.2.2) (23.2.3)	※ 行う 樹木の樹高 有効土層の厚さ (cm) 工 法 整 備 範 囲 12m以上 ※ 100 ○ 120 ○ 150 ※ A種 ※ 植込み部分 7~12m未満 ※ 80 ○ 100 ○ B種 ○ 葉張りの範囲 3~7m未満 ※ 60 ○ 80 ○ C種 (樹高7m以上) 3m未満 ※ 50 ○ 60 ○ D種 ○ 図示 芝、地被類 ※ 20 ※ B種 ○ ※ 植栽範囲 ○ ※ 工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。 植込み用土 ※ 現場発生土の良質土 ○ 客土 (※ 畑土 ○ 黒土) 土壌改良材 ※ 行う (※ バーク堆肥 ○ 下水汚泥コンポスト) 施工箇所 ※ 植込み部分 ○ 図示による		23 植栽及び屋上緑化工事	2 樹木の種類等 (23.3.2)	樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による 種 類 寸 法 数 量 備 考				
	③アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)	舗 装 の 種 類 表層 (mm) 基層 (mm) カラー舗装の種類 ※ アスファルト舗装 ※ 顔料混入加熱アスファルト混合物 アスファルト ※ 再生アスファルト ○ ストレートアスファルト 再生加熱アスファルト混合物の種類 区分 ※ 一般地域 ○ 寒冷地域 表層 ※ 密粒度アスファルト混合物 (13) ※ 密粒度アスファルト混合物 (13F) ○ 細粒度アスファルト混合物 (13) ○ 細粒度アスファルト混合物 (13F) 基層 ※ 粗粒度アスファルト混合物 (20) 施工 シールコート ※ 行わない ○ 行う (施工範囲 _____) アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない アスファルト締固め度、厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない	3 支柱材、幹巻き用材料 (23.3.2)	支柱材 ※ 杉(焼き丸太) ○ 竹 ○ ひのき ○ から松(皮はぎ) 形式 ※ 図示による ○ _____ 防蟻処理方法 ※ 加圧式防蟻処理丸太 ○ _____ 幹巻き用材料 ※ 幹巻き用テープ ○ わら及びこも			23 植栽及び屋上緑化工事	3 支柱材、幹巻き用材料 (23.3.2)	支柱材 ※ 杉(焼き丸太) ○ 竹 ○ ひのき ○ から松(皮はぎ) 形式 ※ 図示による ○ _____ 防蟻処理方法 ※ 加圧式防蟻処理丸太 ○ _____ 幹巻き用材料 ※ 幹巻き用テープ ○ わら及びこも			
	4 コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6)	構成 舗 装 の 種 類 部 位 厚さ (mm) 設計基準強度 (N/m ²) スランプ (cm) 早強セメント ※ 使用しない ○ 使用する 目地 注入目地材料 ※ 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ 種類 ○ 突合せ目地 ○ 収縮目地 ○ 伸縮調整目地 ○ _____ 間隔 ○ 5m程度ごと ○ 4m程度ごと ○ 3m程度ごと ○ _____ コンクリート版厚さの試験 ○ 行う ※ 行わない	4 芝 (23.4.2) (23.4.3)	種 別 芝 張 り の 工 法 客 土 平地 切土法面 盛土法面 ※ 行わない ○ コウライシバ ※ 目地張り ※ べた張り ※ 筋芝張り ○ 行う ※ 畑土 ○ ノシバ ○ ○ ○ ○ 黒土				23 植栽及び屋上緑化工事	4 芝 (23.4.2) (23.4.3)	種 別 芝 張 り の 工 法 客 土 平地 切土法面 盛土法面 ※ 行わない ○ コウライシバ ※ 目地張り ※ べた張り ※ 筋芝張り ○ 行う ※ 畑土 ○ ノシバ ○ ○ ○ ○ 黒土		

工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
図面名称	建築工事特記仕様書 (その7)
設計者	キタイ設計 (株)
施工者	一級建築士31975号 小川 隆二
図面番号	A-07

膜構造建築物 設計概要書

建物概要	物件名	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事																																																					
	建築場所	京都府船井郡京丹波町篠原ノ下31																																																					
	建築用途	スポーツ練習場																																																					
	工事種別	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 移転 <input type="checkbox"/> その他 ()																																																					
規 模	面積	膜伏面積 1400 m ²																																																					
	階数	地上 1 階、地下 階、膜構造部分の階 1 階																																																					
	高さ	膜構造部分高さ 8.505 (材芯) m																																																					
躯体構造	<input type="checkbox"/> コンクリート造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨造 <input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> その他 ()																																																						
膜構造形式	<input checked="" type="checkbox"/> 骨組膜構造 <input type="checkbox"/> サスペンション膜構造																																																						
設計荷重	地震荷重	標準層せん断力係数 $C_i = 0.375$																																																					
	積雪荷重	長期	N/m ² 垂直積雪量 90 cm																																																				
		短期	1800 N/m ² 単位重量 20 N/(m ² ・cm)																																																				
風荷重	速度圧 $q = 1160$ N/m ² 風速 $V_0 = 32$ m/s 地表面粗度区分 I II III IV																																																						
鉄骨工事	構造用鋼材種類・材質	一般構造用鋼材	建築構造用鋼材																																																				
		<input checked="" type="checkbox"/> SS400 [鋼板・平鋼・形鋼] <input checked="" type="checkbox"/> STK400 <input checked="" type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STK490 [炭素鋼鋼管] <input type="checkbox"/> STKR490 [角形鋼管] <input type="checkbox"/> SSC400 [軽量形鋼] <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> SM400A <input checked="" type="checkbox"/> SM400B <input type="checkbox"/> SM400C <input checked="" type="checkbox"/> その他 (SM490B) (SM490C)																																																				
	溶接構造用鋼材	<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> その他 ()																																																					
	高力ボルト	<input checked="" type="checkbox"/> F10T (S10T) <input type="checkbox"/> FBT (溶融亜鉛メッキ高力ボルト) *摩擦接合では鉄骨の摩擦面の処理に注意する。摩擦面のすべり係数を0.45以上(溶融亜鉛メッキされた鉄骨の場合は0.40以上)確保するため、「プラスト処理・特殊塗料塗布、他」を行なう。																																																					
中ボルト	<input checked="" type="checkbox"/> JIS規格品 (SW付き) <input type="checkbox"/> その他 ()																																																						
アンカーボルト	<input type="checkbox"/> SNR400B <input type="checkbox"/> SNR490B <input type="checkbox"/> SS400 (M12のみ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ABR400)																																																						
溶接	隅肉溶接のサイズ (単位: mm) <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td>t</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>S</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>t</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>19</td><td>22</td><td>25</td><td>28</td><td>30</td></tr> <tr><td>S</td><td>10</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>11</td><td>13</td><td>15</td><td>17</td><td>18</td></tr> </table> <div style="margin-top: 10px;"> (単位: mm) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td colspan="2">1 (片面溶接)</td></tr> <tr><td colspan="2">t ≤ 16</td></tr> <tr><td colspan="2"></td></tr> <tr><td colspan="2">2 (両面溶接)</td></tr> <tr><td colspan="2">16 < t ≤ 32</td></tr> <tr><td colspan="2"></td></tr> </table> </div>			t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	t	13	14	15	16	19	22	25	28	30	S	10	10	11	12	11	13	15	17	18	1 (片面溶接)		t ≤ 16				2 (両面溶接)		16 < t ≤ 32			
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																														
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9																																														
t	13	14	15	16	19	22	25	28	30																																														
S	10	10	11	12	11	13	15	17	18																																														
1 (片面溶接)																																																							
t ≤ 16																																																							
2 (両面溶接)																																																							
16 < t ≤ 32																																																							
鉄骨製作工場	膜下地鉄骨の製作は、鋼管構造を主体とした膜構造建築物に関する加工経験を有する工場とすること。																																																						

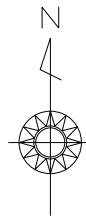
塗装工事	合成樹脂調合ペイント塗り			
	工程	塗料名	塗布量 (kg/m ²)	塗装方法
	1 素地調整	2種ケレン(サンダー等) / ISO S13		
2 下塗り(1回目)	鉛・クロムフリーさび止めペイント JIS K 5674	0.10	吹付け	
3 下塗り(2回目)	鉛・クロムフリーさび止めペイント JIS K 5674	0.10	吹付け	
4 中塗り	合成樹脂調合ペイント中塗 JIS K 5516	0.09	はけ・吹付け	
5 上塗り	合成樹脂調合ペイント上塗 JIS K 5516	0.08	はけ・吹付け	
※鋼線材は下塗りまでとする。(カラーリップみぞ形鋼) ※プasterボード内貼りはEP塗装とする。				
注意事項	上塗塗料のJIS規格(相当品)は光沢品を規定している為、艶調整を行う場合はJIS規格(相当品)に該当しなくなります。			
各部塗装範囲				
補工事	軒種	PL-3.2t	<input type="checkbox"/> 塩ビ軒種 <input type="checkbox"/> アルミ <input type="checkbox"/> SUS	<input checked="" type="checkbox"/> 溶融亜鉛メッキ <input type="checkbox"/> 無し
	壁種	VP100	<input checked="" type="checkbox"/> 塩ビ壁種 <input type="checkbox"/> アルミ <input type="checkbox"/> SUS	<input type="checkbox"/> 溶融亜鉛メッキ <input type="checkbox"/> 無し
	壁種支持プレート形状			

膜工事	膜材料	国土交通省告示第666号第二、二の表の(二)に適合する膜材料: 認定番号 MEM-0050 (建築基準法第37条第二号) NM-4003 (建築基準法第2条第九号 不燃材料) ピュリファイファインスカイ (PFS260) (厚さ0.53mm) 酸化チタン光触媒コーティング同等品 高NOx除去タイプ															
	膜材概要																
	膜材溶着部	国土交通省告示第666号第二、四、一の口またはハに規定する接合とする 溶着巾 <input checked="" type="checkbox"/> 40mm <input type="checkbox"/> 20mm <input type="checkbox"/> その他															
	溶着方法	<input checked="" type="checkbox"/> ライスター <input type="checkbox"/> ウェルダー															
膜定着部	膜定着部	国土交通省告示第666号第三に規定する定着方法とする。 ハ/番号 <input checked="" type="checkbox"/> 3 # <input checked="" type="checkbox"/> 4 # <input type="checkbox"/> 5 # <input type="checkbox"/> #100 <input type="checkbox"/> その他															
	外周膜定着部	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>① 本体膜</td><td>: PFS260</td></tr> <tr><td>② 引き込み布</td><td>: 200g/2cm²</td></tr> <tr><td>③ 補強布</td><td>: 200g/2cm²</td></tr> <tr><td>④ 隠い込みロープ</td><td>: PP, 6φ</td></tr> <tr><td>⑤ ハトメ</td><td>: #2 #100</td></tr> <tr><td>⑥ 2本隠い</td><td></td></tr> <tr><td>⑦ 補強テープ</td><td>: 33AF-7</td></tr> </table>	① 本体膜	: PFS260	② 引き込み布	: 200g/2cm ²	③ 補強布	: 200g/2cm ²	④ 隠い込みロープ	: PP, 6φ	⑤ ハトメ	: #2 #100	⑥ 2本隠い		⑦ 補強テープ	: 33AF-7	
	① 本体膜	: PFS260															
② 引き込み布	: 200g/2cm ²																
③ 補強布	: 200g/2cm ²																
④ 隠い込みロープ	: PP, 6φ																
⑤ ハトメ	: #2 #100																
⑥ 2本隠い																	
⑦ 補強テープ	: 33AF-7																
中間膜定着部	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>① 本体膜</td><td>: PFS260</td></tr> <tr><td>② ベース布</td><td>: PFS260</td></tr> <tr><td>③ カスタム</td><td>: 200g/2cm²</td></tr> <tr><td>④ 引き込み布</td><td>: PFS260</td></tr> <tr><td>⑤ 2本隠い</td><td></td></tr> <tr><td>⑥ 隠い込みロープ</td><td>: PP, 6φ</td></tr> <tr><td>⑦ ハトメ</td><td>: #2 #100</td></tr> <tr><td>⑧ 2本隠い</td><td></td></tr> </table>	① 本体膜	: PFS260	② ベース布	: PFS260	③ カスタム	: 200g/2cm ²	④ 引き込み布	: PFS260	⑤ 2本隠い		⑥ 隠い込みロープ	: PP, 6φ	⑦ ハトメ	: #2 #100	⑧ 2本隠い	
① 本体膜	: PFS260																
② ベース布	: PFS260																
③ カスタム	: 200g/2cm ²																
④ 引き込み布	: PFS260																
⑤ 2本隠い																	
⑥ 隠い込みロープ	: PP, 6φ																
⑦ ハトメ	: #2 #100																
⑧ 2本隠い																	

工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
図面名称	膜構造建築物 設計概要書	-
設計者	キタイ設計(株)	一級建築士 第319755号 小川龍二
図面番号	A-08	

工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事		工事着工：平成28年 7月 1日
建築主	住所	京都府船井郡京丹波町湊生ハツ谷62番地6	工事完了：平成29年 3月 24日
	氏名	京丹波町長 寺尾豊爾	期間： 年 9ヶ月
工事説明	1. 屋内多目的グラウンド、付属屋外便所新築等とそれに伴う外構整備を行う。		

附近見取図



付近見取図 S=1:2500

□敷地概要			
建築場所	地名地番：京都府船井郡京丹波町湊原堂ノ下31	敷地面積	5831.71㎡
都市計画区域	<input checked="" type="checkbox"/> 都市計画区域 <input type="checkbox"/> 内 <input type="checkbox"/> 市街化区域 <input type="checkbox"/> 開発許可 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 準都市計画区域 <input type="checkbox"/> 外 <input type="checkbox"/> 市街化調整区域	許容建ぺい率	- %
		許容容積率	- %
用途地域	第一種中高層住専 / 第一種住居 第二種中高層住専 / 第二種住居 準住居 / 近隣商業 / 商業 準工業 / 工業 / 工業専用 <input type="checkbox"/> 指定なし	前面道路名称・幅員	町道： W=4.000m
防火地域	防火 / 準防火 / <input type="checkbox"/> 指定なし	敷地の状況 (設計及び工事に影響する事柄)	・既存建物の有無： <input type="checkbox"/> 有 ※解体撤去 ・隣接地の状況：宅地等 ・気象 気候条件：風速Vo=32 粗度区分Ⅲ 積雪 H=90cm ・環境条件： ・下水放流先：浄化槽
その他地区指定	法第22条地域 / 法第52条第7項適用区域 その他 ()		
日影規制	有 <input type="checkbox"/> 無 m 時間 m 時間		

□建築物概要							
主要用途	スポーツ練習場			耐火種別	準耐火構造 (ロ-2)		
工事種別	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 移転 <input type="checkbox"/> 大規模の修繕 <input type="checkbox"/> その他			増築予定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
最高の高さ	8.985m ※建築物 m ※建築物+塔屋			階数	スポーツ練習場	地上 1 階	
最高の軒高さ	5.136m						
基準GL							
設計GL	140.65						
1階の床高さ	設計GL±0						
面積表		スポーツ練習場	屋外便所			合計	敷地面積との比
	建築面積	1358.95 m ²	53.46 m ²	m ²	m ²	1412.41 m ²	24.22 %
	延べ面積	1358.95 m ²	53.46 m ²	m ²	m ²	1412.41 m ²	24.22 %
各階床面積表	階	合計					
	1	1358.95 m ²	53.46 m ²	m ²	m ²	m ²	1412.41 m ²
	合計	1358.95 m ²	53.46 m ²	m ²	m ²	m ²	1412.41 m ²

□構造概要	
構造種別	木造 <input type="checkbox"/> S造 <input checked="" type="checkbox"/> RC造 <input type="checkbox"/> SRC造 <input type="checkbox"/> 組構造 <input type="checkbox"/> その他 ()
構造形式	<input checked="" type="checkbox"/> ラーメン構造 <input type="checkbox"/> ラーメン、ブレース構造 <input type="checkbox"/> ブレース構造 <input type="checkbox"/> 壁構造 <input type="checkbox"/> その他 ()
基礎形式	・直接基礎 <input type="checkbox"/> 杭基礎 <input checked="" type="checkbox"/> 既設改良杭

□その他	

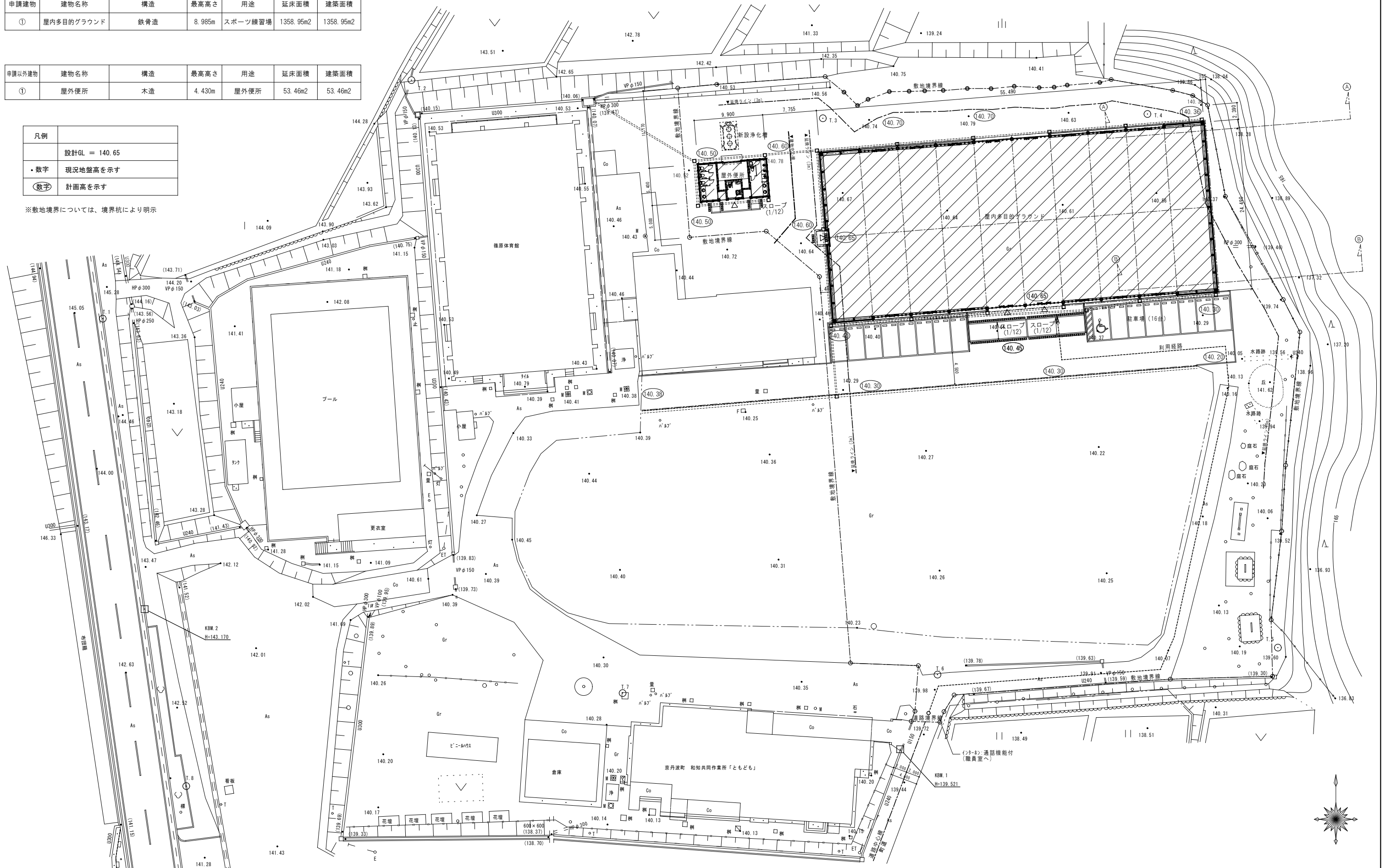
工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
図面名称	付近見取図、工事概要	S=1:2500 (A3用 S=1:5000)
設計者	キタイ設計 (株)	一級建築士319755号 小川 龍二
図面番号	A-09	

申請建物	建物名称	構造	最高高さ	用途	延床面積	建築面積
①	屋内多目的グラウンド	鉄骨造	8.985m	スポーツ練習場	1358.95m ²	1358.95m ²

申請以外建物	建物名称	構造	最高高さ	用途	延床面積	建築面積
①	屋外便所	木造	4.430m	屋外便所	53.46m ²	53.46m ²

凡例	
設計GL = 140.65	
● 数字	現況地盤高を示す
○ 数字	計画高を示す

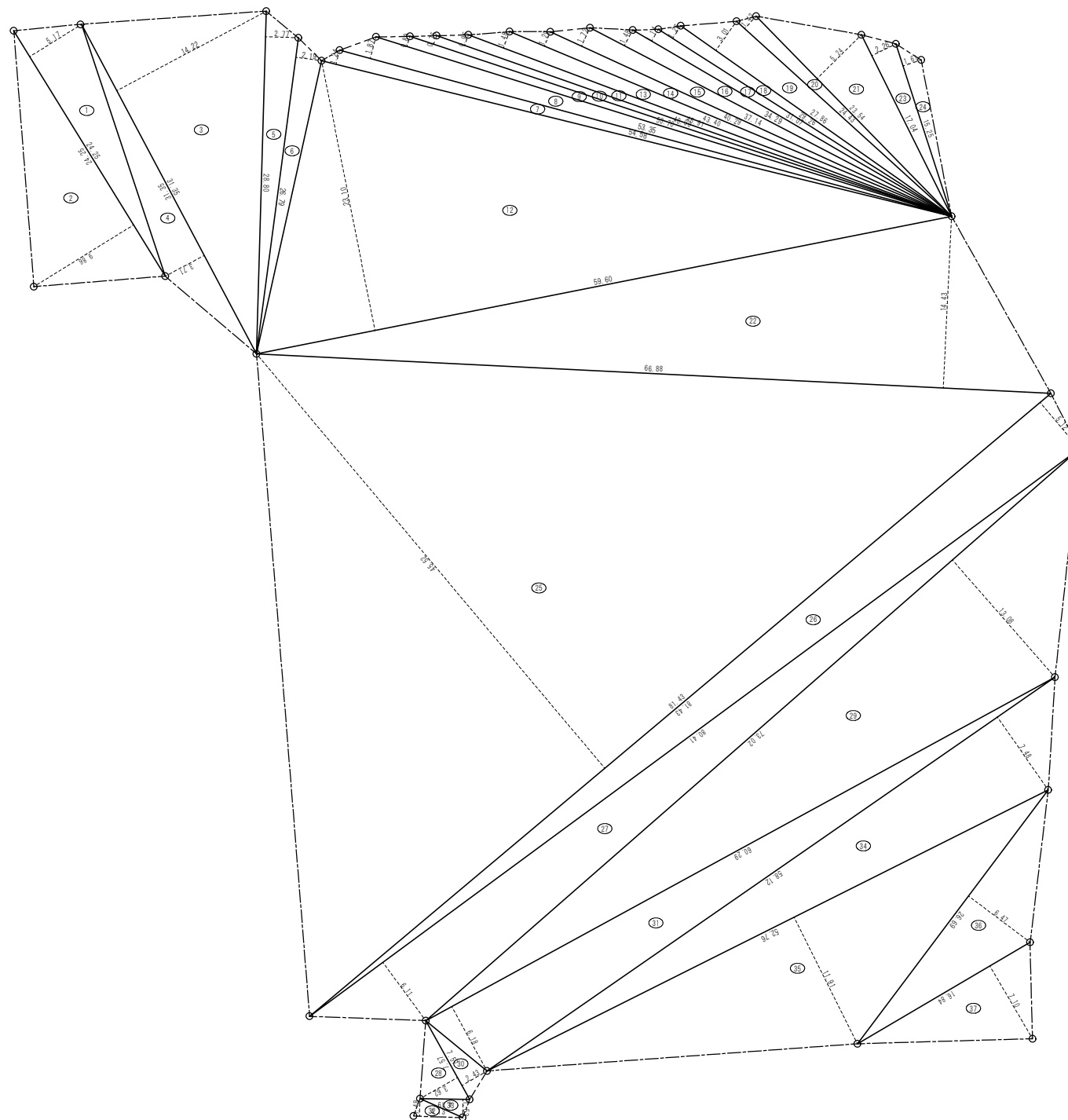
※敷地境界については、境界杭により明示



* 外構工事に関する図示寸法・計画高さは工事概要を示すものであるから、工事着手前に現場測量を行い十分に敷地状況を把握した上で施工を行うこと。

* 新設する点字ブロックは、明度差等の識別性を確保すること。

工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
図面名称	配置図
縮尺	S=1:250 (A3版 S=1:500)
設計者	キタイ設計(株)
設計者住所	一級建築士31975号 小川 龍二
ページ番号	A-10



番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	24.25	5.17	125.3725	62.68625
2	24.25	9.86	239.1050	119.55250
3	31.35	14.22	445.7970	222.89850
4	31.35	3.71	116.3085	58.15425
5	28.80	2.77	79.7760	39.88800
6	26.79	2.19	58.6701	29.33505
7	54.58	1.24	67.6792	33.83960
8	53.35	1.87	99.7645	49.88225
9	50.70	0.89	45.1230	22.56150
10	48.00	0.75	36.0000	18.00000
11	45.91	0.95	43.6145	21.80725
12	59.60	23.10	1,376.7600	688.38000
13	43.40	1.48	64.2320	32.11600
14	40.29	1.29	51.9741	25.98705
15	37.14	1.72	63.8808	31.94040
16	34.29	1.48	50.7492	25.37460
17	31.07	1.14	35.4198	17.70990
18	29.26	1.26	36.8676	18.43380
19	27.86	3.01	83.8586	41.92930
20	24.43	1.42	34.6906	17.34530
21	23.54	5.24	123.3496	61.67480
22	66.88	14.43	965.0784	482.53920
23	17.04	2.26	38.5104	19.25520
24	15.25	1.61	24.5525	12.27625
25	81.43	45.52	3,706.6936	1,853.34680
26	81.43	5.12	416.9216	208.46080
27	80.41	6.11	491.3051	245.65255
28	7.57	3.62	27.4034	13.70170
29	73.02	13.08	955.1016	477.55080
30	7.57	2.43	18.3951	9.19755
31	60.29	6.18	372.5922	186.29610
32	4.13	1.48	6.1124	3.05620
33	4.19	1.53	6.4107	3.20535
34	58.12	7.48	434.7376	217.36880
35	52.76	11.91	628.3716	314.18580
36	26.69	6.47	172.6843	86.34215
37	16.84	7.10	119.5640	59.78200
合計				5,831.71355
敷地面積				5,831.71 m ²

工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事

図面名称 敷地求積図・面積表

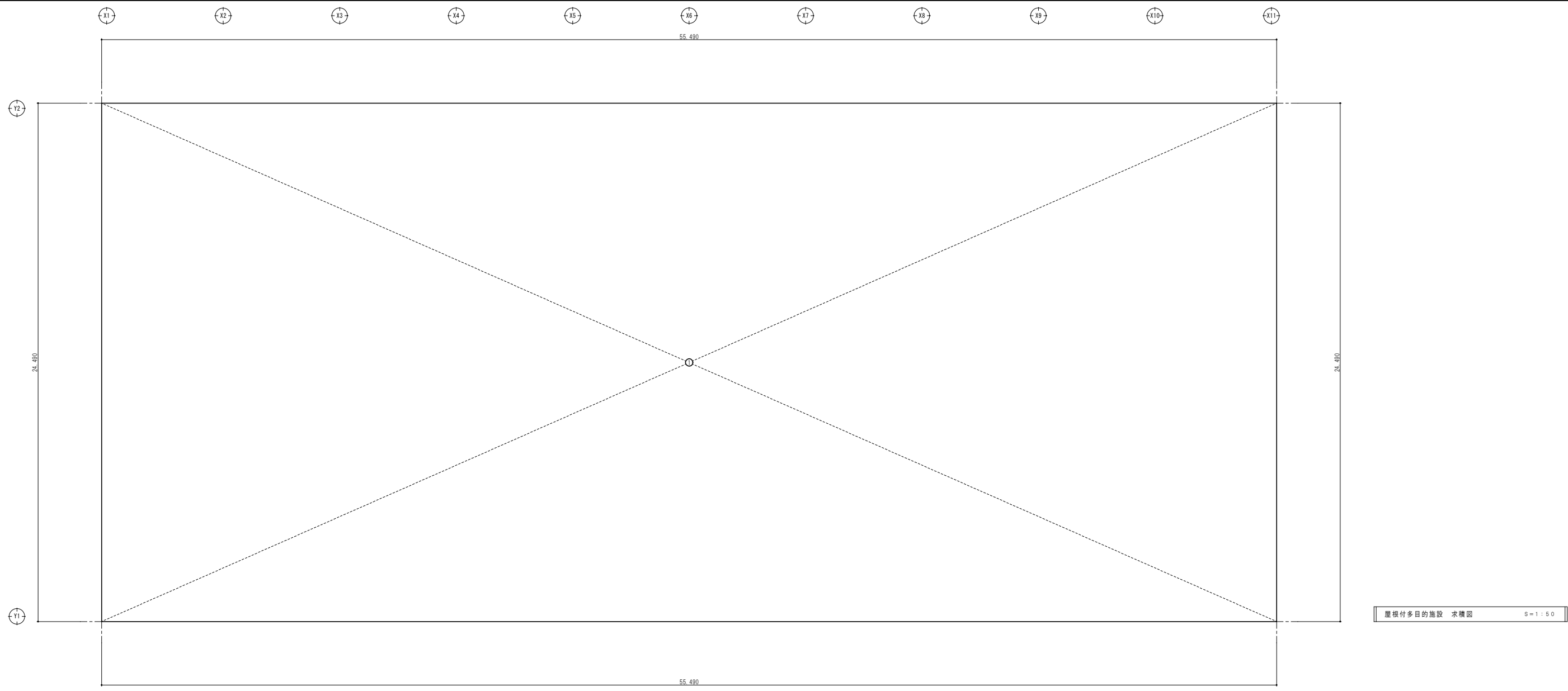
S=1:250
(A3版 0=1:500)



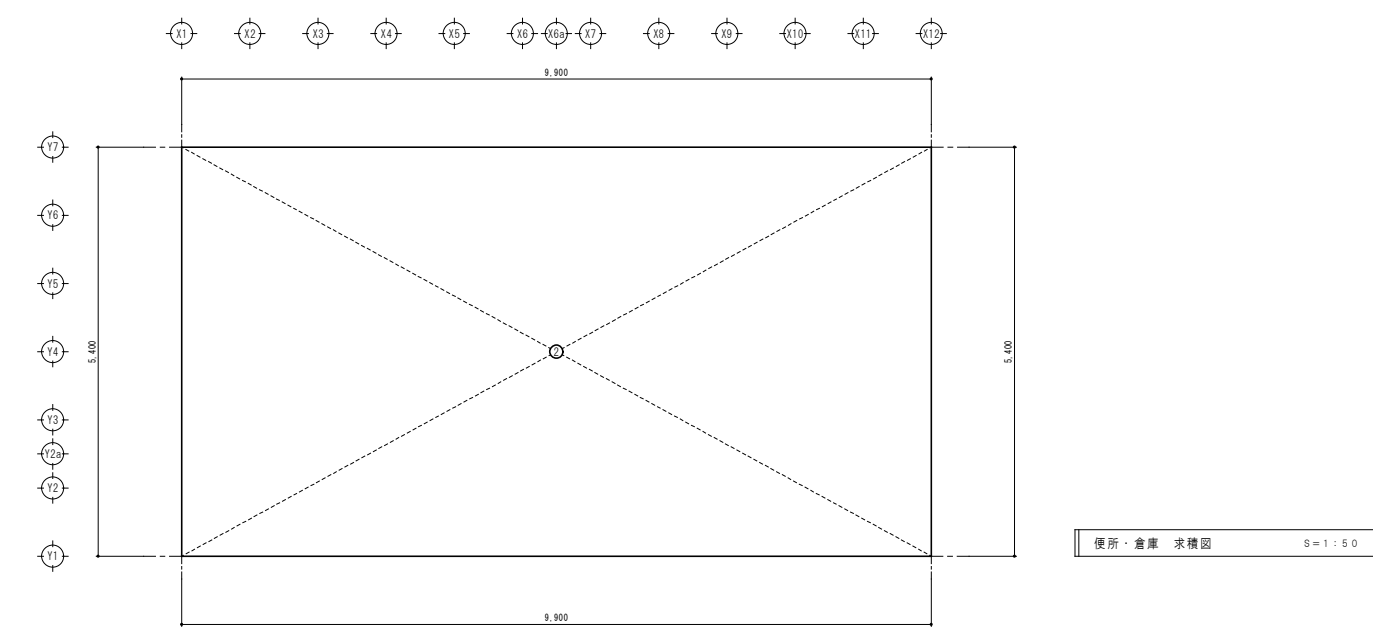
キタイ設計(株)

一級建築士319755号 小川 隆二

A-11



屋根付多目的施設 求積図 S=1:50

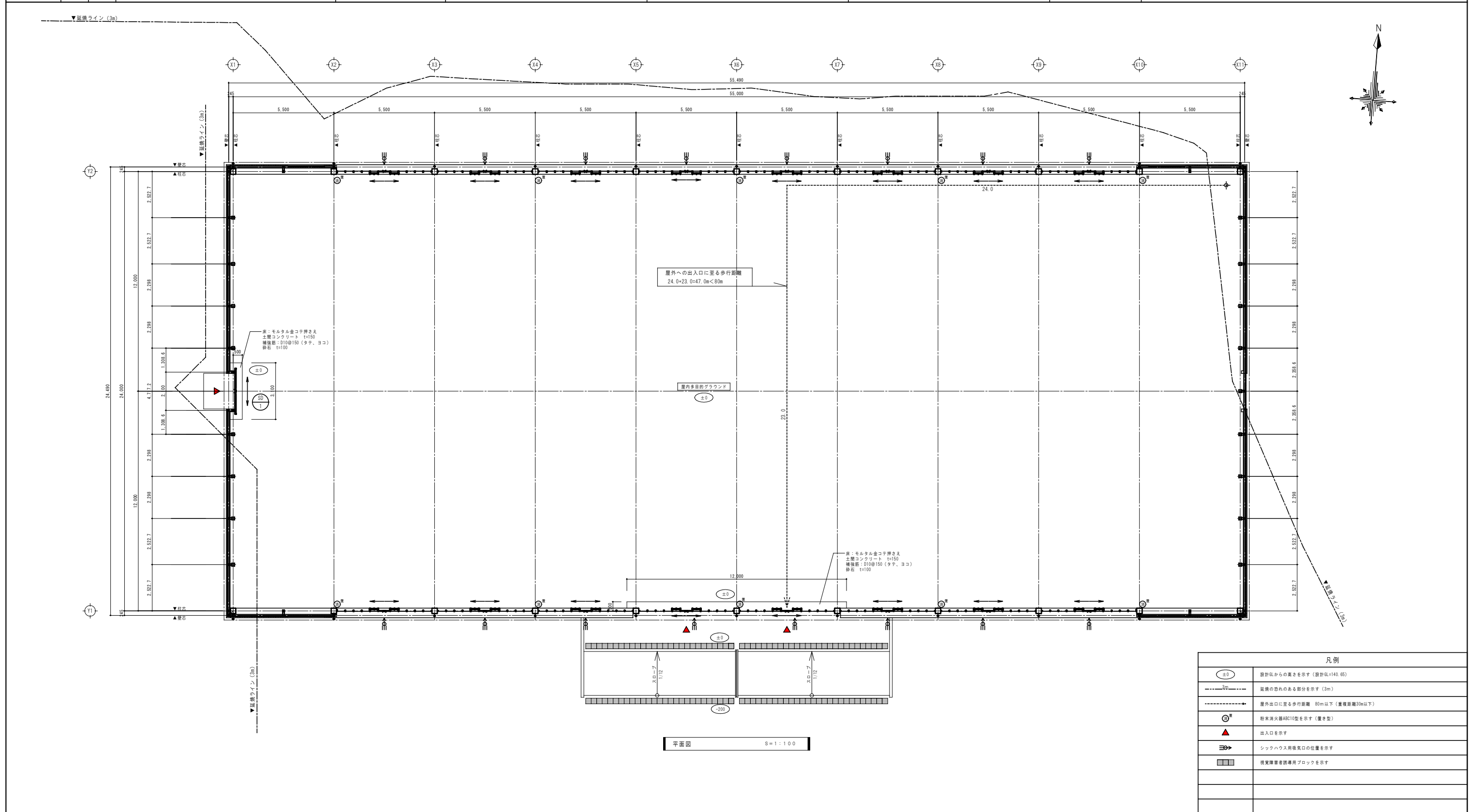


便所・倉庫 求積図 S=1:50

面積計算表					
床面積			建築面積		
符号	計算式	計 (㎡)	符号	計算式	計 (㎡)
○	55,490 × 24,490	1,358,950.100	○	55,490 × 24,490	1,358,950.100
○	9,900 × 5,400	53,460.000	○	9,900 × 5,400	53,460.000

面積表 (㎡)						
構造制	用途	階数	構造	床面積	建築面積	
屋根付多目的施設	準耐火建築物	スポーツ練習場	1	S造	1,358,950.100	1,358,950.100
便所・倉庫	その他建築物	屋外便所	1	W造	53,460.000	53,460.000
合計					1,412,410.100	1,412,410.100

内部仕上げ表									
室名	床高	天井高	床	巾木	腰壁	壁	天井	廻縁	備考
屋内多目的グラウンド	0	-	クレイ舗装 t=100 再生砕石 t=150	-	コンクリート打放し補修 (EP塗り)	せっこうボード t=9.5 (EP塗り) (下地鉄骨横筋: 0-100x50x20x2.3)	鉄骨小屋組隠し (SOP塗り)	-	鋼材カーテン SOP塗り (鉄骨部見張り)

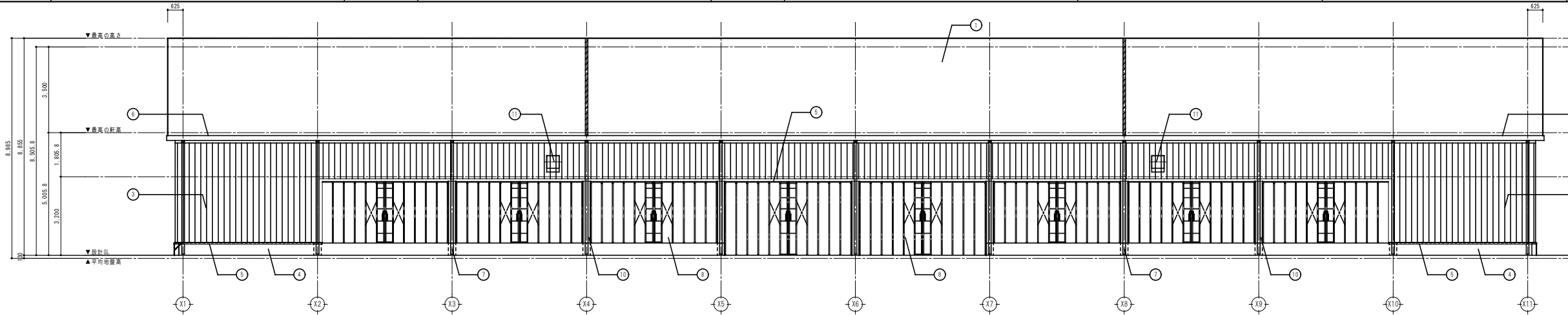


平面図 S=1:100

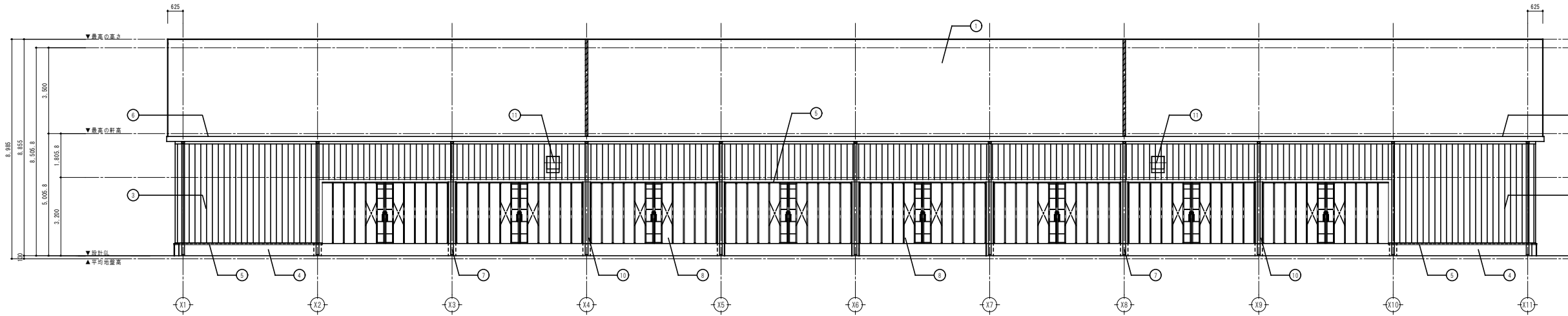
凡例	
±0	設計図からの高さを示す (設計図=140.05)
3m	屋根の恐れのある部分を示す (3m)
24.0	屋外出口に至る歩行距離 80m以下 (重複距離30m以下)
ABC10	粉末消火器ABC10型を示す (置き型)
▲	出入口を示す
⇒	シックハウス用換気口の位置を示す
■	視覚障害者誘導用ブロックを示す

工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
図面名称	平面図・内部仕上げ表 (屋内多目的グラウンド)
縮尺	S=1:100 (A3版 S=1:200)
設計者	キタイ設計 (株)
施工者	一級建築士 第319755号 小川龍二
ページ番号	A-13

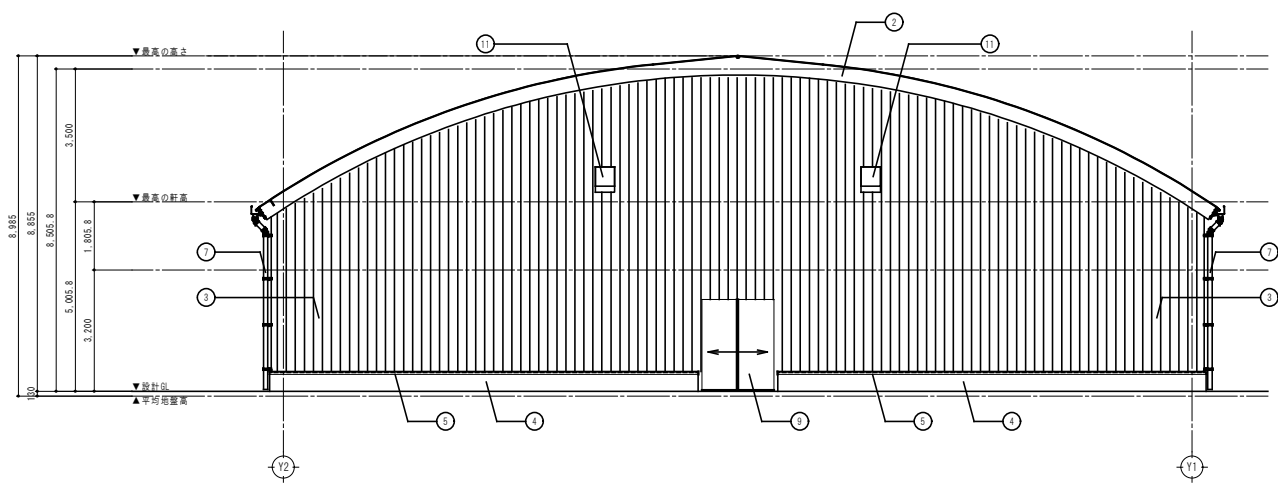
外部仕上げ表				防火認定番号		凡例	
屋根	鋼材 t=0.55 酸化チタン光触媒コーティング	外部建具	スチールハンガード 膜材カーテン	鋼材(屋根)	不燃 NM-3032	C:コンクリート	
外壁	カラーガルバリウム鋼板(角波) t=0.5 せっこうボード t=12.5下地	軒種	PL-3.2 曲げ加工 焼付塗装			S:鉄骨・鉄部	
外壁 (腰部分)	コンクリート打放し化粧仕上げ	壁種	カラーVP管φ100 (SUS挿み金物)			M:モルタル	
巾木	-	スロープ、ポーチ	コンクリート金コテ押さえ			SUS:ステンレス	



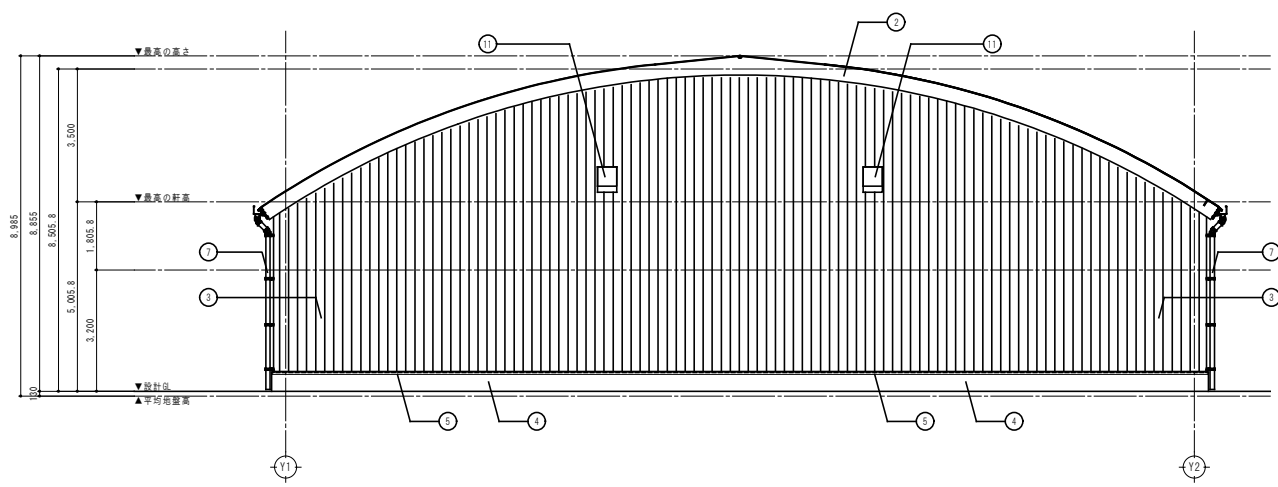
南側立面図 S=1:100



北側立面図 S=1:100




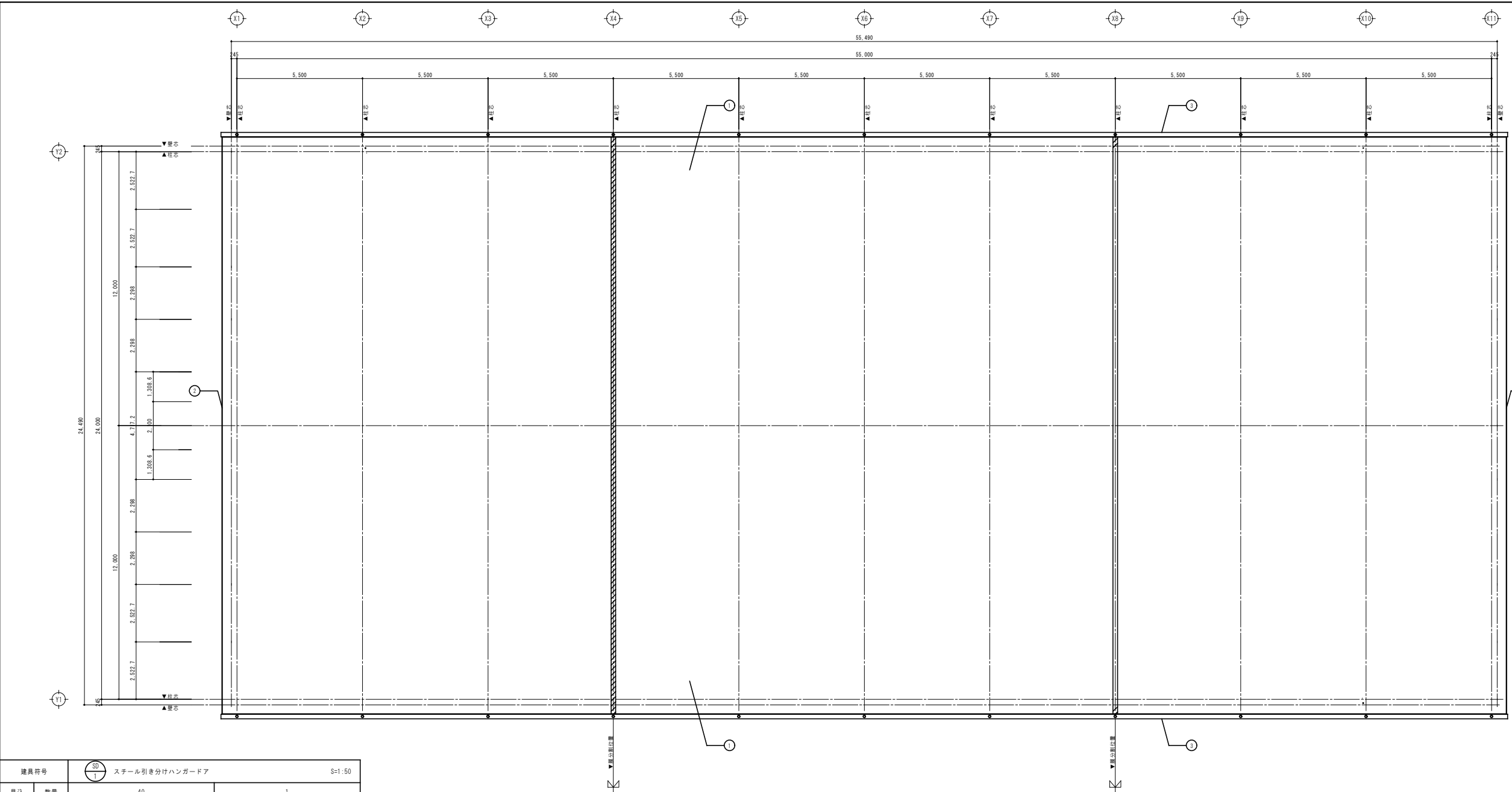
西側立面図 S=1:100



東側立面図 S=1:100

凡例	
①	屋根: 鋼材 t=0.55 酸化チタン光触媒コーティング
②	ケラバ: 屋根同材
③	外壁: カラーガルバリウム鋼板(角波) t=0.5 せっこうボード t=12.5下地
④	腰壁: コンクリート打放し化粧仕上げ
⑤	水切り: カラーガルバリウム鋼板 t=0.5
⑥	軒種: PL-3.2 曲げ加工 焼付塗装
⑦	壁種: カラーVP管φ100
⑧	建具: 膜材カーテン
⑨	建具: スチールハンガード
⑩	鉄骨柱 (DP塗り)
⑪	有圧換気扇
※外部の鉄骨見え掛り部分は全てDP塗りとする	

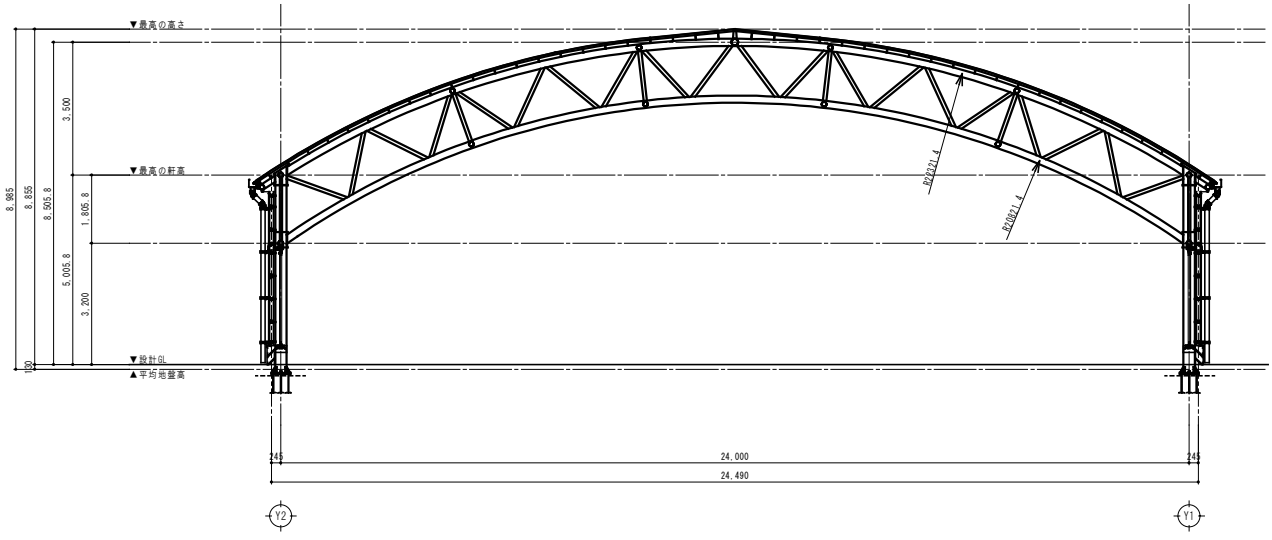
工事名称		旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
図面名称		立面図・外部仕上げ表(屋内多目的グラウンド)	
		S=1:100 (A3版 S=1:200)	
		キタイ設計(株)	
		一級建築士 第319755号 小川龍二	
		A-14	



凡例	
①	屋根：膜材 t=0.55 酸化チタン光触媒コーティング
②	ケラバ：屋根同材
③	軒種：PL-3.2 曲げ加工 焼付塗装

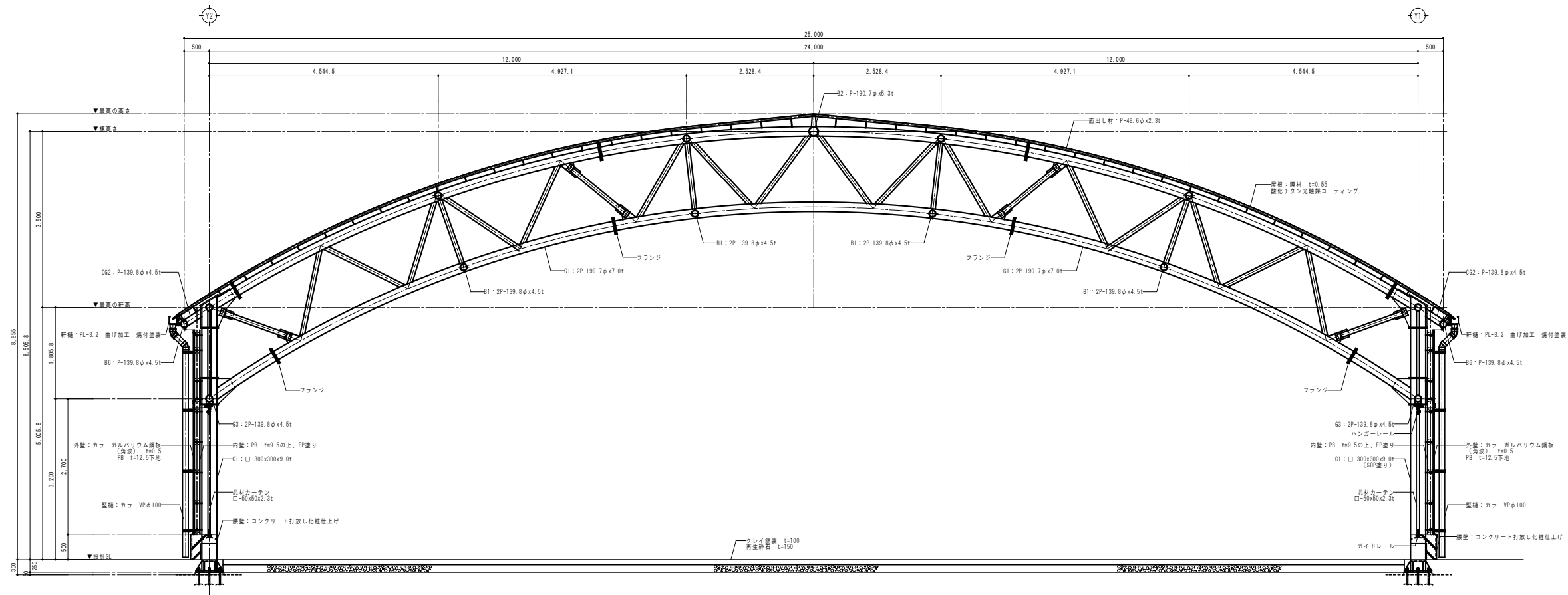
屋根伏図 S=1:100
※膜分割位置は施工時に再検討とする。

建具符号	SD 1 スチール引き分けハンガードア S=1:50
見込	数量 40 1
断面	
室名	屋内多目的グラウンド
仕上	焼き付け塗装
ガラス	—
金物	ハンガーレール、SUS引き手、戸先ゴム（指はさみ防止） 全開固定装置、SUS巻取り シリンドー錠（内部サムターン）、SUSキックプレート 他付属金物一式
備考	外付け枠タイプ（緩封戸当り） スチール三方枠 SOP造り

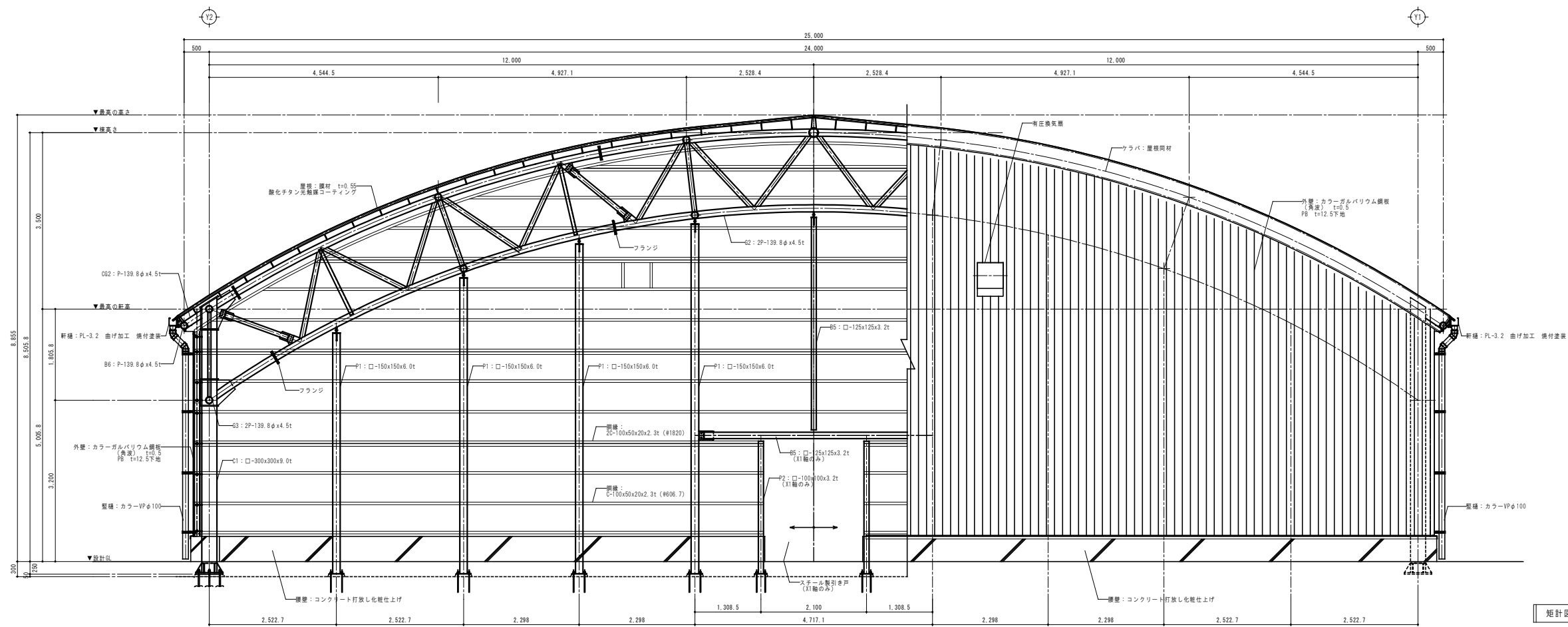


断面図 S=1:100

工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
図面名称	屋根伏図・断面図（屋内多目的グラウンド）	S=1:100 (A3版 S=1:200)
設計者	キタイ設計（株）	A-15
一級建築士	第319755号 小川龍二	

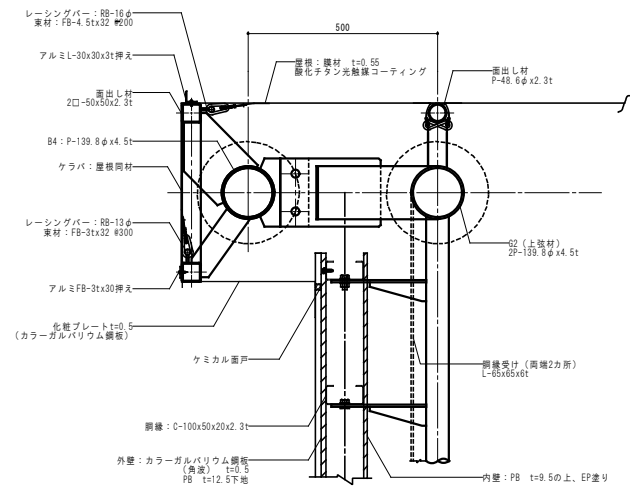


矩計図 (1) S=1:50
※内部鉄部見掛りはSOP塗りとする

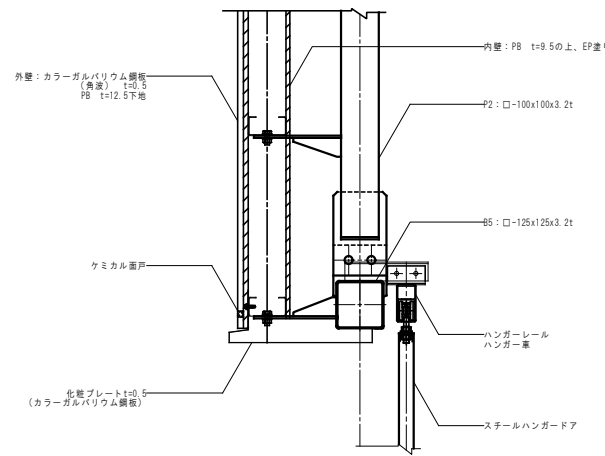


矩計図 (2) S=1:50
※内部鉄部見掛りはSOP塗りとする

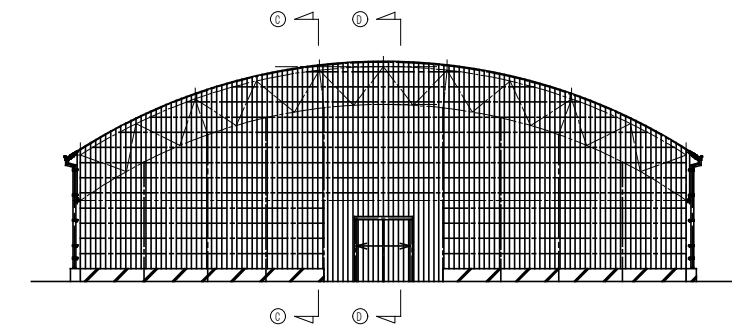
工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
図面名称	矩計図 (屋内多目的グラウンド)	S=1:50 (A3版 S=1:100)
設計者	キタイ設計 (株)	A-16
一級建築士	第319755号 小川龍二	



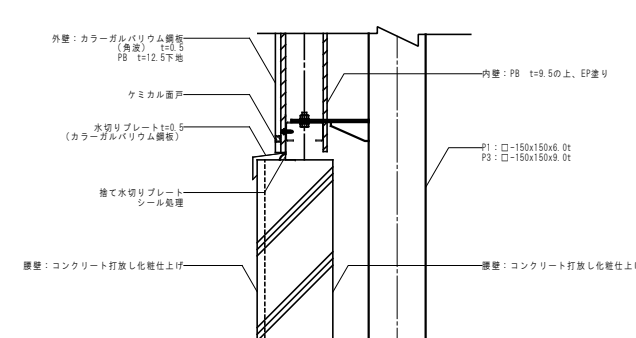
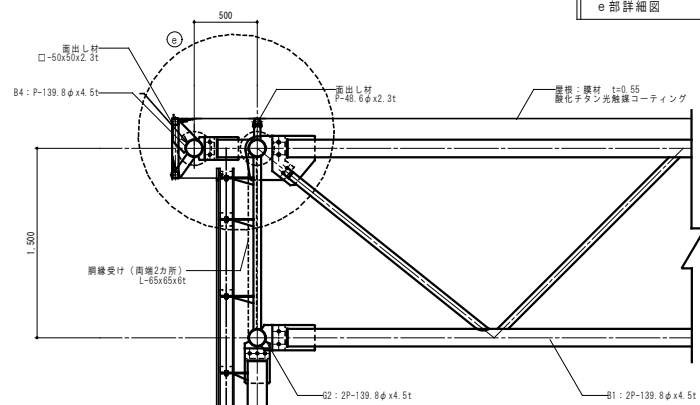
e 部詳細図 S=1:1.0



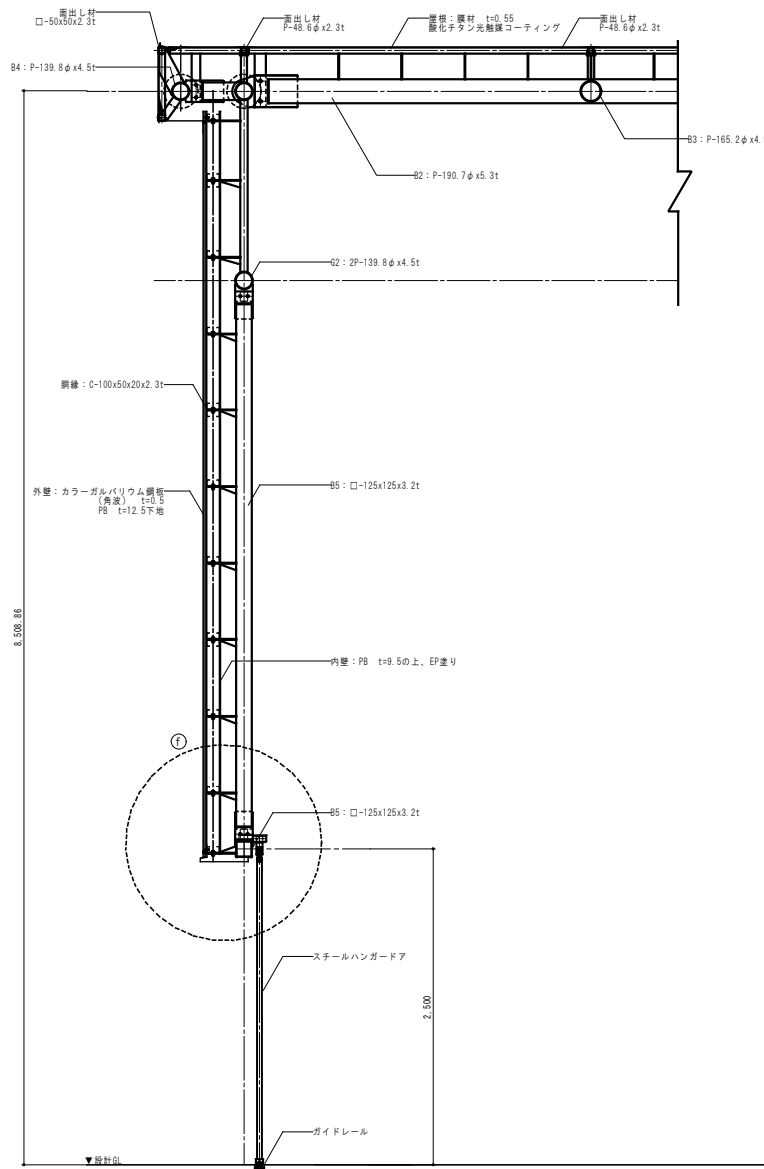
f 部詳細図 S=1:1.0



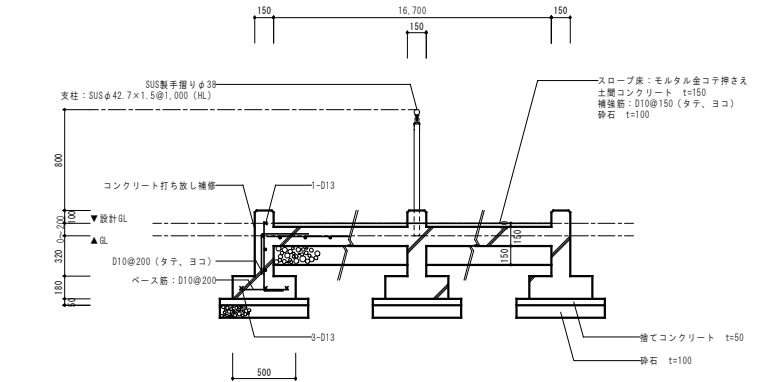
キープラン



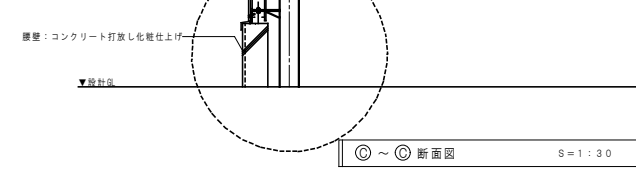
g 部詳細図 S=1:1.0



h 部詳細図 S=1:3.0

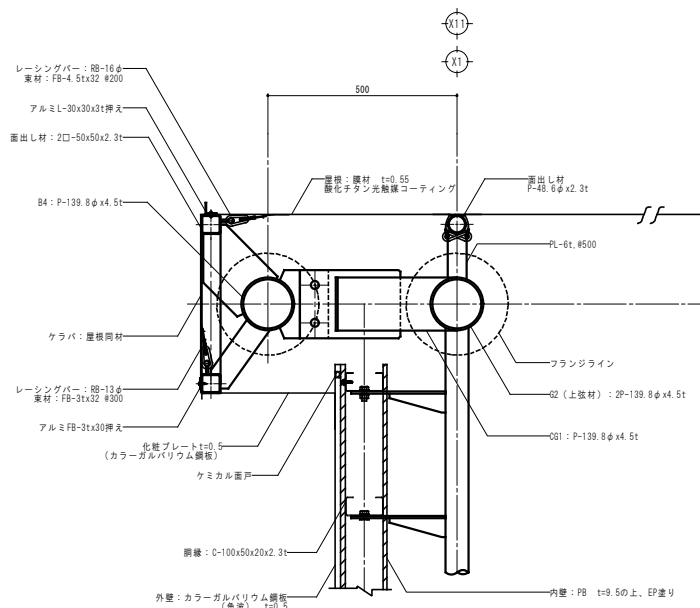
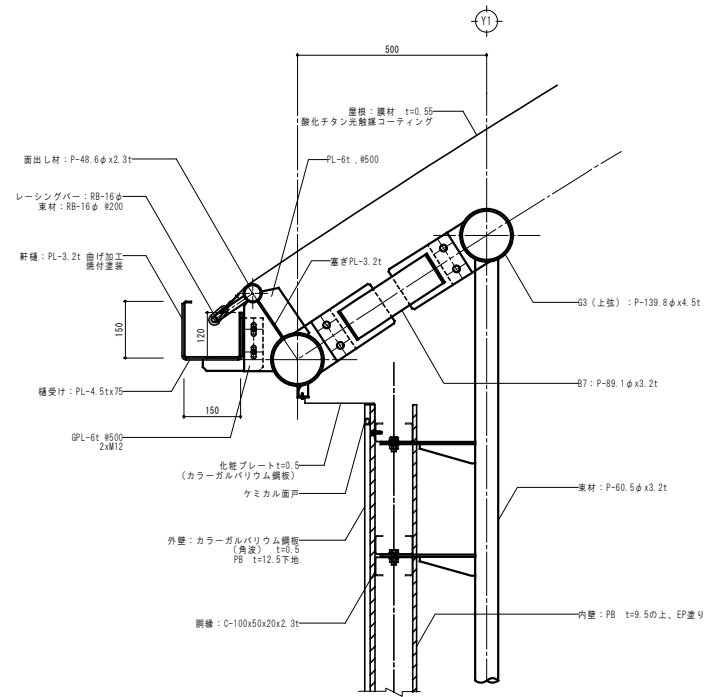


スロープ部詳細図 S=1:3.0

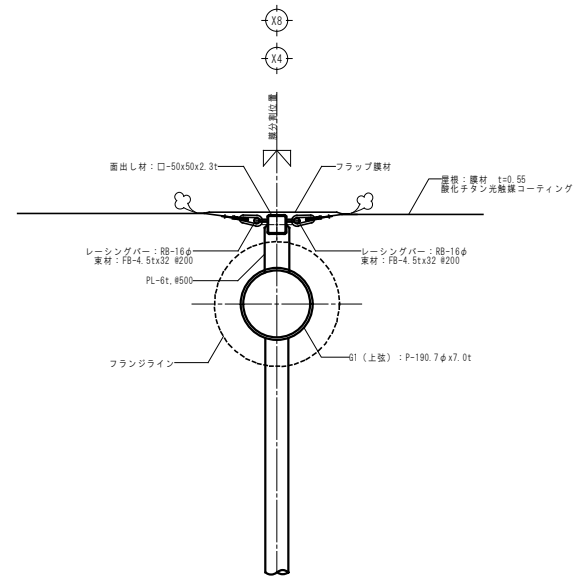


c~c 断面図 S=1:3.0

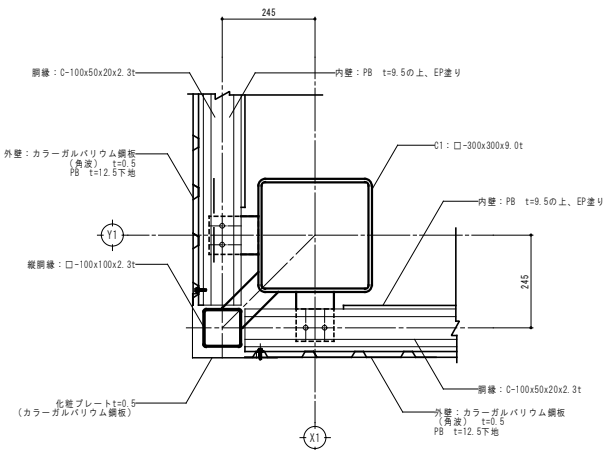
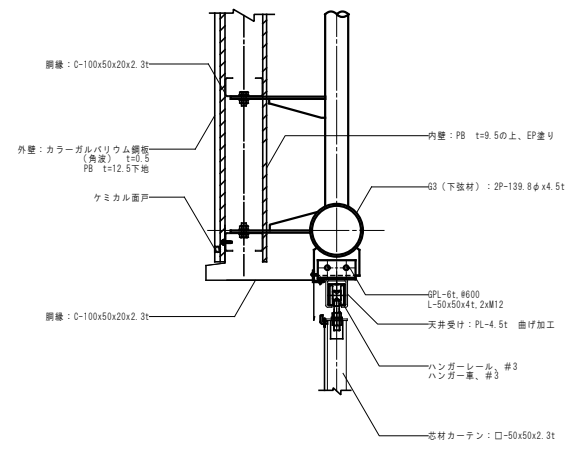
工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事		
図面名称	断面詳細図(屋内多目的グラウンド)	S=1:10, 1:30 (A版 S4:20, 1:60)	
設計者	キタイ設計(株)	一級建築士 第319755号 小川龍二	
図面番号	A-17		



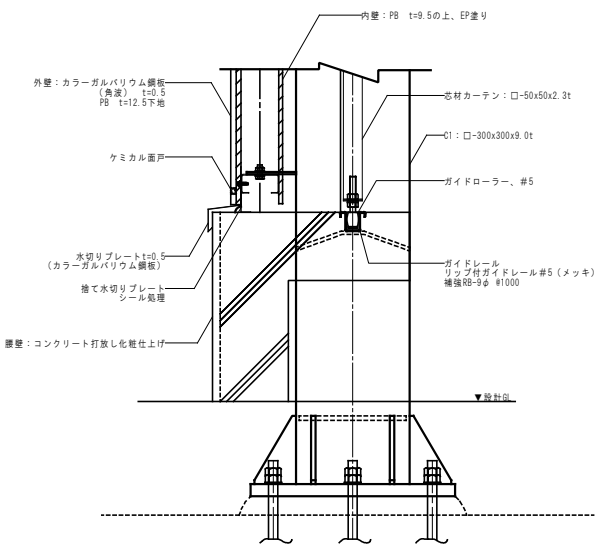
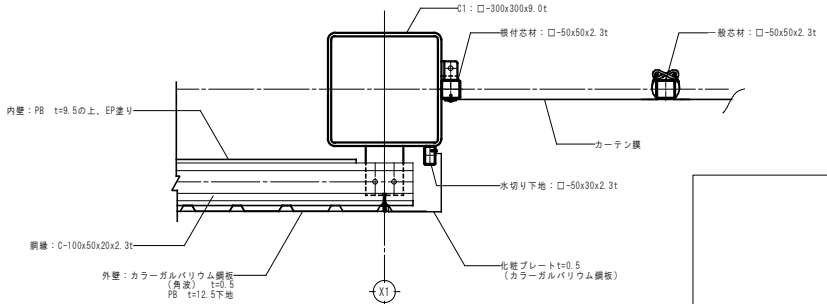
① ~ ② 断面図 S=1:10



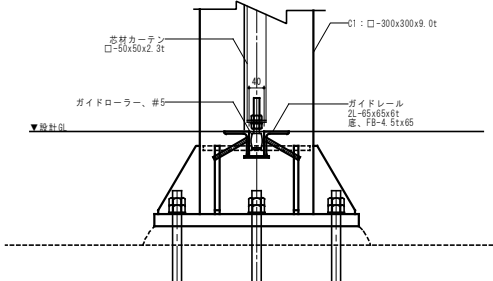
⑤ ~ ⑥ 断面図 S=1:10



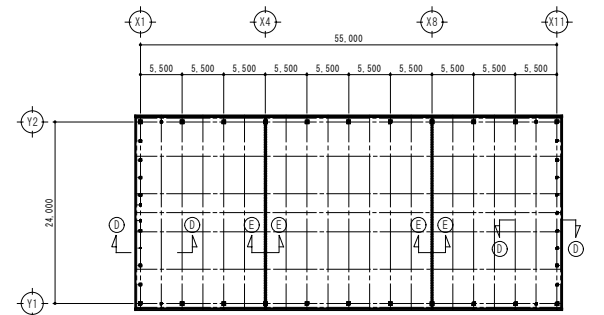
⑨ ~ ⑩ 断面図 S=1:10



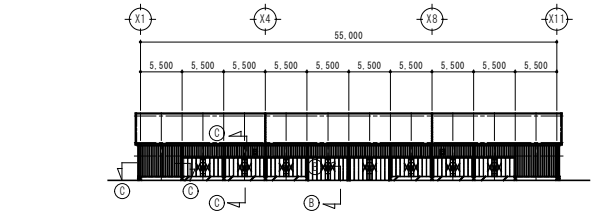
⑬ ~ ⑭ 断面図 S=1:10



⑮ ~ ⑯ 断面図 S=1:10



屋根伏図 S=FREE

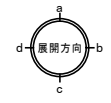
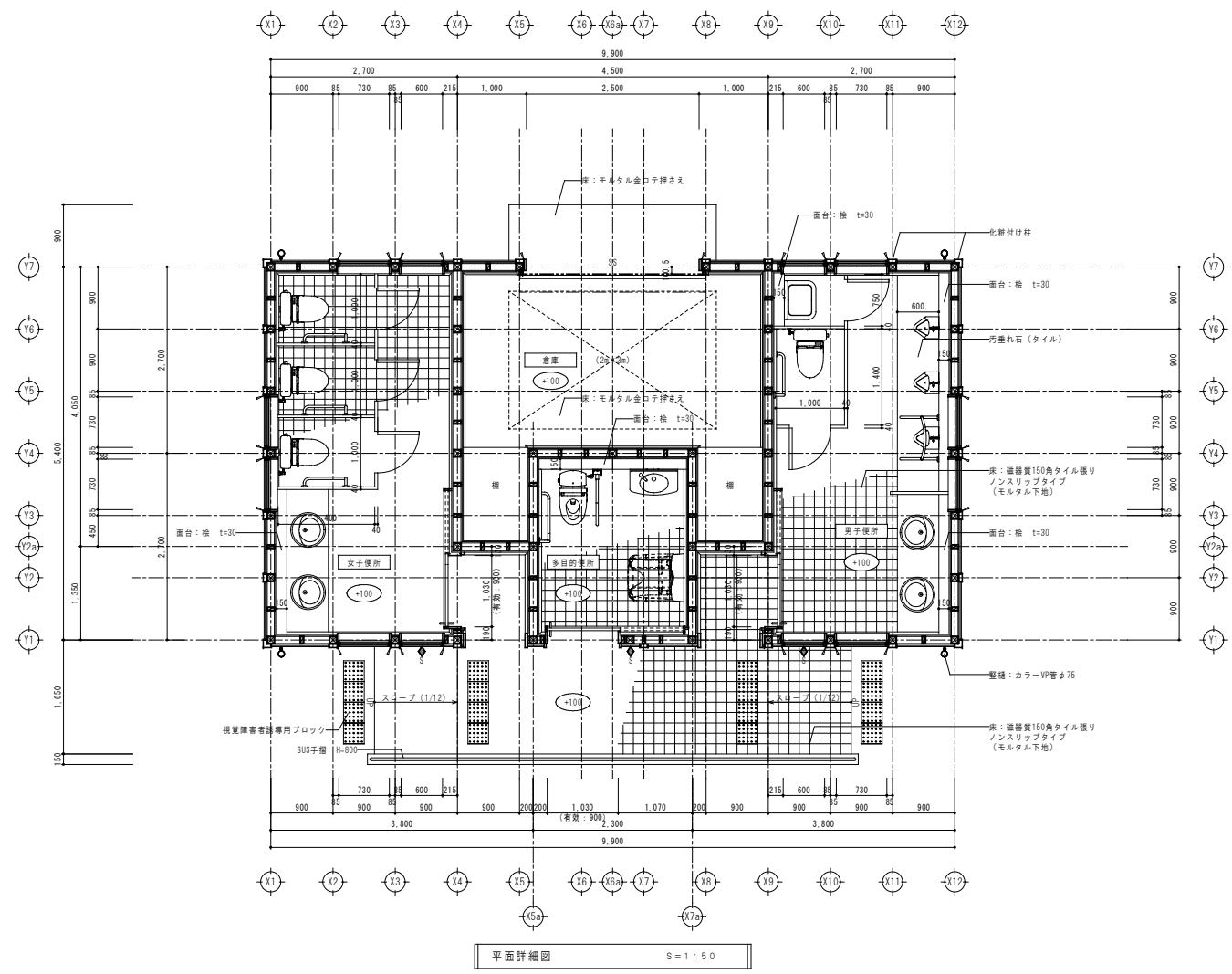


立面図 S=FREE

工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事		
図面名称	部分詳細図 (屋内多目的グラウンド場)	S=1:10	(A3縦 S=1:20)
設計者	キタイ設計 (株)	一級建築士 第319755号 小川龍二	A-18

外部仕上げ表				防火認定番号			凡例		
屋根	カラーベスト置き 下置き: アスファルトルーフィング 940 (22kg品) 野地板: 構造用合板 t=12及び杉板 t=15 (下面木材保護塗料塗り)	外部建具	スチールハンガードア アルミサッシュ 軽量スチールシャッター (手動式)	スロープ、ポーチ	磁器質150角タイル張り (ノンスリップタイプ) (モルタル下地)	カラーベスト	不燃	NM-2093	C: コンクリート
外壁	給排水下見張り t=15 巾150 (木材保護塗料塗り) 透湿防水シート下張り 構造用合板 t=9下地 (耐力壁)	軒種	塩ビ製既製品 W=130						S: 鉄骨・鉄部
外壁 (腰部分)	コンクリート打ち放し補修の上アクリルリシン吹き付け	壁種	カラーVP管φ75 (SUS挿み金物)						M: モルタル
巾木	コンクリート打ち放し補修	野地板 化粧柱 破風、重木等	木材保護塗料塗り						SUS: ステンレス
									CB: コンクリートブロック

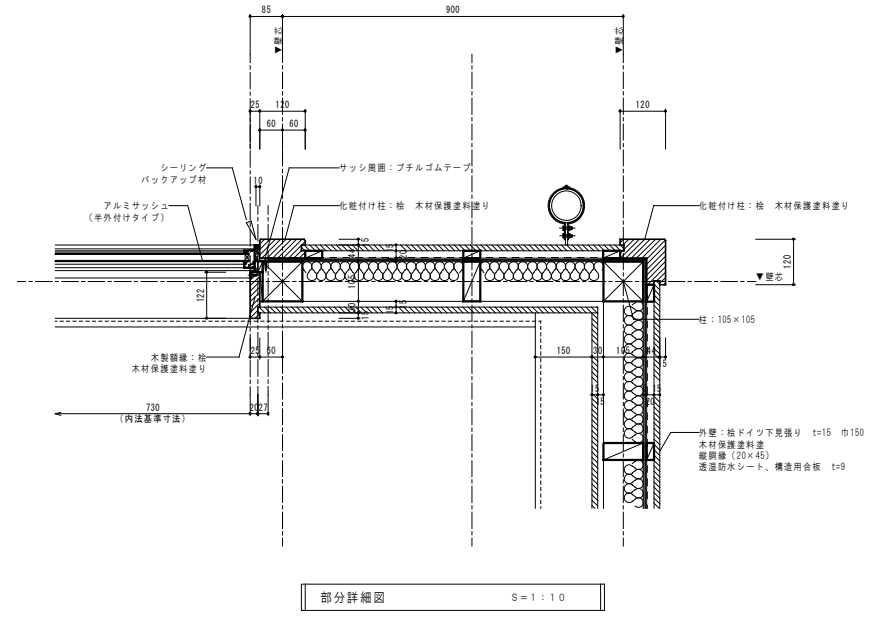
内部仕上げ表									
室名	床高	天井高	床	巾木	腰壁	壁	天井	廻縁	備考
男子便所	100	-	磁器質150角タイル張り ノンスリップタイプ (モルタル下地)	-	磁器質小口タイル張り (モルタル下地) H=1,200 ※タイル下地一部ラスモルタル塗り (アスファルトフェルト (20kg品) 下地)	縦羽目板張り t=15 (木材保護塗料塗り) (下地鋼線: 15×45)	化粧野地板: 杉板 t=15 (木材保護塗料塗り) 小屋組現し (木材保護塗料塗り)	壁上部木製見切り (木材保護塗料塗り)	トイレブース 化粧鏡、洗面カウンター 手摺、汚れれ石
女子便所	100	-	磁器質150角タイル張り ノンスリップタイプ (モルタル下地)	-	磁器質小口タイル張り (モルタル下地) H=1,200 ※タイル下地一部ラスモルタル塗り (アスファルトフェルト (20kg品) 下地)	縦羽目板張り t=15 (木材保護塗料塗り) (下地鋼線: 15×45)	化粧野地板: 杉板 t=15 (木材保護塗料塗り) 小屋組現し (木材保護塗料塗り)	壁上部木製見切り (木材保護塗料塗り)	トイレブース 化粧鏡、洗面カウンター 手摺
多目的便所	100	-	磁器質150角タイル張り ノンスリップタイプ (モルタル下地)	-	磁器質小口タイル張り (モルタル下地) H=1,200 ※タイル下地一部ラスモルタル塗り (アスファルトフェルト (20kg品) 下地)	縦羽目板張り t=15 (木材保護塗料塗り) (下地鋼線: 15×45)	化粧野地板: 杉板 t=15 (木材保護塗料塗り) 小屋組現し (木材保護塗料塗り)	壁上部木製見切り (木材保護塗料塗り)	手摺、ペーパーシート 化粧鏡
倉庫	100	-	モルタル金コテ押さえ	モルタル金コテ押さえ H=100	磁器質小口タイル張り (モルタル下地) H=1,200 ※タイル下地一部ラスモルタル塗り (アスファルトフェルト (20kg品) 下地)	縦羽目板張り t=15 (木材保護塗料塗り) (下地鋼線: 15×45)	化粧野地板: 杉板 t=15 (木材保護塗料塗り) 小屋組現し (木材保護塗料塗り)	壁上部木製見切り (木材保護塗料塗り)	棚 (中段)



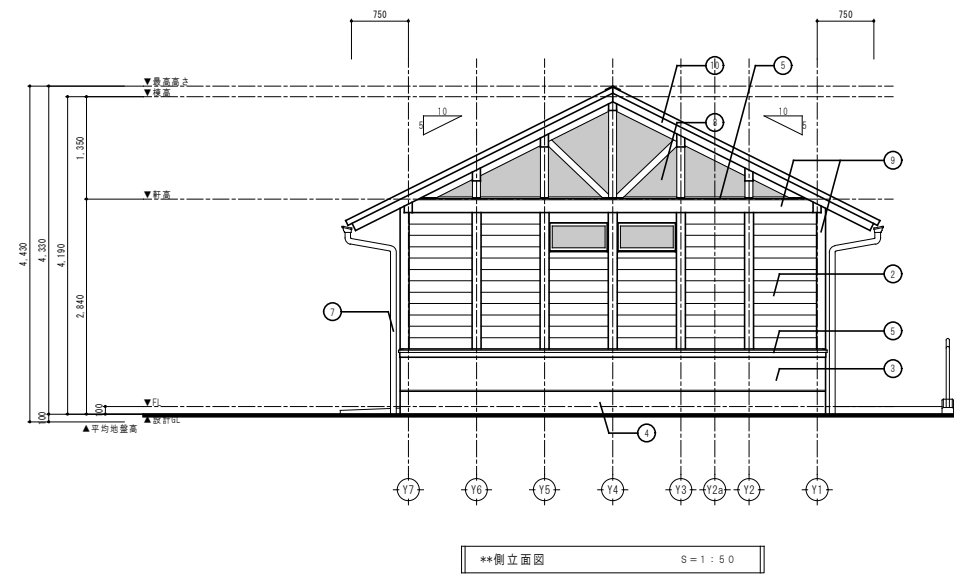
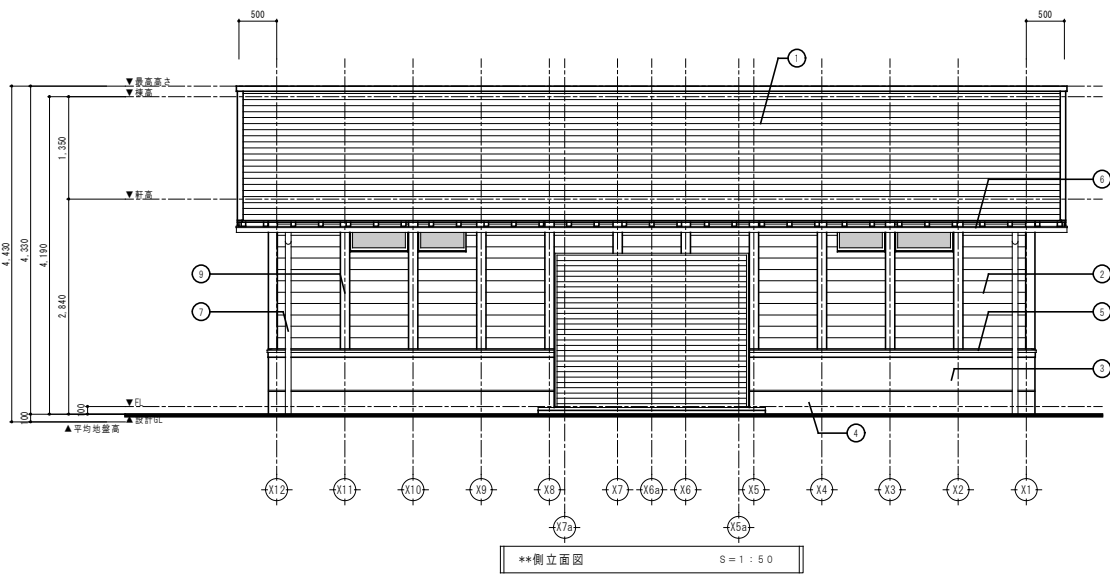
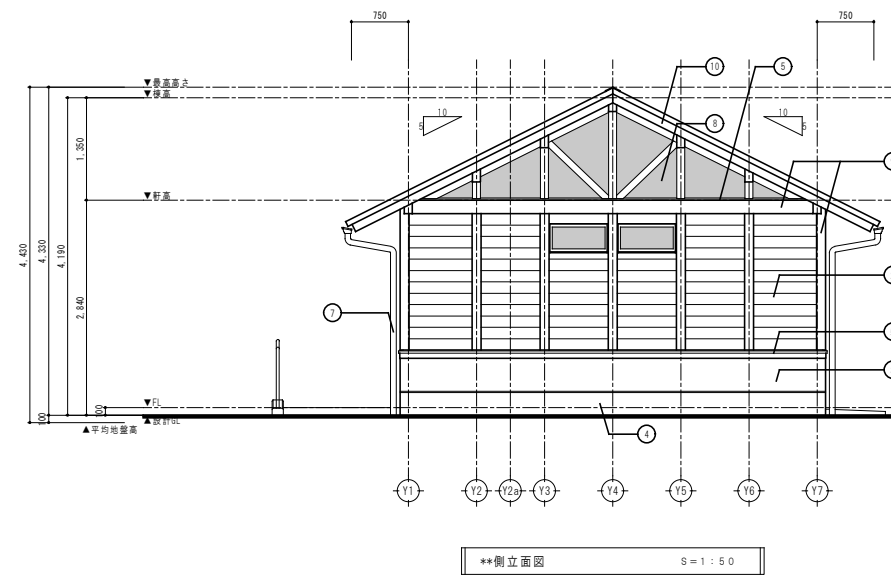
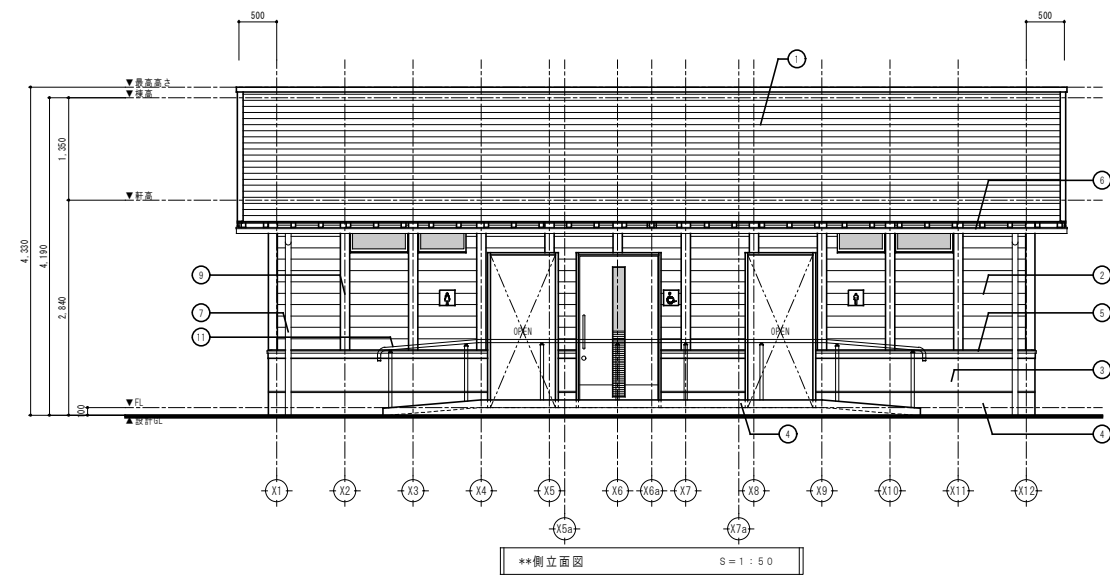
平面詳細図 S=1:50

▲ シーリングを示す
表記寸法は、仕上げ材・構造材とも仕上げ寸法とする
木材は、全て防蟻処理の上木材保護塗料塗りとする

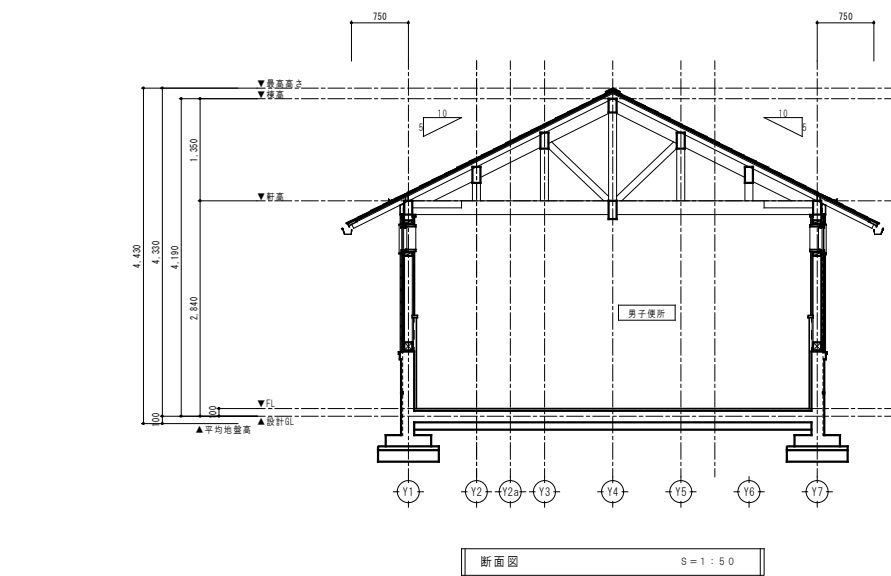
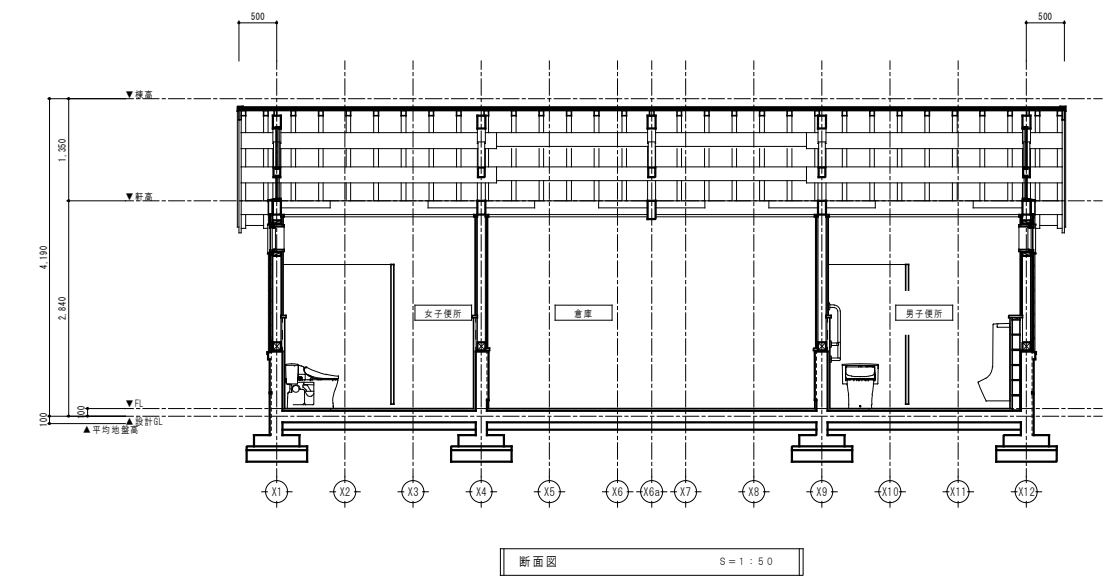
◆ ピクトサイン位置を示す (取付位置は打ち合わせによる)
※多目的便所のサインは、「重いサイン」、「男女共用サイン」、
「ペーパーベットのサイン (子育て支援サイン)」を設置のこと



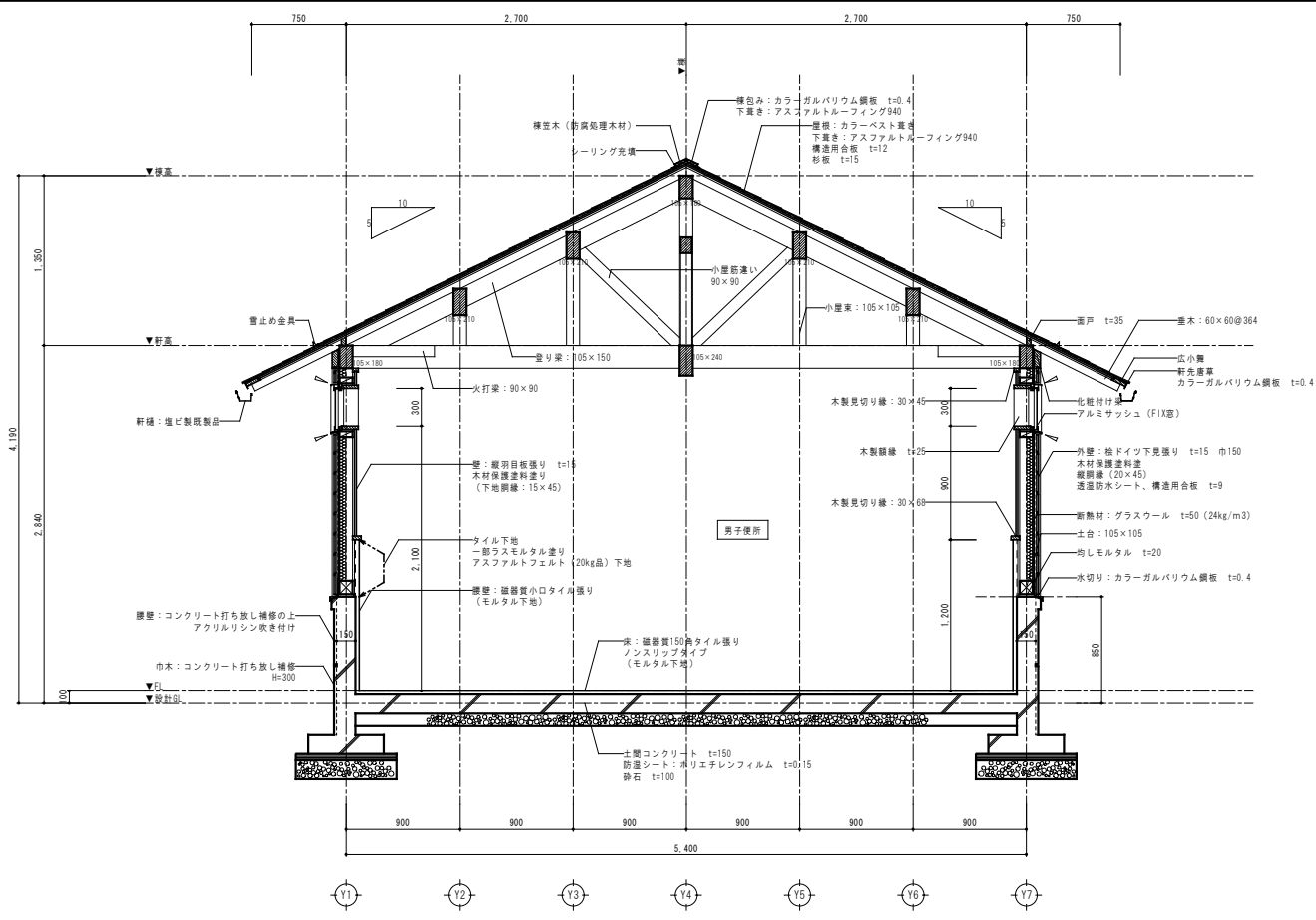
工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事		
図面名称	仕上表・平面詳細図 (便所・倉庫)	S=1:10, 1:50 (A3E S4: 20.1-100)	
設計者	キタイ設計 (株)	A-19	
一級建築士	319755号 小川 龍二		



凡例	
①	屋根：カラーベスト葺き 下書き：アスファルトルーフィング 940(22kg品) 野地板：構造用合板 t=12及び杉板 t=15 (下面木材保護塗料塗り)
②	外壁：徐ドイツ下見張り t=15 巾150 (木材保護塗料塗り) 透湿防水シート下張り 構造用合板 t=9下地 (断力壁)
③	壁：コンクリート打ち放し補修の上アクリルシン吹き付け
④	巾木：コンクリート打ち放し補修
⑤	水切り：カラーガルバリウム鋼板 t=0.4
⑥	軒種：塩ビ製既製品 W=130
⑦	窓種：カラーUP窓 φ75
⑧	強化ガラス t=5.0
⑨	化粧付け柱、梁 (木材保護塗料塗り)
⑩	破風、垂木、小窓束等 (木材保護塗料塗り)
⑪	SUS手摺
※外部の木材見え掛り部分は全て木材保護塗料塗りとする	

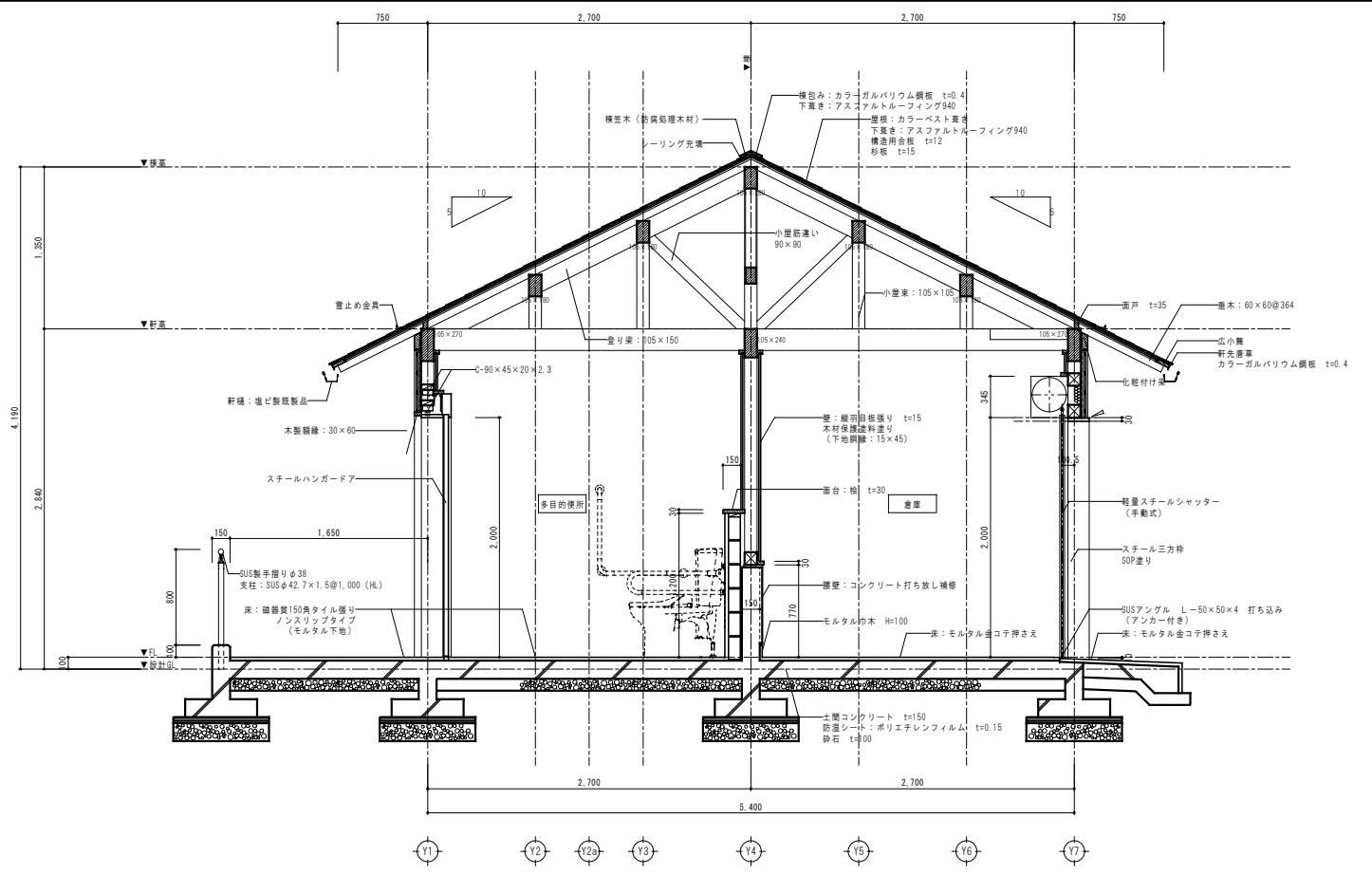


工事名称		旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
図面名称		立面図・断面図(便所・倉庫)	S=1:50 (A3紙 S=1:100)
設計者		キタイ設計(株)	A-20
施工者		一級建築士319755号 小川 隆二	



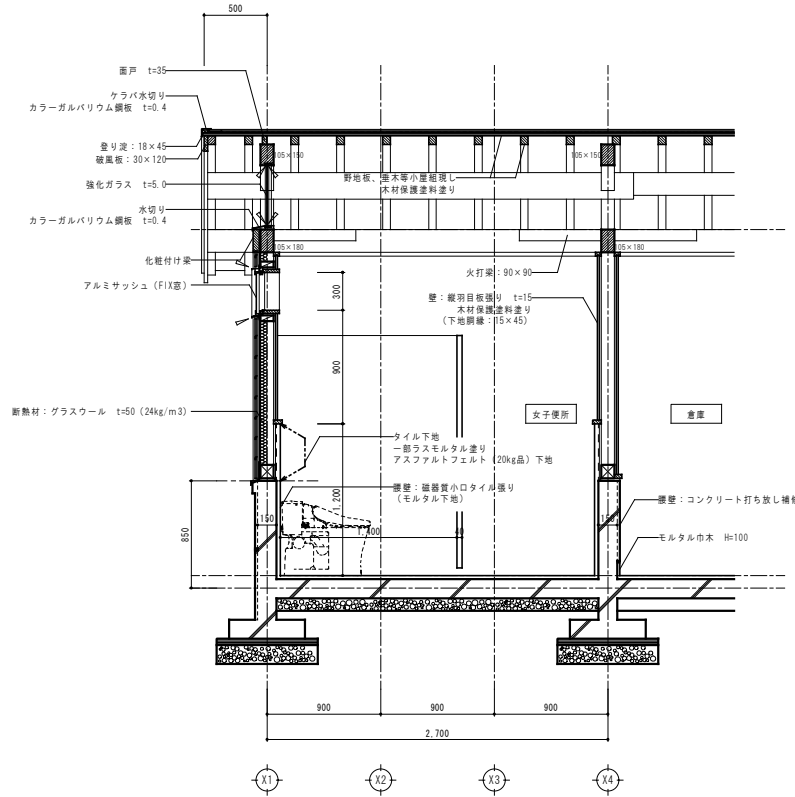
矩計図 (A-A'断面) S=1:30

シーリングを示す
※内部及び外部の木材見え掛り部分は全て木材保護塗料塗りとする



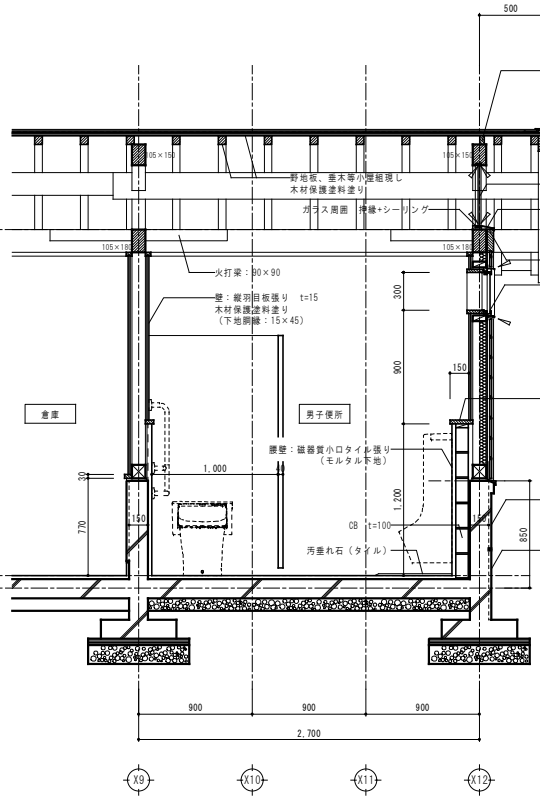
矩計図 (B-B'断面) S=1:30

シーリングを示す
※内部及び外部の木材見え掛り部分は全て木材保護塗料塗りとする



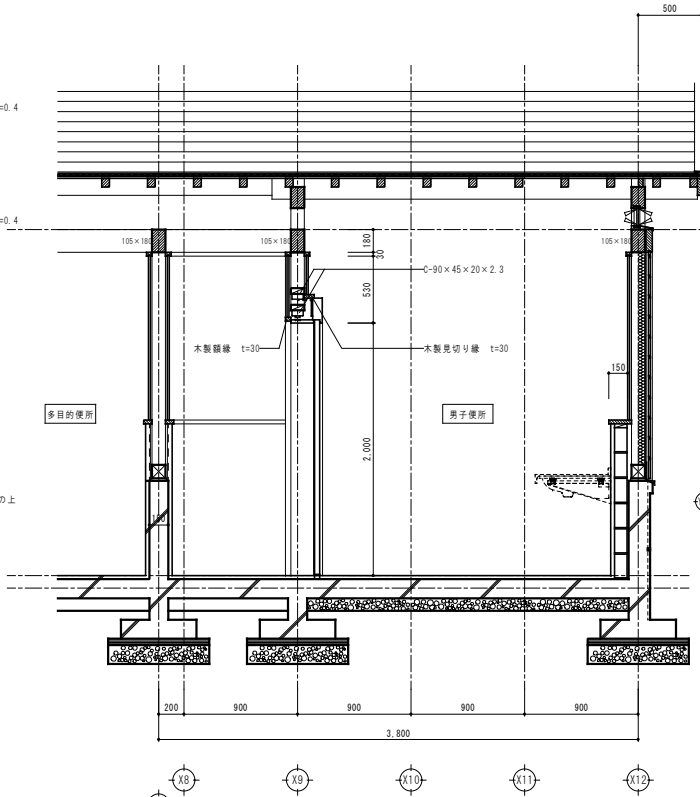
断面詳細図 (C-C'断面) S=1:30

シーリングを示す
※内部及び外部の木材見え掛り部分は全て木材保護塗料塗りとする



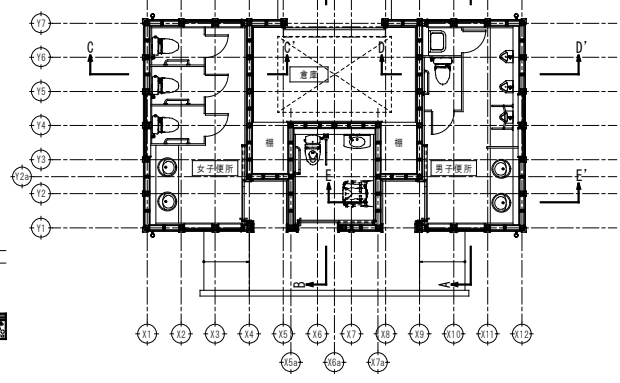
断面詳細図 (D-D'断面) S=1:30

シーリングを示す
※内部及び外部の木材見え掛り部分は全て木材保護塗料塗りとする



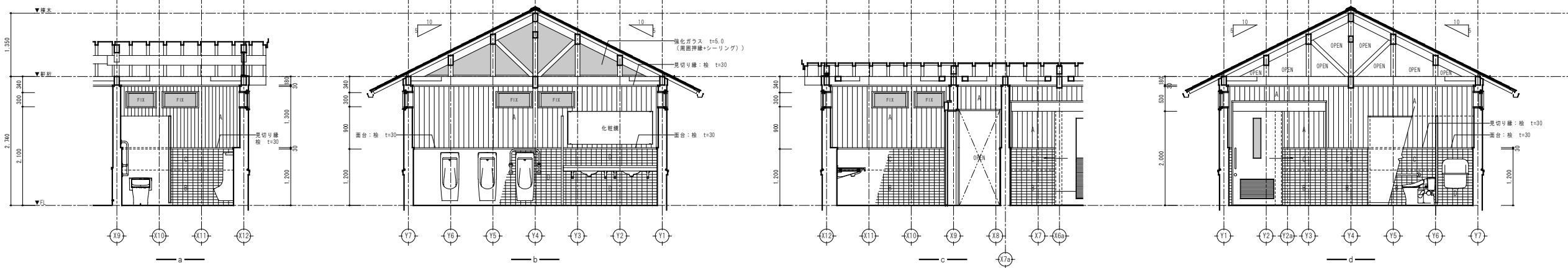
断面詳細図 (E-E'断面) S=1:30

シーリングを示す
※内部及び外部の木材見え掛り部分は全て木材保護塗料塗りとする

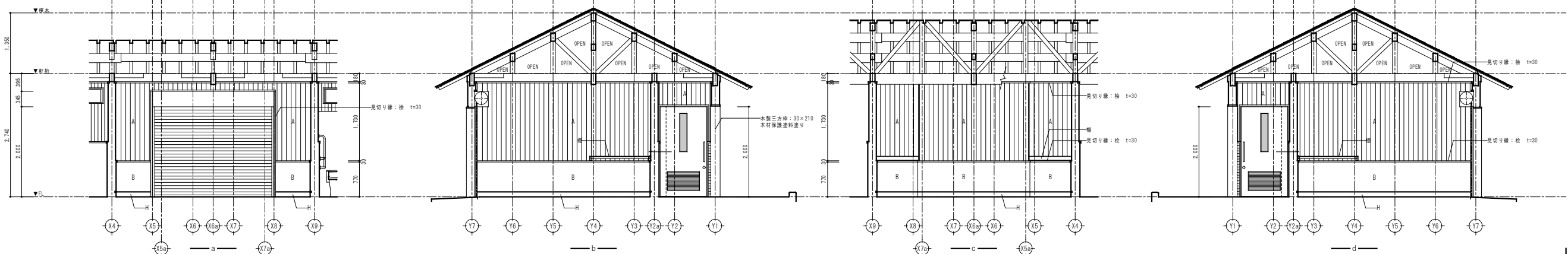


KEYPLAN

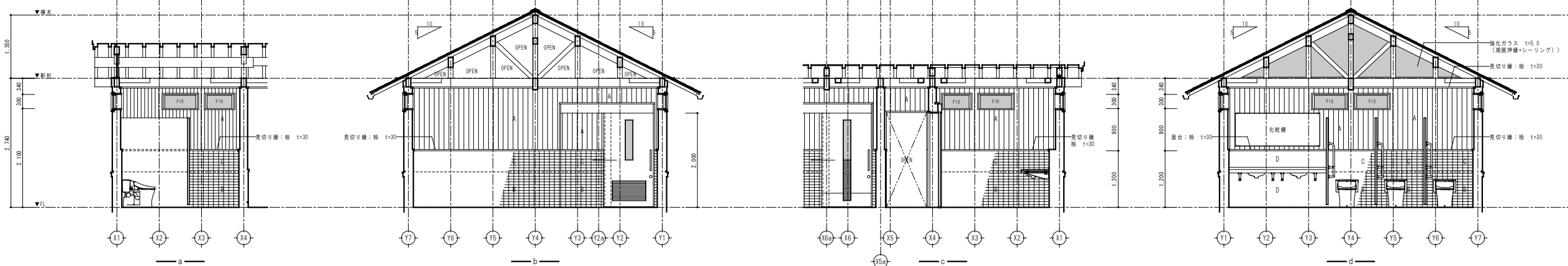
工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事		
図面名称	矩計図 (便所・倉庫)	S=1:30, 1:100 (A/B: S1:60, 1:200)	
設計者	キタイ設計 (株)	一級建築士319755号 小川 龍二	A-21



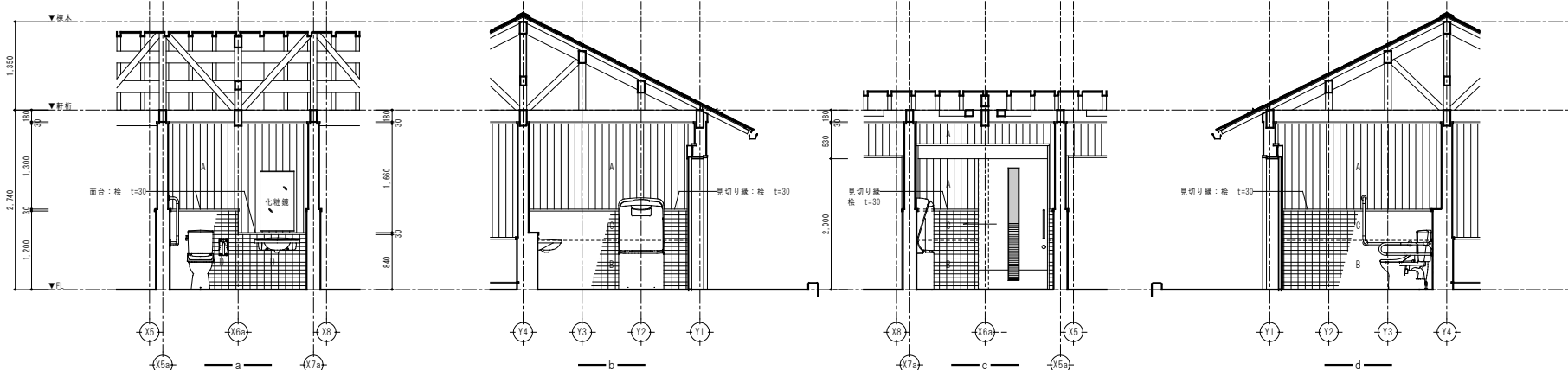
男子便所



倉庫



女子便所



多目的便所

展開図 S=1:50

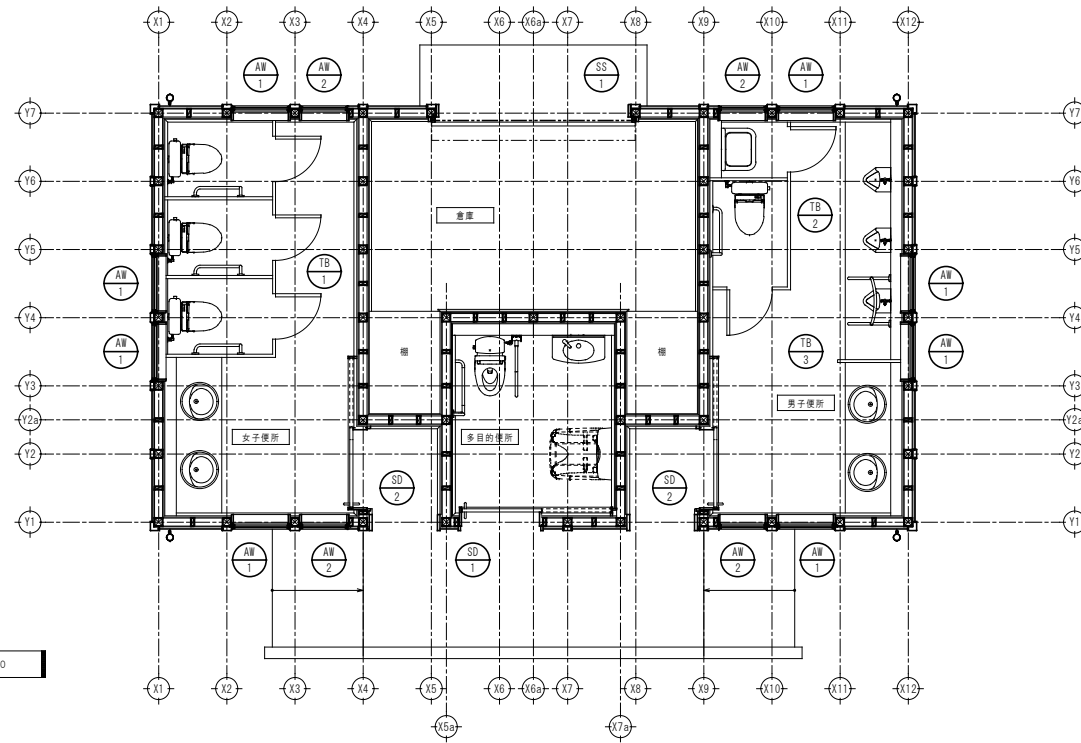
男子便所・女子便所・多目的便所		下地	仕上げ
床		モルタル	磁器質150角タイル張り フンスリップタイプ
巾木	H		—
壁	A	木製押縁	縦目板張り t=15 (木材保護塗料塗り)
	B	モルタル	磁器質小口タイル張り (FL+750まで)
	C	ラスモルタル	磁器質小口タイル張り (FL+750~1,200)
	D	モルタル+CB	磁器質小口タイル張り
	E		
天井		化粧野地板: 杉板 t=15 (木材保護塗料塗り) 小屋組現し (木材保護塗料塗り)	
その他			
備考		面台、見切り: 縁 t=30 トイレブース、汚巻れ石 洗面カウンター、化粧鏡、手摺 多目的便所: ベビシート 木部見え掛り部分は全て木材保護塗料塗り	

倉庫		下地	仕上げ
床		コンクリート	モルタル金コ子押さえ
巾木	H		モルタル H=100
壁	A	木製押縁	縦目板張り t=15 (木材保護塗料塗り)
	B	コンクリート	コンクリート打ち放し補修
	C		
	D		
	E		
天井		化粧野地板: 杉板 t=15 (木材保護塗料塗り) 小屋組現し (木材保護塗料塗り)	
その他			
備考		見切り: 縁 t=30 欄 (中段) 木部見え掛り部分は全て木材保護塗料塗り	

建具符号	SD 1	スチール片引きハンガードア	S=1:50	SD 2	スチール片引きハンガードア	S=1:50	AW 1	アルミFIX窓	S=1:50	AW 2	アルミFIX窓	S=1:50	SS 1	軽量スチールシャッター（手動式）	S=1:50	
見込	数量	40	1	40	2	70	8	70	4				1			
立面																
室名	多目的便所		男子便所、女子便所		男子便所、女子便所		男子便所、女子便所		男子便所、女子便所		倉庫					
仕上	焼き付け塗装		焼き付け塗装		カラーアルミ（電解着色）		カラーアルミ（電解着色）		カラーアルミ（電解着色）		シャッタースラット t=0.5（カラー鋼板）					
ガラス	型板ガラス t=4.0		型板ガラス t=4.0		型板ガラス t=4.0		型板ガラス t=4.0		型板ガラス t=4.0		-					
金物	ハンガーレール、SUS引き手、戸先ゴム（指はさみ防止） 全開固定装置、SUS巻取り、アルミガラリ シリンダー錠、SUSキックプレート 表示錠（内部サムターン） 他付属金物一式		ハンガーレール、SUS引き手、戸先ゴム（指はさみ防止） 全開固定装置、SUS巻取り、アルミガラリ シリンダー錠 他付属金物一式		アングルピース 結露受け 他付属金物一式		アングルピース 結露受け 他付属金物一式		アングルピース 結露受け 他付属金物一式		SUSガイドレール、SUS座板 手掛け、内外錠 他付属金物一式					
備考	外付け枠タイプ（縦枠戸当り） スチール三方枠 SOP塗り		外付け枠タイプ（縦枠戸当り） スチール三方枠 SOP塗り		木造用半外付けタイプ 図示寸法は内部縁幅寸法を示す		木造用半外付けタイプ 図示寸法は内部縁幅寸法を示す		木造用半外付けタイプ 図示寸法は内部縁幅寸法を示す		スチール三方枠 SOP塗り					
建具符号	TB 1	トイレブース	S=1:50	TB 2	トイレブース	S=1:50	TB 3	トイレブース	S=1:50	TB 3	トイレブース	S=1:50				
見込	数量	40	1	40	1	40	1	40	1				40	1		
立面																
室名	女子便所		女子便所		男子便所		男子便所		男子便所		男子便所					
仕上	メラミン化粧合板		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板					
ガラス	-		-		-		-		-		-					
金物	SUS笠木、グラビティヒンジ、取手 SUSサポート、壁付け材 表示錠 他付属金物一式		SUS笠木、グラビティヒンジ、取手 SUSサポート、壁付け材 表示錠 他付属金物一式		SUS笠木、グラビティヒンジ、取手 SUSサポート、壁付け材 表示錠 他付属金物一式		SUS笠木、グラビティヒンジ、取手 SUSサポート、壁付け材 表示錠 他付属金物一式		SUS笠木、グラビティヒンジ、取手 SUSサポート、壁付け材 表示錠 他付属金物一式		SUS笠木、グラビティヒンジ、取手 SUSサポート、壁付け材 表示錠 他付属金物一式					
備考	内部手摺取付（補強要）		内部手摺取付（補強要）		内部手摺取付（補強要）		内部手摺取付（補強要）		内部手摺取付（補強要）		内部手摺取付（補強要）					

建具特記	
1	建具寸法は概略寸法にて、施工図作成の上係員の承諾を得ること
2	金物は全て見本提出か、見本並み資料提示の上係員の承諾を得る事。特記無き限りステンレス製（SUS304）とする事
3	外部建具の結露水は、建具において排水可能な構造とする
4	アルミ製窓は結露受け付とする
5	ガラス留めはシーリングとする
6	アルミ製サッシは特記なき限り木造（住宅）用とし、カラー（電解着色仕上）とする。サンプルにて決定

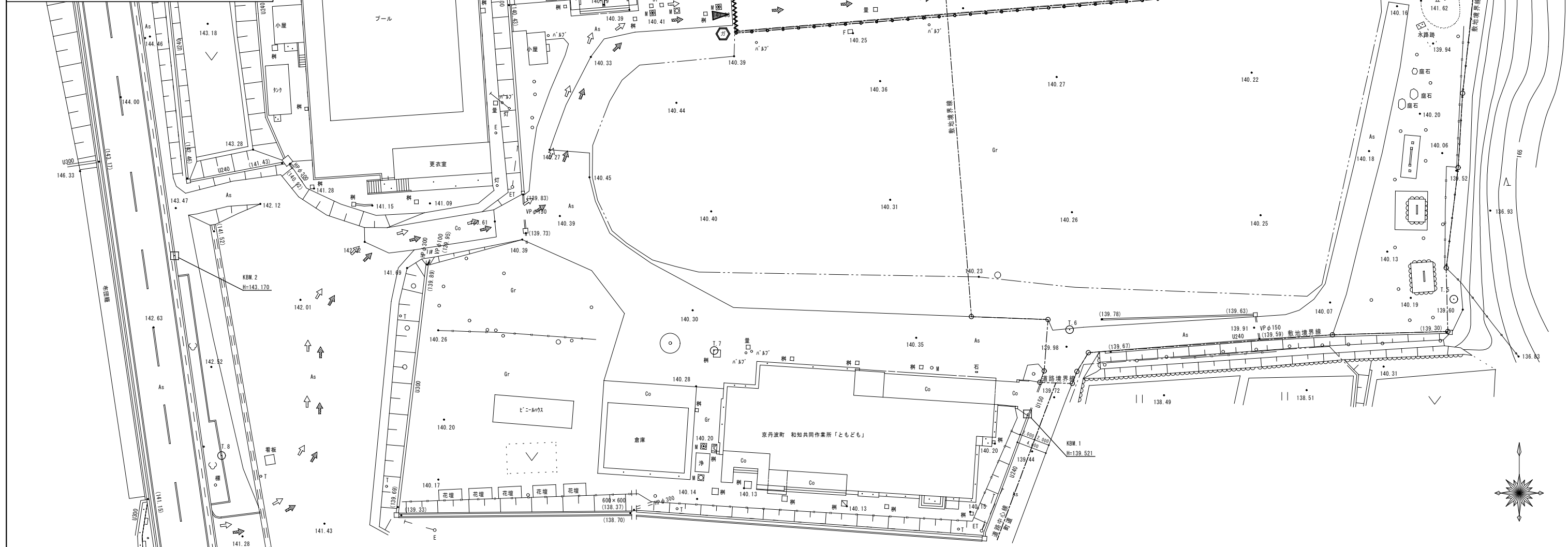
建具凡例			
建具形式の符号		ガラスの略号	
AD	アルミ製ドア	F	型板ガラス
AW	アルミ製窓		
SD	スチールドア		
SS	スチールシャッター		
TB	トイレブース		



建具配置図 S=1:50

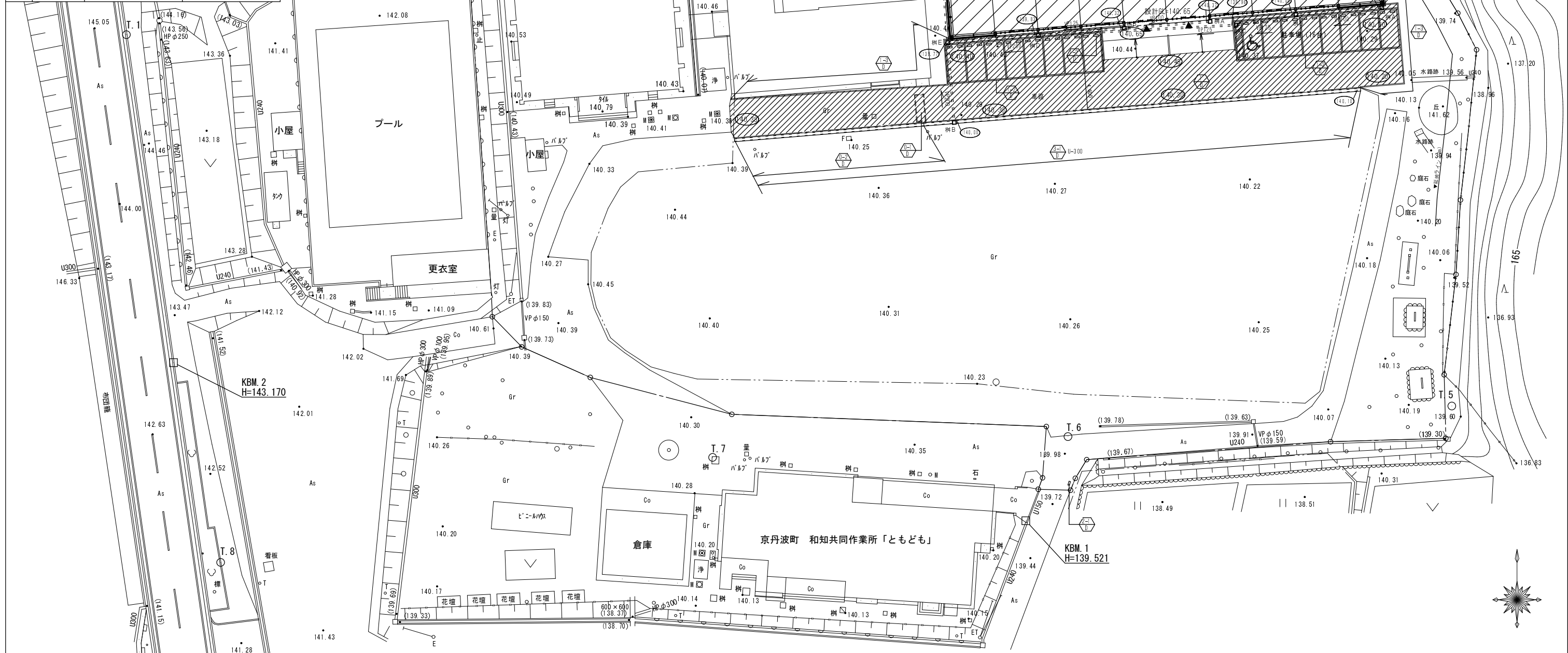
工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
図面名称	建具リスト（便所・倉庫）	S=1:50 (A3紙 S=1:100)
設計者	キタイ設計（株）	A-23
一級建築士	319755号 小川 龍二	

凡例	
	既存建築物を示す
	新築工事対象建築物を示す
	仮囲い ガードフェンス(H=1800)を示す
	クロスゲート H=1.8, W=4.5
	手摺本定幅(手摺先行方式) W=900(屋内多目的グラウンド)、W=600(屋外歩廊)を示す ※節法シート透り(1.5間)
	ガードマン(常駐1人)(交通誘導員B) *8:30~18:00 大空車道等の出入りが多い時は、適宜スポットガードマンを増員のこと。
	工事車両進入経路を示す ※道路状況により設置位置、整地等を適宜行うこと
	施設利用者動線を示す
	工事出入口
特記事項	
<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の工事車両の通行は最終行とし、工事車両出入口付近は常に清掃すること 本図面における仮囲い、工事車両の進入計画及び配置等の仮設計画については参考程度とすること 現場確認の上、再度仮設計画を立案し、監督係員、施設職員と協議を行うこと 施設利用を優先し工事をすすめること 施設関係者と連絡を密にとること(工程等) 各関係法規(規制等)を遵守すること(各官庁への申請は、請負者が行うこと) 工事期間中、資材搬入に利用する公共道路開閉、工事敷地周辺住民及び関係者等に配慮し、工事により発生する騒音、振動、粉塵の削減に努めること 常に整理、清掃を心掛けること 安全管理は確保を行うこと 工事期間(仮囲い内)及び工事車両通行路にあたる既存建物、塀溝、会所及びマンホール等については、工事車両の通行により損傷なきよう十分養生等の措置を講ずること 既存施設を破壊させないこと。万一破壊させた場合は請負者の責務で復旧のこと 工事車両進入路と施設利用者等の通路が交差する場合は、工事車両の通行を待たせる事、安全に配慮すると共に適宜交通誘導員を配置し、車両の誘導をはかること 仮囲い内の雨水、排水処理は指示なくも適切に行うこと 	

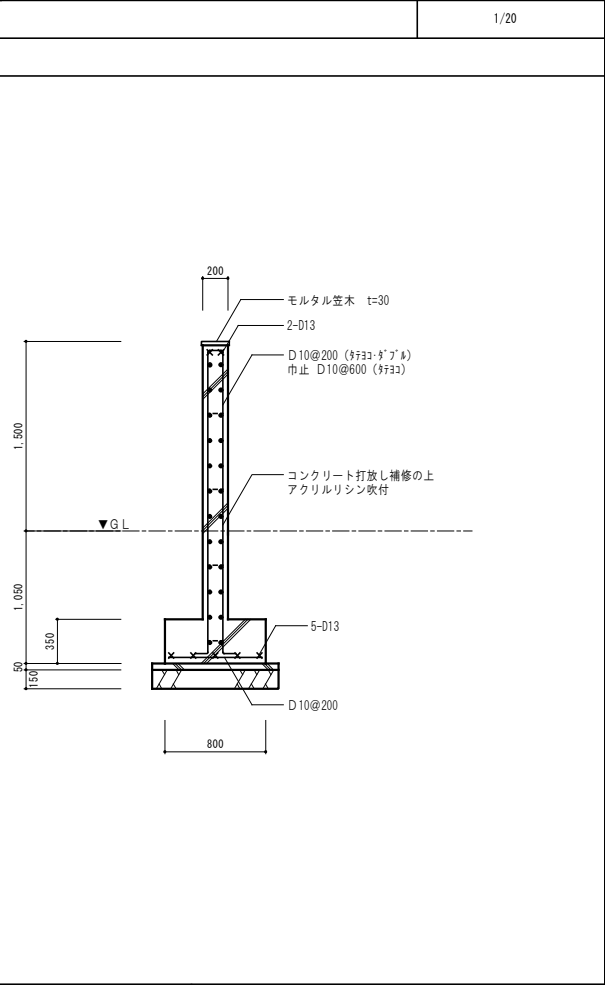
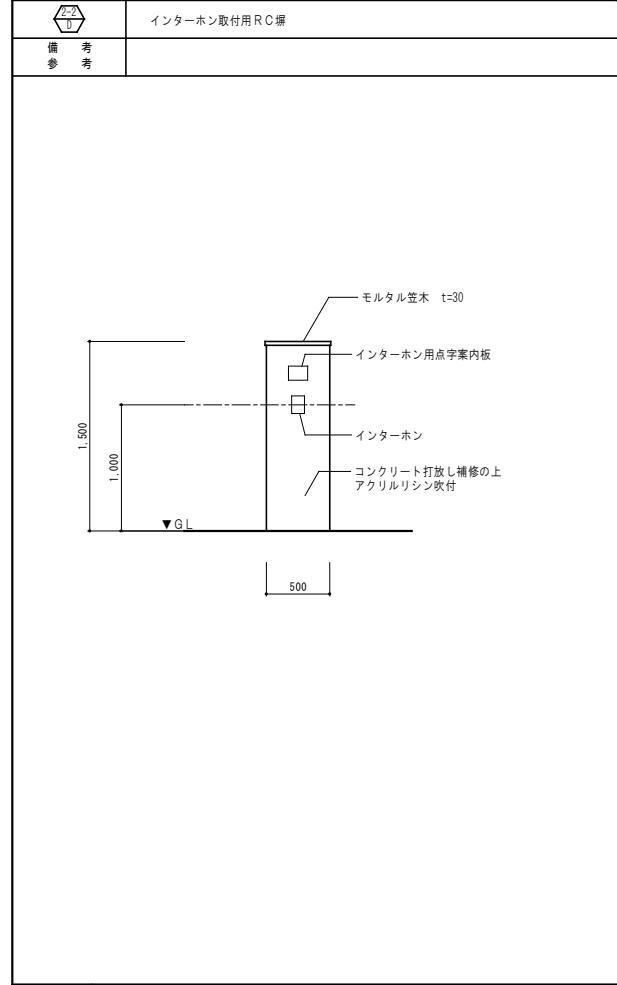
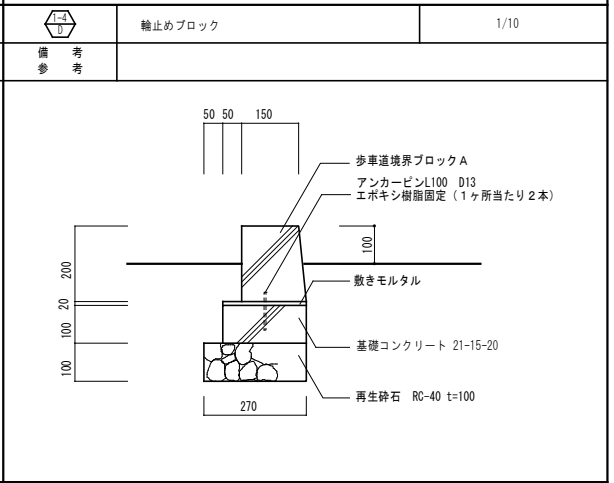
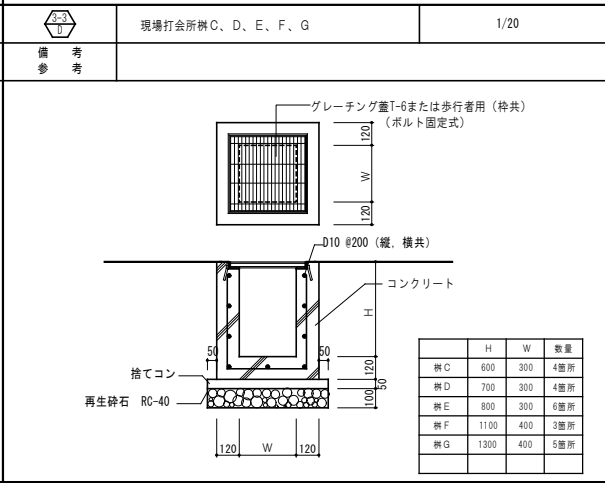
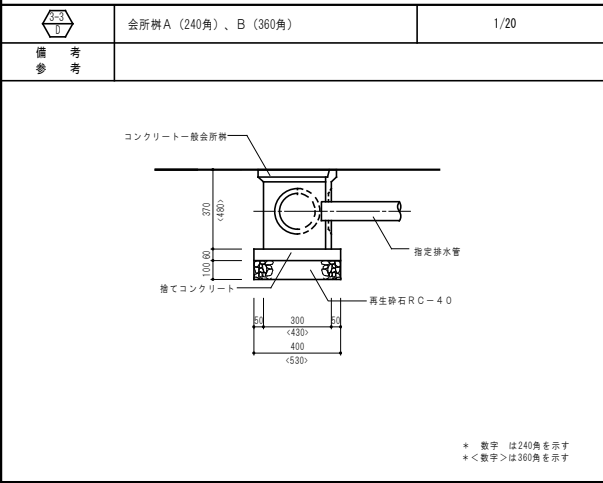
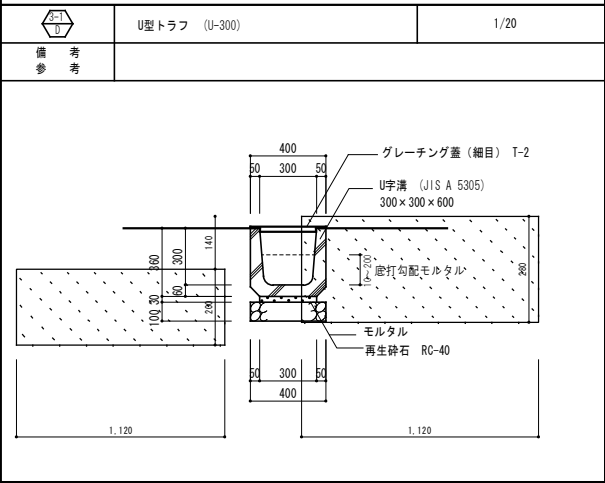
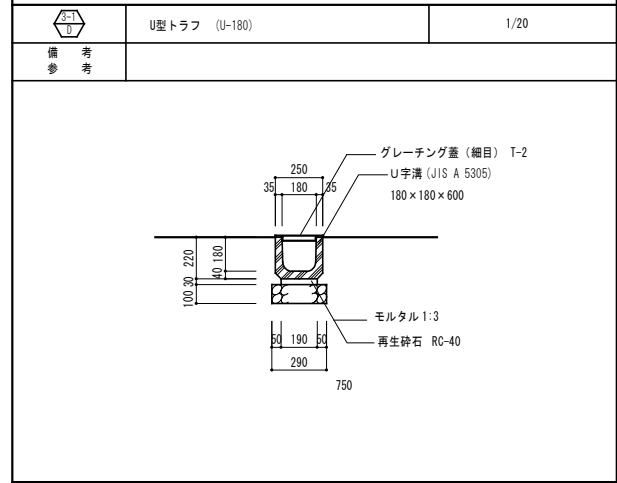
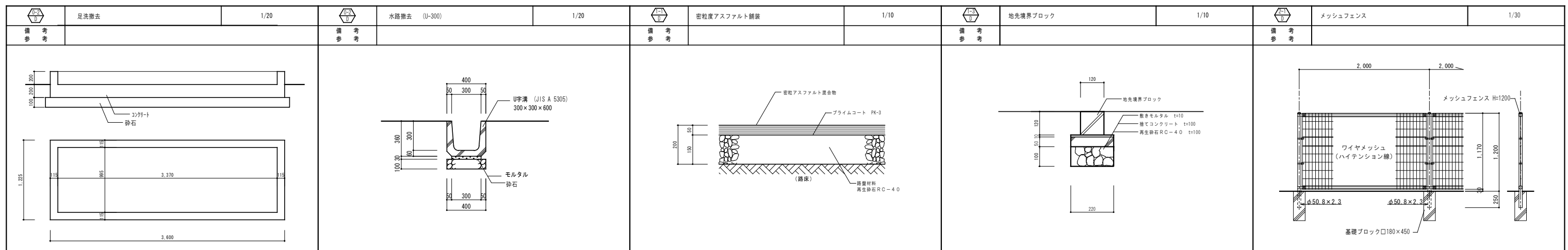


	<p>* 外構工事に関する図寸法・計画高さ等は工事概要を示すものであるから、工事着手前に現場測量を行い十分に敷地状況を把握した上で施工を行うこと。</p>			<p>工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事</p>
		<p>* 新設する点字ブロックは、明度差等の識別性を確保すること。</p>		<p>図面名称 仮設計画図(参考図) S=1:250 (A3版 S=1:500)</p>
				<p>キタイ設計(株) 一級建築士319755号 小川 龍二 A-24</p>

外構工事リスト			
解体工事			
	足洗撤去		
	水路撤去		
舗装工事			
	密粒重アスファルト舗装		
	白線引き	区画 : W50 身障者マーク : W50	
	地先境界ブロック	120×120×600	
	輪止めブロック	150×200×600	
附帯工事			
	インターホン取付用RC管	H=500	
水路工事			
	U=80 U=300	U=80のみ グレーチング蓋掛け(細目)歩道用	
	雨水排水管	VPφ100,125,150,300 壁面壁床から台所への接続配管はPφ100	
	既製品会所樹A 既製品会所樹B 雨水現場打会所樹C 雨水現場打会所樹D 雨水現場打会所樹E 雨水現場打会所樹F 雨水現場打会所樹G	既製品会所樹A(400) 既製品会所樹B(400) 雨水現場打会所樹C(300×300×800) 雨水現場打会所樹D(300×300×800) 雨水現場打会所樹E(400×400×1300) 雨水現場打会所樹F(400×400×1100) 雨水現場打会所樹G(400×400×1100) *グレーチングはPφ100接続部1-6,その他は歩行者用	



* 外構工事に関する図寸法: 計画高さ等は工事概要を示すものであるから、 工事着手前に現場測量を行い十分に敷地状況を把握した上で施工を行うこと。		工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
		図面名称 外構配置図
		キタイ設計(株) S=1:250 A3版 5-1:500
		A-25 一級建築士319755号 小川 龍二



<p>基礎コンクリートのコンクリート強度は21N/mm²とする。 舗装の路床設計CBRは3%以上を標準とする。</p>				<p>工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事</p> <p>図面名称 外構詳細図</p> <p>図示</p> <p>キタイ設計 (株)</p> <p>一級建築士319755号 小川 龍二</p> <p>A-26</p>
--	--	--	--	---

構造特記仕様書 2015年度版

- §1 一般事項
選択項目は◎印を適用し、○印が無い場合は●印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。
1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。
1-2 設計図書の後順位は下記による。
1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 標準図
4) 仕様書
5) 日本建築学会標準仕様書
1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監督者の承認を得る。
1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監督者の承認を得る。
1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は(●意匠図◎構造図●設備図)による。
1-7 施行令第129条の2の第3号の規定(建築設備の構造強度)に適合することを確認する。

§2 構造計算ルート

Table with 2 columns: Direction (X, Y) and Calculation Route (Route 1-1, 1-2, 1-3). Includes notes on construction details and standards.

§3 仮設工事、土工事

- 3-1 山留め、根切り
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ● 根切り土の中の良土 ● 搬入良土
盛土 ◎ 根切り土の中の良土 ● 搬入良土
残土処分 ● 場内均し ● 場外搬出処分(●自由 ●指定場所)

§4 地業工事

Table for foundation and slab work. Columns: Location, Slab thickness, Material (A: Sandstone, B: Limestone), and Thickness.

注(1) アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
(2) 端部aは100以上とする。

- 4-2 設計耐力 長期 120 kN/m² 短期 kN/m² 終局 kN/m²
地耐力載荷試験 ● 行う (● 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ◎ 行わない
4-3 地盤改良 (セメント系)
● セメント系固化材投拌 ● 無筋コンクリート地業 ◎ ソイルセメント杭
[● 載荷試験 ◎ 軸圧縮試験] ◎ 行う (● 箇所) ● 行わない
[◎ 六価クロム溶出試験] ◎ 行う ● 行わない
(表層改良)
◎ セメント系固化材投拌 ● 無筋コンクリート地業 ● ソイルセメント杭
[● 載荷試験 ◎ 軸圧縮試験] ◎ 行う (● 箇所) ● 行わない
[◎ 六価クロム溶出試験] ◎ 行う ● 行わない
4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1) 杭種
● PHC杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● CPRC杭 ● I種 ● II種 ● III種 ● IV種
● 鋼杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
2) 工法
● 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー
● 摩擦杭工法 ● プレボーリングセメントミルク注入工法
● ジオミキシングトップ工法 (認定工法)

Table for pile design. Columns: Pile diameter (mm), Length (kN), Short-term kN, Final kN, Quantity, Remarks.

- 4) 杭の構成は設計図による。
5) 杭頭補強
● かご筋 ● スタッブ溶接 ● 杭外周溶接
4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭
1) 工法
● アースドリル工法 ● 拡底アースドリル工法
● リバース工法 ● オールケーシング工法(●ノット工法 ●)
● BH工法 ●
2) 杭径、設計耐力、本数表(拡底部は施工を示す)

Table for pile design (continued). Columns: Pile diameter (mm), Wall thickness (mm), Length (kN), Short-term kN, Final kN, Quantity, Remarks.

- 3) 杭先端深さ GL- m
4) 孔深測定 (2方向)
● 行う (● 全数 ● %) ● 行わない
5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc (● 普通ポルトランドセメント ● 高炉セメント B種)
鉄筋 ● D 以下 SD295A ● D 以上 SD345
● D 以上 SD390
鋼管(リブ付) ● SKK400 ● SKK490
4-6 杭打地業共通事項
1) [● 杭長決定先行杭 ● 試験図] ● 行う (● 本) ● 行わない
2) 載荷試験 ● 行う (● 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ● 行わない
3) SL塗布 ● 行う ● 行わない

Table for reinforcement work. Columns: Material (JIS G 3112), Diameter, and Reinforcement Method.

§5 鉄筋工事

Table for reinforcement work. Columns: Diameter, and Reinforcement Method (e.g., lap, mechanical).

- 5-2 溶接部の検査(第三者機関による)
● 採取検査
◎ 引張り試験 (JIS Z 3120)
1検査ロットにつき ◎ 3本 ● 原則 柱・梁の径毎に3本
● 超音波探傷試験 (JIS Z 3062) ● 熱間押抜き試験
1検査ロットにつき ● 30箇所
○ 不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数量で200箇所以内
5-3 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。
5-4 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ◎ ①一般 ● ②地反力を受ける とする。
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監督者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

- 6-1 設計基準強度 (N/mm²)
1) セメント ◎ 普通ポルトランドセメントJIS R 5210 ● 高炉セメントB種
● 低熱ポルトランドセメントJIS R 5210 ●
2) 粗骨材 ● 砂利 ◎ 砕石 ● 高炉スラグ骨材 ● 人工軽量骨材 ● 再生骨材
最大径(mm) ◎ 20 ● 25 ● 40
3) 躯体 (使用区分は設計図の軸組図に示す)
● 普通コンクリート
一般躯体 ● Fc18 ● Fc21 ◎ Fc24 ● Fc27 ● Fc30
押えコンクリート デッキ上コンクリート ● Fc18 ● Fc21 ● Fc24 ● Fc27 ● Fc30
● 軽量コンクリート (● 1種 ● 2種 気乾単位容積質量 ● 18.5 ●)
● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc

- 4) 土間コンクリート ◎ Fc24 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5) 捨てコンクリート ◎ Fc18
6) 防水系コンクリート ● Fc ● LFc (気乾単位容積質量 ● 18.5 ●)
7) かき上げコンクリート ● Fc ● LFc (気乾単位容積質量 ● 18.5 ●)
6-2 混和材 ● AE減水剤 ● 高性能AE減水剤 ● 躯体防水材 ● 膨張材

Table for concrete work. Columns: Location, Foundation/Intermediate, General, Remarks.

- 6-4 試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1) [◎ 骨材 ◎ 塩分含有量 アルカリシリカ反応性 ◎ 行う ● 行わない
2) フレッシュコンクリート [◎ スランプ ◎ 空気量] ◎ 行う ● 行わない
3) 躯体のせき振取り外し時期決定圧縮試験 ● 行う ● 行わない
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ● 行う ● 行わない
5) マスコンクリートのひび割れ調査(温度応力解析) ● 行う ● 行わない
6) 単位水量測定 ● 行う ● 行わない
6-5 調合(補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級()は耐久設計基準強度Fd
● 短期(18) ◎ 標準(24) ● 長期(30) ● 超長期(36)
調合管理強度 Fm=Max(Fc, Fd)+S S=3~6
材齢28日の調合強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F≥Fm+1.73σ F≥0.85Fm+3σ
せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

Table for concrete work (continued). Columns: Concrete, Curing days, Slab days, Remarks.

- 6-7 住宅性能表示
劣化等級 ● 等級2 ● 等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-アが厚みさ
が変更がある場合があるので注意すること。
6-8 Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書(JASS5等)による。

§7 鉄骨工事

- 7-1 材種及び使用箇所
規格名称 鋼材名 柱 梁 大梁 プレス 小梁

Table for steel work. Columns: Specification name, Steel name, Column, Beam, Large beam, Press, Small beam.

- 7-2 高力ボルト
高力ボルトの種類 使用箇所
トルシア形高力ボルト ● S10T 全般
JIS形高力ボルト ● F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト ● F8T 母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト ● S14T 屋内環境

- 7-3 普通ボルト、アンカーボルト
1) 材質 ● SS400 ● SS490(M以上)
◎ ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490(ABMはM24以上)

Table for steel work (continued). Columns: Diameter, Length (mm), Usage.

- 7-5 溶接材料
1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相
したものを選定する。
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。
7-6 スカラップ形状 ● スカラップ工法 ●/ンスカラップ工法
7-7 継手
柱 梁

Table for steel work (continued). Columns: Flange, Web, Bolt type, Usage.

- 7-8 溶接手法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤ、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の
溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技能検定付試験を ● 行う ● 行わない
3) AW検定(工場・現場・代替タブ)の有資格者で、係員の承認を受けた者は技能検定付試験を免除する。

- 7-9 デッキプレート (単位 mm)
1) 床用 高さ ● 板厚 ●
2) 合成スラブ用 高さ ● 板厚 ●
3) 型枠用 高さ ● 板厚 ● 形版 タイプ
4) 防錆処理 ● プライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27

- 7-10 錆止め塗装(工場塗 ● 2回 ● 1回、現場タッチアップ程度とする)
1) 素地こらしえ ◎ ケレン ● プラスト
2) 錆止め塗料

Table for coating work. Columns: Location, Material, Remarks, Standard thickness.

- 3) 溶融亜鉛メッキ ● 行う ◎ 行わない
7-11 溶接部の検査(受入検査) ● 行う ● 行わない
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監督者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を
取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会
「JASS6 鉄骨工事 2007 付則6 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」2008により、合格
判定は7.2.1歳劣を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の取え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表6.1溶接箇所数の取え方による。
7) 受入検査の採取方法及び採取率は以下による。
a) 工場溶接の場合
i. 検査ロットは各部、各区分毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ii. 採取率は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
iii. サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合
は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を
合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。
b) 現場溶接の場合
i. 全数検査とする。
8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
・補強マニュアル」等を参照する。

Table for steel work (continued). Columns: Direction, Method, Usage, Remarks.

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

- 8-1 コンクリートブロック
1) 種類 ● A種 ● B種 ● C種
2) mm ● 100 ● 120 ● 150 ● 190

- 8-2 ALCパネル
1) 使用箇所 ● 床 ● 屋根 ● 外壁 ● 内壁
2) 厚さ mm ● 50 ● 100 ● 120 ● 150 ● 175
3) 外壁取り付け方法

Table for concrete work (continued). Columns: Direction, Method, Usage, Remarks.

- 8-3 押出成形セメント板
外壁取付方法及び厚さ mm ●
方向 横 法 使用箇所 備考
縦 ● ロッキング構法
横 ● スライド構法

- 8-4 PCa板
1) 床及び屋根 ● 床 ● 屋根
● PCa板単独 厚さ mm ●
● 合成板

Table for concrete work (continued). Columns: PCa board thickness, Site thickness, Total thickness, Remarks.

- 2) 外壁 厚さ mm ●
2015年2月1日作成 (不許複製)

Table with project details: Project Name (旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事), Drawing Name (構造特記仕様書), Designer (キタイ設計(株)), Date (2015年2月1日作成), and Scale (1/50).

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2015年度版

1-1 基本事項

§1 一般事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に準ずるものとする。
また本標準図に記載なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2009)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最大径による。

記号	×	◇	●	○	◎	⊗	⊙	⊚	⊛	⊜	⊝
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最大径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 機械式継手表示
- 溶接継手表示

(ガス圧接、突き合せ溶接)

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

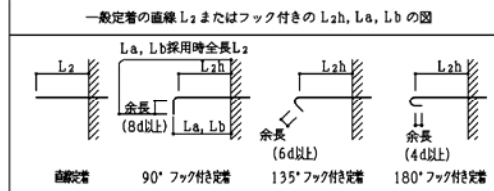
折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 あばら筋 スライラ筋	SD295	D16以下	3d以上
135°		スラブ筋 壁筋	SD345	D19~D41	4d以上
90°		スラブ筋 壁筋	SD390	D41以下	5d以上
			SD490	D25以下	5d以上
				D29~D41	6d以上

2-1 鉄筋の表示記号

2-2 鉄筋の折り曲げ

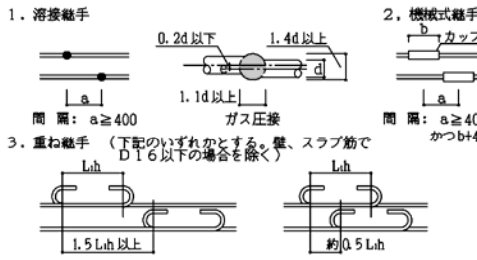
2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm ²)	重ね継手の長さ	定着の長さ	
			一般	小梁・床スラブ
SD295 (SD345)	18	45d(50d)	40d	15d(20d)
		35d	30d	
	21	40d(45d)	35d	20d
		30d	25d	
SD390 (SD490)	24~27	35d(40d)	30d(35d)	15d
		25d(30d)	20d(25d)	
	30~36	35d	30d	15d
		25d	20d	
39~45	30d(35d)	25d(30d)	15d	
	20d(25d)	15d(20d)	10d	
SD490	48~60	30d	25d	15d
		20d	15d	
	21	50d(-)	40d(-)	20d(-)
		35d(-)	30d(-)	20d(-)
SD390 (SD490)	24~27	45d(50d)	40d(45d)	20d
		35d(40d)	30d(35d)	20d
	30~36	40d(45d)	35d(40d)	15d
		30d(35d)	25d(30d)	15d
39~45	40d(45d)	35d(40d)	15d	
	30d(35d)	25d(30d)	15d	
48~60	35d(40d)	30d(35d)	15d	
	25d(30d)	20d(25d)	15d	

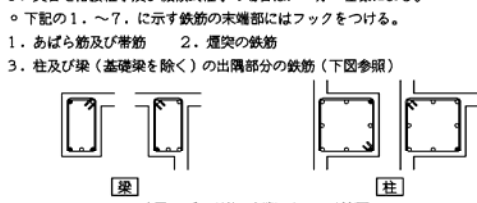


1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL2hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

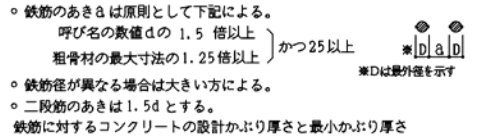
2-4 継手一般



2-5 鉄筋のフック



2-6 鉄筋のあき

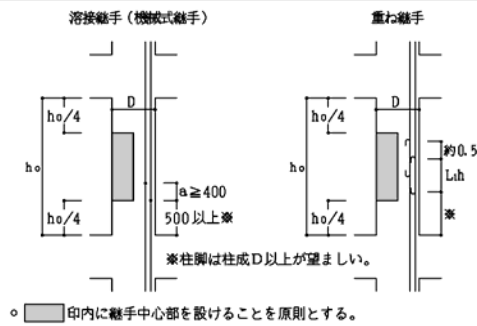


2-7 かぶり厚さ

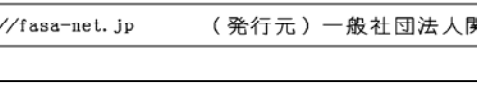
部位	かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ	30(20)
	床スラブ	30(20)
	非耐力壁	30(20)
	耐力壁	40(30)
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁	50(40)
	基礎の立上り	70(60)

1. ()内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上げありとは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3. ※1 品質・施工法に拘り、工事監理者の承認で10割の値とすることができる。
4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

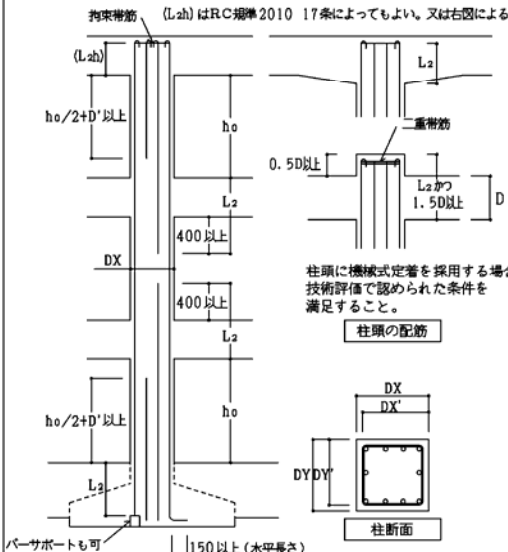
3-1 主筋の継手



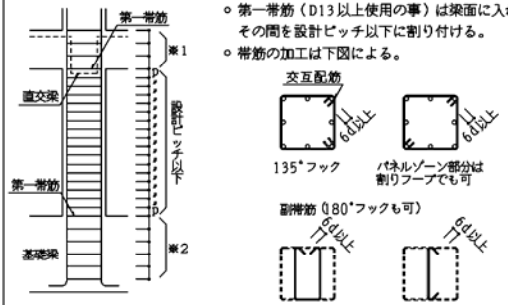
3-2 主筋の定着



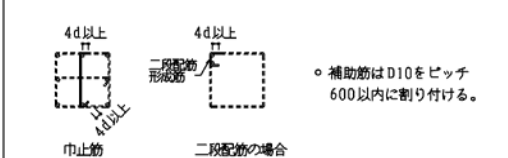
3-2 主筋の定着



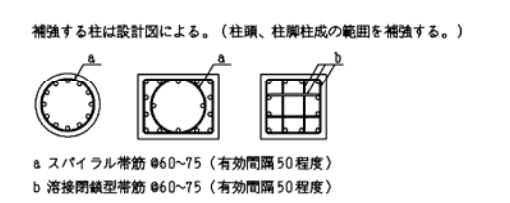
3-3 帯筋副帯筋



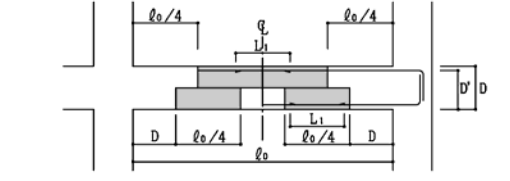
3-4 補助筋



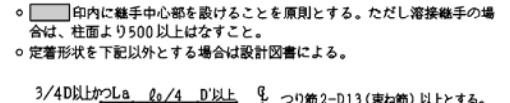
3-5 柱のコンファインド補強



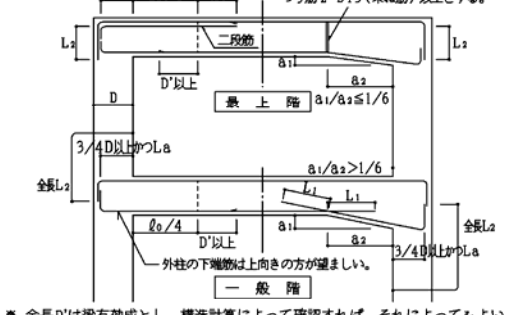
4-1 主筋の継手



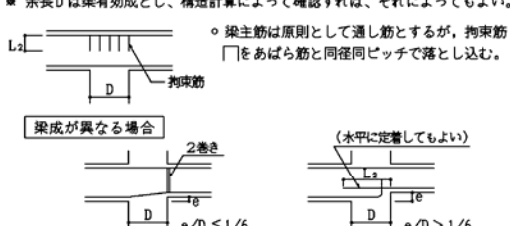
4-2 主筋の定着及び余長



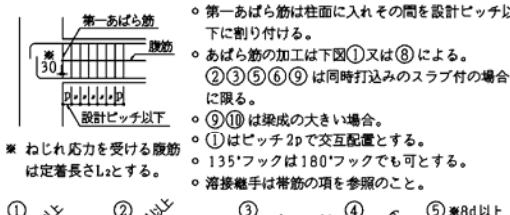
外柱



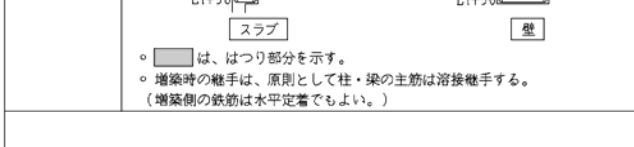
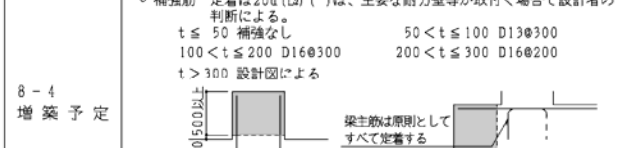
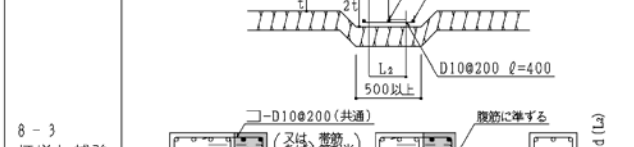
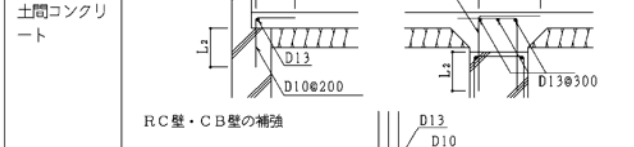
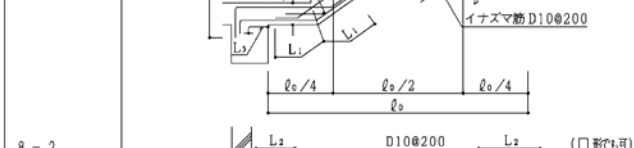
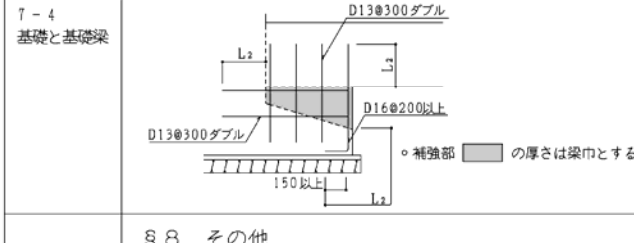
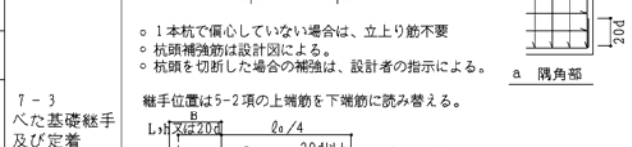
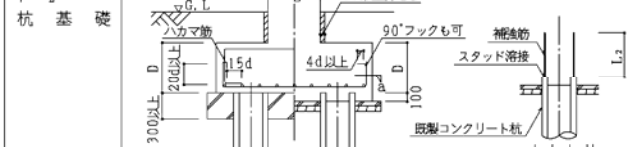
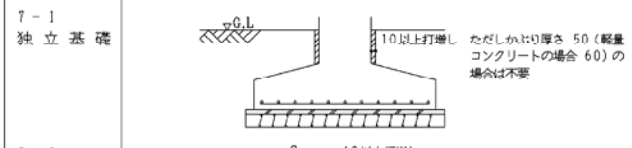
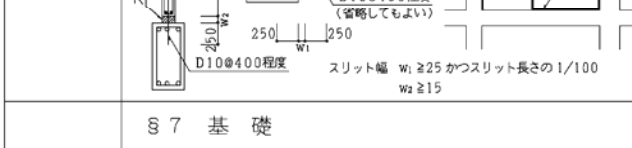
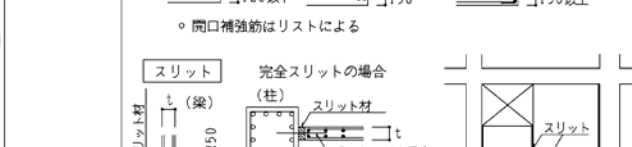
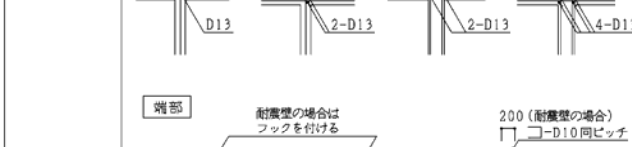
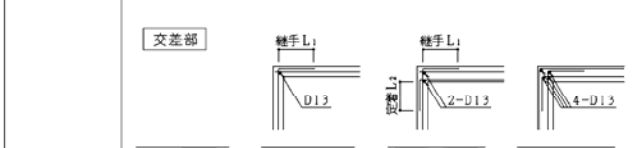
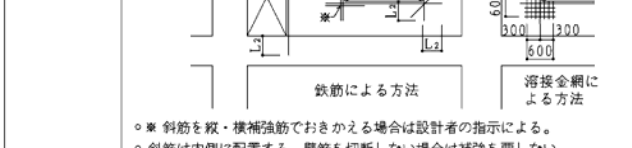
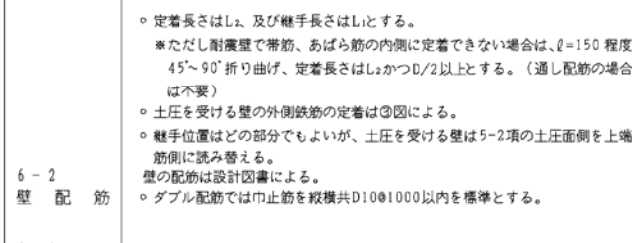
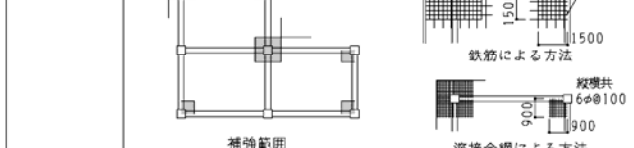
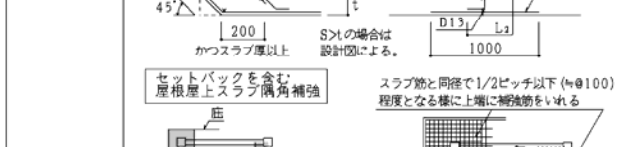
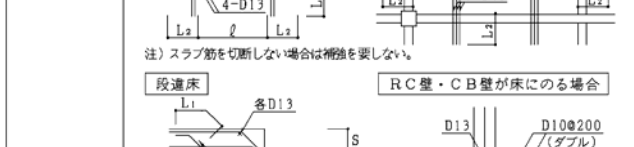
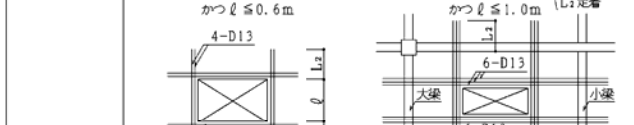
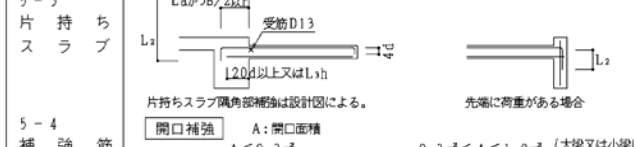
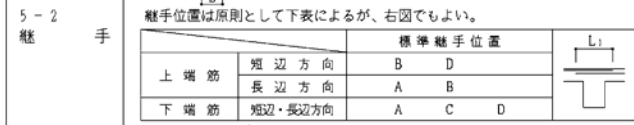
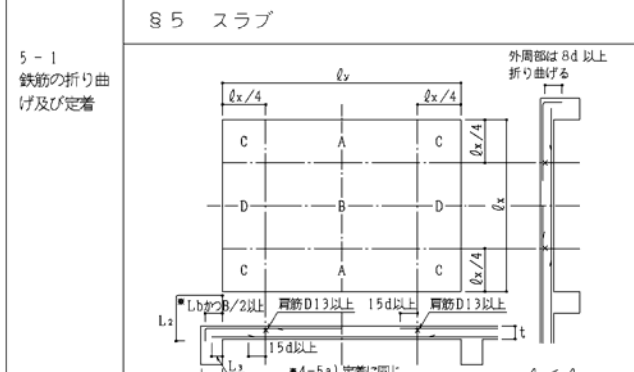
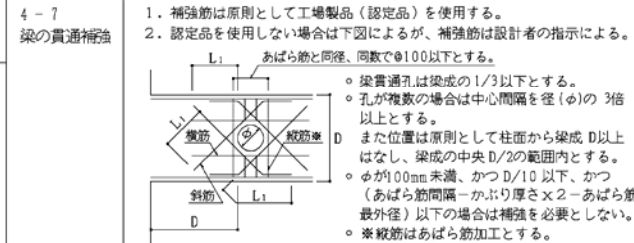
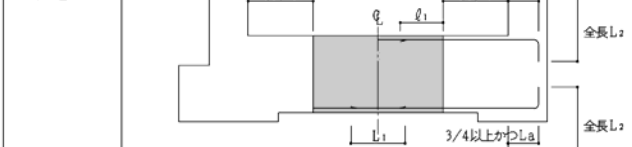
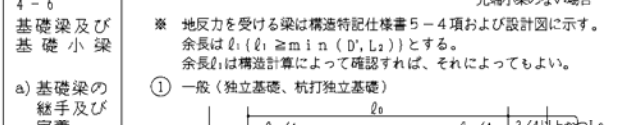
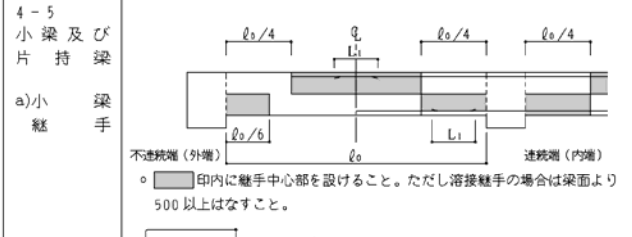
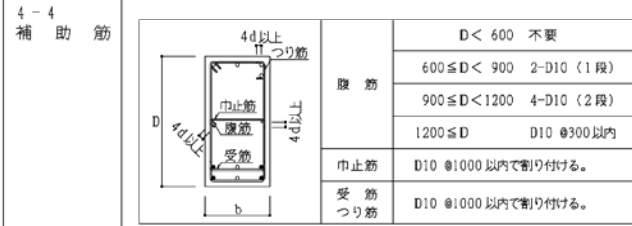
中柱



4-3 あばら筋副あばら筋



鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2015年度版



鉄骨工作標準図 (1) 2015年度版

§1 一般事項

- 1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
- 2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書1-2-4、5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
- 3) 製作精度等に関しては、JASS6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。
- 4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

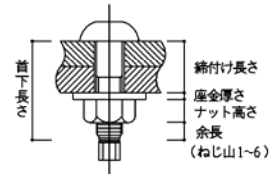
§2 共通事項

- AB アンカーボルト
- BE ベースプレート
- DP ダイヤフラム
- FL フランジプレート
- HTB 高力ボルト
- SE スプライスプレート
- WE ウェブプレート
- BH 組立てH形鋼
- CHE チェッカープレート
- FB フラットバー
- GE ガセットプレート
- RL リブプレート
- TB ターンバックル
- W1-9 溶接記号 (S4参照)

§3 ボルト接合

ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ	S10T
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40



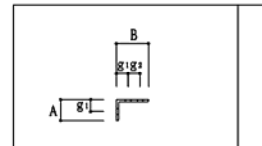
1. 特記以外はすべてS10T (トルシア形高力ボルト、上図) 又はF10Tとする。
2. 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
3. ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グライNDER掛け等を行い、黒皮を除去して一律に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締め付けは1次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
4. 亜鉛メッキボルトの場合は、すべてFBTとする。

高力ボルトのピッチ

呼び径	M 16	M 20	M 22	M 24	
孔 径	18	22	24	26	
ピッチ	標準	60	60	70	
	最小	40	50	55	
はしあき	40	40 (50)	40 (55)	45 (60)	
最小端距離	せん断線、手動ガス切断線	28	34	38	44
	圧延線、自動ガス切断線等	22	26	28	32

() 内はボルトが両方向に3本以上並ぶ場合を示す。

ゲージ	千鳥打ちのピッチ b	
g ₁	M16, 20, 22	M24
35	50	65
40	45	60
55	25	45

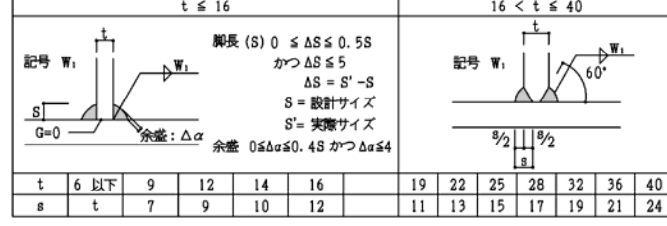


A or B	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₁	g ₂	最大軸径
**50	30	16	**100	60	16	**50	30	16			
60	35	16	125	75	16	65	35	20			
65	35	20	150	90	22	70	40	20			
70	40	20	175	105	22	75	40	22			
75	40	22	200	120	24	80	45	22			
80	45	22	250	150	24	90	50	24			
90	50	24	*300	150	40	24	100	55	24		
100	55	24	350	140	70	24					
125	50	35	400	140	90	24					
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

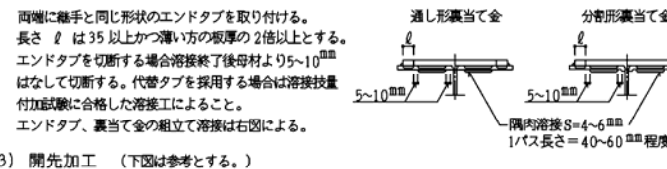
* B = 300は千鳥打ちとする。
** 印のg及び最大軸径の値は強度上支障がないとき
最小端距離の規定にかかわらず用いることができる。

§4 溶接接合

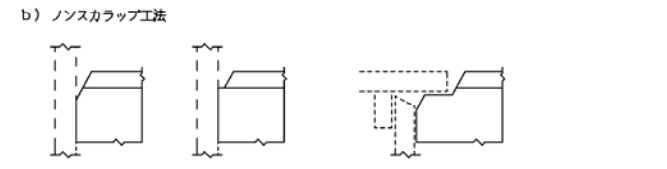
4-1 隅肉溶接



- 1) 板厚の異なる場合 (通しダイヤフラムは除く)
2.5以上 a > 10
クレーンゲダの場合は、全て2.5倍以上の勾配をとる。
- 2) エンドタブ
両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
長さ l は35以上かつ薄い方の板厚の2倍以上とする。
エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より5~10mmはなして切断する。代替タブを採用の場合は溶接技量付加試験に合格した溶接工によること。
エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。
- 3) 開先加工 (下図は参考とする。)



- a) スカラップ工法
b) ノンスカラップ工法



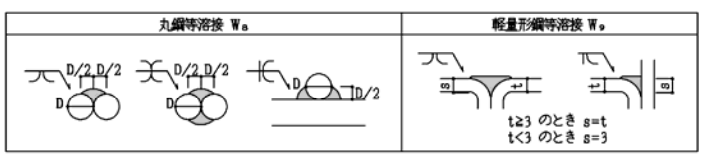
4) 開先形状

記 号	形 状	適用板厚	寸 法	
			アーク手溶接	ガスシールドアーク溶接
W ₂		6 ≤ T	G 7 ± 2	6 ± 2
			R 2 ± 1	2 ± 1
W ₃		6 ≤ T ≤ 19	G 9 ± 2	7 ± 2
			R 2 ± 1	2 ± 1
W ₄		16 < T	G 0 ± 0	0 ± 0
			R 2 ± 2	2 ± 2
W ₅		3~6	G T - 2	T - 2
			R 6 ± 0	6 ± 0

MC... はアーク手溶接 GC... はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

片面溶接 W ₆		両面溶接 W ₇	
12 ≤ t ≤ 40		16 ≤ t ≤ 40	
t	12 16 19 22 25 28 32 36 40	t	16 19 22 25 28 32 36 40
D	10 11 12 13 13 14 15 15 16	D	(t-2)/2

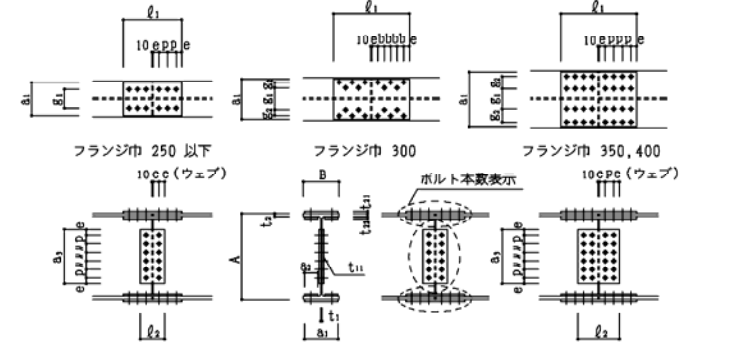
4-4 フレア溶接



加工工程中及び現場溶接後においてもアークストライク、ショートビートをしてはならない。

4-5 その他

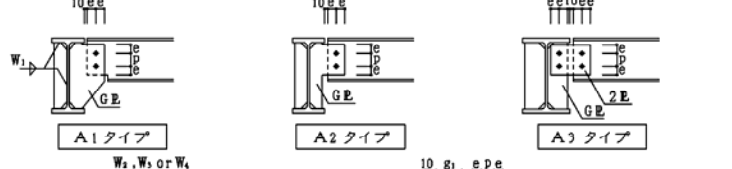
§5 継手



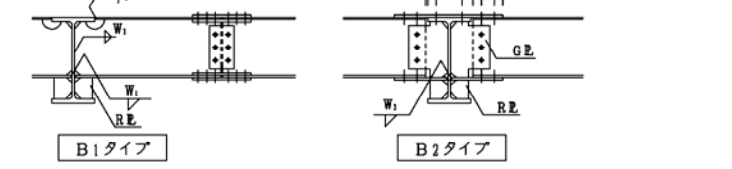
材 種	主 材	高力ボルト	フ ラ ン ジ		ウ ェ ブ				
			ボルト本数表示	外側添板	内側添板	ボルト本数表示	添板	ピッチ	
H	A X B X t ₁ X t ₂	○	2E-	4E-	○	○	○	○	○
B	H A X B X t ₁ X t ₂	○	t ₁₁ X a ₁ X l ₁	t ₂₂ X a ₂ X l ₂	○	t ₁₁ X a ₁ X l ₁	○	○	○
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X
H	X X X	○	X X	X X	○	X X	○	X X	X X

1. フランジ 2E 面もしくはウェブ 2E 面で、段差 1mm を超える場合は、フィラー 2E を入れて調整すること。
2. a₁ は原則として梁成の 2/3 以上確保すること。

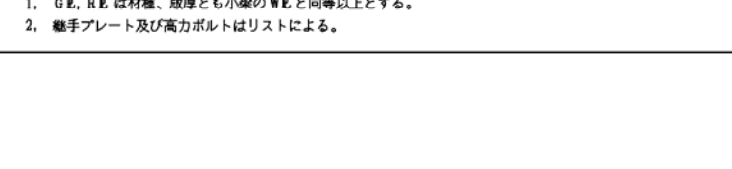
5-2 小梁仕口



ピン接合 Aタイプ



剛接合 Bタイプ

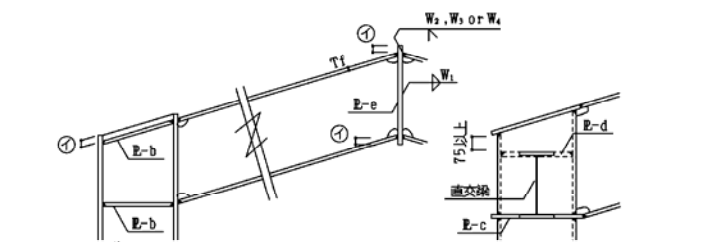


1. G₁, R₁ は材質、板厚とも小梁のW₁と同等以上とする。
2. 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

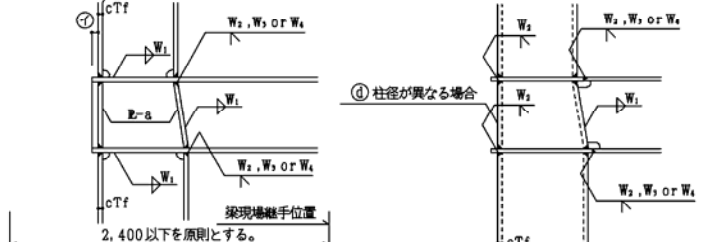
鉄骨工作標準図 (2) 2015年度版

8 6 柱梁接合部及び継手

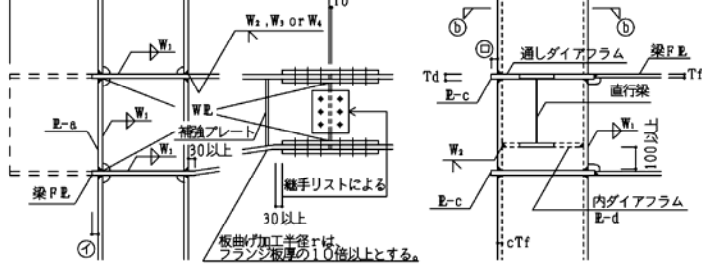
6-1 勾配屋根



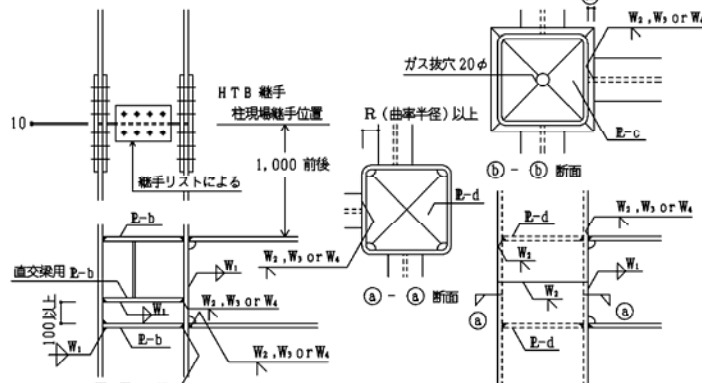
6-2 梁通し



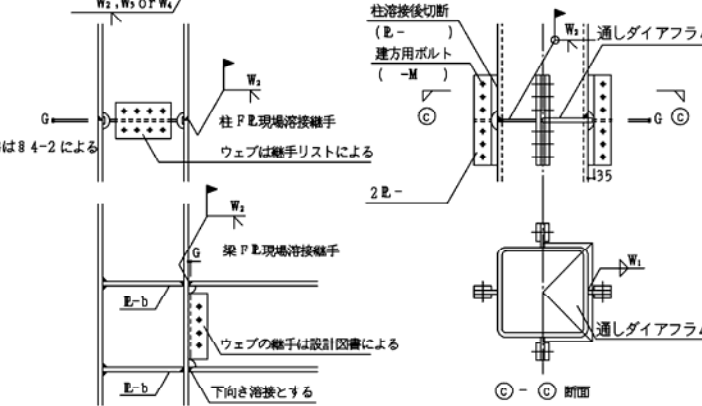
6-3 仕口と継手



6-4 柱通し



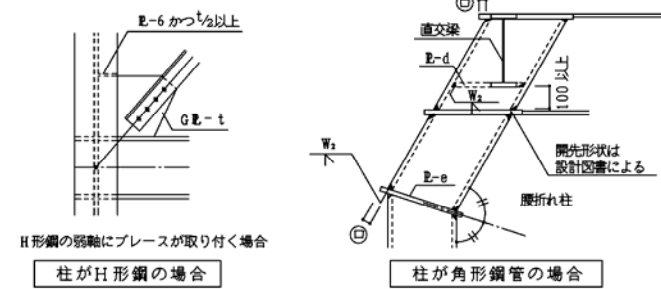
6-5 現場溶接継手



柱がH形鋼の場合

柱が角形鋼管の場合

6-6 その他

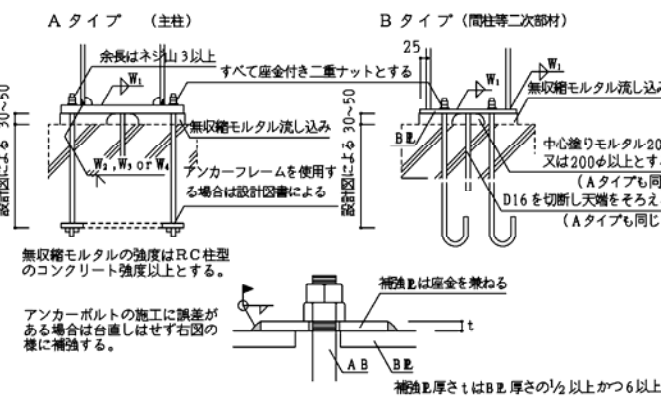


H形鋼の弱軸にブレースが取り付けられる場合
柱がH形鋼の場合

- パネルゾーンでのEの厚さ
 - E-a (鉛直スチフナ) 上下柱のF/Eの厚い方より1サイズUP以上
 - E-b (水平スチフナ) 仕口部に集結する梁の最大F/Eより1サイズUP以上
 - E-c (通しダイヤフラム) 仕口部に集結する梁の最大F/Eより2サイズUP以上かつ柱のF/E以上
 - E-d (内ダイヤフラム) 仕口部に集結する梁の最大F/Eより2サイズUP以上
 - E-e (折れ曲がり部) 梁(柱)のF/Eより1サイズUP以上
- 出寸法
 - 25mm かつ cTf 以上
 - cTf ≤ 25 の場合 25
 - cTf ≥ 28 の場合 30
- 注記
 - ダイヤフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。
 - ④(6-2項)上下階で柱径が異なる場合の取厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折れ曲がり又は溶接加工とする。
 - ハンチ部でF/Eを折曲げる場合はR≥10Tfとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
 - ダイヤフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイヤフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
 - 現場溶接を行なう場合は工事監督者の承認を得、養生に十分配慮して行うこと。

7-1 一般柱脚

8 7 柱脚



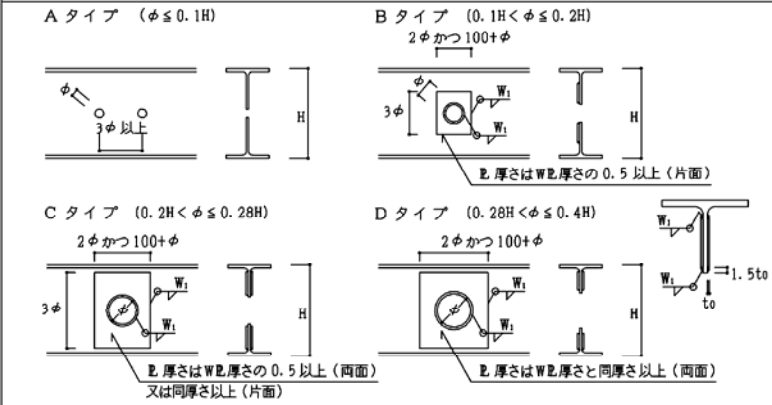
8 8 壁面ブレース



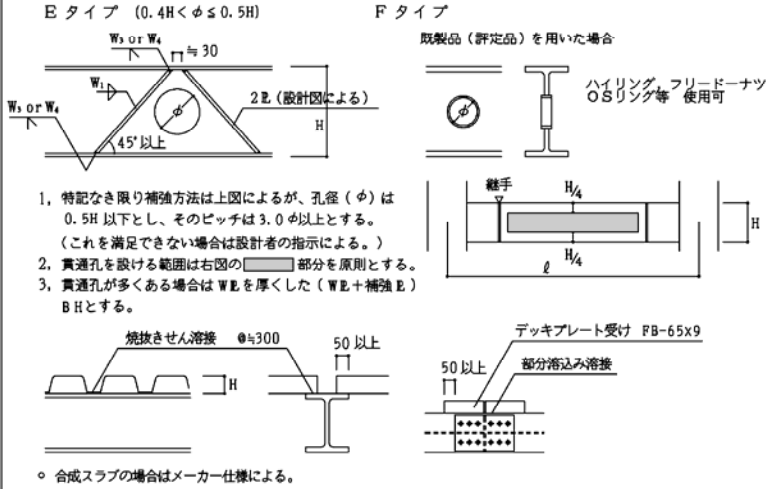
- G/Eの最小幅 ℓ_e が確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
- 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共JIS規格品を使用する。
- 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

8 9 その他

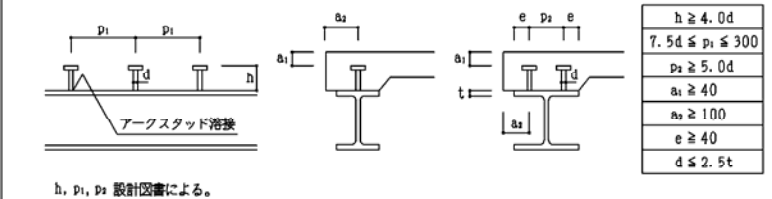
9-1 貫通補強



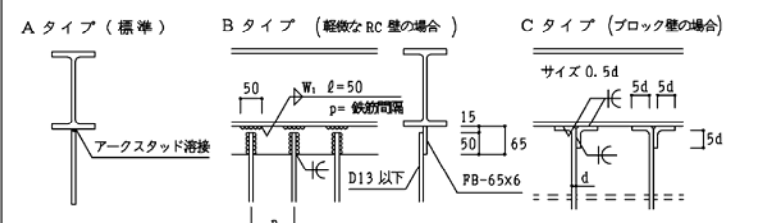
9-2 デッキプレート



9-3 スタッドジベル

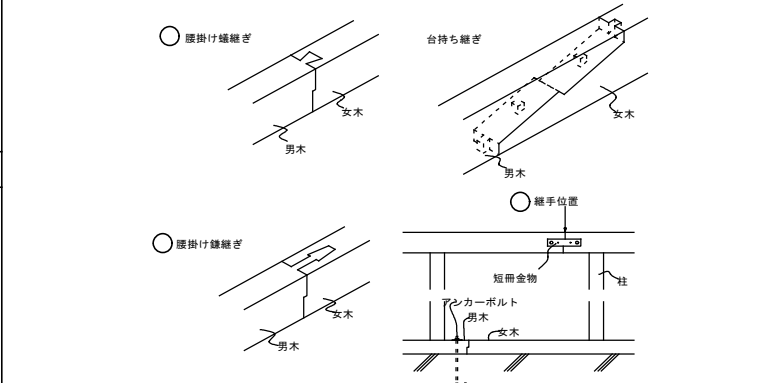
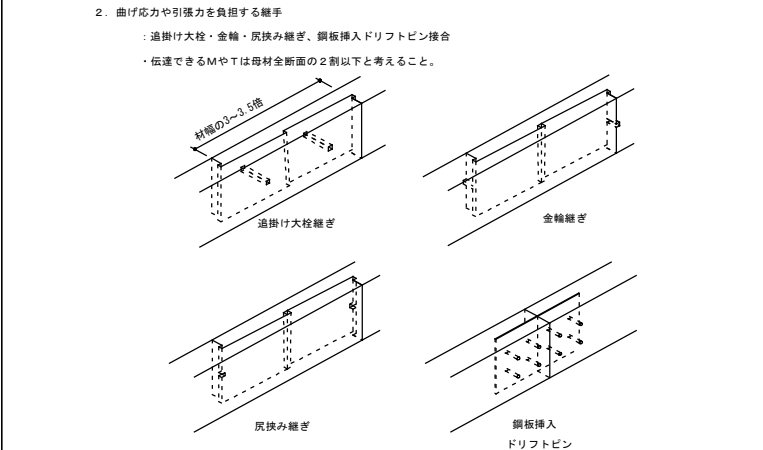


9-4 壁筋の溶接



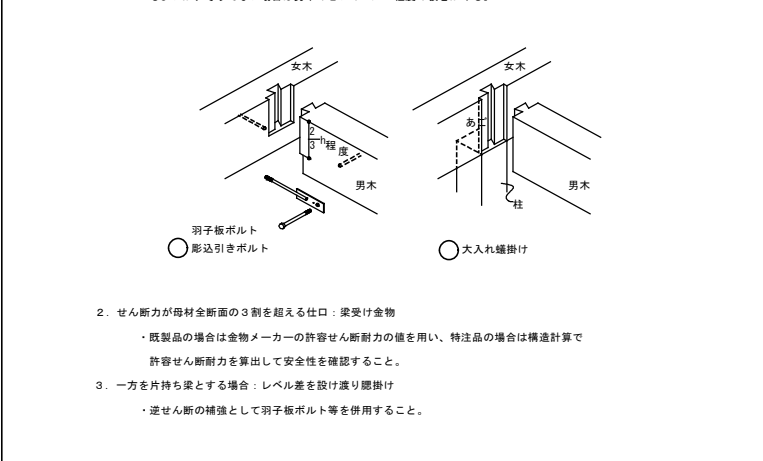
木質工事特記仕様書（2）

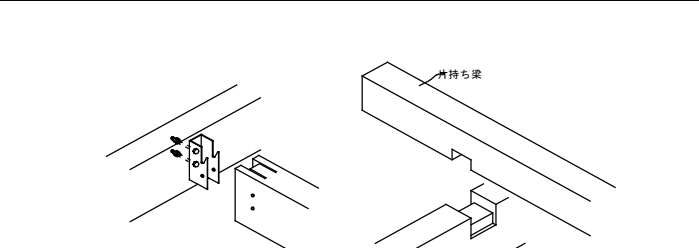
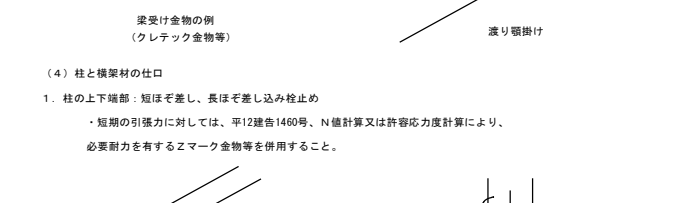
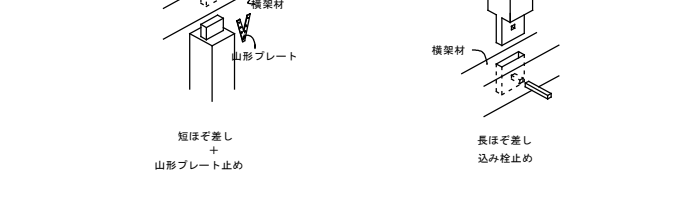
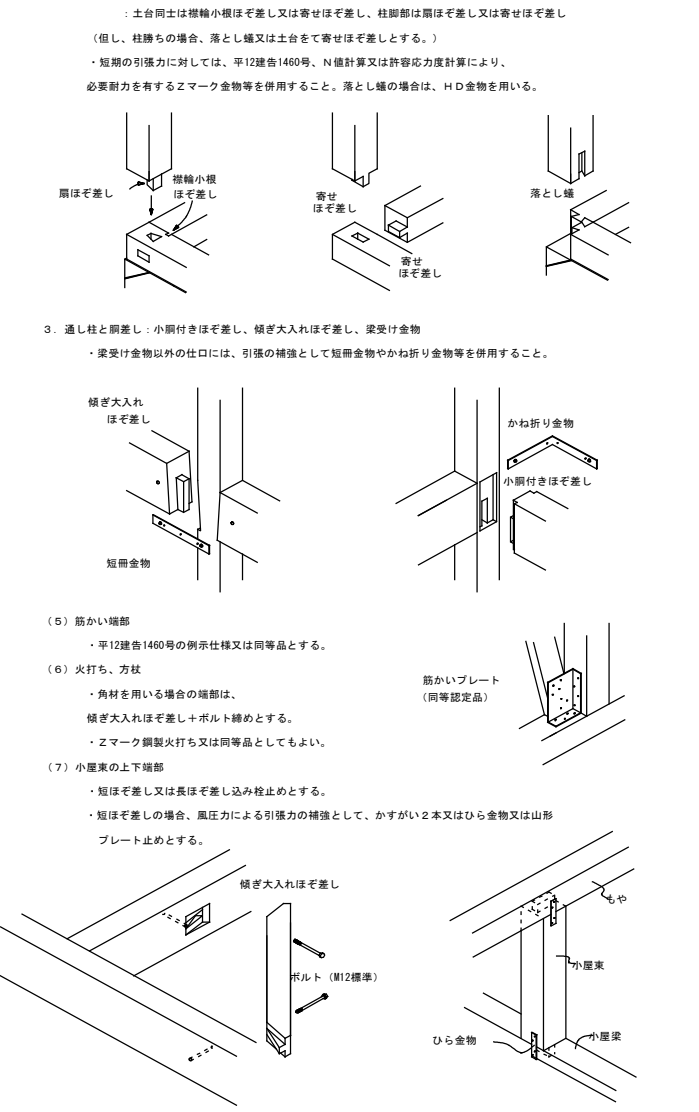
- (7) ジベル接合
- 木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点に注意し、彫込み・打ち込みまたは圧入に際して割れを生じないよう、ジベルの種類に応じた断面と余長をたせる。
 - 接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。
- (8) 既成金物の接合
- 羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取り付けは、それぞれの仕様に基づき、接合材の間が密着するように締め付ける。
- (9) 接着接合
- 接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。
 - 接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する仕様に従うとし、実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合はその限の作業条件を標準とする。
- (10) その他の方法による接合
- 使用材料および使用方法は構造図によるものとし、監理者の承認を得る。

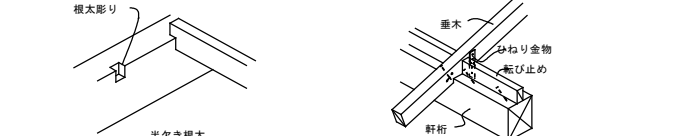
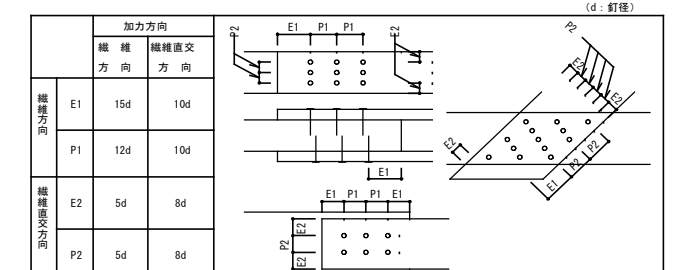
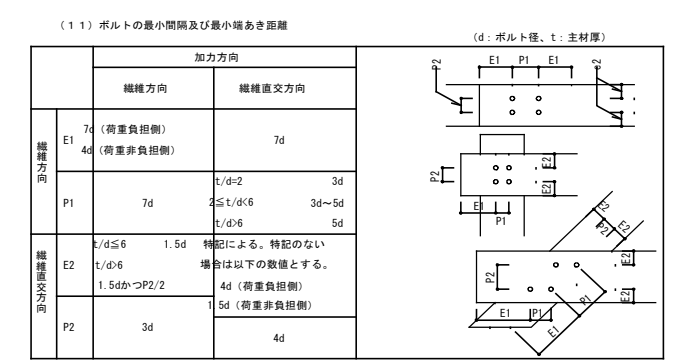
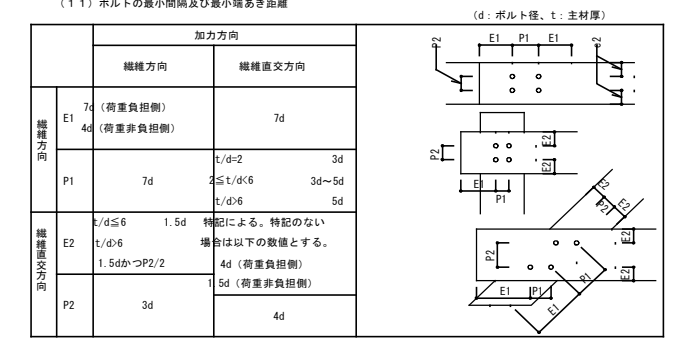
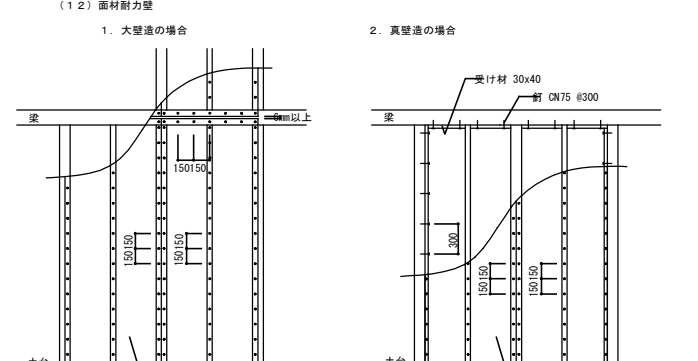
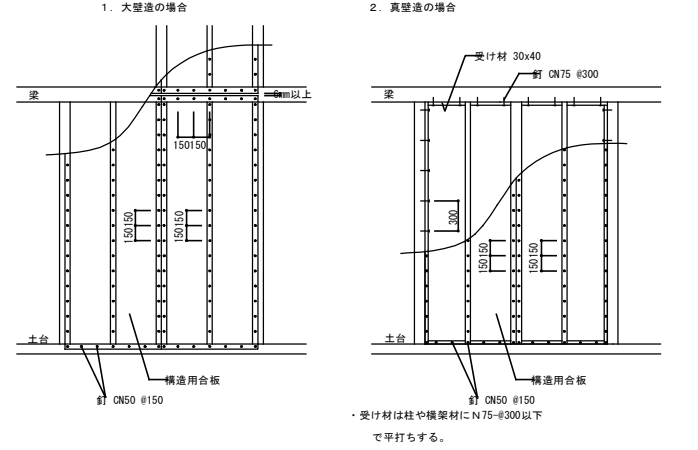
8. 軸組構法接合部の標準仕様
- (1) 構架材同士の継手
- 曲げ応力や引張力を負担しない継手：腰掛け繰組ぎ、腰掛け繰組ぎ
 - せん断力が大きい場合は台持ち繰組ぎとする。
 - 長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
 - 逆せん断と引張の補強として短冊金物等を併用すること。
 - 柱からの持ち出し位置は、連続梁の長期荷重の反曲点付近とする。
- 
- (2) 曲げ応力や引張力を負担する継手
- 通掛け大栓・金輪・尻込み繰組ぎ、鋼板挿入ドリフトピン接合
 - 低速できるMやTは母材全断面の2割以下と考えること。
- 

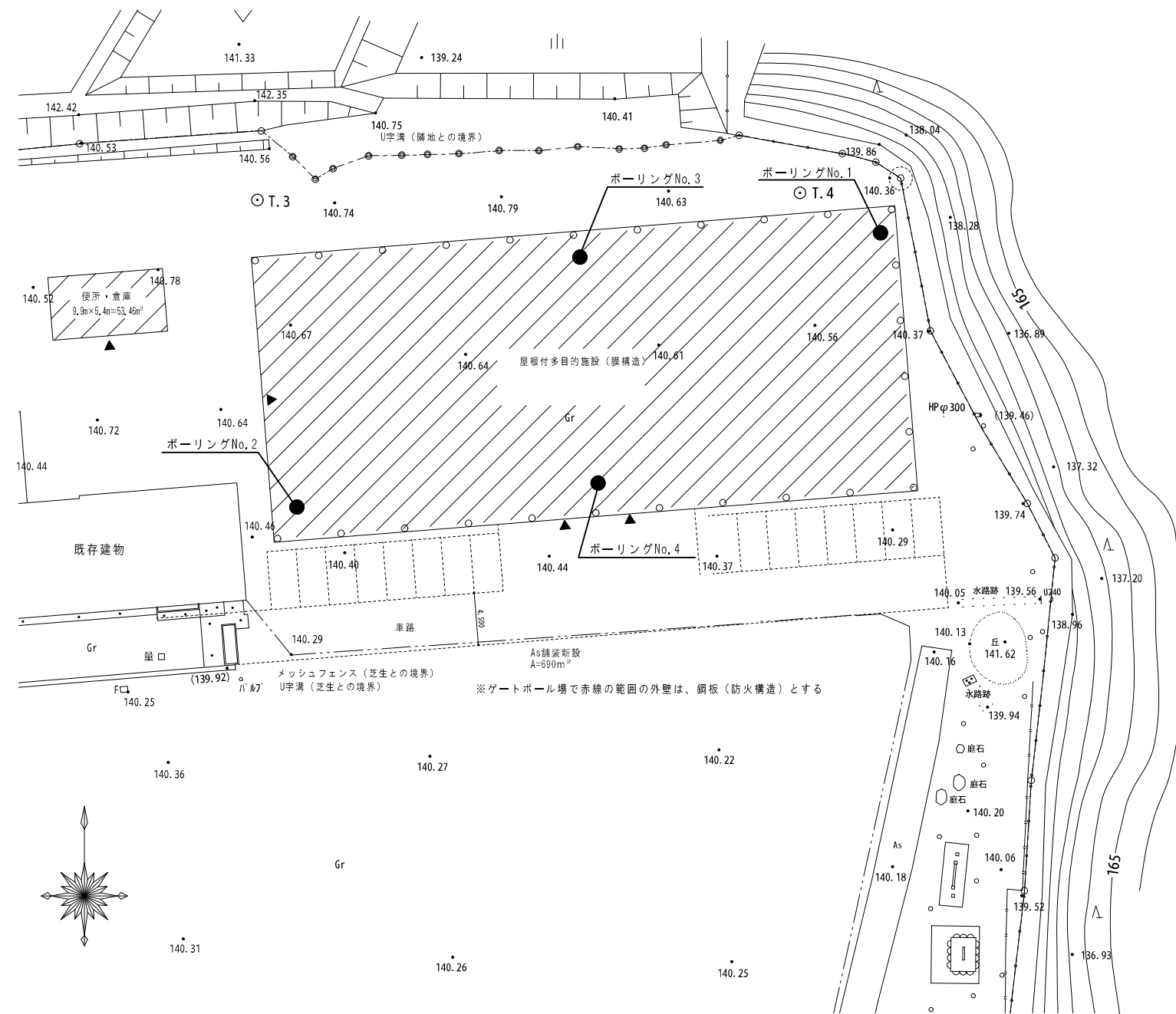
7. 運搬・建て方

- (1) 輸送計画
- 製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。
- 輸送計画書の提出 []
- (2) 集積・保管
- 集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。 □ 集積場の確認 []
- (3) 建方計画
- 建方計画書の提出
- アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。
- (4) 施工時の安全性
- 建方作業中および作業後、構架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承認を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。
- 施工時の安全性に対する検討書の提出 □ 施工時重要条件の通知
- (5) アンカーボルトの施工
- 芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合わせて適切な機器等で正確に行う。
 - アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。
 - アンカーボルトはダブルナットとする。 □ 適用除外 []
 - 土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを測定してから行う。 □ 通り芯からの誤差 : □ ±3mm以下 □ []
- (6) 建方精度
- 建方の精度基準は下記による。
- 建物の倒れ : □ $e \leq H/2500 + 10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$ □ []
- 梁の水平度 (節点間のレベル差) □ []
- 建物のわん曲 : □ $e \leq L/2500\text{mm}$ かつ $e \leq 25\text{mm}$ □ []
- 柱据え付け面の高さ及び位置
- 柱据え付け面の基準高さからの誤差 : □ ±3mm以下 □ []
- 通り芯からの誤差 : □ ±3mm以下 □ []
- 間高 : □ $-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$ □ []
- 建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
- (7) 施工状況の検査
- アンカーボルト施工時の立会い検査
- 目視による精度確認 □ 計測機器による精度確認 □ アンカーボルト径、間隔
- 施工者自主検査記録の提出 []
- 地組み時の立会い検査
- 目視による精度確認 □ 計測機器による精度確認 □ 材料の加工寸法検査
- 施工者自主検査記録の提出 []
- 建方時の立会い検査
- 目視による精度確認 □ 計測機器による精度確認 □ 材料の加工寸法検査
- 施工者自主検査記録の提出 []
- 建方後の施工状況の検査
- 防湿・防蟻処理 □ 材料の加工寸法検査 □ ファスナーの施工状況
- 接合金物の施工状況 □ その他 []
- 施工者自主検査記録の提出 []
- 最終確認
- 工事中に発生するボルトの緩み、ファスナーおよび接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
- 施工者自主検査記録の提出 []

- (1) 柱と構架材の仕口
- 柱の上下端部：短ほぞ差し、長ほぞ差し込み止め
 - 短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。
 - 土台の出隅入隅部
 - 土台同士は控輪小根ほぞ差し又は寄せほぞ差し、柱脚部は隔ほぞ差し又は寄せほぞ差し(但し、柱脚の場合、落とし端又は土台を寄せほぞ差しとする。)
 - 短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。落とし端の場合は、HD金物を用いる。
 - 通し柱と隔差し：小隔付きほぞ差し、傾ぎ大入れほぞ差し、梁受け金物
 - 梁受け金物以外の仕口には、引張の補強として短冊金物やかね折り金物等を併用すること。
- (2) 柱の継手
- 低速できるMやTは母材全断面の2割以下と考えること。
 - やむを得ず柱の継ぎ手を設ける場合は、曲げと軸力による複合応力の検定を行い安全性を確認する。
- (3) 横架材どうしの仕口
- せん断力が母材全断面の3割以下の仕口：(大入れ) 繰掛け
 - 長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
 - 逆せん断と引張の補強として羽子板ボルト等を併用する。
 - 男木の梁せいが女木の2/3以下の場合は、仕口直下に柱がある場合には、大入れとしてもよいが、そうでない場合は男木のせいのみ2/3程度の幅をかける。
 - せん断力が母材全断面の3割を超える仕口：梁受け金物
 - 既製品の場合は金物メーカーの許容せん断耐力の値を用い、特注品の場合は構造計算で許容せん断耐力を算出して安全性を確認すること。
 - 一方を片持ち梁とする場合：レベル差を設け渡り腰掛け
 - 逆せん断の補強として羽子板ボルト等を併用すること。
- 

- 片持ち梁
- 
- 渡り腰掛け
- 
- 梁受け金物の例 (クレチック金物等)
- 
- (4) 柱と構架材の仕口
- 柱の上下端部：短ほぞ差し、長ほぞ差し込み止め
 - 短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。
 - 土台の出隅入隅部
 - 土台同士は控輪小根ほぞ差し又は寄せほぞ差し、柱脚部は隔ほぞ差し又は寄せほぞ差し(但し、柱脚の場合、落とし端又は土台を寄せほぞ差しとする。)
 - 短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。落とし端の場合は、HD金物を用いる。
 - 通し柱と隔差し：小隔付きほぞ差し、傾ぎ大入れほぞ差し、梁受け金物
 - 梁受け金物以外の仕口には、引張の補強として短冊金物やかね折り金物等を併用すること。
- (5) 筋かい端部
- 平12建告1460号の例示仕様又は同等品とする。
- (6) 火打ち、方柱
- 角材を用いる場合は端部は、傾ぎ大入れほぞ差し+ボルト締めとする。
 - Zマーク鋼製火打ち又は同等品としてもよい。
- (7) 小屋東の上下端部
- 短ほぞ差し又は長ほぞ差し込み止めとする。
 - 短ほぞ差しの場合、風圧力による引張力の補強として、かすがい2本又はひら金物又は山形プレート止めとする。
- 

- (8) 根太、挿木と横架材
- 落とし込み根太：横架材に大入れ or 根太掛け+斜め釘
 - 半欠き根太：横架材に大入れ腰掛け+斜め釘
 - 転ばし根太：根太が直角断面の場合、横架材に隔天釘止め
 - 根太が縦長角断面の場合、斜め釘2本+転ばし止め
 - 挿木：横架材に挿木道を掘り、転ばし根太と同様に止める。
 - 風の負圧の補強：許容応力度計算により必要耐力を有するひねり金物等を取り付ける。
- 
- (9) 間柱と横架材
- 上下横架材に深さ3mm程度大入れ+斜め釘上部ほぞ差し、下部突き付け+斜め釘
- (10) 釘の最小間隔及び最小端あき距離
- | 縦横方向 | 縦横方向 | 加力方向 | |
|------|------|------|--|
| | | 縦横方向 | 縦横直交方向 |
| E1 | 15d | 10d |  |
| P1 | 12d | 10d | |
| E2 | 5d | 8d |  |
| P2 | 5d | 8d | |
- (11) ボルトの最小間隔及び最小端あき距離
- | 縦横方向 | 縦横方向 | 加力方向 | |
|------|---------|-------|---|
| | | 縦横方向 | 縦横直交方向 |
| E1 | 7d | 7d |  |
| P1 | 7d | 3d~5d | |
| E2 | t/d ≤ 6 | 1.5d |  |
| P2 | 1.5d | 4d | |
- (12) 面材耐力壁
- 大壁造の場合
 - 真壁造の場合
- 



設計 G L = 140.65m

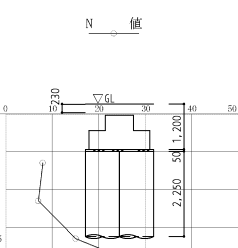
ボーリング位置図

ボーリング柱状図

調査名 平成27年度和知第二小学校跡地整備測量設計業務
 事業・工事名 京丹波町 調査位置 京都府船井郡京丹波町篠原地内 北緯
 シートNo 1

ボーリング名	Bor No. 1	調査位置	京都府船井郡京丹波町篠原地内	北緯
発注機関	京丹波町	調査期間	平成27年10月28日～27年10月30日	東経
調査業者名	キタイ設計株式会社 電話(0748-46-6954)	主任技師	五十嵐 慎久	現場代理人
調査業者名	松藤 行信	コア鑑定者	中村 めぐみ	ボーリング責任者
ボーリング責任者	大野 利雄	試験機	YBM-1WA	ハンマー
ハンマー	落下用具	ポンプ	半自動	CP-55
総掘進長	7.00m	度		

標高	層厚	柱状	土相	相対	記	孔内水位	標準貫入試験		原位置試験	試験名	採取	室内試験	掘進
							度	値					
140.42	0.10		硬土	茶褐色	層2.05~3.0mの角礫、(150mm)の巨礫を含む。固く粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	1.15	2	3	8				27.10.28
140.32	0.10		硬土	茶褐色	層2.05~3.0mの角礫、(150mm)の巨礫を含む。固く粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	1.45	2	3	7				27.10.29
137.42	3.00		粘土	黄褐色	層3.05~6.05mの粘土。粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	3.15	2	3	7				27.10.29
135.42	2.00		粘土	黄褐色	層6.05~8.05mの粘土。粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	3.15	5	5	15				27.10.30
133.42	2.00		砂	黄褐色	層8.05~10.05mの砂。粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	4.85	10	11	41				27.10.30
131.42	2.00		砂	黄褐色	層10.05~12.05mの砂。粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	4.85	50	50	92				27.10.30
129.42	2.00		砂	黄褐色	層12.05~14.05mの砂。粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	5.05	6	6	9				27.10.30
127.42	2.00		砂	黄褐色	層14.05~16.05mの砂。粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	5.11			60				27.10.30
125.42	2.00		砂	黄褐色	層16.05~18.05mの砂。粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	6.00			60				27.10.30
123.42	2.00		砂	黄褐色	層18.05~20.05mの砂。粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	6.00			60				27.10.30
121.42	2.00		砂	黄褐色	層20.05~22.05mの砂。粘り強い。砂質土。含水率は少ない。	7.00			60				27.10.30



工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事

図面名称 ボーリング柱状図(1)

ボーリング柱状図

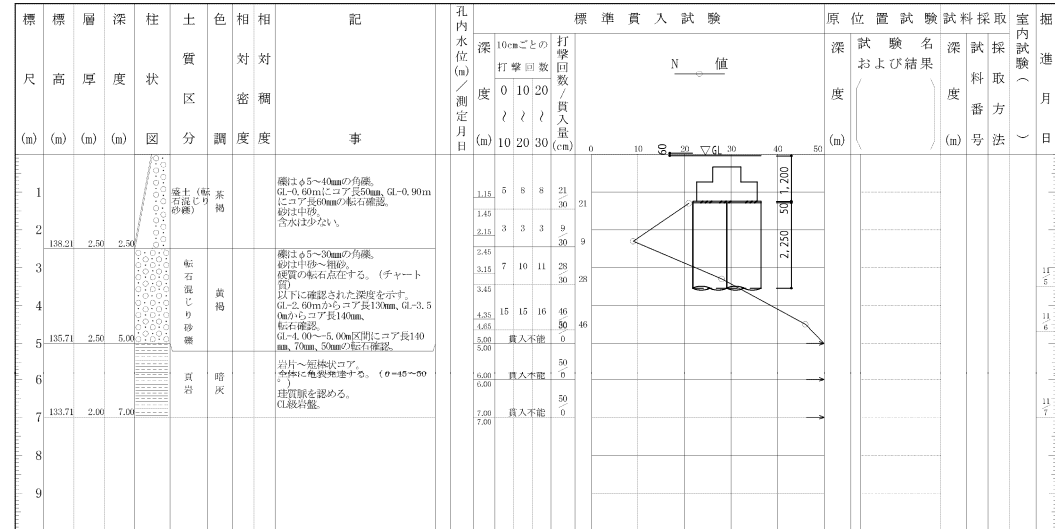
調査名 平成27年度和知第二小学校跡地整備測量設計業務

ボーリングNo 3

事業・工事名

シートNo 1

ボーリング名	Bor No. 3	調査位置	京都府船井郡京丹波町篠原地内	北緯	
発注機関	京丹波町	調査期間	平成27年11月4日～27年11月7日	東経	
調査業者名	キタイ設計株式会社 電話(0748-46-6954)	主任技師	五十嵐 慎久	現場代理人	松藤 行信 コアア 鑑定者 中村 めぐみ
ボーリング責任者	大野 利雄	使用試験機	YBM-1WA	ハンマー落下用具	半自動
孔口標高	GH=140.71m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 西 180°
総掘進長	7.00m	度	0°	向	南 90°
地盤勾配	鉛直 90°	水平 0°			
エンジン	ヤマハ製 NFD-10	ポンプ	CP-55		



ボーリング柱状図

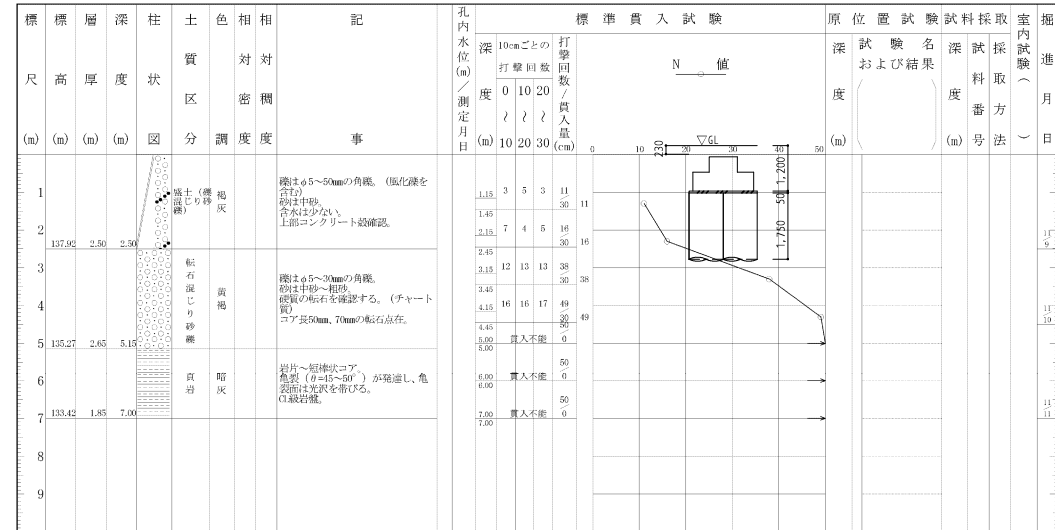
調査名 平成27年度和知第二小学校跡地整備測量設計業務

ボーリングNo 4

事業・工事名

シートNo 1

ボーリング名	Bor No. 4	調査位置	京都府船井郡京丹波町篠原地内	北緯	
発注機関	京丹波町	調査期間	平成27年11月7日～27年11月11日	東経	
調査業者名	キタイ設計株式会社 電話(0748-46-6954)	主任技師	五十嵐 慎久	現場代理人	松藤 行信 コアア 鑑定者 中村 めぐみ
ボーリング責任者	大野 利雄	使用試験機	YBM-1WA	ハンマー落下用具	半自動
孔口標高	GH=140.42m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 西 180°
総掘進長	7.00m	度	0°	向	南 90°
地盤勾配	鉛直 90°	水平 0°			
エンジン	ヤマハ製 NFD-10	ポンプ	CP-55		



ボーリング柱状図

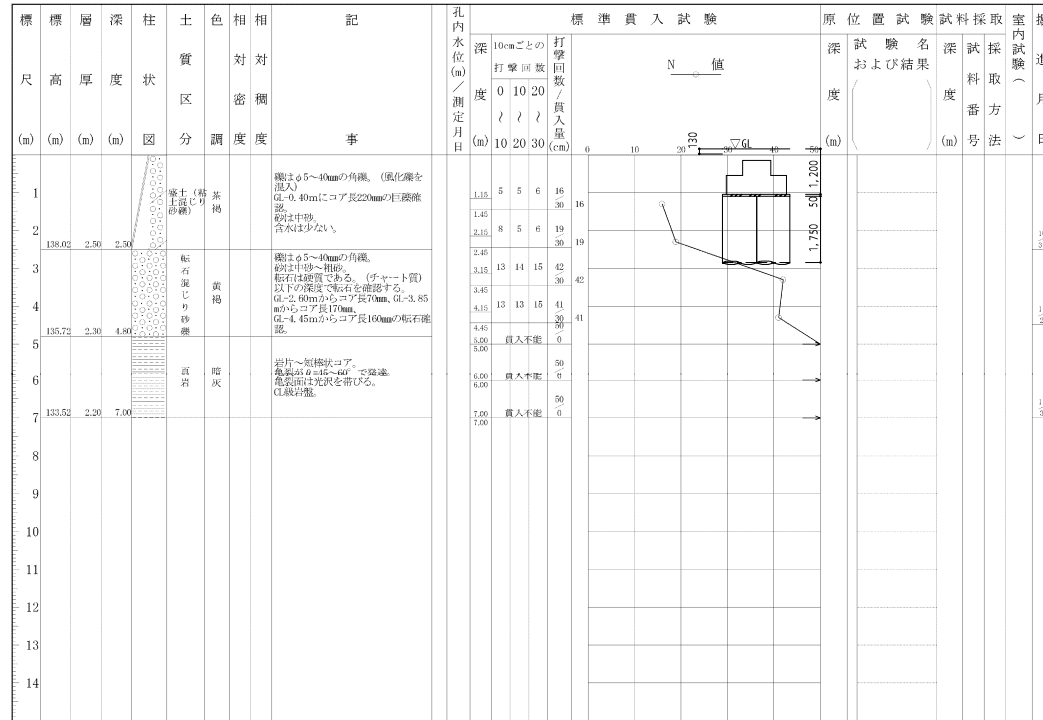
調査名 平成27年度和知第二小学校跡地整備測量設計業務

ボーリングNo 2

事業・工事名

シートNo 1

ボーリング名	Bor No. 2	調査位置	京都府船井郡京丹波町篠原地内	北緯	
発注機関	京丹波町	調査期間	平成27年10月30日～27年11月4日	東経	
調査業者名	キタイ設計株式会社 電話(0748-46-6954)	主任技師	五十嵐 慎久	現場代理人	松藤 行信 コアア 鑑定者 中村 めぐみ
ボーリング責任者	大野 利雄	使用試験機	YBM-1WA	ハンマー落下用具	半自動
孔口標高	GH=140.52m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 西 180°
総掘進長	7.00m	度	0°	向	南 90°
地盤勾配	鉛直 90°	水平 0°			
エンジン	ヤマハ製 NFD-10	ポンプ	CP-55		



工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事

図面名称 ボーリング柱状図(2)

SSコラム工法特記仕様書（GBRC 性能証明 第12-07号）

1. 工法概要

本工法はセメント系固化材を固化材液として現地地盤に注入し、共回り現象を防止する攪拌翼（特許等で認められたもの）を装着した攪拌装置を用いて混合攪拌することによりソイルセメントコラムを築造する工法である。

2. 特記仕様

- (1) コラム径 $\phi=900$ mm
- (2) 掘削深度 3.0m~3.5m（但し、改良径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等については土質や地盤状況に応じ変更した方が適切と判断される場合には、監理者の承認の上、変更する事が出来る。）
- (3) 設計基準強度 $F_c = 600\text{kN/m}^2$
- (4) 本工事は、（財）日本建築センター発行；建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針 平成14年7月改訂版 に準拠し、公的機関 による性能証明を有する工法とする。

3. 固化材の配合及び配合量

- (1) 固化材 セメント系固化材を使用する。
- (2) 配合と配合量の検討
 $X_f = \alpha_t \times F_c$
 X_f : 配合強度 (kN/m²)
 α_t : 割増し係数
 F_c : 設計基準強度 (kN/m²)
 原則として現地土を採取し室内配合試験を行い決定する。
 $W/C = 60 \sim 80\%$ 配合量仮定 = 300kg/m³

変動係数	採取ヶ所数 (N)	1	2	3	4~6	7~8	9以上
25%	割増係数 (α)	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

※ 変動係数を想定し、7項に規定する抜き取りヶ所数N、合格確率80%とした上表を用いて設定する。

- (3) 配合試験実施時に六価クロム溶出試験を実施し、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。
 尚、試験方法は平成3年8月23日環境庁告示第46号に準じる。
 検体数：1検体 基準値0.05mg/L以下

4. 施工計画書

本工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書には事項を明記する。

- (1) 工法概要 (2) 工事概要 (3) 施工場所 (4) 施工機械
- (5) 施工管理体制 (6) 施工管理 (7) 安全対策 (8) 工程表

5. 施工

- (1) 固化材液の充填方法は、掘削時充填方法とする。
- (2) 掘削速度1.0m/分、引き上げ速度1.0m/分以下とする。
- (3) 施工手順は以下の通りとする。

1. コラムの中心位置を出し、その位置に攪拌ロッドの中心を据えるよう機械をセットする。
2. セットが完了したら攪拌ロッドを回転し、規定の速度で掘削を開始する。
3. 所定の位置まで来たら固化材液を攪拌ロッド先端より注入しながら掘削攪拌を行う。
4. 掘削が完了したら固化材液の注入をやめ、攪拌ロッドを掘削時と正逆回転し、50cm以上、繰り返しを行う。
5. 逆回転で再攪拌しながら引き上げる。

6. 施工管理

- (1) コラムの鉛直度 改良機本体の傾斜計で管理する。
- (2) 固化材液の作成 水の計量 : 計量計又は水管計で計測する。
 固化材の計量 : 袋数又は重量計で計測する。
- (3) 固化材吐出量 流量計で計測し記録する。
- (4) 掘削深度 深度計で計測し記録する。
- (5) 掘削速度 速度計計測し記録する。
- (6) 支持層強度 トルク計で測定し記録する。

7. 強度管理試験

本コラム又は採取用コラムより、100本毎に頭部・全長それぞれ1箇所供試体採取する。本工事では頭部コア2箇所、全長コアボーリング2箇所をそれぞれ採取する。
 ※頭部コアは1箇所当たり3箇所の供試体採取する。※未固化土採取とする
 ※全長コアは1箇所当たり3箇所の供試体採取する。※コア「リング」採取とする
 採取コアの採取率（連続性の確認）
 コア採取率は全長に対して砂質土系で95%以上、粘性土系で90%以上とし、1m当たりのコア採取率は、砂質土系で90%以上、粘性土系で85%以上とする。
 材令28日における圧縮強度試験結果が下記の式をクリアしなければならない。
 ※材令7日にて圧縮強度試験を行う場合は材令7日から材令28日への伸び率値 1.3を用いる。

可否の判定は、N箇所（抜き個数）の一軸圧縮強さの平均値 X_N と合格判定値 X_L の大小関係を比較する事で行う。

$$X_N \geq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d$$

ここに、

X_N : N箇所の一軸圧縮強さの平均値 (kN/m²)

X_L : 合格判定値 (kN/m²)

F_c : 設計基準強度 $F_c=1000$ (kN/m²)

k_a : 合格判定係数（下表による）

N : 検査対象層の抜き箇所数

σ_d : 設計で想定したコア強度の標準偏差

$$\sigma_d = V_d \cdot q_{ud} \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

q_{ud} : 想定した一軸圧縮強さ (kN/m²)

V_d : 変動係数 $V_d = 0.25$


抜き箇所数	N	1	2	3	4~6	7~8	9以上
合格判定係数	k_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

※ 品質に支障があった場合の処理
 品質に支障があった場合は、監理者と協議し適切な判断を下す。

8. 施工報告書

工事完了後、次の事項について報告書をまとめ、監督員に提出する。

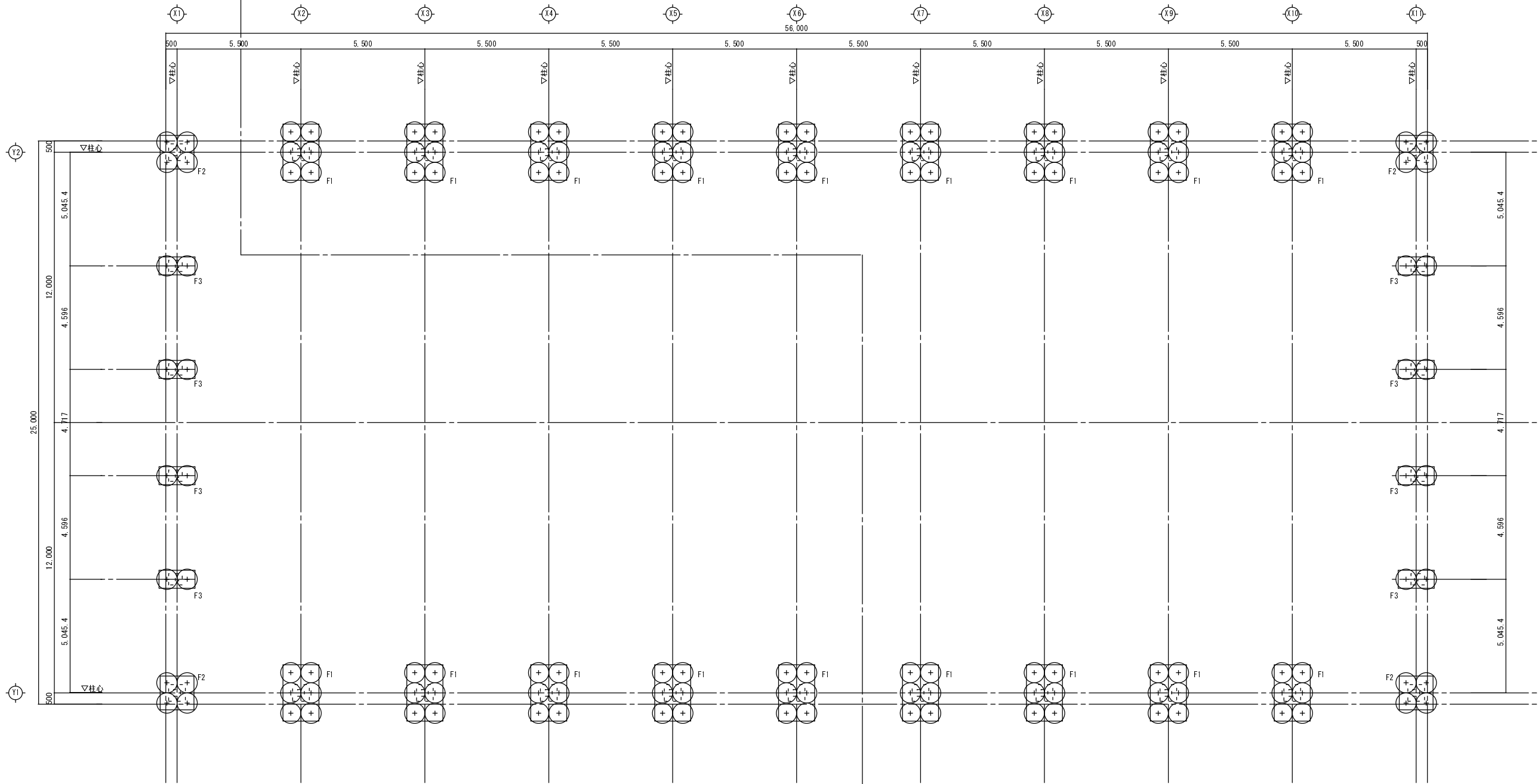
- (1) コラム配置図及び番号 (2) 施工年月日 (3) コラム径 (4) 掘削長
- (5) 掘削深度 (6) 固化材の使用量 (7) 強度管理試験結果

					工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
					図書名称 SSコラム工法特記仕様書
					 キタイ設計（株） 一級建築士319755号 小川 龍二
					C-10



セメントコラム先端は
GL-3.000

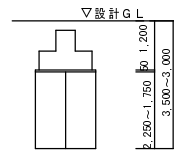
セメントコラム先端は
GL-3.500



セメントコラム先端は
GL-3.000

セメントコラム先端は
GL-3.500

・本工事に先立ち、施工計画書を提出し監督員の承認を得るものとする。
 ・全長コアボーリングにより、一軸圧縮試験2ヶ所を行う。
 混合土採取は1ヶ所当たり上、中、下の3個の供試体による。
 ・頭部コアにより、一軸圧縮試験2ヶ所を行う。
 ・固化材添加量 200 kg/m³以上
 ・セメント系固化材は、六価クロム溶出量低減型固化材とする。
 基礎ベース底にて 長期地耐力 120 kN/m²以上
 試験等により支持地盤に傾斜がある場合は、監督員との協議により、
 セメントコラム長を調整すること。
 (ソイルセメントコラム設計基準強度 F_C=600 kN/m²以上)

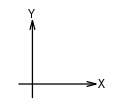


設計GL = 140.65

凡例

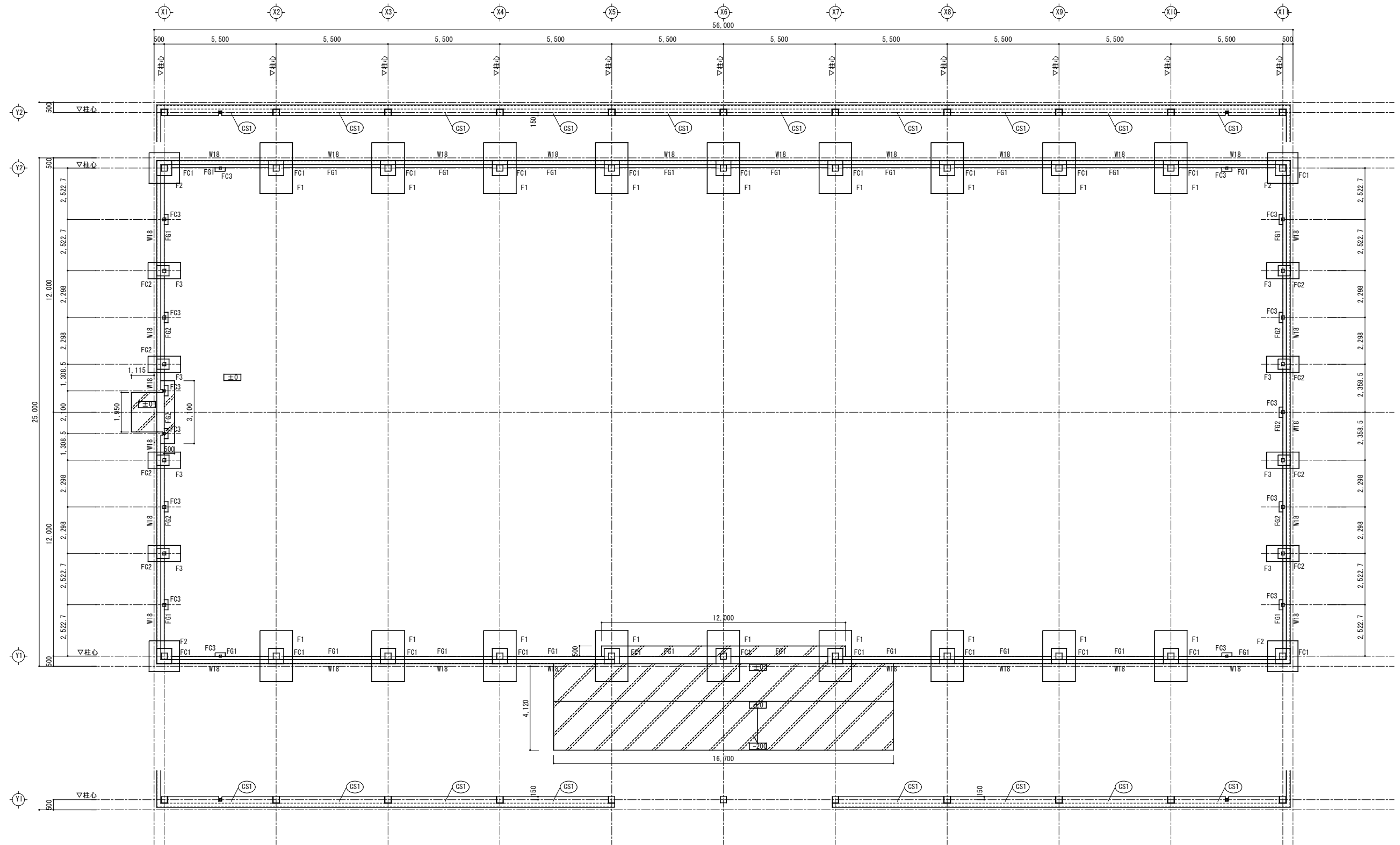
・深層混合改良工法(審査証明取得工法)
 SSコラム工法同等工法
 ○+ セメントコラム φ900
 L = 2,250 計 94本
 L = 1,750 計 46本

F1, F2, F3基礎ベース底はGL-1.200とする
 ・支持地盤は、砂礫であることを確認すること。(盛土以外)
 ・基礎心は柱心とする。
 ・各改良箇所につき、改良土量の10%~20%の残土の発生を見込んでいるが、
 平均値として、改良土量の15%を発生残土として計上している。



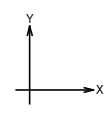
セメントコラム 伏図 S=1:100
 (A3-S=1:200)

			工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
			図面名称	セメントコラム伏図・
				S=1:100 (A3版 S=1:200)
			キタイ設計(株)	一級建築士318755号 小川 龍二
				C-11



- 凡 例**
- はRC断面部分を示す
 - ±0** 数値は1FLからの床天端レベルを示す
 - 土間コンクリート ①150
配筋D10@150シングルクロス
土間下は十分転圧を行うこと

- 共通事項**
- 特記なき限り下記による
 - 本図は見下り図とする
 - 壁は W18 とする
 - 床スラブは CS1 とする (GL+500レベル)
 - FC1, FC2, FC3 は柱型を示す
 - C1, P1 柱脚B下はGL-260とする
 - 地中梁天はGL-300とする
 - F1, F2, F3基礎ベース底はGL-1,200とする



基礎 伏図 S=1:100
(基礎・1階梁床伏図) (A3-S=1:200)

		工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
		図面名称 基礎伏図	S=1:100 (A3版 S=1:200)
		キタイ設計 (株)	一級建築士319755号 小川 龍二
			C-12

使用材料

コンクリート

FC18 捨てコンクリート
FC24 一般躯体 土間コンクリート

鉄筋

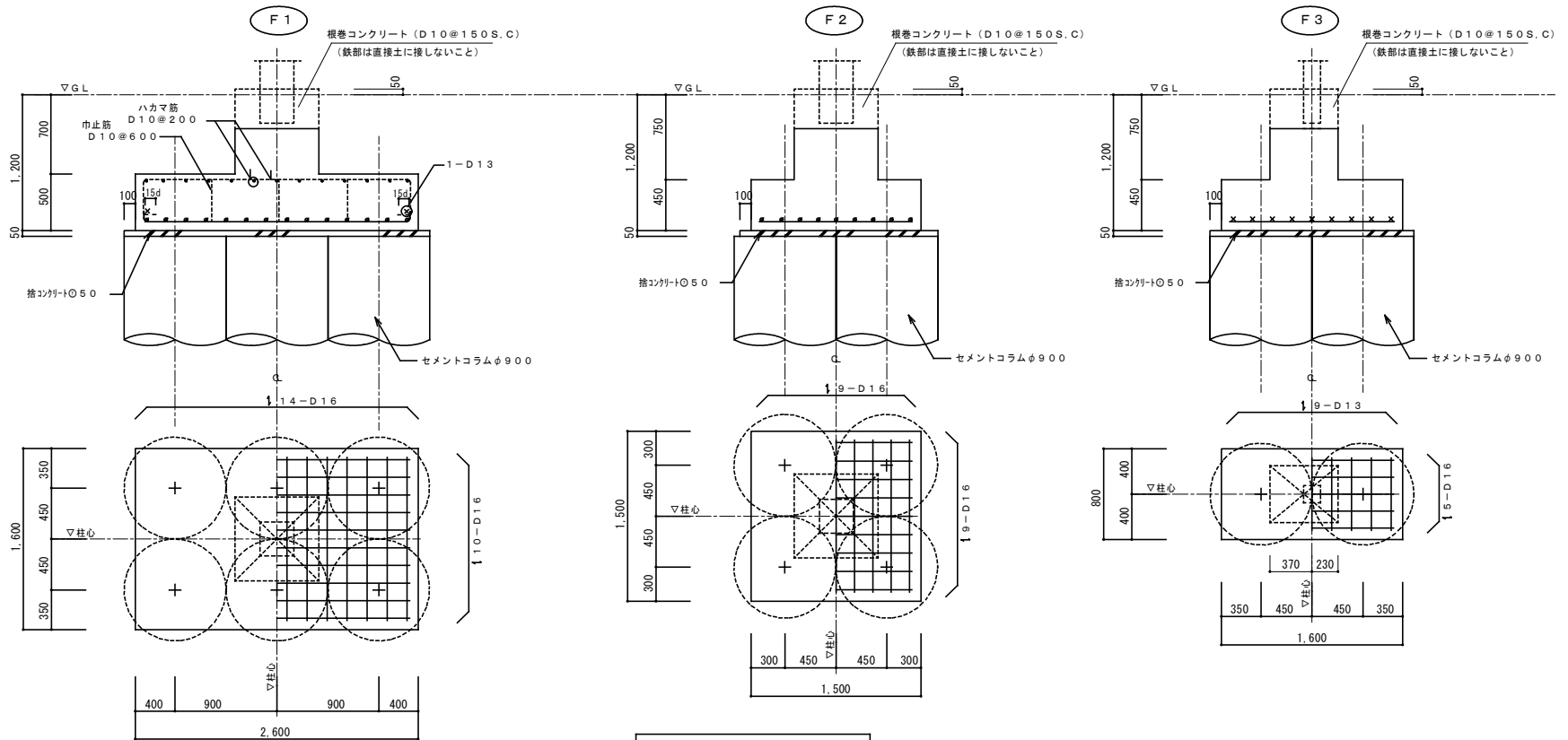
SD295A D10~D16
SD345 D19~D22

定着

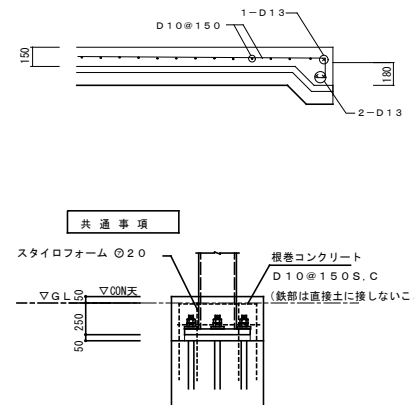
梁主筋の柱への定着長さは、政令第73条3項とし、40d以上とする。

符号	FC1	FC2	FC3
柱断面	□-300x300x9	□-150x150x6	□-175x175x9
断面			
主筋	14-D22 (SD345)	10-D19 (SD345)	4-D13 (SD295)
帯筋	□D13@100 (SD295)	□D10@100 (SD295)	□D10@100 (SD295)
備考	4隅フック付	4隅フック付	地中梁増打

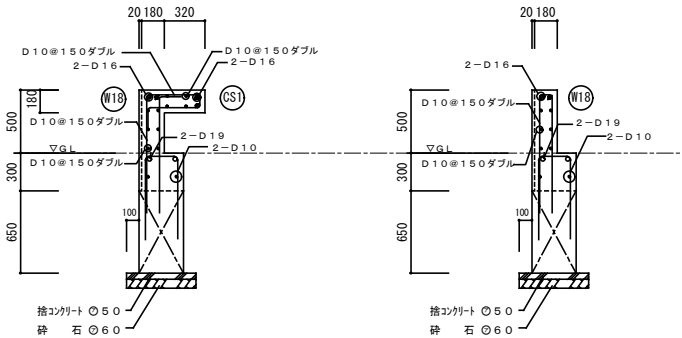
階	符号	FG1	FG2
F	位置	全断面	全断面
	断面		
	上端筋	4-D22	3-D22
	下端筋	4-D22	3-D22
	あばら筋	□D10@150	□D10@150
	腹筋	2-D10	2-D10



基礎断面リスト S=1:30 (A3-S=1:60)



雑配筋図 S=1:30 (A3-S=1:60)



膜構造建築物 設計概要書

建物概要	物件名	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
	建築場所	京都府船井郡京丹波町篠原堂ノ下31	
	建築用途	スポーツ練習場	
工事種別	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 増築 <input type="radio"/> 改築 <input type="radio"/> 移転 <input type="radio"/> その他 ()		
規模	面積	膜伏面積 1400 m ²	
	階数	地上 1 階、地下 階、膜構造部分の階 1 階	
	高さ	膜構造部分高さ 8.505 (材芯) m	
躯体構造	<input type="radio"/> コンクリート造 <input checked="" type="radio"/> 鉄骨造 <input type="radio"/> 木造 <input type="radio"/> その他 ()		
膜構造形式	<input checked="" type="radio"/> 骨組膜構造 <input type="radio"/> サスペンション膜構造		

設計荷重	地震荷重	標準層せん断力係数 $C_i = 0.375$ (0.30x1.25=0.375 l=1.25)		
	積雪荷重	長期	N/m ²	垂直積雪量 90 cm
		短期	1800 N/m ²	単位重量 20 N/(m ² ・cm)
風荷重	速度圧 $q = 1160$ N/m ² 風速 $V_0 = 32$ m/s 地面粗度区分 I II III IV			

鉄骨工事	構造用鋼材種類・材質	一般構造用鋼材	<input checked="" type="radio"/> SS400 [鋼板・平鋼・形鋼] <input checked="" type="radio"/> STK400 <input checked="" type="radio"/> STKR400 <input type="radio"/> STK490 [炭素鋼鋼管] <input type="radio"/> STKR490 [角形鋼管] <input type="radio"/> SSC400 [軽量形鋼] <input type="radio"/> その他 ()	建築構造用鋼材	<input type="radio"/> SM400A <input checked="" type="radio"/> SM400B <input type="radio"/> SM400C <input checked="" type="radio"/> その他 SM490B) <input type="radio"/> SM490C)
		溶接構造用鋼材	<input type="radio"/> SM490A <input type="radio"/> その他 ()		
	高力ボルト	<input checked="" type="radio"/> F10T (S10T) <input type="radio"/> F8T (溶融亜鉛メッキ高力ボルト) *摩擦接合では鉄骨の摩擦面の処理に注意する。摩擦面のすべり係数を0.45以上(溶融亜鉛メッキされた鉄骨の場合は0.40以上)確保するため、「プラスト処理・特殊塗料塗布、他」を行なう。			

中ボルト	<input checked="" type="radio"/> JIS規格品 (SW付き) <input type="radio"/> その他 ()		
アンカーボルト	<input type="radio"/> SNR400B <input type="radio"/> SNR490B <input type="radio"/> SS400 (M12のみ) <input checked="" type="radio"/> その他 (ABR400)		

溶接	隅肉溶接のサイズ (単位: mm)	<table border="1"> <tr><td>t</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>S</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td></td></tr> </table>	t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	S	3	4	5	6	7	8	8	9		<table border="1"> <tr><td>t</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>19</td><td>22</td><td>25</td><td>28</td><td>30</td></tr> <tr><td>S</td><td>10</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>11</td><td>13</td><td>15</td><td>17</td><td>18</td></tr> </table>	t	13	14	15	16	19	22	25	28	30	S	10	10	11	12	11	13	15	17	18
	t	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																	
S	3	4	5	6	7	8	8	9																																			
t	13	14	15	16	19	22	25	28	30																																		
S	10	10	11	12	11	13	15	17	18																																		
鉄骨製作工場	膜下地鉄骨の製作は、鋼管構造を主体とした膜構造建築物に関する加工経験を有する工場とすること。																																										

塗装工事				
合成樹脂調合ペイント塗り				
工程	塗料名	塗布量 (kg/m ²)	塗装方法	施工区分
1 素地調整	2種ケレン (サンダー等) / ISO St 3			
2 下塗り (1回目)	鉛・クロムフリーさび止めペイント JIS K 5674	0.10	吹付・はけ	工場
3 下塗り (2回目)	鉛・クロムフリーさび止めペイント JIS K 5674	0.10	吹付・はけ	
4 中塗り	合成樹脂調合ペイント中塗 JIS K 5516	0.09	はけ・吹付	現場
5 上塗り	合成樹脂調合ペイント上塗 JIS K 5516	0.08	はけ・吹付	
※鋼材は下塗りまでとする。(カラーリップみぞ形鋼) ※プasterボード内貼りはEP塗装とする。				

注意事項	上塗塗料のJIS規格(相当品)は光沢品を規定している為、艶調整を行う場合はJIS規格(相当品)に該当しなくなります。		
各部塗装範囲			

溶接	材質	形状
	<input type="radio"/> PL-3.2t <input type="radio"/> 塩ビ軒樋 <input type="radio"/> アルミ <input type="radio"/> SUS	<input checked="" type="radio"/> 溶融亜鉛メッキ <input type="radio"/> 無し
<input checked="" type="radio"/> 塩ビ壁樋 <input type="radio"/> アルミ <input type="radio"/> SUS	<input type="radio"/> 溶融亜鉛メッキ <input type="radio"/> 無し	

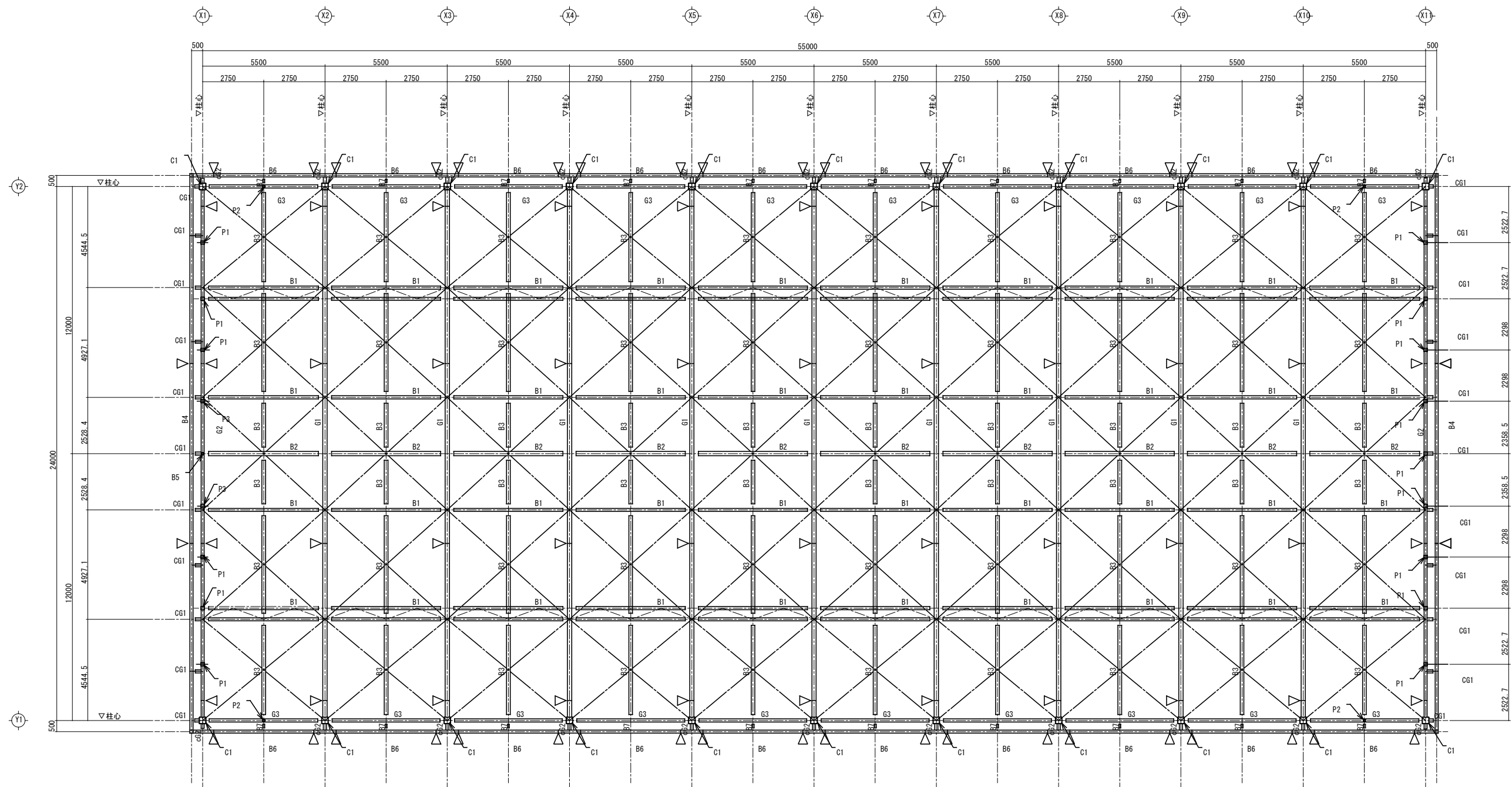
縦立支持プレート形状	
------------	--

膜工事	膜材料	国土交通省告示第666号第二、二の表の(二)に適合する膜材料: 認定番号 MEM-9023 (建築基準法第37条第二号) NM-3032 (建築基準法第2条第九号 不燃材料) グリーンマックス220 (CMX220) (厚さ0.55mm) 酸化チタン触媒コーティング同等品
	膜材概要	
	膜材溶着部	国土交通省告示第666号第二、四、一のロまたはハに規定する接合とする 溶着巾 <input checked="" type="radio"/> 40mm <input type="radio"/> 20mm <input type="radio"/> その他

溶着方法	<input checked="" type="radio"/> ライスター <input type="radio"/> ウェルダー
膜材固定部	国土交通省告示第666号第三に規定する定着方法とする。

外周膜定着部	<input checked="" type="radio"/> 3 # <input checked="" type="radio"/> 4 # <input type="radio"/> 5 # <input type="radio"/> #100 <input type="radio"/> その他
--------	--

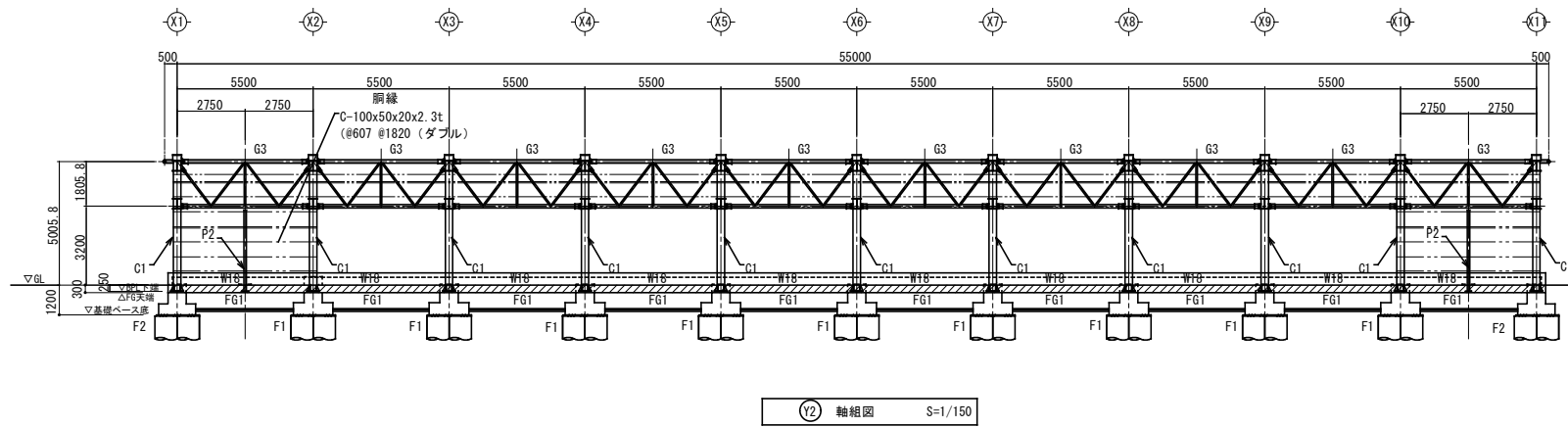
中間膜定着部	
--------	--



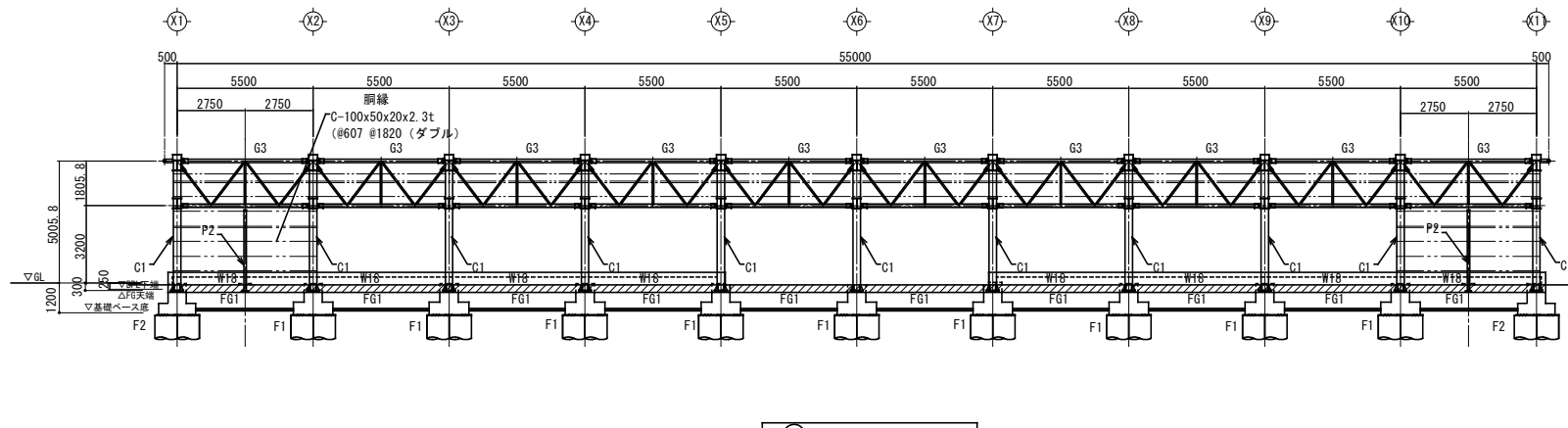
小屋伏図 S=1:100
(A3-S=1:200)

▽ : フランジ位置(継手)を示す ▽ : 現場溶接位置を示す
 フランジ位置と現場溶接位置は製作時に再検討とする。
 水平ブレースは、V1 1-M16とする。

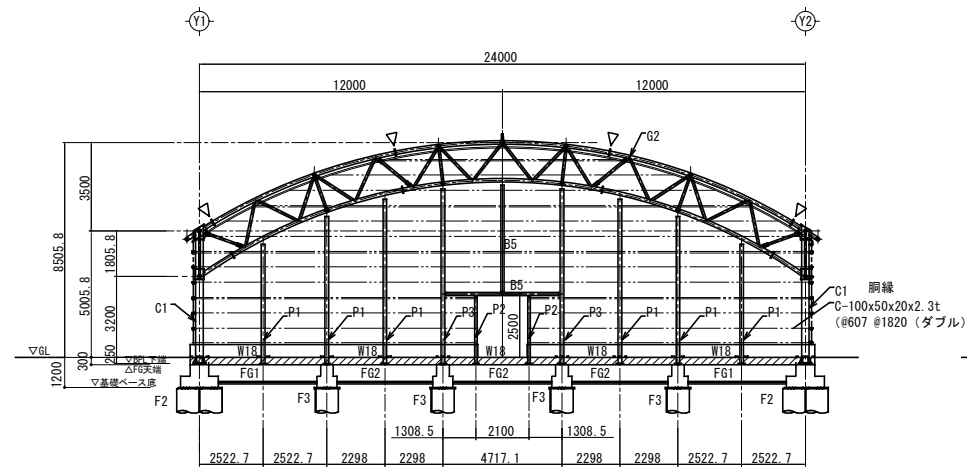
			工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
			図面名称	小屋伏図
				S=1:100 (A3版 S=1:200)
			キタイ設計(株)	一級建築士319755号 小川 龍二
				C-15



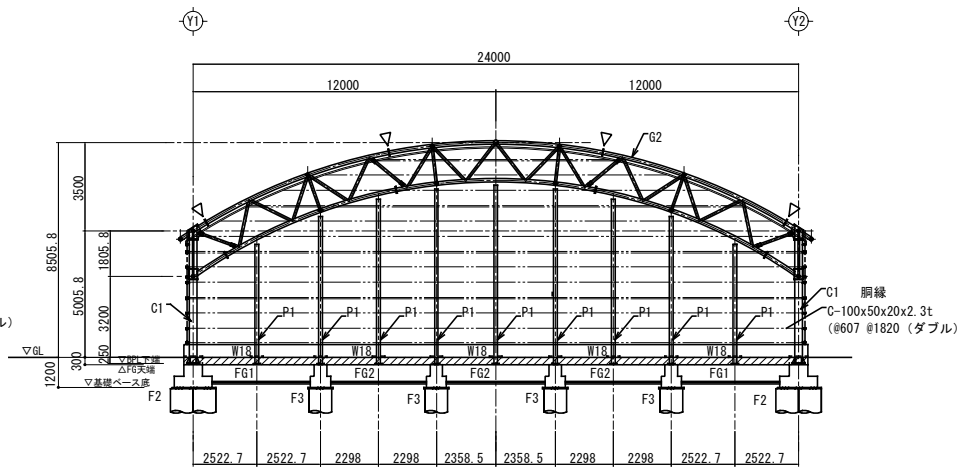
Y2 軸組図 S=1/150



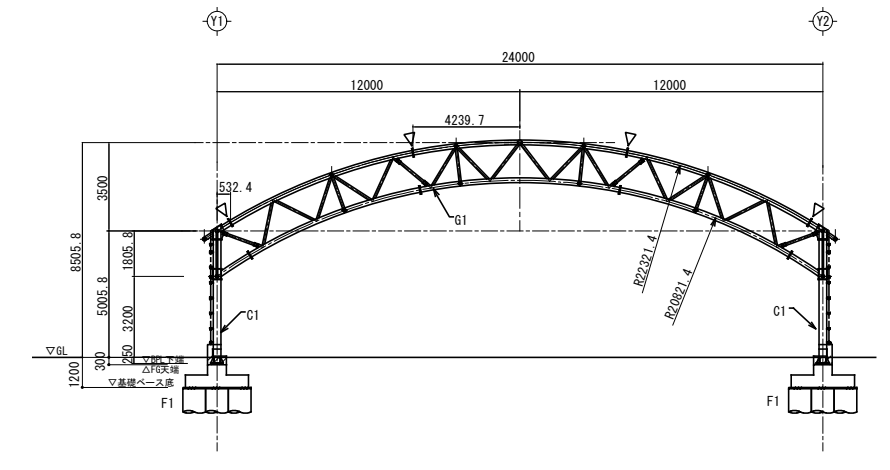
Y1 軸組図 S=1/150



X1 軸組図 S=1/150



X11 軸組図 S=1/150



X2~X10 軸組図 S=1/150

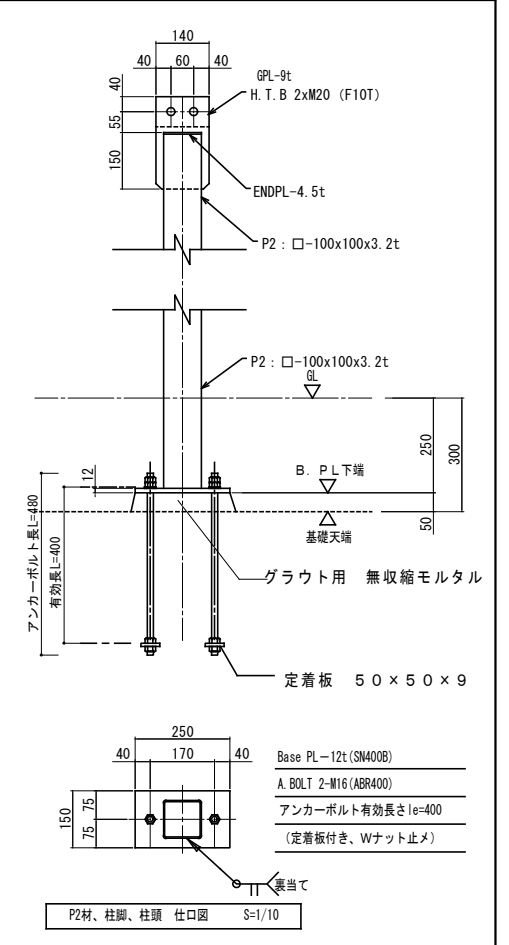
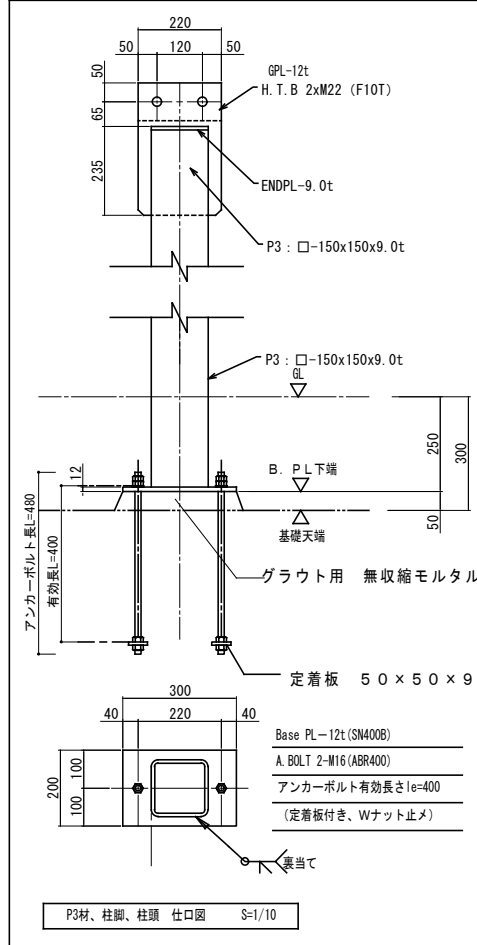
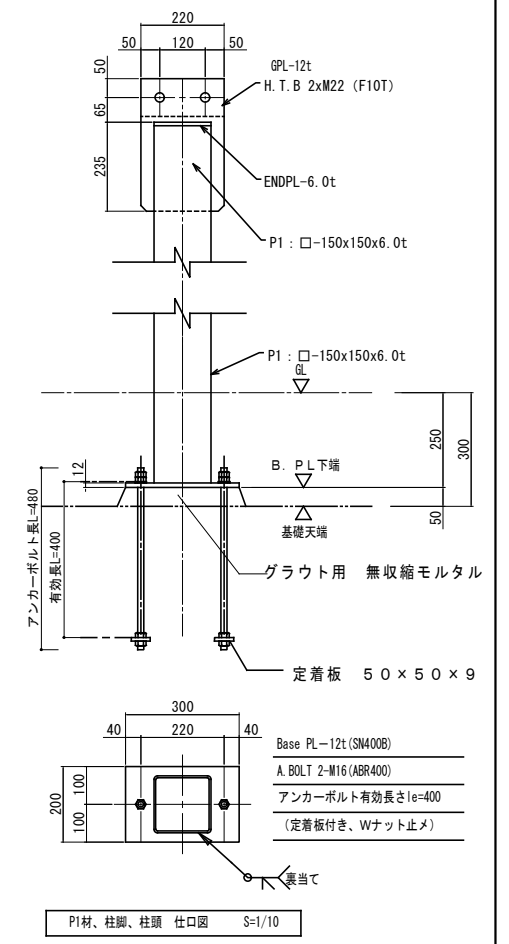
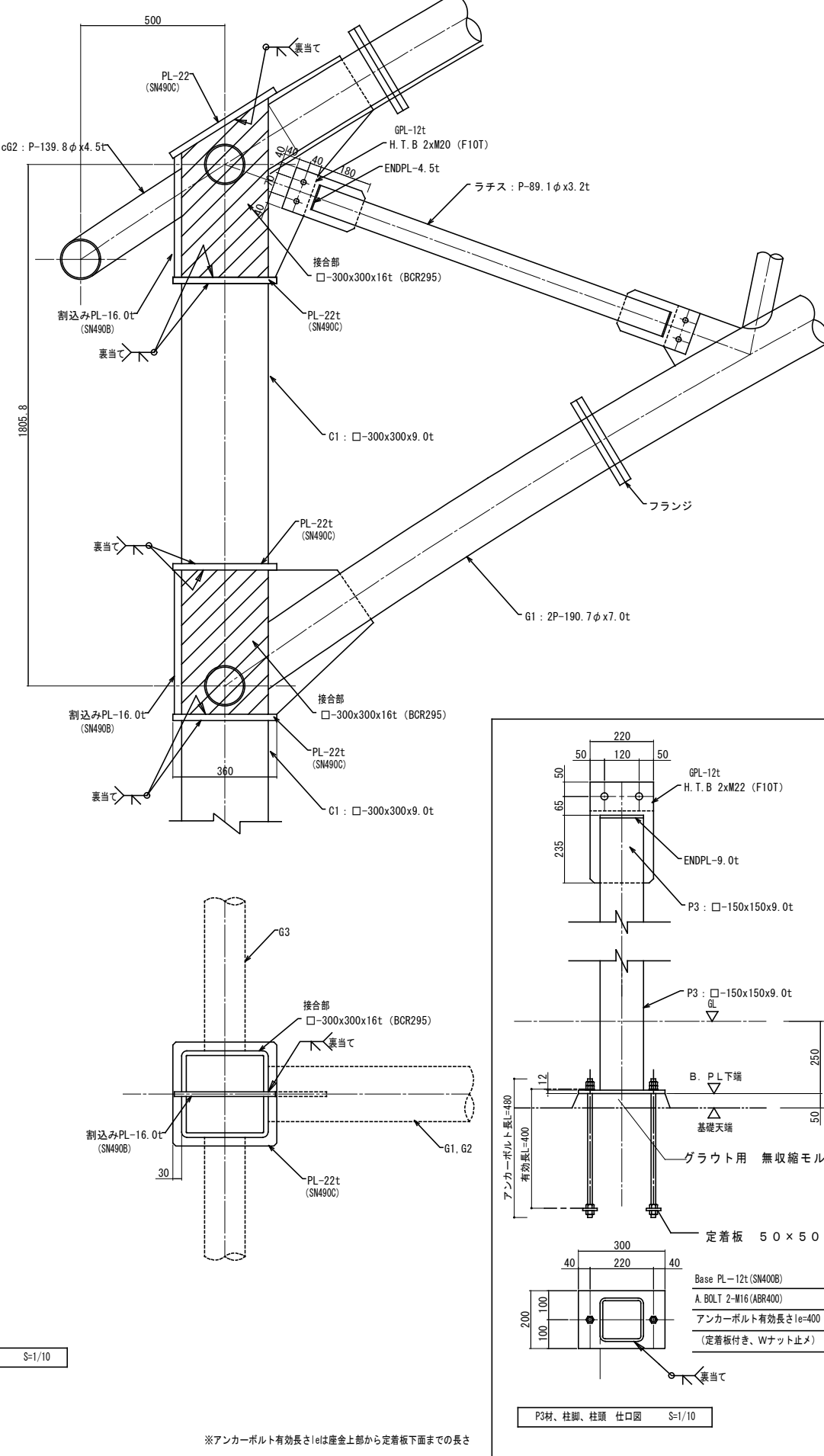
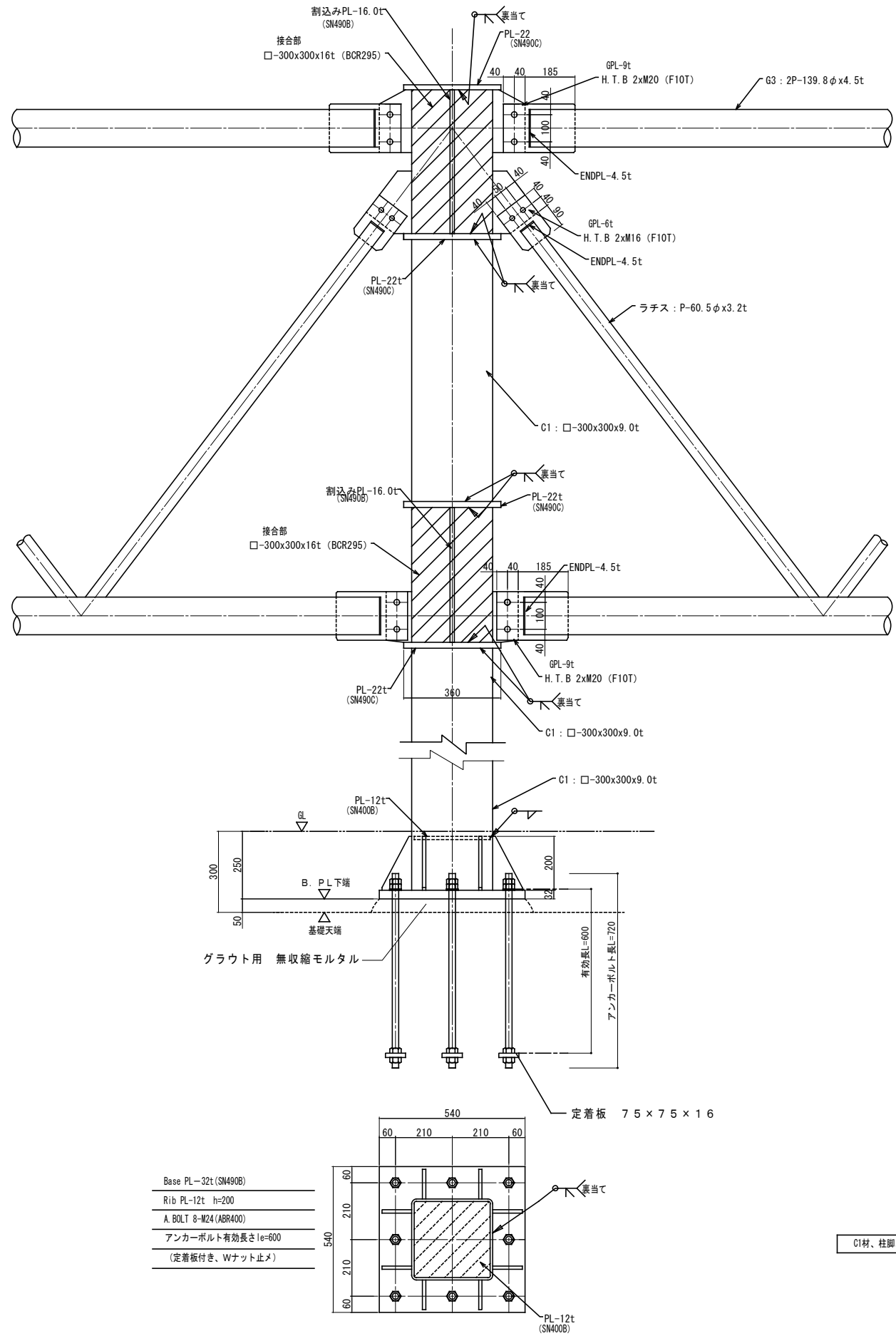
鉄骨断面リスト		
符号	部材	材質
C1	□-300×300×9 t	BCR295
P1	□-150×150×6.0 t	STKR400
P2	□-100×100×3.2 t	STKR400
P3	□-150×150×9.0 t	STKR400
G1	上下弦材: P-190.7φ×7.0 t D=1,500 ラチス材: P-89.1φ×3.2 t	STK400
G2	上下弦材: P-139.8φ×4.5 t D=1,500 ラチス材: P-60.5φ×3.2 t	STK400
G3	上下弦材: P-139.8φ×4.5 t D=1,806 ラチス材: P-60.5φ×3.2 t	STK400
CG1	P-139.8φ×4.5 t	STK400
CG2	P-139.8φ×4.5 t	STK400
B1	上下弦材: P-139.8φ×4.5 t D=1,500 ラチス材: P-60.5φ×3.2 t	STK400
B2	P-190.7φ×5.3 t	STK400
B3	P-165.2φ×4.5 t	STK400
B4	P-139.8φ×4.5 t	STK400
B5	□-125×125×3.2 t	STKR400
B6	P-139.8φ×4.5 t	STK400
B7	P-89.1φ×3.2 t	STK400
V1	1-M16 (ターンバックル締め)	JIS A 5540
PL類		SS400

凡 例
 は増打部分を示す

共通事項
 特記なき限り下記による
 柱脚ベース底は設計GL-250とする
 地中梁天端は設計GL-300とする
 基礎ベース底はGL-1,200とする
 立上り壁はW18とする

軸組図 S=1/150
 A3-S=1:300

▽: フランジ位置(継手)を示す
 フランジ位置は製作時に再検討とする。



- Base PL-32t (SN490B)
- Rib PL-12t h=200
- A. BOLT 8-M24 (ABR400)
- アンカーボルト有効長さ le=600 (定着板付き、Wナット止め)

C1材、柱脚、柱頭 仕口図 S=1/10

P3材、柱脚、柱頭 仕口図 S=1/10

P2材、柱脚、柱頭 仕口図 S=1/10

※アンカーボルト有効長さleは座金上部から定着板下面までの長さ

工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事

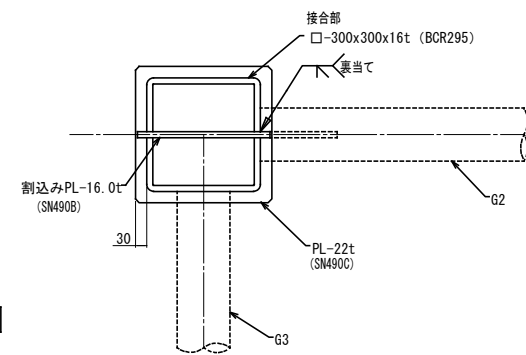
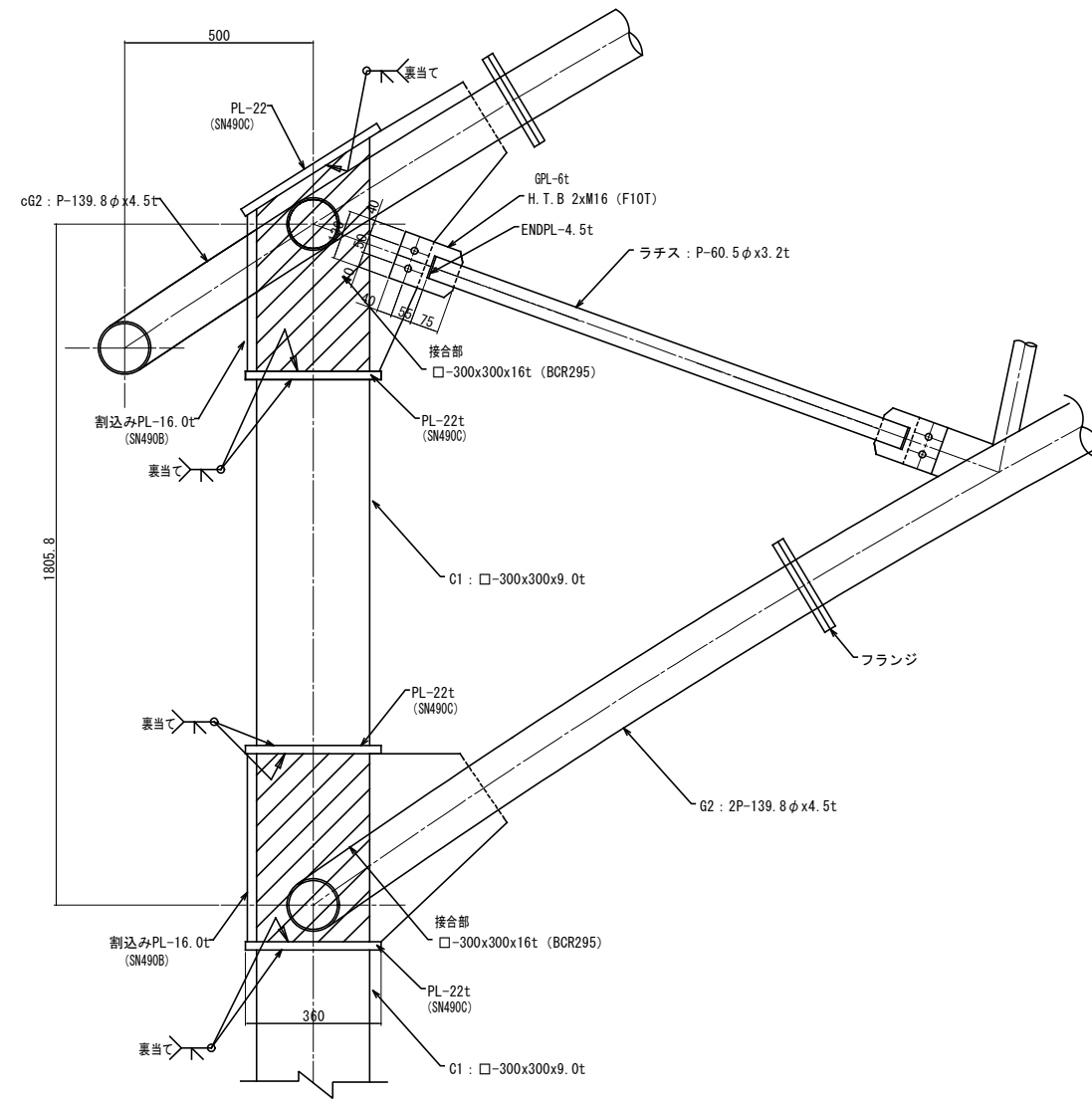
図面名称 鉄骨詳細図(1)

S=1:10 (A3版 S=1:20)

キタイ設計(株)

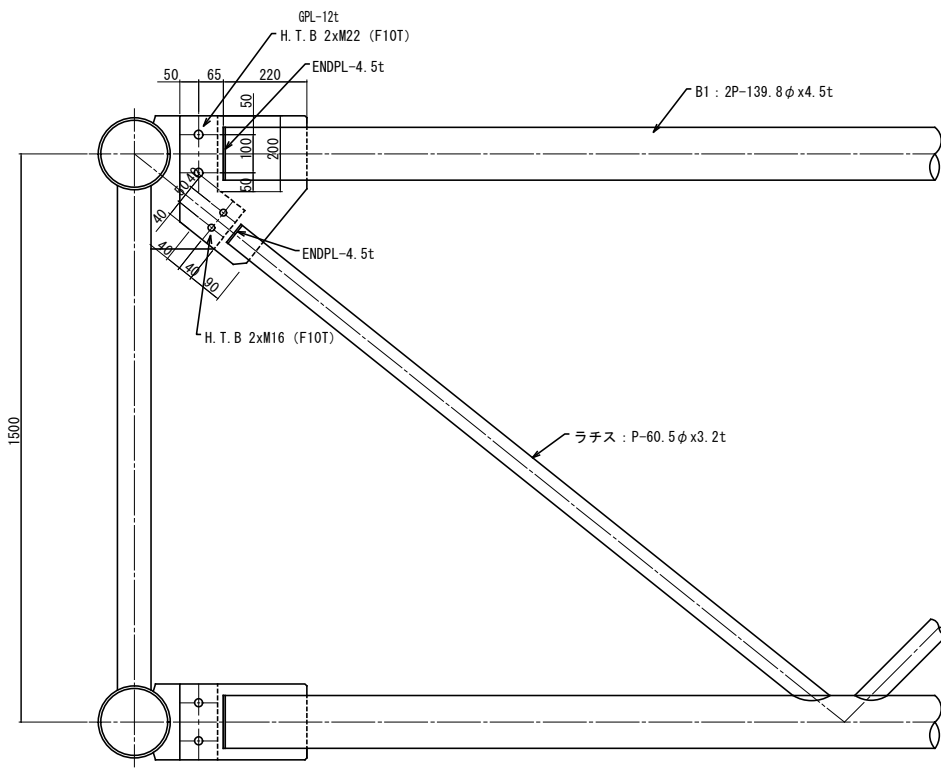
一級建築士319755号 小川 龍二

C-17



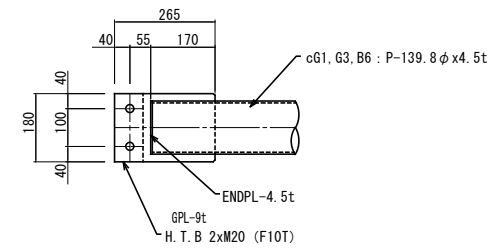
C1材、妻面仕口図 S=1/10

				工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
				図面名称	鉄骨詳細図(2) S=1:10 (A3版 S=1:20)
				キタイ設計(株)	一級建築士319755号 小川 龍二 C-18

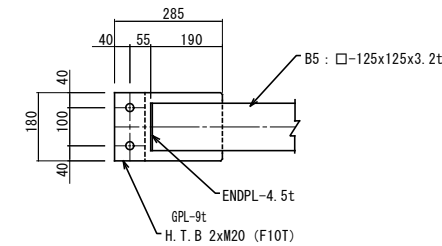


B1材 仕口詳細図 S=1/10

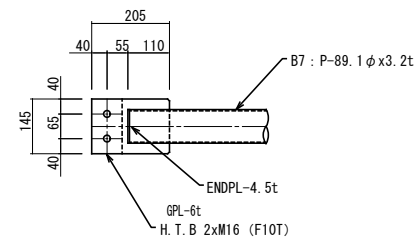
*G2材との取り合い部はガセット割込みとする



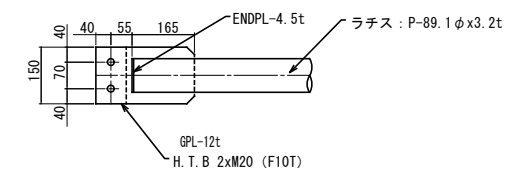
cG1, G3, B6 仕口詳細図 S=1/10



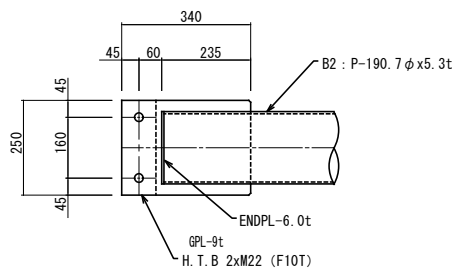
B5材 仕口詳細図 S=1/10



B7材 仕口詳細図 S=1/10

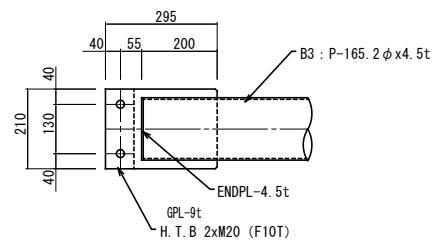


G1材ラチス 仕口詳細図 S=1/10

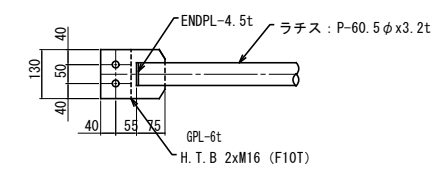


B2材 仕口詳細図 S=1/10

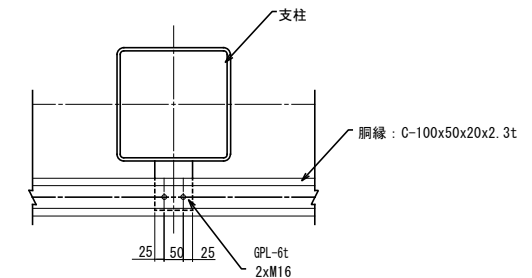
*G2材との取り合い部はガセット割込みとする



B3材 仕口詳細図 S=1/10

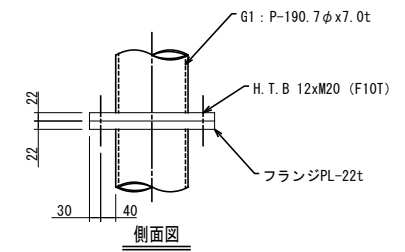


G2, G3, B1材ラチス 仕口詳細図 S=1/10

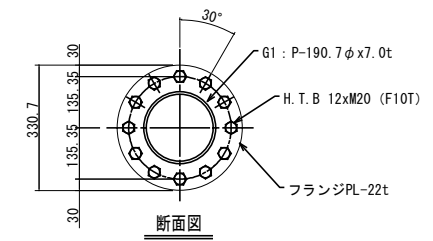


鋼線材 仕口詳細図 S=1/10

*リブプレートが必要な場合はRibPL-6tとする。



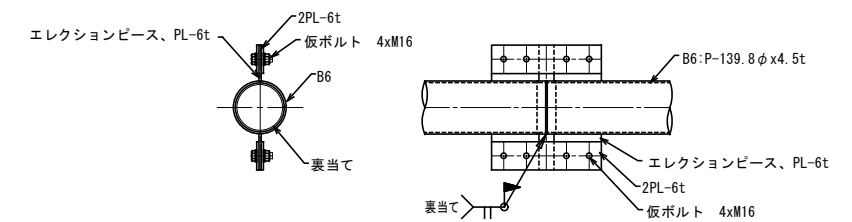
側面図



断面図

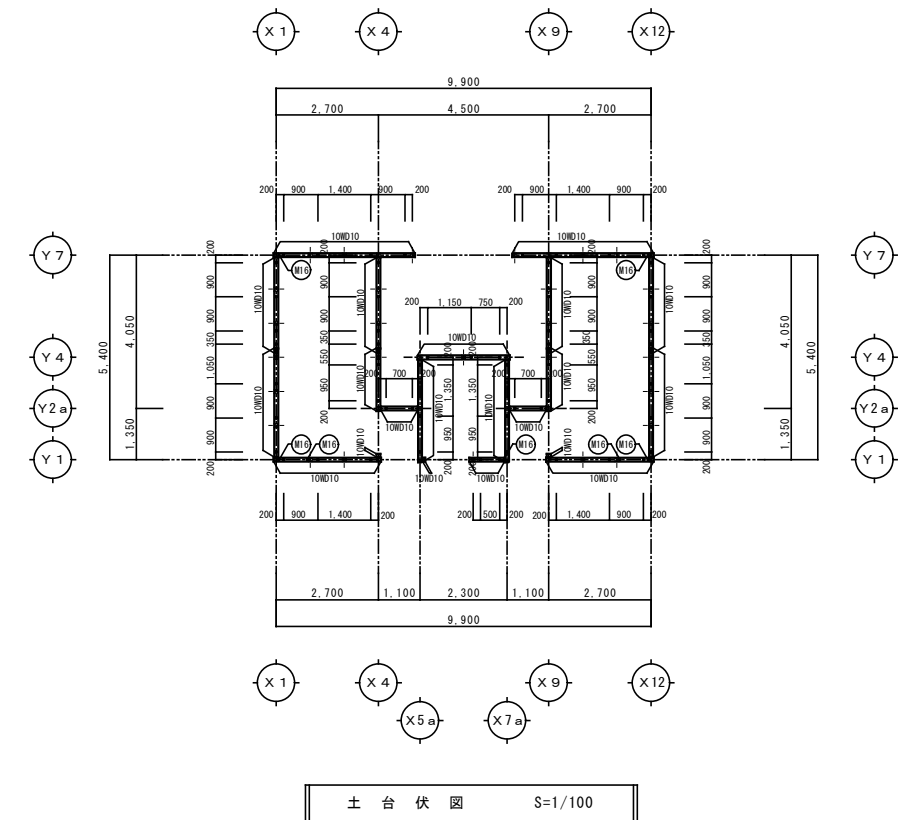
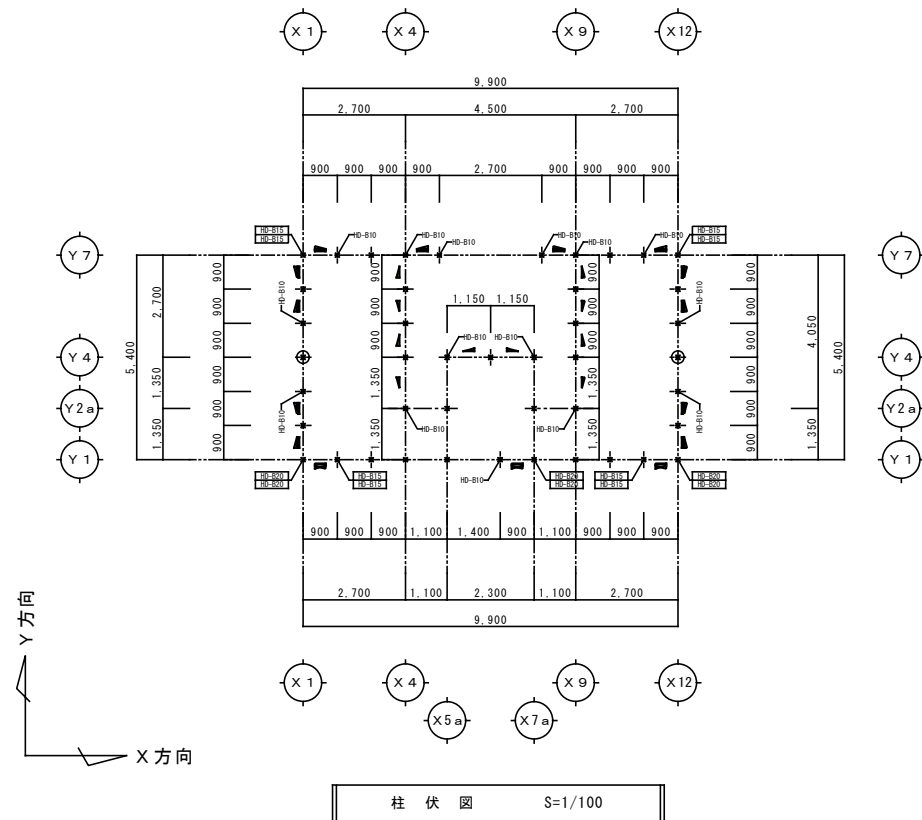
フランジPL-パイプ間は突きあわせ溶接とする。

G1材 フランジ詳細図 S=1/10



G2, G3, G4 材 現場溶接詳細図 S=1/10

- ・ジョイント位置は製作時にトラック運搬 鉄骨建方等を考慮の上最終位置決定のこと。
- ・エレクションピースは鉄骨建て方針圖に応じて枚数、配置を決定すること。
- ・エレクションピースは現場溶接完了後、5mm程度残してカットし、グラインダー仕上げのこと。

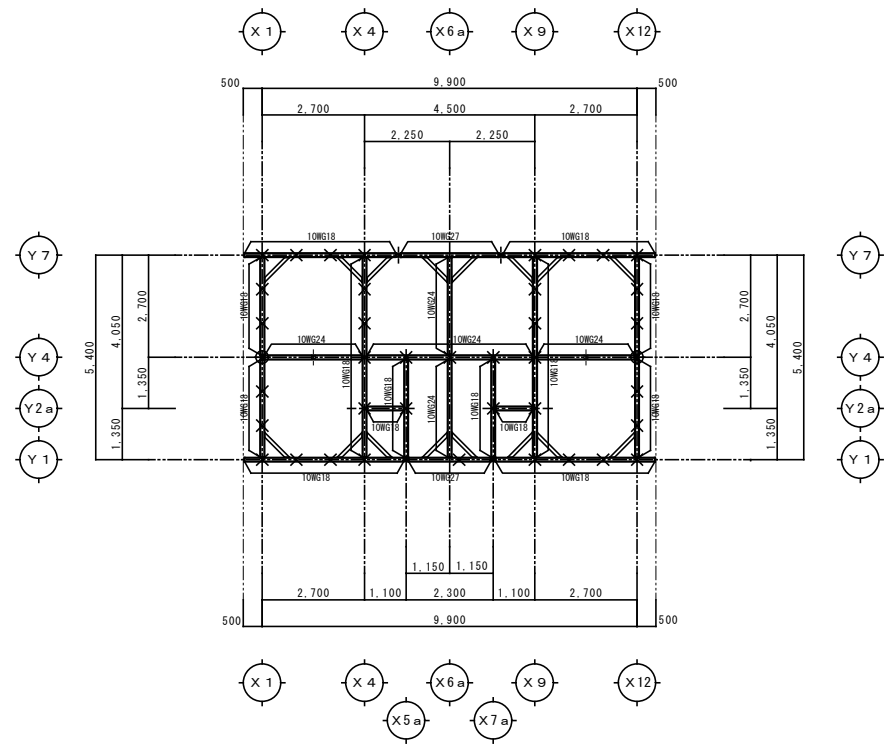


各階柱頭金物を示す
 各階柱脚金物を示す
 HD-B10: 8-φ3'の金物(10KN用)同等以上を示す。(柱頭・柱脚共)
 HD-B15: 8-φ3'の金物(15KN用)同等以上を示す。(柱頭・柱脚共)
 HD-B20: 8-φ3'の金物(20KN用)同等以上を示す。(柱頭・柱脚共)

※ 特記なき柱の柱頭は、短ホゾ+かすがい打ち同等以上とする。
 ※ 特記なき柱の柱頭は、長ホゾ+かすがい打ち同等以上とする。
 特記なき柱: WC1 (10WC10) 105×105 を示す。
 印は、化粧柱 を示す。
 印は、通し柱 を示す。
 印は、壁筋違: WV1 45×90 (S) + 構造用合板 t=9mm片面貼り を示す。
 WV1筋違は2倍筋違金物取付とする。
 印は、壁筋違: WV2 45×90 (S) を示す。
 WV2筋違は2倍筋違金物取付とする。
 印は、壁筋違: WV3 45×90 (W) + 構造用合板 t=9mm片面貼り を示す。
 WV3筋違は2倍筋違金物取付とする。

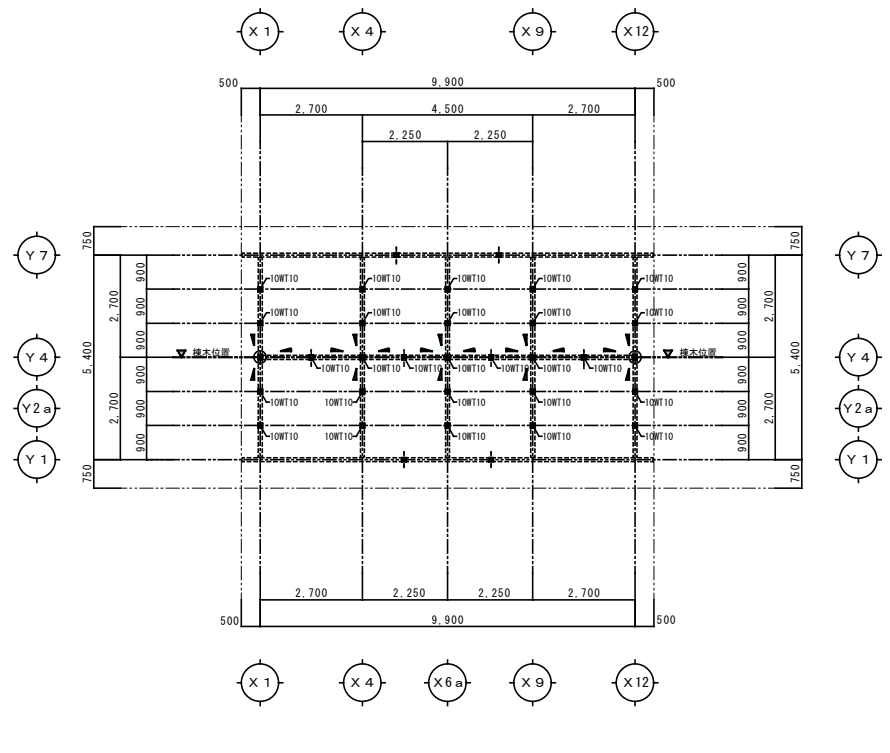
印は、柱 WC1: 105×105 を示す。
 印は、土台 10WD10: 105×105 (土台天端: D-GL+975) を示す。
 印は、土台継手(腰掛け継ぎ)を示す。
 印は、土台取付用フック-φ16 1-M12 (L=450) を示す。
 (埋込み長さL=250mm以上)
 印は、HD金物取付用フック-φ16 1-M16 (L=800) を示す。
 (埋込み長さL=360mm以上)

工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事		
図面名称 柱伏図・土台伏図(便所・倉庫)		S=1:100 (A3版 S=1:200)
キタイ設計(株)		C-20 <small>一級建築士 第319755号 小川龍二</small>



梁伏図 S=1/100

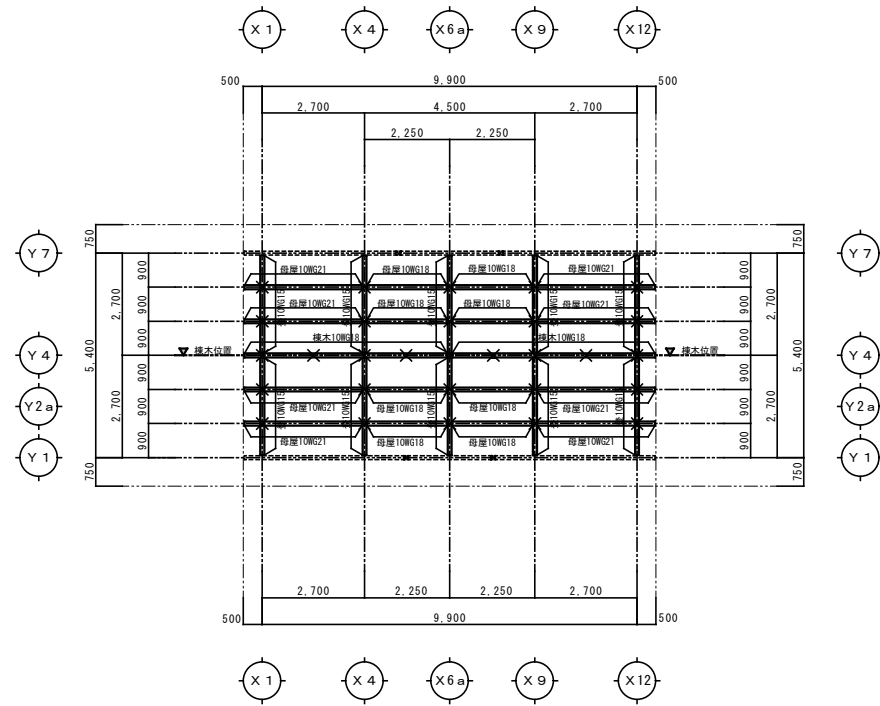
- (注) 特記無き基準梁天端は GL+2.840 を示す。
- 印は、一般梁天端高さの異なる梁を示す。
- (×××) 記入寸法は 基準梁天端よりの高さの差 を示す。
- 印は 梁下柱 を示す。
- 印は 火打梁 90×90 を示す。
- (注) 特記無き梁は 10W615 (105×150) を示す。



小屋束伏図 S=1/100

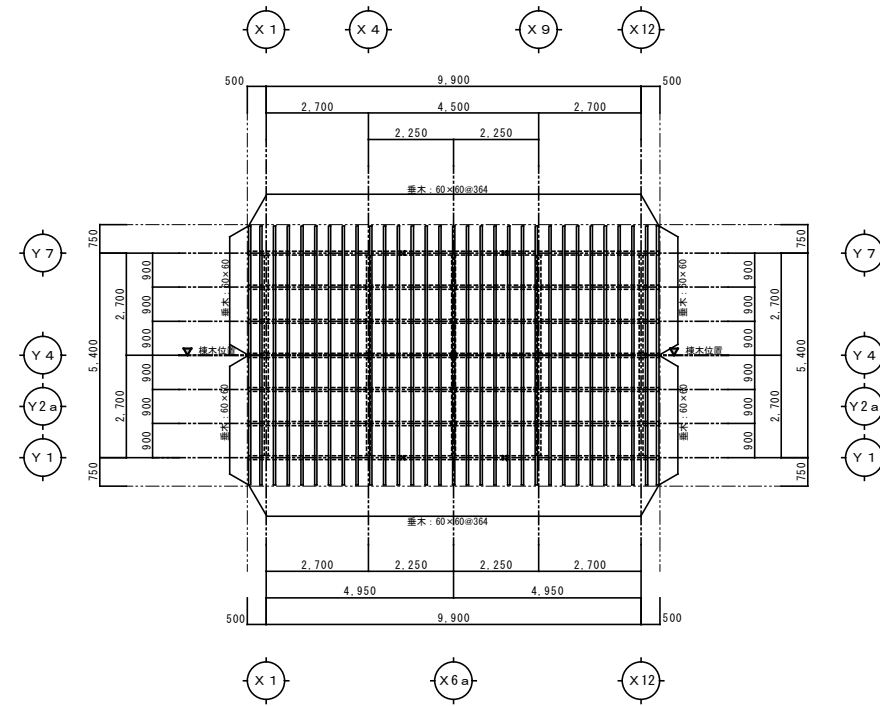
- (注) 特記無き小屋束は 10WT10 (105×105) を示す。
- 印は、小屋筋違: W4 90×90 (S) を示す。

				工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
				図面名称	梁伏図・小屋束伏図(便所・倉庫)	S=1:100 (A3版 S=1:200)
				設計者	キタイ設計(株)	C-21
				設計者	一級建築士 第319755号 小川龍二	



小屋伏図 S=1/100

印は 勾配梁 を示す。
 印は 母屋下小屋束 を示す。
 (注) 特記無き母屋は 10W12 (105×120) を示す。

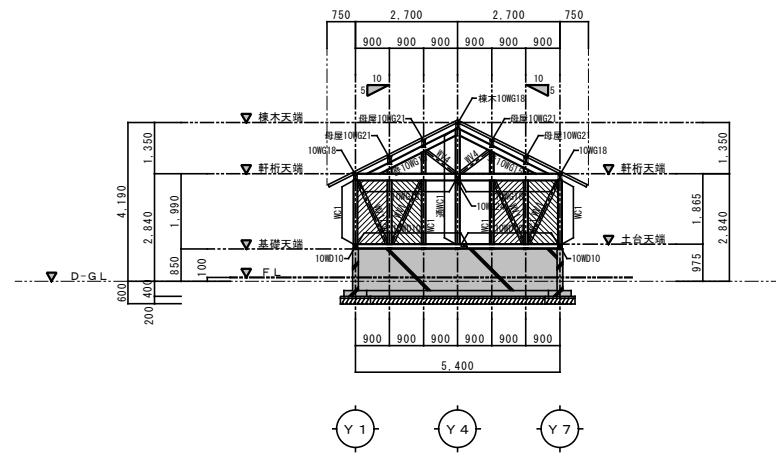


屋根伏図 S=1/100

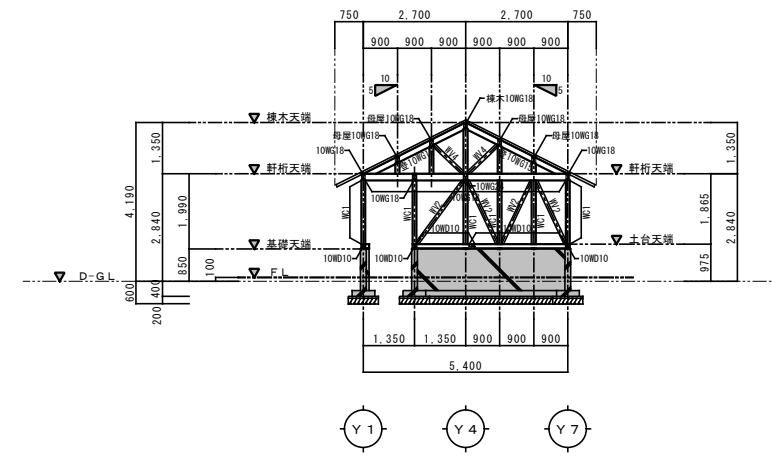
印は 垂木 60×60 を示す。
 (注) 特記無き母屋は 10W12 (105×120) を示す。

部材リスト (製材品は総て京都市内産とする)

部材記号	断面寸法	樹種・等級
WC1 (柱10WC10)	105×105	ヒノキ製材化粧 無等級
WT1 (小屋束)	105×105	ヒノキ製材化粧 無等級
10WD10 (土台)	105×105	ヒノキ製材 無等級
WV1 (壁筋違)	45×90	スギ製材 無等級
WV2 (壁筋違)	45×90	スギ製材 無等級
WV3 (壁筋違)	45×90	スギ製材 無等級
WV4 (小屋筋違)	90×90	ヒノキ製材化粧 無等級
△△WG□□	△△0×□□0	ヒノキ製材化粧 無等級
(例) 10WG18	105×180	ヒノキ製材化粧 無等級
火打束	90×90	ヒノキ製材化粧 無等級
棟木 (10WG18)	105×180	ヒノキ製材化粧 無等級
母屋 (10WG24)	105×240	ヒノキ製材化粧 無等級
母屋 (10WG21)	105×210	ヒノキ製材化粧 無等級
垂木	60×60@364	ヒノキ製材化粧 無等級

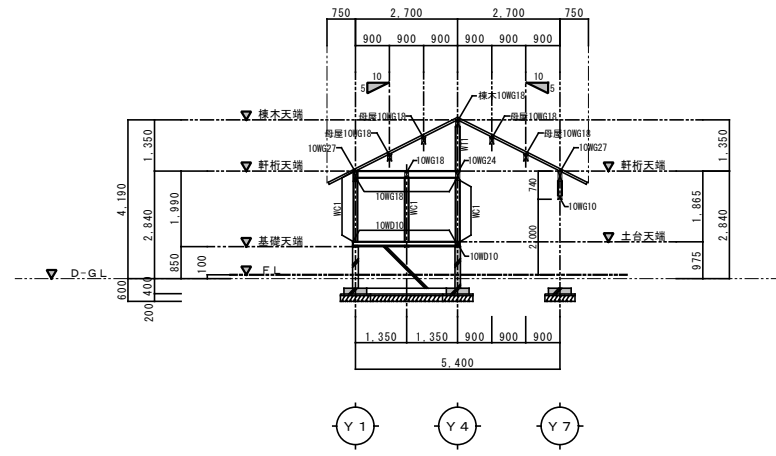


X 1 通り 軸組図 S=1/100



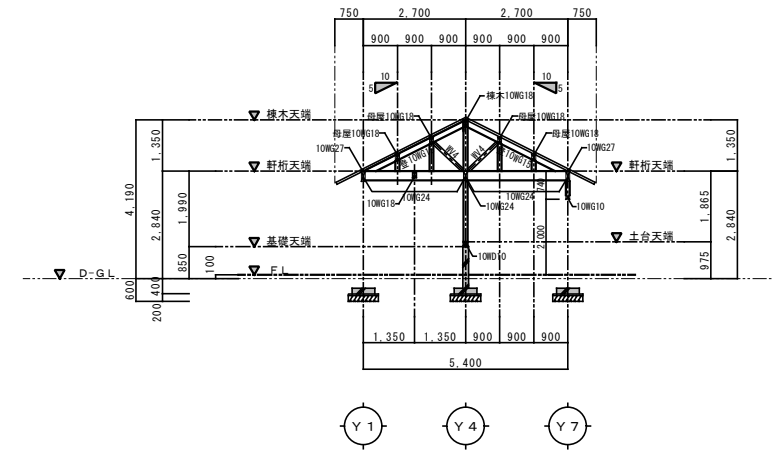
X 4 通り 軸組図 S=1/100

X 9 通り 軸組図 S=1/100

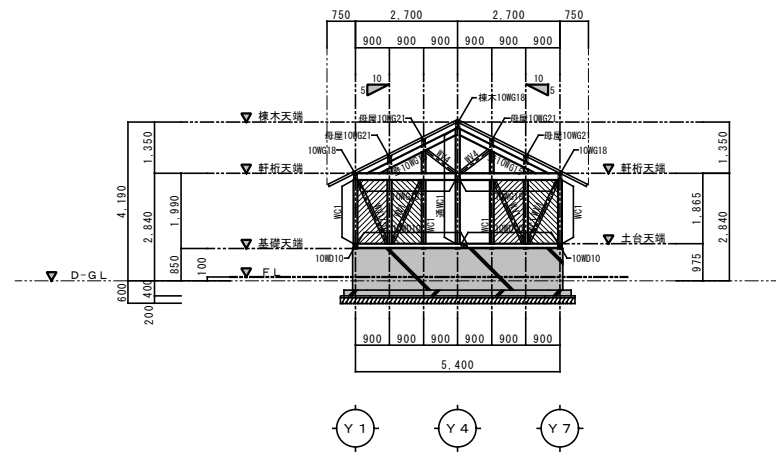


X 5 a 通り 軸組図 S=1/100

X 7 a 通り 軸組図 S=1/100



X 6 a 通り 軸組図 S=1/100



X 12 通り 軸組図 S=1/100

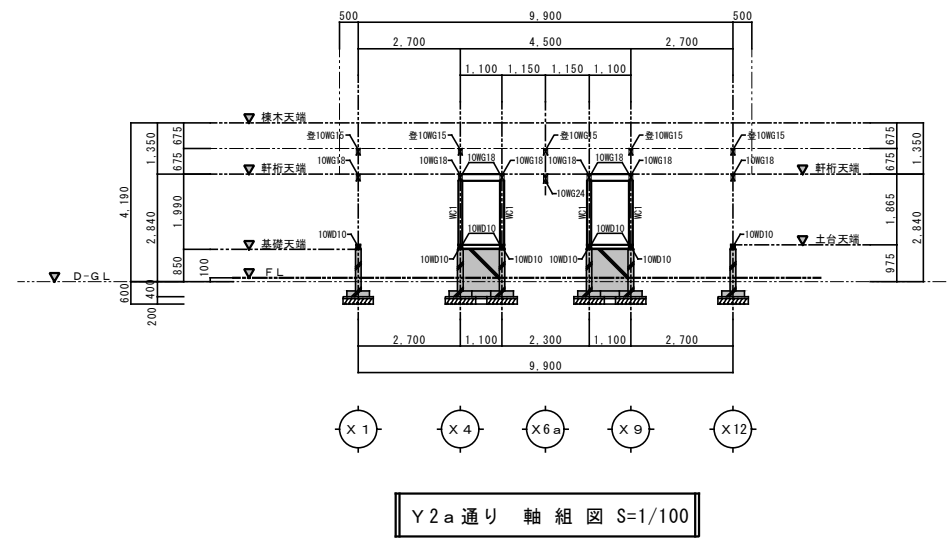
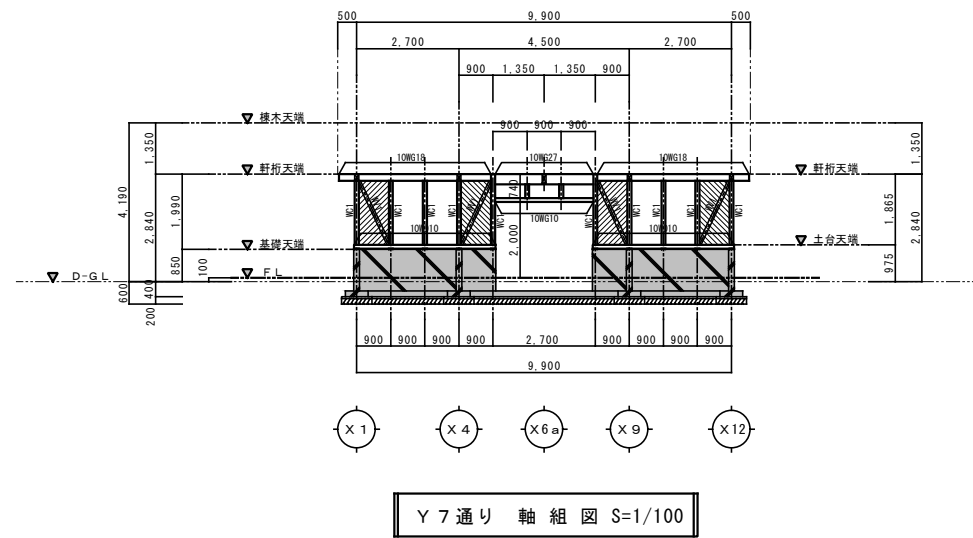
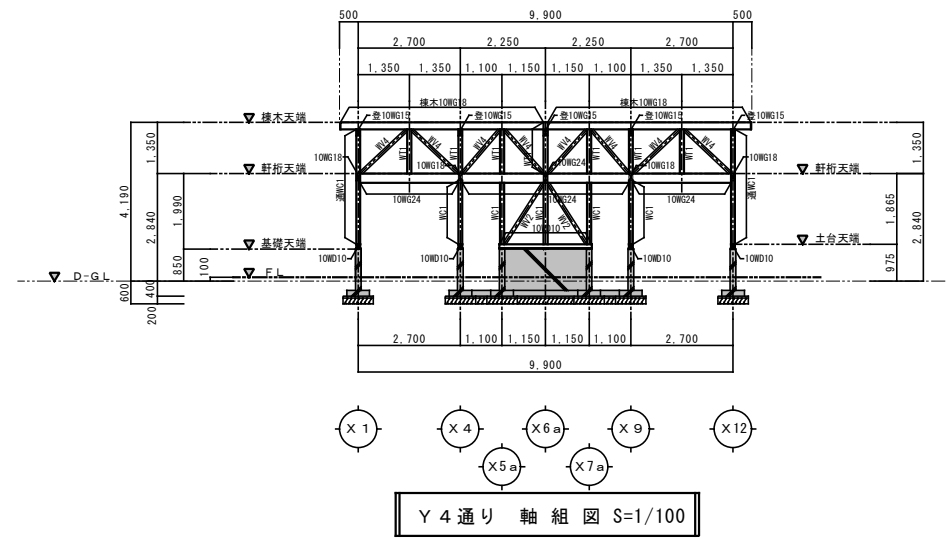
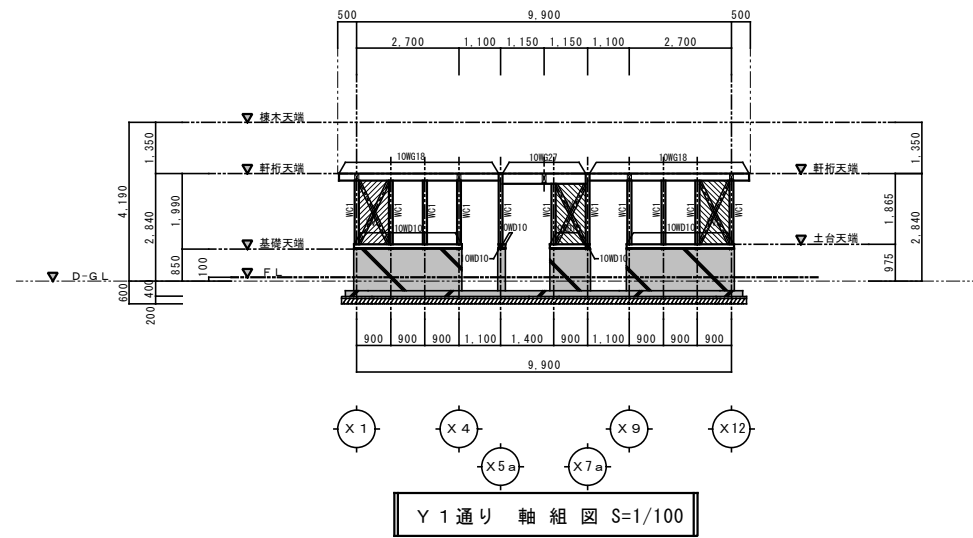
横架材接合部仕様

- (1) 横架材接合は特記無き限り総て、大入れ蟻掛け仕口とし、掘込みボルト引きとする。
横架材梁成がH=270以上の梁は、掘込み引きボルト2本引きとする。
- (2) 横架材ジョイント部は特記無き限り総て、腰掛け縁懸ぎ仕口とし、短冊金物S取付とする。
- (3) 横架材と通し柱の接合は特記無き限り、小胴付きほぞ差し仕口とし、掘込み両引きボルトを取付ける事。
横架材梁成がH=270以上の梁は、両引きボルト2本引きとする。

木造仕様規定による注意事項

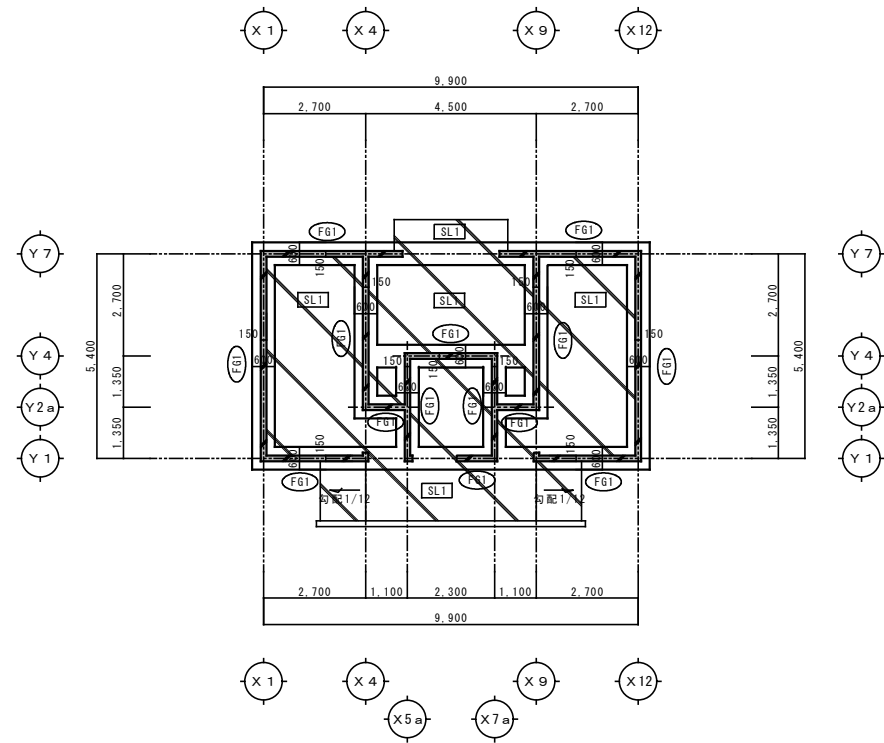
- (1) 構造耐力上主要な部分に使用する木材品質は、節・腐れ・繊維の傾斜・丸身等による耐力上の欠点が無い物を使用する事。
- (2) 令43条規定の「柱の小径」に基づいて算定した柱の所要断面積の3分の1以上を欠き取る場合は、その部分を補強する事。
- (3) 梁・桁・その他の横架材においては、材中央部付近の下側に、耐力上支障のある欠き込みをしない事。
- (4) 筋違には欠き込みをしない事。又、筋違をたすき掛けにする為に欠き込みをする場合は、必要な補強を行う事。
- (5) 構造耐力上主要な部分の継手又は仕口は、ボルト締め・かすがい打・込釘打その他の国土交通大臣が定める構造方法によりその部分の存在応力を伝えるように緊結する事。
- (6) ボルト締めには、ボルト径に応じ有効な大きさと厚さを有する座金を使用する事。
- (7) 木造の外壁には、軸組が腐らないよう下地に防水紙その他これに類するものを使用する事。
- (8) 構造耐力上主要な部分である柱・筋違及び土台のうち、地面から1m以内の部分には、有効な防蟻措置を講ずると共に、必要に応じて、白蟻その他の虫による被害を防ぐ為の処置を講ずる事。

			工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
			図面名称	軸組図(1)(便所・倉庫)	S=1:100 (A3版 S=1:200)
				キタイ設計(株)	C-23
				一級建築士 第319755号 小川龍二	



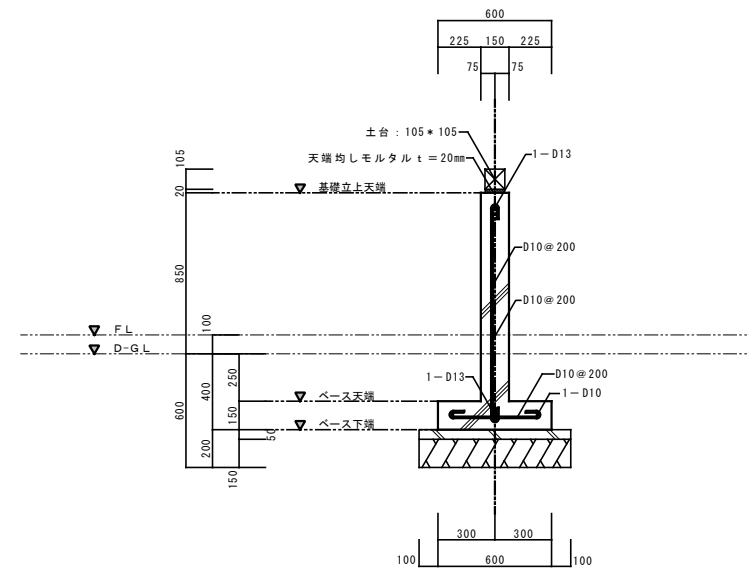
一級建築士登録番号 第102651号 松井 哲 印

			工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
			図面名称	軸組図(2) (便所・倉庫)	S=1:100 (A3版 S=1:200)
				キタイ設計(株)	C-24
				一級建築士 第319755号 小川龍二	

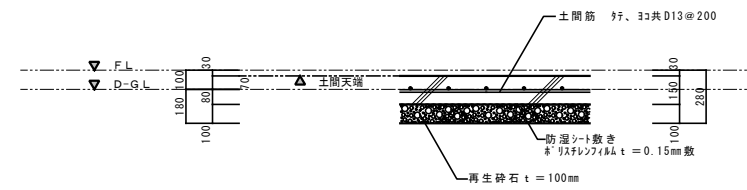


基礎伏図 S=1/100

使用材料	
コンクリート	底盤 : Fc 21 立上り : Fc 21 土間 : Fc 21
鉄筋	D-10~D-16 : SD295A
設計地耐力	30KN/m ²



F01 布基礎断面図 S=1/20



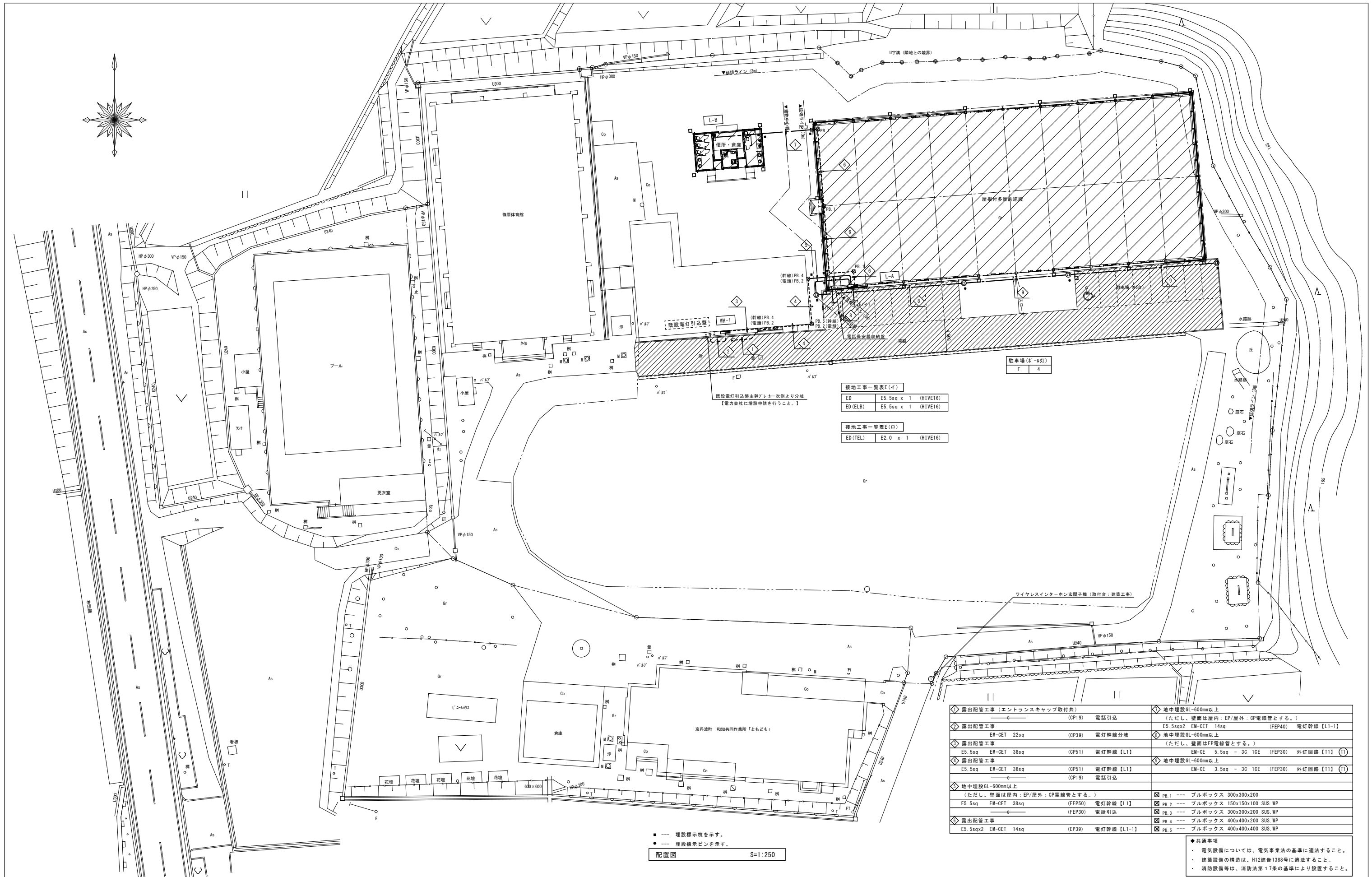
SL1 土間断面図 S=1/20

工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事

図面名称 基礎伏図・布基礎断面図・土間断面図(便所・倉庫) S=1:20, 100 (A3用紙 S-1:40, 200)

キタイ設計(株)

一級建築士 第319755号 小川龍二 C-25



接地工事一覽表E(イ)

ED	E5.5sq x 1 (HIVE16)
ED(ELB)	E5.5sq x 1 (HIVE16)

接地工事一覽表E(ロ)

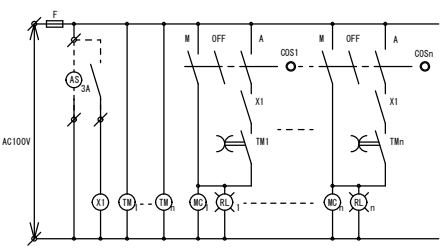
ED(TEL)	E2.0 x 1 (HIVE16)
---------	-------------------

● --- 埋設標示板を示す。
● --- 埋設標示ピンを示す。
配置図 S=1:250

⊕ 露出配管工事 (エントランスキャップ取付共)	(CP19) 電話引込	⊕ 地中埋設GL-600mm以上	(ただし、壁面は屋内：EP/屋外：CP電線管とする。)
⊕ 露出配管工事	EM-CET 22sq (CP39) 電灯幹線分岐	E5.5sqx2 EM-CET 14sq (FEP40) 電灯幹線【L1-1】	⊕ 地中埋設GL-600mm以上
⊕ 露出配管工事	E5.5sq EM-CET 38sq (CP51) 電灯幹線【L1】	(ただし、壁面はEP電線管とする。)	
⊕ 露出配管工事	E5.5sq EM-CET 38sq (CP51) 電灯幹線【L1】	EM-CE 5.5sq - 3C 1CE (FEP30) 外灯回路【T1】 (1)	⊕ 地中埋設GL-600mm以上
⊕ 露出配管工事	(CP19) 電話引込	EM-CE 3.5sq - 3C 1CE (FEP30) 外灯回路【T1】 (1)	
⊕ 地中埋設GL-600mm以上	(ただし、壁面は屋内：EP/屋外：CP電線管とする。)		
E5.5sq EM-CET 38sq (FEP50) 電灯幹線【L1】		⊕ P8.1 --- ブルボックス 300x300x200	
(FEP30) 電話引込		⊕ P8.2 --- ブルボックス 150x150x100 SUS.WP	
⊕ 露出配管工事		⊕ P8.3 --- ブルボックス 300x300x200 SUS.WP	
E5.5sqx2 EM-CET 14sq (EP39) 電灯幹線【L1-1】		⊕ P8.4 --- ブルボックス 400x400x200 SUS.WP	
		⊕ P8.5 --- ブルボックス 400x400x400 SUS.WP	

- ◆ 共通事項
- 電気設備については、電気事業法の基準に適合すること。
 - 建築設備の構造は、H12建告1388号に適合すること。
 - 消防設備等は、消防法第17条の基準により設置すること。

分電盤リスト		(注記1) 分電盤仕様：メーカー標準仕様・標準色塗装仕上げ(グレー系) (注記2) 分岐閉閉器は1P1Fとする。【2線式リモコン(ワンショット)】 また、200V回路のリモコンは2Pとする。TR・・・リモコン									
盤名称 幹線番号	主幹容量 合計容量	回路 番号	電圧 V	分岐閉閉器		負荷名称	リモ コン Ry	電圧 種類	負荷容量 VA	備考	
				MOB	ELB						
閉閉器 (WH-1)											
屋外露出型SUS製扉付(扉付)											
電力量計検針室x1窓付											
参考寸法 400Wx600Hx200D											
AC 1φ3W60Hz200/100V 22sq 【 既設電灯引込盤より 】									9403		
電灯分電盤 (L-A)											
屋内露出型鋼板扉付											
参考寸法 700Wx1400Hx160D											
AC 1φ3W60Hz200/100V 38sq 【 L1 】											
電灯分電盤 (L-B)											
屋内露出型鋼板扉付											
参考寸法 600Wx700Hx160D											
AC 1φ3W60Hz200/100V 14sq 【 L1-1 】											



結線図 A 屋外灯操作回路

凡例		(注記) 特記なきプレート種別は、新金属プレートとする。	
記号	名称	備考(参考品番)	
●	埋込型ワイトスイッチ(コモリズ)	1P15Ax1	3:3路スイッチ 4:4路スイッチ
●L	"	1P 4Ax1 PL内蔵	3:3路スイッチ 4:4路スイッチ
⊗	2線式リモコンスイッチ (ワンショットリモコン)		電灯設備図参照
●AS	自動点滅器	AC100V 3A	参考品番 EE4413K
⓪1	埋込型コンセント	2P15Ax1	
⓪2	"	2P15Ax2	
⓪ZE	"	2P15Ax1 接地極付	
⓪ET	"	2P15Ax1 接地端子付	
⓪LK	"	2P15Ax1 抜止式	
⓪	警報ランプ付プザー		参考品番 EA5501
■	押釦		参考品番 WS65771
⓪	ワイヤレスインターホン親機		参考品番 (DX7分) DWP10A1
⓪	ワイヤレスインターホン玄関子機		同上のセット機器
⊗	アウトレットボックス		VE製
⊗PB	プルボックス		
⊗	露出丸型ボックス		
⊗NP	"	ノーズプレート付	
■	電灯分電盤		盤結線図参照
□	弱電端子盤		
⊗	壁付換気扇		機械設備工事
⊗	天井埋込換気扇		"
⓪	電灯回路番号		AC100V
⓪	電灯回路番号		AC200V
NO-記号	照明器具記号		照明器具図参照
⊗	ジョイントボックス		
↑ ↓	立上り、立下り		
---	地中埋設工事		
- - - - -	床インベイス		
- - - - -	天井インベイス		
- - - - -	露出配管工事		
- - - - -	木部ステップ止め		
- - - - -	架空配線工事		

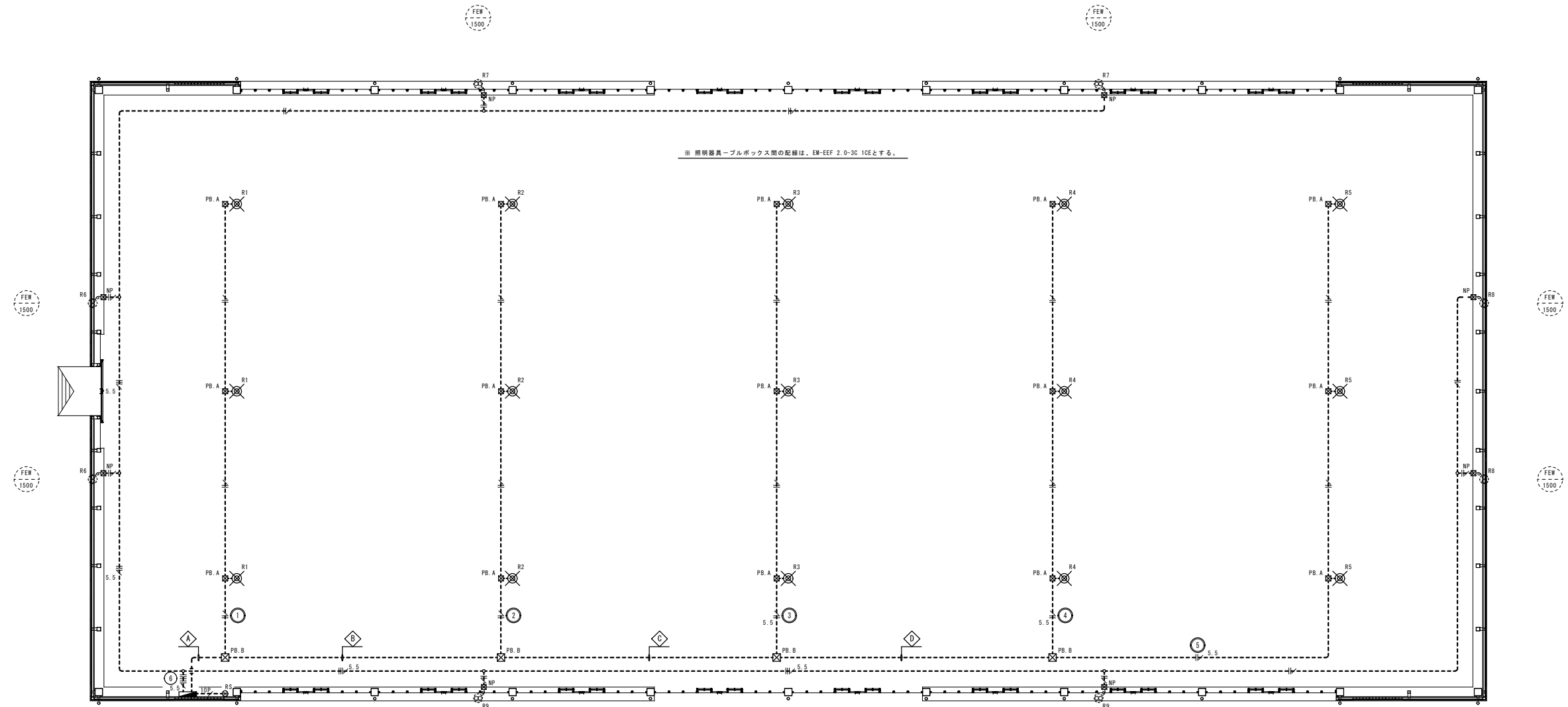
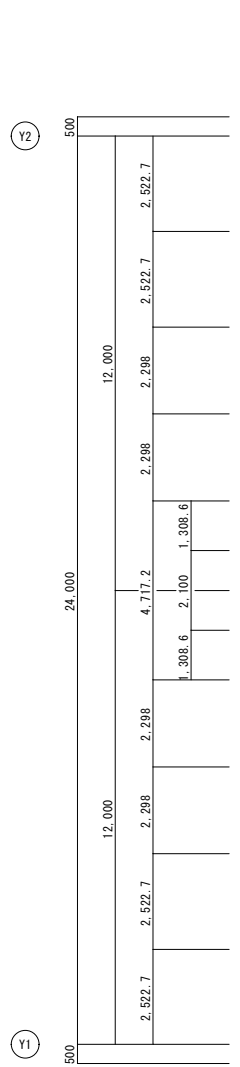
接地工事一覧表

接地極の使用材料は下記による。
丸型アース棒は銅又は銅覆鋼製とし、S型アース棒は銅覆鋼製接地棒とする。
接地棒EBの長さは、1500mm以上とし、丸型10φ・14φはS型W=40としてもよい。
下記仕様にて施工に当たる事とし、指定抵抗値が得られた時点にて、監督員に報告のうえ承諾をもって、良とする。
尚、数量の増減にかかわらず、原則として請負金額の増減は行わないものとする。

接地の種類	記号	接地抵抗値	接 地 極	
・ A 種	EA	10 Ω以下	EB(14φ)x3 連 -2組	EP(EP-0.9) -1 枚
・ B 種	EB	10 Ω以下	EB(14φ)x2 連 -2組	EP(EP-0.9) -1 枚
・ B 種	EB	150/1 Ω以下	EB(14φ)x2 連 -2組	EP(EP-0.9) -1 枚
・ C 種	EC	10 Ω以下	EB(14φ)x3 連 -2組	EB(14φ)x3 連 -3組
⊙ D 種	ED	100 Ω以下	EB(10φ)x1 連 -1組	EB(14φ)x1 連 -1組
⊙ D種 (ELB)	ED(ELB)	100 Ω以下	EB(10φ)x1 連 -1組	EB(14φ)x1 連 -1組
・ 高圧避雷器	ELA	10 Ω以下	EB(14φ)x3 連 -2組	EP(EP-0.9) -1 枚
・ 低圧避雷器	ELL	10 Ω以下	EB(14φ)x3 連 -2組	EP(EP-0.9) -1 枚
・ 避雷設備	EL	10 Ω以下	EB(14φ)x3 連 -2組	EP(EP-0.9) -1 枚
・ 共同接地	EAD	10 Ω以下	EB(14φ)x3 連 -2組	EP(EP-0.9) -1 枚
⊙ 電話保安器用	E(TEL)	100 Ω以下	EB(14φ)x1 連 -1組	EB(14φ)x2 連 -1組
・ 電話交換機用	E(PBX)	10 Ω以下	EB(14φ)x3 連 -1組	EB(14φ)x3 連 -2組
・ テレビ保安器用	E(TV)	100 Ω以下	EB(14φ)x1 連 -1組	EB(14φ)x2 連 -1組
・ 医療用	EH	Ω以下	EB(14φ)x2 連 -1組	EP(EP-0.9) -1 枚
・ 通信用	EN	Ω以下	EB(14φ)x2 連 -1組	EP(EP-0.9) -1 枚
・ 測定用	EP・EC	---	EB(10φ)x1 連 -1組	

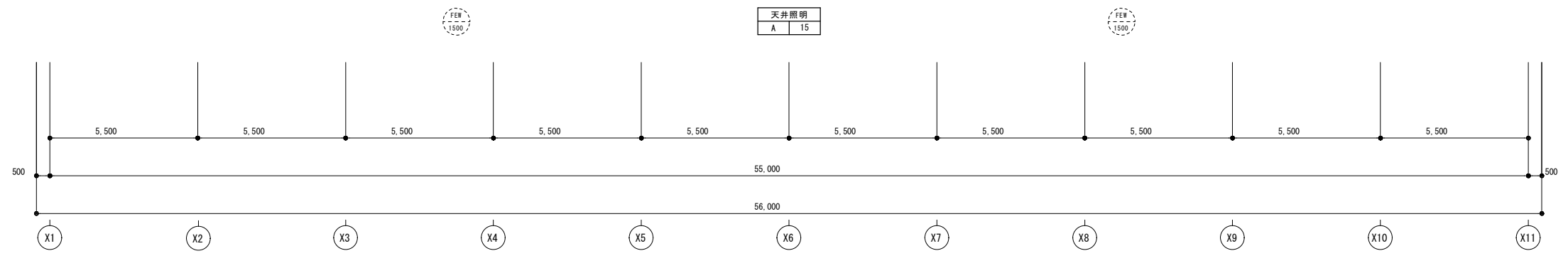
照明器具参考図			
A	LED7x33000 高天井用ベースライト (AC200V) 【 ランプ光束：33000 lm 】	E	LED電球 (25形)x1 プラケットWP 【 ランプ光束：360 lm 】
三菱 EL-C30002AN 2AHZ 相当品		三菱 EL-WVE1702L/H 相当品	
B	My40W形 ウォールウォッシャ 【 ランプ光束：2980 lm 】	F	LED7x330 屋外ポール灯 (コンクリート基礎共) 【 ポール内過電流遮断器15A取付共 (FMN-15A同等品) 】 【 ランプ光束：3070 lm 】 【 初期照度補正タイプ 】 【 昼白色/4800K 】
三菱 MY-N430131/N AHTN 相当品		三菱 EL-M3001N/K + PL7640DS(φ-φ4m) 相当品	
C	LED電球 (60形)x1 プラケットWP 【 ランプ光束：810 lm 】	30B	LED直付形非常灯 高天井用 BT付 (ミニLEDゲン30W相当)
三菱 EL-WCE2604C 相当品		三菱 EL-CB31013 相当品	
D	LED電球 (40形)x1 プラケット 【 ランプ光束：440 lm 】		
三菱 EL-VE1702C 相当品			

凡例
設置箇所
照明器具番号
台数



2線式リモコンスイッチ一覧表 (ワンタッチスイッチ)

記号	回路数	回路番号	参考品番 (メーカー)
RS	9L	照明 (西) 【R1】	NR6009
		照明 (西中) 【R2】	
		照明 (中) 【R3】	
		照明 (東中) 【R4】	
		照明 (東) 【R5】	
		換気扇 (西) 【R6】	
		換気扇 (北) 【R7】	
		換気扇 (東) 【R8】	
		換気扇 (南) 【R9】	



露出配管工事	E2.0 EM-IE 5.5sq x 6 (EP39)	電灯回路 (3)(4)(5)
	EM-IE 2.0 x 4	電灯回路 (1)(2)
露出配管工事	E2.0 EM-IE 5.5sq x 6 (EP39)	電灯回路 (3)(4)(5)
	EM-IE 2.0 x 2	電灯回路 (2)
露出配管工事	E2.0 EM-IE 5.5sq x 6 (EP31)	電灯回路 (3)(4)(5)
露出配管工事	E2.0 EM-IE 5.5sq x 4 (EP25)	電灯回路 (4)(5)
PB.A	--- プルボックス 150x150x100	
PB.B	--- プルボックス 300x300x200	

平面図 S=1:100

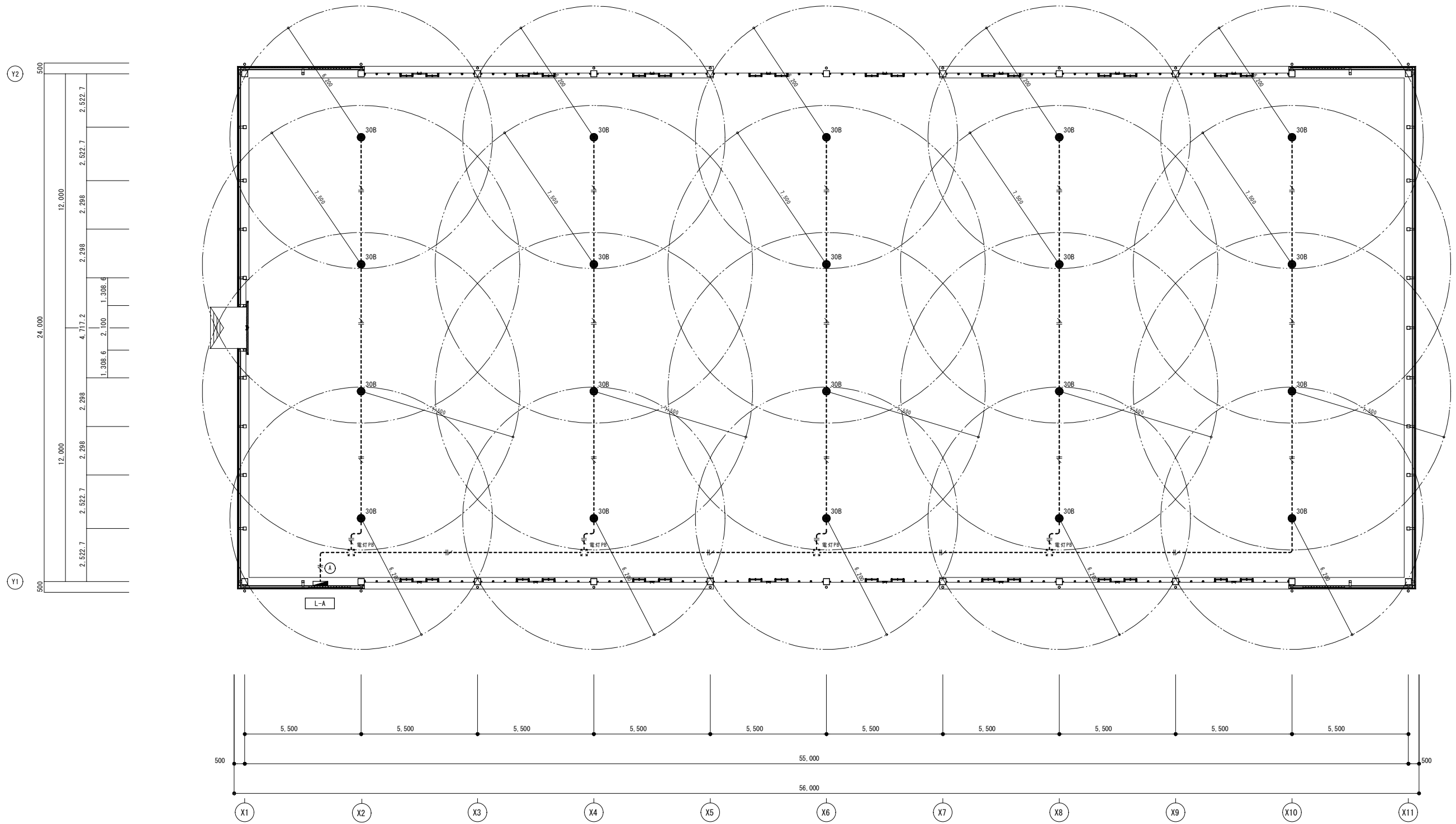
特記事項

特記なき配管配線は下記による。

電灯回路	---	EM-IE 2.0 x 2	E2.0 (EP19)	露出配管
"	---	EM-IE 5.5sq x 2	E2.0 (EP25)	露出配管
"	---	EM-IE 5.5sq x 3	E2.0 (EP25)	露出配管
"	---	EM-IE 5.5sq x 5	E2.0 (EP31)	露出配管
"	---	EM-AE 1.2 - 10P	(EP25)	露出配管

電気設備については、電気事業法の基準に適合すること。
建築設備の構造については、H12建告1388号に適合すること。

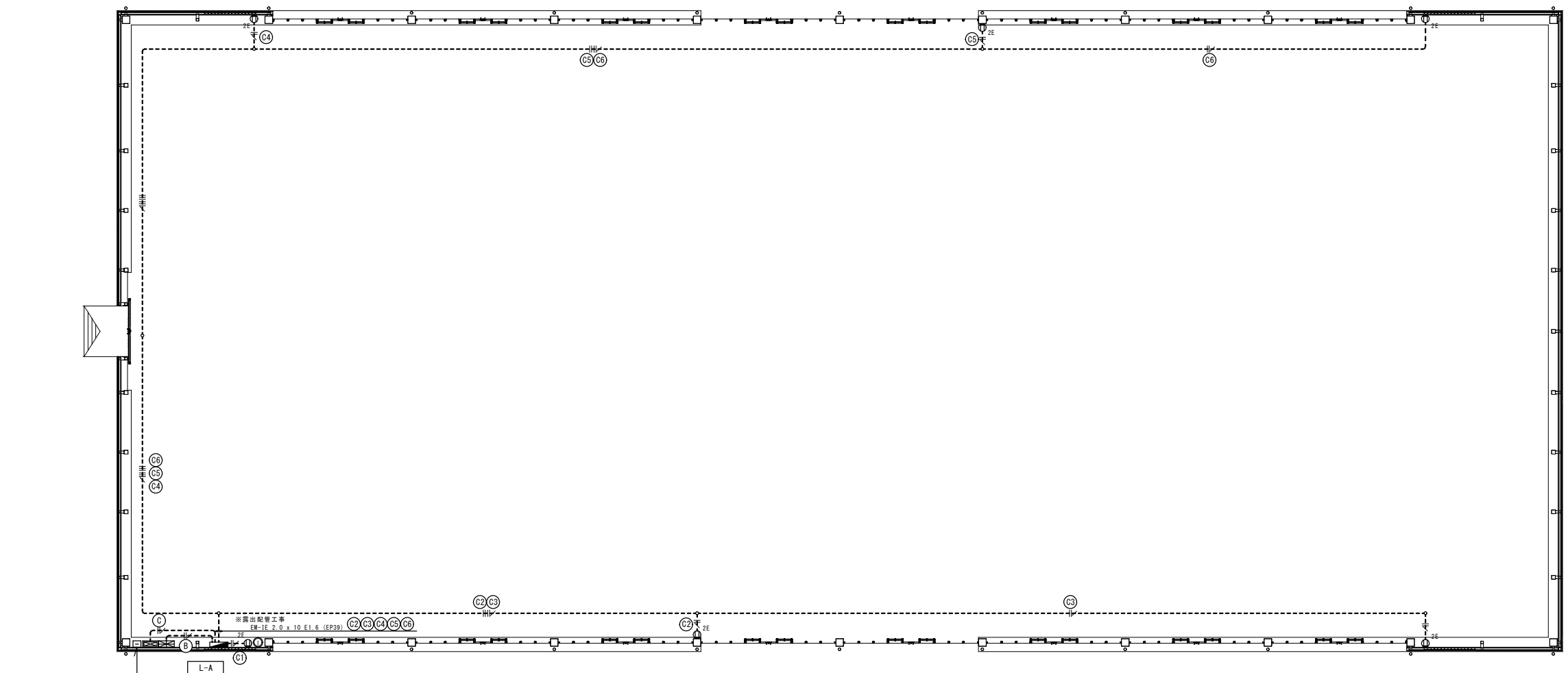
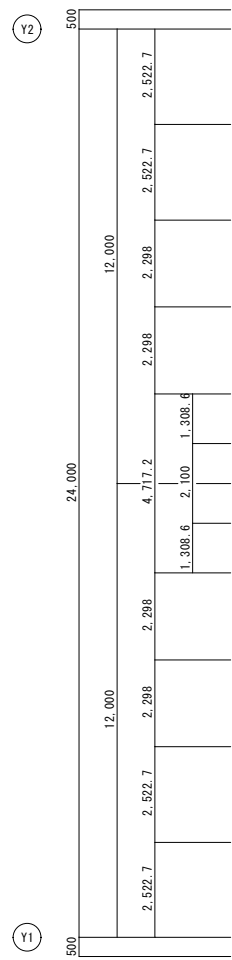
工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事			
図面名称	電灯設備図	平面図 (屋内多目的グラウンド)	S=1:100 (A3用 S=1:200)
キタイ設計 (株)			E-04
一級建築士319755号 小川 龍二			



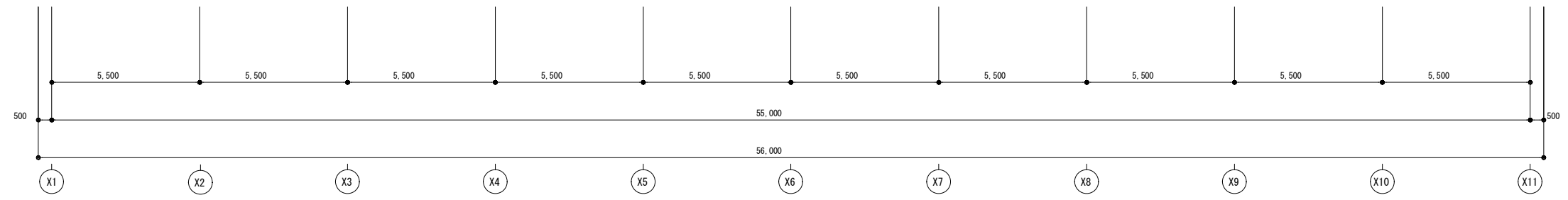
平面図 S=1:100

特記事項	
特記なき配管配線は下記による。	
非常照明回路	--- --- EM-IE 2.0 x 2 E1.6 (EP19) 露出配管
●	非常照明器具を示す。
EM-EF : 600V 耐燃性ポリエチレン絶縁電線 JIS C 3612 を使用すること。	
電気設備については、電気事業法の基準に適合すること。	
建築設備の構造については、H12建告1388号に適合すること。	

			工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
			図面名称 非常照明設備図	平面図 (屋内多目的グラウンド) S=1:100 (A3用 S=1:200)
			キタイ設計 (株)	一級建築士319755号 小川 龍二 E-05



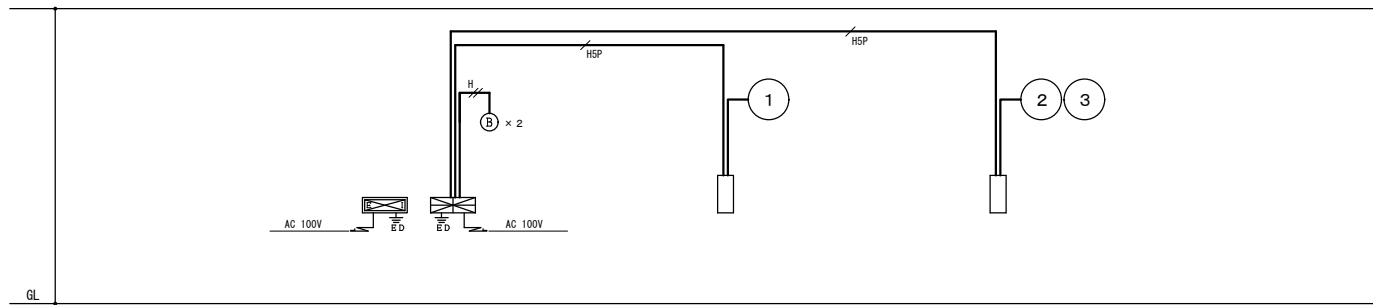
電話保安器収納盤 (300Wx300Lx100D)
【屋内露出鋼板製扉付】



平面図 S=1:100

特記事項	
特記なき配管配線は下記による。	
コンセント回路	--- --- EM-IE 2.0 x 2 E1.6 (EP19) 露出配管
"	--- --- EM-IE 2.0 x 4 E1.6 (EP25) 露出配管
"	--- --- EM-IE 2.0 x 6 E1.6 (EP31) 露出配管
電気設備については、電気事業法の基準に適合すること。	
建築設備の構造については、H12建告1388号に適合すること。	

				工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
				図面名称 コンセント・電話・インターホン設備図 平面図 (屋内多目的グラウンド) S=1:100 (A3用 S=1:200)	
				キタイ設計 (株) 一級建築士319755号 小川 龍二 E-06	



自動火災報知設備系統図

凡例

記号	名称	記	事
☒	火災受信盤	P型2級	5回線 壁掛型
☒	火災通報装置	消防機関、関係者宅 16ヶ所 (MAX) 通報用 電話保安器~火災通報装置間電話配線共	
①	火災通報専用電話機	火災通報装置用子機	
☒x3	機器収容箱	露出型	XXX 収容
☒x4	機器収容箱	露出型	XXXX 収容
☐	機器収容箱	露出型 縦型	②③④ 収容
②	発信機	P型2級	
③	表示灯	LED 24V	
④	地区音響装置	DC24V 8mA	
∩	差動式分布型検出器	2種	
—	空気管	メッセンジャー付 取付金具付	
—○—	空気管	引込箇所	
∩	終端抵抗	10kΩ	
----	配管配線	露出	
----	警戒区域境界線		
Ⓜ	警戒区域番号		No. 1 ~ 3
△	受信所板		

特記

1) 火災受信盤の表示内訳は下記の通り。

自火報	3 L
予備	2 L
合計	5 L

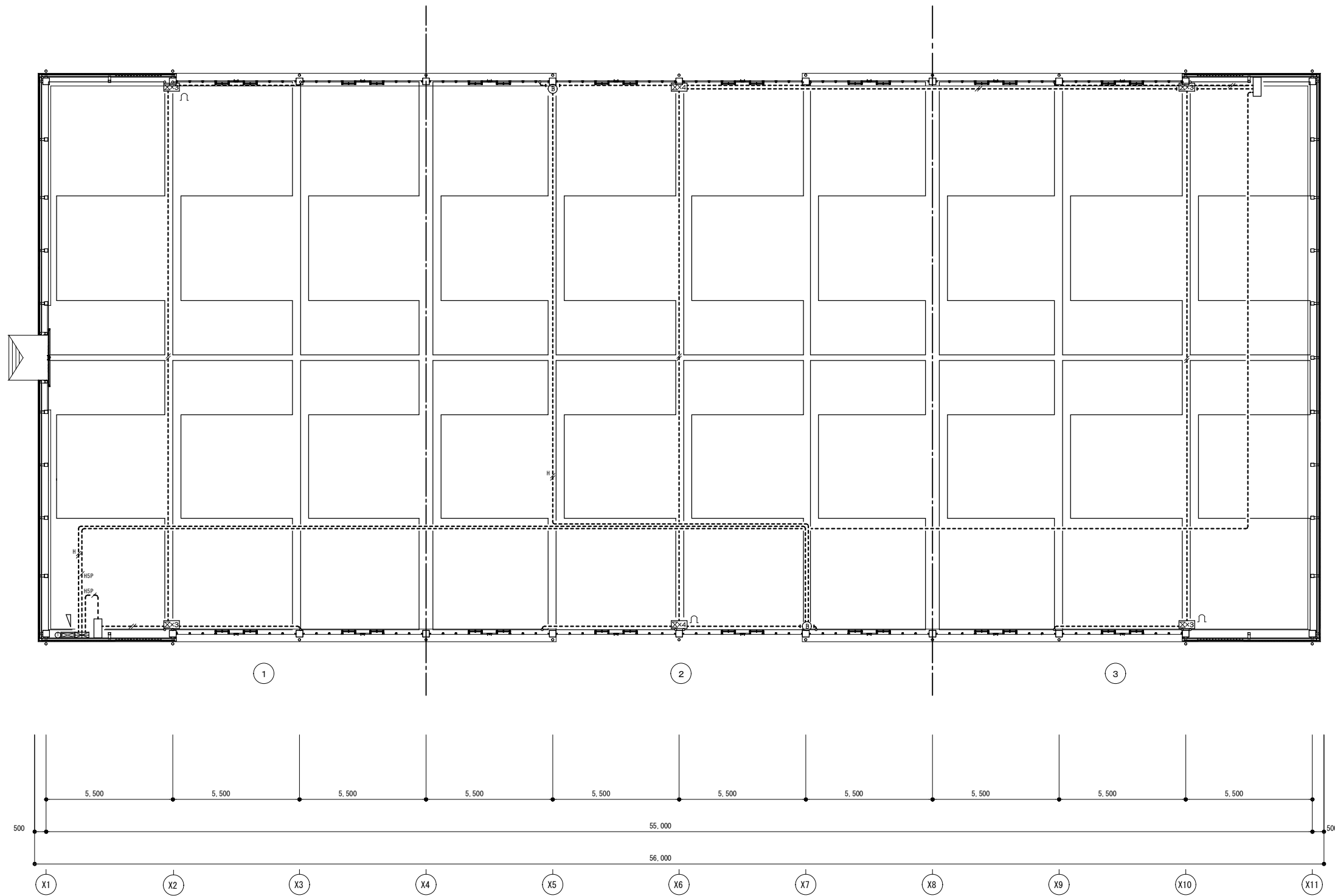
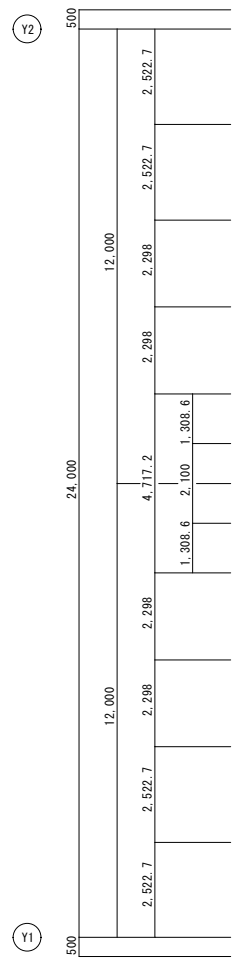
2) 地区警報は一斉鳴動方式とする。

3) 特記なき配管配線は下記の通りとする。

---/--- EM-AE 0.9 - 2C (EP19)
 ---/--- NH-HP 1.2 - 2C (EP19)
 ---/--- NH-HP 1.2 - 5P (EP25)

EM-AE : 警報用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル JIS C 4396 を使用すること。
 NH-HP : 消防庁告示 耐熱電線 を使用すること。
 電気設備については、電気事業法の基準に適合すること。
 建築設備の構造については、H12建告1388号に適合すること。
 消防用設備等の設置、維持については、消防法第17条による技術基準により設置、維持すること。

				工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事
				図面名称	自動火災報知設備系統図・凡例
					-
				キタイ設計 (株)	一級建築士319755号 小川 龍二
					E-07

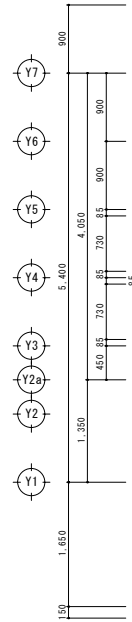
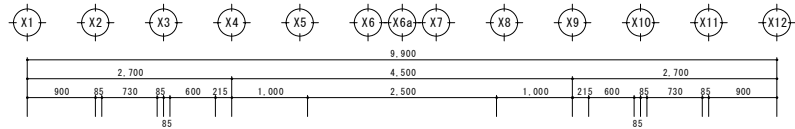


平面図 S=1:100

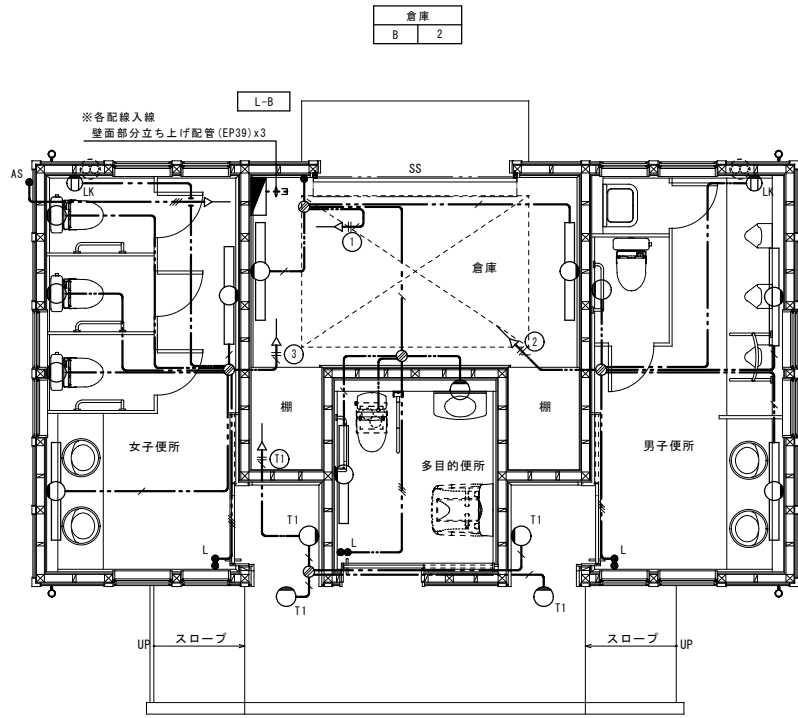
別図、凡例及び系統図を参照

					工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
					図面名称	自動火災報知設備図	平面図 (屋内多目的グラウンド)
							S=1:100 (A3用 S=1:200)
						キタイ設計 (株)	E-08
						一級建築士319755号 小川 龍二	

凡例
室名
照度器具数 台数



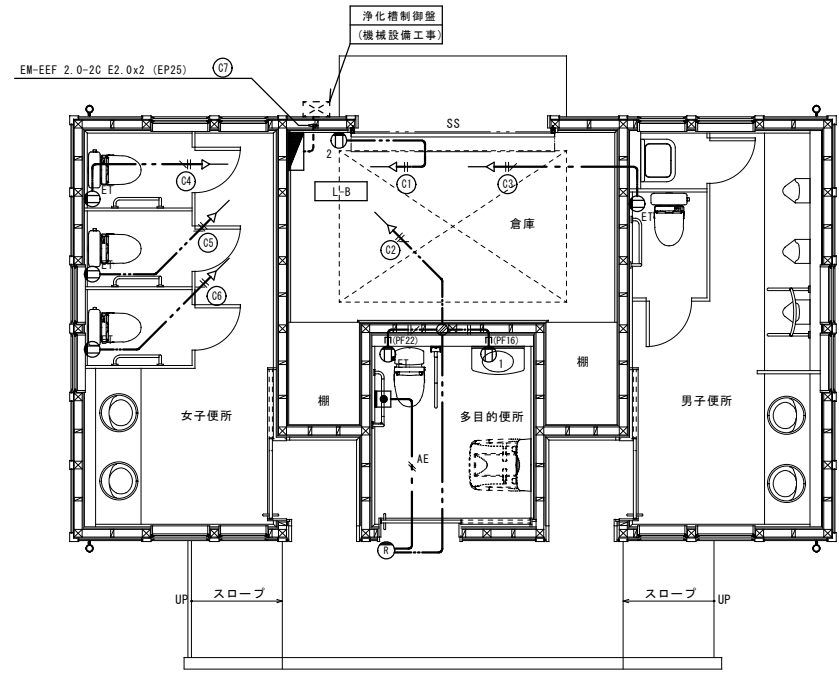
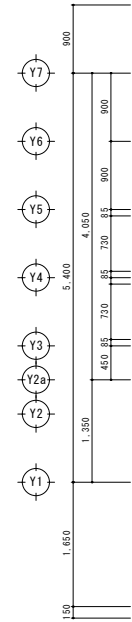
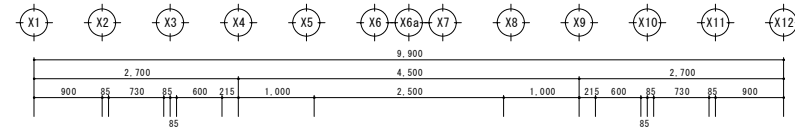
女子便所	
B	2
C	3



男子便所	
B	2
C	1

女子便所入口		多目的便所		男子便所入口	
E	1	B	1	E	1
		D	1		
		外部フック			
		E	2		

【電灯設備図】
平面詳細図 S=1:50



【コンセント・トイレ呼出設備図】
平面詳細図 S=1:50

特記事項

特記なき配管配線は下記による。			
電灯コンセント回路		EM-EEF 2.0 - 3C 1CE	本部ステップ止め
"		EM-EEF 2.0 - 2C	本部ステップ止め
"		EM-EEF 1.6 - 3C 1CE	本部ステップ止め
"		EM-EEF 1.6 - 2C	本部ステップ止め
"		EM-EEF 1.6 - 3C	本部ステップ止め
トイレ呼出回路		EM-AE 0.9 - 2C	本部ステップ止め
<small>面台露出部分は、PF電線管にて保護すること。フックは共（*：配管が示す。） 電気設備については、電気事業法の基準に適合すること。 建築設備の構造については、H12建令138号に適合すること。</small>			

			工事名称	旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
			図面名称	電灯コンセント・トイレ呼出設備図 平面詳細図（便所・倉庫）	S=1:50 (A3版 S=1:100)
				キタイ設計（株） 一級建築士319755号 小川 龍二	E-09

機械設備工事特記仕様書										
A) 工事概要										
工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事										
工事場所 船井郡京丹波町藤原地内										
建物構造 ・一般建築物 ・準耐火建築物 ・耐火建築物										
建物用途 建築基準法別表第一（第 項） 消防法施行令第18条第一（第 項）										
用途地域 ・第一種低層住居専用地域 ・第一種中層住居専用地域 ・第二種住居 ・住居										
近隣商業 商業 準工業 工業 工業専用地域										
工事開始年月日～完成年月日(日間)										
B) 工事種目										
適用 No 工事種目 新設増設改修撤去 備考										
○ 1 給水設備										
○ 2 排水通気設備										
○ 3 衛生器具設備										
4 ガス設備										
5 給湯設備										
○ 6 し尿浄化槽設備										
7 厨房設備										
8 空気調和設備										
○ 9 換気設備										
C) 建物概要										
No 名称 構造 階数 延面積 (㎡) 備考										
D) 一般事項										
○ 適用 項目および特記事項は、○印のついたものを本工事に適用し、それ以外のものについては建築工事特記仕様書に準ずること。										
○ 共通仕様書 国土交通省大臣官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(機械設備工編)(平成25年版)、及び同上設備・環境課監修公共建築設備工事標準仕様書(機械設備工編)(平成25年版)										
○ 国土交通省大臣官庁営繕部監修公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工編)(平成25年版)										
○ 日本建築協会共通仕様書(最新版)										
○ 施工基準 本工事は、工事請負約書および同約款を遵守し現場説明書・特記仕様書・図面・施工標準図および仕様により完全に施工すること。										
○ 必要なら関係諸官庁への申請手続きは、すべて請負人が代行し、その費用も請負人の負担とすること。										
○ 八本図は、工事の概要を示すものであるから、詳細位置等については監督員と打合せの上、その指示に従い施工すること。										
○ 建築設備設計・施工上の指導指針 京都市福祉のまちづくり条例等を参考に施工を行うこと。										
○ 長寿社会対応住宅(国土交通省住居第63号)										
○ その他関係法規に基づき完全に施工すること。										
○ 完成図 完成時に完成図を作成し、3部焼付製本(監督員指示によるサイズ)の上、原図・CADおよびPDFデータ提出すること。										
○ 完成原図は監督員の承諾により原設計図の電子データを、修正の上これを使用することができる。										
○ 工事写真 工事写真の提出に関しては、監督員の指示による。なお写真撮影は、国土交通省大臣官庁営繕部監修 営繕工事写真撮影要領(平成24年版)・同解説 工事写真の撮り方 建築設備編に準ずること。										
○ 技術管理 建築主体工事、電気設備工事、その他関連工事について、その施工者と密な連絡をとり全工事に支障のなき様施工すること。										
○ 技能士等 配管施工 熱線配管 冷凍・空気調和配管 建築板金施工										
○ 検査合格書等 各種検査を必要とするもの、責任施工のもの等は、各合格書または保証書を提出すること。なお、責任施工のものは、材料製造所、施工下請業者、請負契約者連名とする。										
○ 建築工事との取合い コンクリート部分の梁・壁・床の貫通部補強および仕上部分の軽量骨格天井下地、同地下地の開口部補強は建築工事とするも、事前に施工図を作成し、監督員、建築工事業者承諾の上とすること。										
○ 監督員事務所 規模 ・1号 ・2号 ・3号 ・4号 ・5号 ○設けない										
備品は監督員との打ち合わせによる。										
○ 工事管理指針 国土交通省大臣官庁営繕部監修機械設備工事管理指針(平成25年版)に準ずること。										
○ 産業廃棄物の処理等 請負人は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等に準じ、適確に処理するものとし、事前に施工計画書を提出の上、監督員の承諾をうけること。 特別管理産業廃棄物(有) ○										
○ 公害対策 工事着工前に付近の状況を調査し、公害対策は工事完成まで講じること。										
○ 機器材料等 機器材料、製品等は別紙指定表、JIS、JWWA、認定品および、設備機材等評価名簿に記載されているもの、または同等以上のものとし、各資料を提出の上、監督員の承諾をうけること。										
○ 統括安全衛生管理者 このことは、品質記載の機材にも適用すること。										
労働安全衛生法の統括安全衛生管理責任者には、○建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事)の請負人を指名すること。										
○ 別途工事の連絡協議 別途工事と定期的に協議を行い工程等の調整を図ること。また、工事区分について図示あるも必要に応じて協議の上工事区分の調整をすること。										
○ シンナー等の保管管理 シンナー等については、工事現場に設置することなく、保管を厳重に行い盗難を防止すると共に、保管管理フロンにフロンを使用している機器の撤去においては、メーカー等によりフロンガスを全量回収し、大気放出をしない処理を行うこと。また、施工に当たっては特定フロンを使用した材料、工法を用いないこと										
○ 工事実績情報の登録 請負人は工事請負代金 500万円以上の工事について、工事実績情報システム(GORINS)に基づき登録を行うこと。										
○ 保険等 請負人は工事の内容に応じた火災保険、建設工事保険等を工事目的物に付するものとする。										
○ 安全対策 ○建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事) 工事車両の出入りについては、危険防止に努めること。また、必要に応じて交通安全員を配置すると共に近隣住民に騒音、振動等公害発生をなすよう留意し、工事全般に支障なきよう万全の策を講じること。										
また、施設運営についても監督員と協議を行い、支障なきように努めること。										
○ 提出書類 工事着工前及び完成引渡し時には、下記の書類を提出すること。詳細は監督員の指示によること。										
契約書、契約見積書、工程表、施工計画書(要領書)、施工図、製作図、保証書、工事日報、検査測定表、各種検査手続き控え、検査済書、完成写真、完成図面										
○ 下請業者の選定等 各種下請業者・製造所等(町)内で供給できるものについては、極力部(町)内業者および府内産品を選定するよう努めること。										
○ 発生材の処理等 請負人は、(1)建設副産物の発生抑制(2)リサイクル活動の推進(3)建設副産物の処理の適正化等の推進を行うため、書面により提案を行い監督員に協議報告を行うこと。										
○ その他 着工に先立ち焼付製本3部(A1二ツ折り)・3部(A3二ツ折り)提出のこと。										
本工事契約前に質疑事項等がなき場合は、法的および技術上において本設計図面施工内容を承諾したものとみなす。										

種目	適用	項目	特記事項
○ 給水設備	○ 方 式	○ 責任式 ・ 加圧式 ・ 重力式 ・ 蓄圧式	○ 責任式 ・ 加圧式 ・ 重力式 ・ 蓄圧式
		○ 負担 ・ 加入金	・ 本工事 ・ 別途工事
○ 排水通気設備	○ 配管材料	○ 屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 衛生器具設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP-VU) [JIS K 6741]	○硬質ポリ塩化ビニル管(VP) [JIS K 6741]
		○屋外埋設: ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP) [JIS K 6741]	○屋外埋設: ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP) [JIS K 6741]
○ ガス設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(PA)	・ ポリ粉体ライニング鋼管(PA) ・ ステンレス鋼管
○ 給湯設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ し尿浄化槽設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 厨房設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 空気調和設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 換気設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 送風機	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ ダクト材料	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ フード	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ その他	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)

種目	適用	項目	特記事項
○ 給水設備	○ 方 式	○ 責任式 ・ 加圧式 ・ 重力式 ・ 蓄圧式	○ 責任式 ・ 加圧式 ・ 重力式 ・ 蓄圧式
		○ 負担 ・ 加入金	・ 本工事 ・ 別途工事
○ 排水通気設備	○ 配管材料	○ 屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 衛生器具設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP-VU) [JIS K 6741]	○硬質ポリ塩化ビニル管(VP) [JIS K 6741]
		○屋外埋設: ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP) [JIS K 6741]	○屋外埋設: ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP) [JIS K 6741]
○ ガス設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(PA)	・ ポリ粉体ライニング鋼管(PA) ・ ステンレス鋼管
○ 給湯設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ し尿浄化槽設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 厨房設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 空気調和設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 換気設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 送風機	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ ダクト材料	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ フード	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ その他	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)

種目	適用	項目	特記事項
○ 給水設備	○ 方 式	○ 責任式 ・ 加圧式 ・ 重力式 ・ 蓄圧式	○ 責任式 ・ 加圧式 ・ 重力式 ・ 蓄圧式
		○ 負担 ・ 加入金	・ 本工事 ・ 別途工事
○ 排水通気設備	○ 配管材料	○ 屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 衛生器具設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP-VU) [JIS K 6741]	○硬質ポリ塩化ビニル管(VP) [JIS K 6741]
		○屋外埋設: ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP) [JIS K 6741]	○屋外埋設: ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP) [JIS K 6741]
○ ガス設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(PA)	・ ポリ粉体ライニング鋼管(PA) ・ ステンレス鋼管
○ 給湯設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) [JIS K 6742]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ し尿浄化槽設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 厨房設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 空気調和設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 換気設備	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ 送風機	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ ダクト材料	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ フード	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)
○ その他	○ 配管材料	○屋外埋設: ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VA) [JWWA K 116]
		○ビル用ライニング鋼管(VD)	・ ビニルライニング鋼管(VD)

工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事

図面名称 機械設備図 特記仕様書 S= - (A13E S= -)

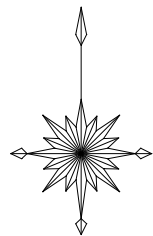
キタイ設計(株) M-01



一級建築士318755号 小川 龍二

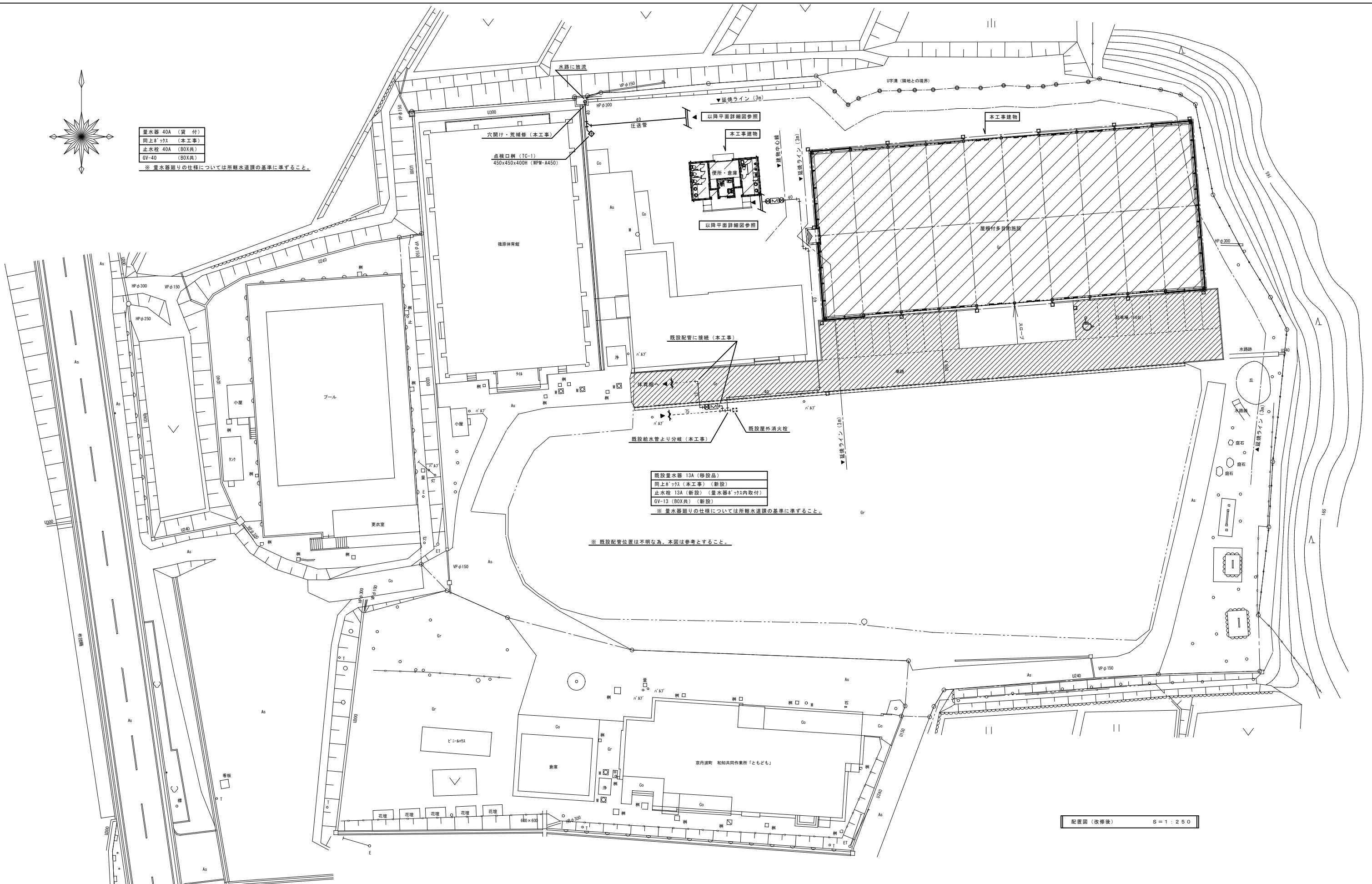
機械設備機材等指定表

分類	機材名	適用範囲	製造者名	分類	機材名	適用範囲	製造者名	分類	機材名	適用範囲	製造者名	分類	機材名	適用範囲	製造者名	分類	機材名	適用範囲	製造者名			
管	鋼管	配管用炭素鋼管 圧力配管用炭素鋼管 水道用亜鉛めっき鋼管	JISマーク表示品	弁	青銅弁	仕玉形弁 五形弁	JISマーク表示品	ボイラ	給湯用簡易ボイラ		昭和鉄工(株) (株)巴商會 (株)日本無煙工業(株) ネボン(株) (株)日立製作所	冷却塔	冷却塔		空研工業(株) 信和産業(株) (株)東芝キャリア 東洋キャリア工業(株) 日本スピンドル製造(株) 日立冷熱住設(株) 三菱樹脂(株)	防振装置	防振装置		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)シンキョー (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株)			
	ライニング鋼管	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 水道用内面硬質塩化ビニルライニング鋼管	水マーク表示品		鋳鉄弁 (同上)	JISマーク表示品	(株)キッツ 東洋バルブ(株) 三吉バルブ(株) (株)ヒラカワガイダム		温水発生機		在原ボイラ(株) タクマ汎用機器(株) (株)巴商會 川重冷熱工業(株) (株)ヒラカワガイダム		F R P 製水櫃	一体形及びパネル形	積水アクアシステム(株) (株)プリヂェストン 三菱樹脂(株)		消音ボックス付送風機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所			
	ポリ粉体鋼管	水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (外面1層ポリエチレン層)	水マーク表示品		ライニング弁		(株)オーケーエム (株)東本鉄工所 東洋バルブ(株) 巴バルブ(株) (株)東芝キャリア 三吉バルブ(株) (株)大和バルブ		鋳鉄製ボイラ		川重冷熱工業(株) 昭和鉄工(株) (株)前田鉄工所 (株)ヒラカワガイダム		鋼板製水櫃		積水アクアシステム(株) 日本容器工業(株) ベルテックノ(株) (株)プリヂェストン 森松工業(株) ホーコス(株) 三菱樹脂(株)		送風機		(株)在原製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所			
	コーティング鋼管		住友金属工業(株) 日本鋼管(株)		バタフライ弁		(株)オーケーエム (株)東本鉄工所 東洋バルブ(株) 巴バルブ(株) (株)東芝キャリア 三吉バルブ(株) (株)大和バルブ		チリングユニット		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア 東洋キャリア工業(株) (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株)		S U S 製水櫃		積水アクアシステム(株) ベルテックノ(株) (株)プリヂェストン 森松工業(株) ホーコス(株) 三菱樹脂(株)		揮発機		(財)日本建築センター の防災性能評定品			
	鉛管	給水管 水道用鉛管	JISマーク表示品		減圧弁(蒸気用) 温度調節弁		日本ベロー工業(株) フシマン(株) (株)ペン (株)本山製作所 (株)ヨシタ製作所		遠心冷凍機		(株)在原製作所 ダイキン工業(株) (株)東芝 東洋キャリア工業(株) (株)日立製作所 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		煙道・製缶類		三和工業(株) (株)島倉鉄工所 森松工業(株) ベルテックノ(株) ホーコス(株) 三成鉄工(株)		吹出口及び吸込口		アネモディフューザー ユニバーサル形 線状吹出口 吸込口	電動機		善久和工業(株) 協立エアテック(株) 空研工業(株) (株)ダイリツ (株)浪速製作所 丸光産業(株) (株)ユニックス 和田金属工業(株)
	ビニル管	水道用硬質塩化ビニル管 硬質塩化ビニル管 水道用耐衝撃性 硬質塩化ビニル管	JISマーク表示品		蒸気トラップ		フシマン(株) (株)ペン (株)本山製作所 (株)ヨシタ製作所		吸収冷凍機		(株)在原製作所 川重冷熱工業(株) ダイキン工業(株) (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) (株)本山製作所		直置き吸収冷水機		(株)在原製作所 川重冷熱工業(株) パナソニックエコシステムズ(株) (株)日立製作所 矢崎産業(株)		消火栓箱 放水水ロ・送水ロ 消火機器		(株)立売製作所 川重防災工業(株) (株)北浦製作所 (株)クラコ (株)建設工業 消火栓機工(株) ニッケン(株) 能美防災(株) (株)初田製作所 ホーチキ(株) (株)横井製作所	自動制御機器		(株)ケイヒン (株)トキメックランドシキア 桐山コンテック(株) 山武ハネウエル(株)
	ポリエチレン管		JISマーク表示品		防振継手		トーフレ(株) 東洋ゴム工業(株) 日本ベロー工業(株) (株)プリヂェストン (株)本山製作所		ユニット形空調機		木村工機(株) 昭和鉄工(株) 新晃工業(株) ダイキン工業(株) (株)東洋製作所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株)		自動巻取形 エアフィルター		東洋空調機(株) 日本エアフィルター(株) 日本スピンドル製造(株) 日本バイリーン(株) 富士電機(株) 三菱電機(株) (株)東洋製作所		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)	ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品
	ヒューム管		JISマーク表示品		溶接棒		JISマーク表示品		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)	ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品
	鋼鉄管	ダクタイル鋼鉄管 排水用鋼鉄管 (直管・異形管)	水マーク表示品		ロックウール保温材		JISマーク表示品		自動巻取形 エアフィルター		東洋空調機(株) 日本エアフィルター(株) 日本スピンドル製造(株) 日本バイリーン(株) 富士電機(株) 三菱電機(株) (株)東洋製作所		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	鋼管		JISマーク表示品		グラスウール保温材		JISマーク表示品		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	ステンレス鋼管		JISマーク表示品		ポリスチレンフォーム 保温材		JISマーク表示品		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	耐火二層管		浅野スレート(株) 昭和電工建材(株) トーマトミジ(株) (株)エーアンドエマテリアル		グラスウール保温材		JISマーク表示品		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	着色ポリエチレン鋼管		住友金属工業(株) 古河電気工業(株)		ポリスチレンフォーム 保温材		JISマーク表示品		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	鋼管継手		JISマーク表示品		衛生陶器		(株)LIXIL 東陶機器(株)		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	可鍛鋼製管継手		JISマーク表示品		水		(株)LIXIL 東陶機器(株)		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	ライニング鋼管用継手		シーケー金属(株) 住友金属工業(株) 中越可鍛(株) 日本鋼管継手(株) 東尾継手(株) 日立金属(株) (株)リケン		衛生陶器付属器具		(株)LIXIL (株)多村合会製作所 東陶機器(株)		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	ポリ粉体鋼管用継手		シーケー金属(株) 住友金属工業(株) 中越可鍛(株) 日本鋼管継手(株) 東尾継手(株) 日立金属(株) (株)リケン		排水金具		伊藤鉄工(株) (株)オオタケフアンドリー カネソウ(株) (株)小島製作所 ダイドレ(株) (株)長谷川精工所 福西鋳物(株) 友鉄工業(株)		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	排水管継手		JISマーク表示品		排水金具		伊藤鉄工(株) (株)オオタケフアンドリー カネソウ(株) (株)小島製作所 ダイドレ(株) (株)長谷川精工所 福西鋳物(株) 友鉄工業(株)		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	ダクタイル鋼鉄異形管		水マーク表示品		排水金具		伊藤鉄工(株) (株)オオタケフアンドリー カネソウ(株) (株)小島製作所 ダイドレ(株) (株)長谷川精工所 福西鋳物(株) 友鉄工業(株)		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
	ポリエチレン管継手		JISマーク表示品		排水金具		伊藤鉄工(株) (株)オオタケフアンドリー カネソウ(株) (株)小島製作所 ダイドレ(株) (株)長谷川精工所 福西鋳物(株) 友鉄工業(株)		パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)		浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)		ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所
ビニル管継手		水道用硬質塩化ビニル管継手 排水用硬質塩化ビニル管継手 水道用耐衝撃性 硬質塩化ビニル管継手	排水金具		伊藤鉄工(株) (株)オオタケフアンドリー カネソウ(株) (株)小島製作所 ダイドレ(株) (株)長谷川精工所 福西鋳物(株) 友鉄工業(株)	パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)	浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)	ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所					
鋼管継手		(株)多美製作所 東洋フィッティング(株)	排水金具		伊藤鉄工(株) (株)オオタケフアンドリー カネソウ(株) (株)小島製作所 ダイドレ(株) (株)長谷川精工所 福西鋳物(株) 友鉄工業(株)	パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)	浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)	ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所					
ステンレス鋼管継手		S A S 規格品	排水金具		伊藤鉄工(株) (株)オオタケフアンドリー カネソウ(株) (株)小島製作所 ダイドレ(株) (株)長谷川精工所 福西鋳物(株) 友鉄工業(株)	パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)	浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)	ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所					
ベローズ式伸縮継手		(株)日立製作所 日本ベロー工業(株) フシマン(株) (株)ペン (株)本山製作所 (株)ヨシタ製作所	排水金具		伊藤鉄工(株) (株)オオタケフアンドリー カネソウ(株) (株)小島製作所 ダイドレ(株) (株)長谷川精工所 福西鋳物(株) 友鉄工業(株)	パッケージ型空調機		ダイキン工業(株) (株)東芝キャリア (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) 三菱電機(株) 三菱重工業(株)	浄化槽		環境研研(株) アムス(株) フジグリーン工業(株)	ガス器具類		T・G・LPGマーク表示品	電動機		(株)在原製作所 (株)鎌倉製作所 (株)テラール (株)武部鉄工所 (株)谷山鉄工所 (株)日立製作所 パナソニックエコシステムズ(株) (株)ミツヤ送風機製作所 (株)トーヨーコ理研 (株)増島製作所					



- 量水器 40A (貸付)
- 同上*ヶス (本工程)
- 止水栓 40A (BOX共)
- GV-40 (BOX共)

※ 量水器廻りの仕様については所轄水道課の基準に準ずること。



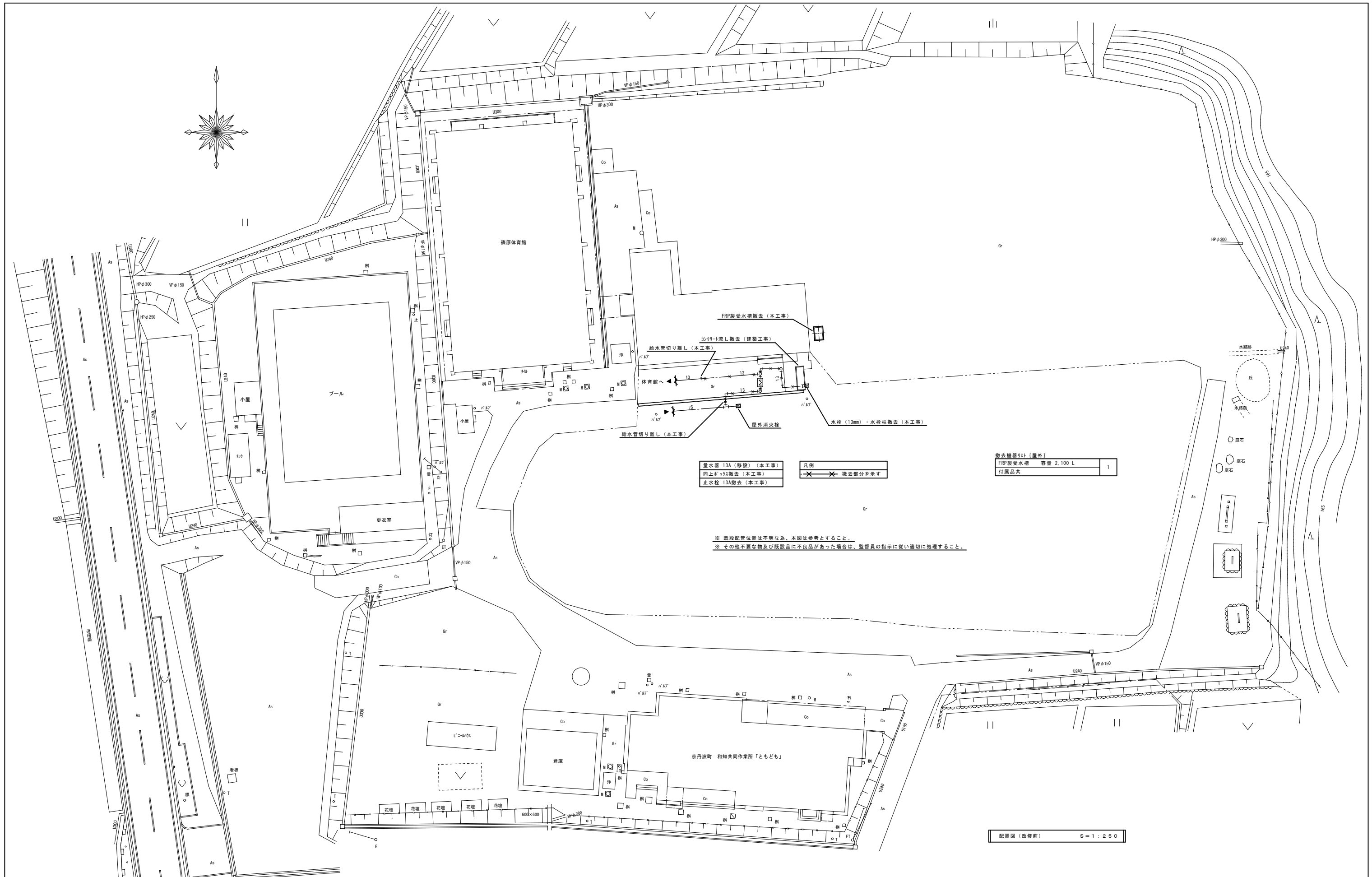
- 既設量水器 13A (移設品)
- 同上*ヶス (本工程) (新設)
- 止水栓 13A (新設) (量水器*ヶス内取付)
- GV-13 (BOX共) (新設)

※ 量水器廻りの仕様については所轄水道課の基準に準ずること。

※ 既設配管位置は不明な為、本図は参考とすること。

配置図 (改修後) S=1:250

				工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事 図面名称 機械設備図 配置図 (改修後) S=1:250 (A3用 S=1:500) キタイ設計 (株) 一級建築士 19755号 小川 龍二 M-03
--	--	--	--	--



量水器 13A (移設) (本工事)
同上ものを撤去 (本工事)
止水栓 13A撤去 (本工事)

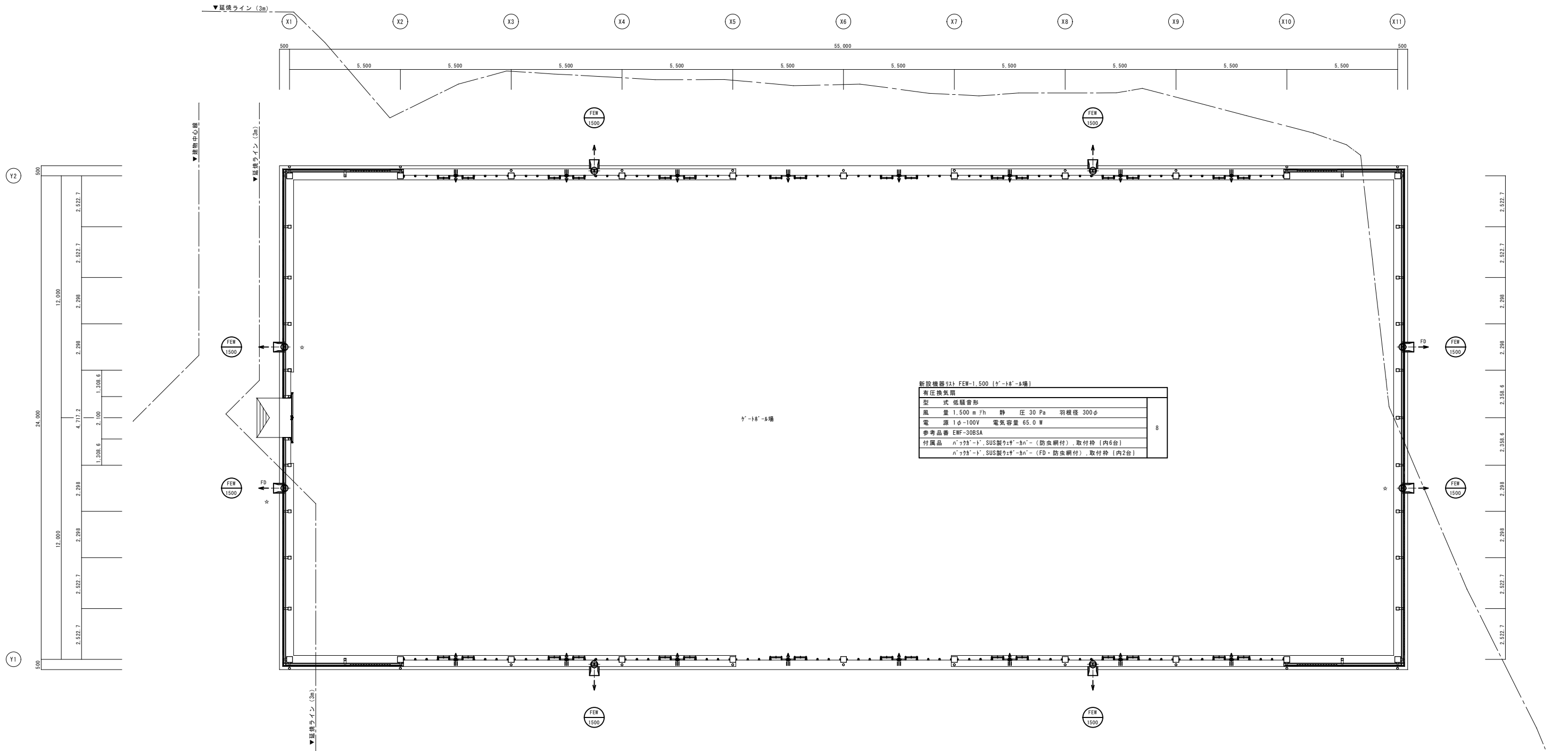
凡例
✕ 撤去部分を示す

撤去機器等(屋外)	
FRP製受水水槽 容量 2,100 L	1
付属品共	

※ 既設配管位置は不明な為、本図は参考とすること。
 ※ その他不要な物及び既設品に不良品があった場合は、監督員の指示に従い適切に処理すること。

配置図 (改修前) S=1:250

工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事			
図面名称 機械設備図	配置図 (改修前)	S=1:250	(A3用 S=1:500)
キタイ設計 (株)		一級建築士 319755号	小川 龍二
			M-04



新設機器 2台 FEW-1.500 [ヶ-14'-8号] 有圧換気扇	
型式	低騒音形
風量	1,500 m ³ /h 静圧 30 Pa 羽根径 300φ
電源	1φ-100V 電気容量 65.0 W
参考品番	ENF-30BSA
付属品	パツパ'-d', SUS製ウチ'-3n'- (防虫網付), 取付枠 [内6台]
	パツパ'-d', SUS製ウチ'-3n'- (FD・防虫網付), 取付枠 [内2台]

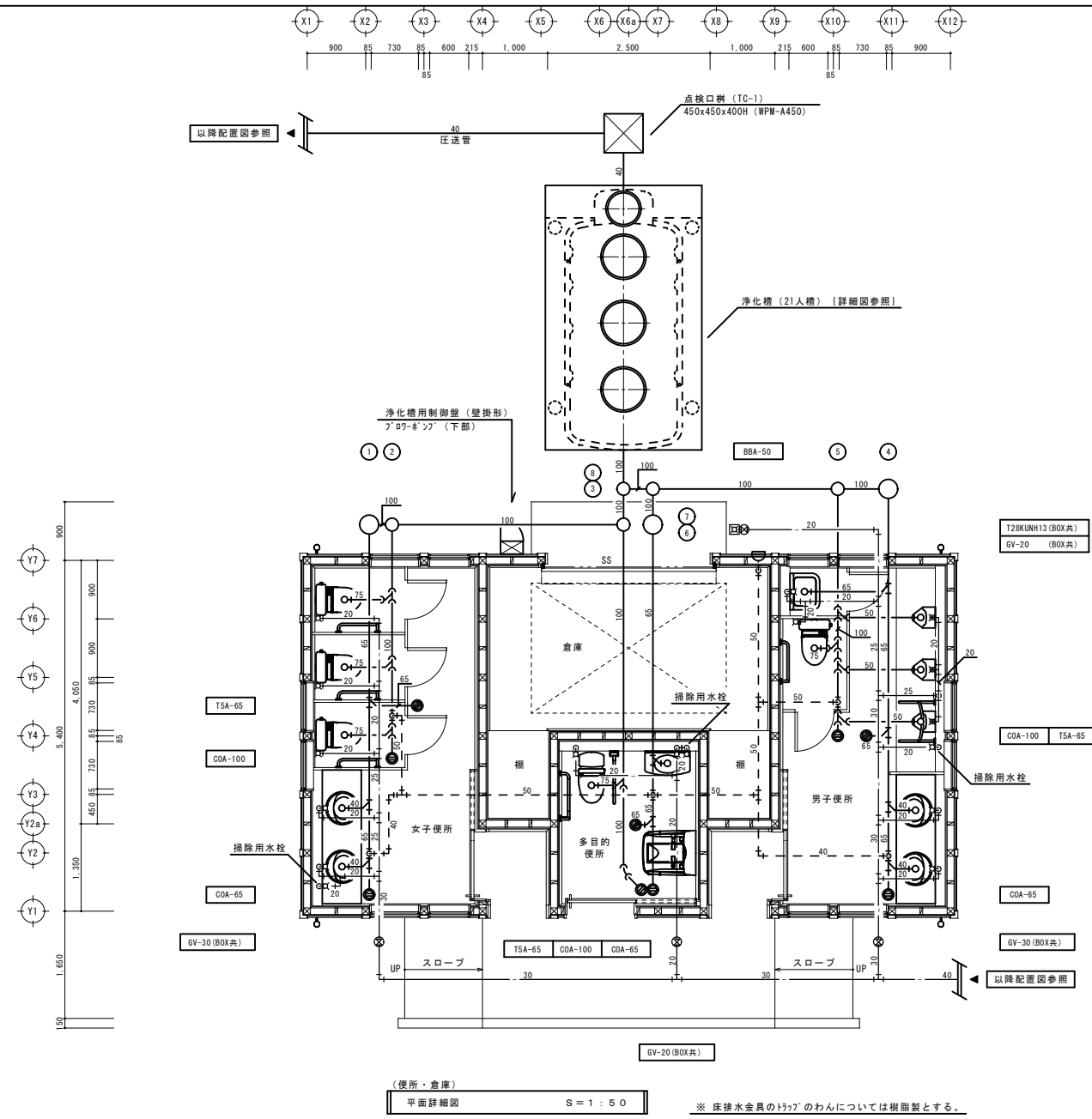
特記事項

1. 建築設備の構造については、H12建告1388号に適合すること。

(ヶ-14'-8号)
 平面図 S = 1 : 100

注記
 ※ ☆印の機器については、24時間換気とする。
 (☆印に表示を行うこと。)

工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事	
図面名称 機械設備図	平面図 (屋内多目的グラウンド)
S=1:100 (A3用 S=1:200)	
キタイ設計 (株)	
一級建築士318755号 小川 龍二	
M-05	



(便所・倉庫)
平面詳細図 S=1:50 ※ 床排水金具の「ワ」のわんについては樹脂製とする。

新設機器リスト FEW-690 (女子便所)

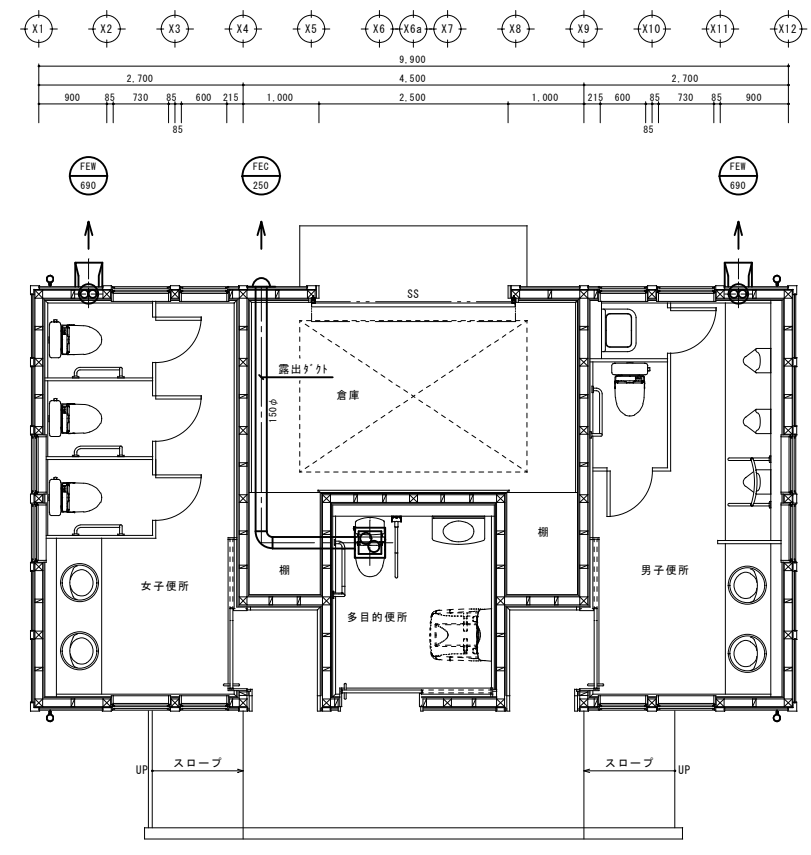
換気扇	型式 電気式シャワー格子タイプ
風量	690 m ³ /h 羽根径 250φ
電源	1φ-100V 電気容量 18.5 W
参考品番	EX-25EK rC
付属品	SUS製ワグ-ハグ (防虫網付) . 木枠

新設機器リスト FEC-250 (多目的便所)

天井埋込形換気扇	型式 低騒音タイプ
風量	250 m ³ /h 静圧 50 Pa
電源	1φ-100V 電気容量 49.0 W
参考品番	VD-202C
付属品	SUS製深形ワグ (防虫網付) . 天吊金具

新設機器リスト FEW-690 (男子便所)

換気扇	型式 電気式シャワー格子タイプ
風量	690 m ³ /h 羽根径 250φ
電源	1φ-100V 電気容量 18.5 W
参考品番	EX-25EK rC
付属品	SUS製ワグ-ハグ (防虫網付) . 木枠



(便所・倉庫)
平面詳細図 S=1:50

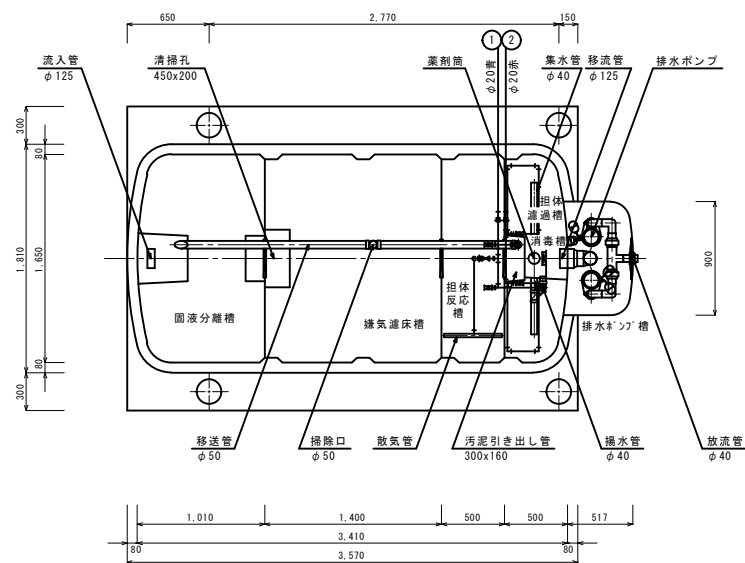
衛生器具リスト

器具名	参考品番	付属品	男子便所	女子便所	多目的便所	合計	備考
洋風大便器	CS230B	SH230BA, TCF6621, YH60N, (床給水・床排水)	1	3		4	1φ-100V, 321.0W (便座)
車椅子対応便器	CS20AB	SH30BA, TCF4721AMV86, TCA53, YH500x2, (壁給水・床排水)			1	1	1φ-100V, 1,280.0W (便座)
小便器	UFH500	T6600PN, T9R, (壁給水・壁排水)	3			3	
掃除用流し	SK22A	TK22, T23AEQ20, TN114, T9R, HH04060, T37SGEP, (壁給水・床排水)	1			1	
洗面器	L270C	TEN77G1, T7PW1, TL220D, (壁給水・壁排水)			1	1	1φ-100V, 0.6W (自動水栓)
はめ込み洗面器	L525ROU	TLC11AR, T6PW1, TL4A1F, TK525, (壁給水・壁排水)	2	2		4	
マフ 3つ折りタイプ	ML60	マフ3つ折りタイプ, L=1,985, 2' 3つ折りタイプ	1			1	
マフ 3つ折りタイプ	ML60	マフ3つ折りタイプ, L=2,055, 2' 3つ折りタイプ		1		1	
横水栓 (掃除用)	T28AUNH13		1	1	1	3	
ベビーシート	YKA24	取付金具共			1	1	
化粧鏡	YW6090F	止め金具共			1	1	
手すり	T112CL10	L形, 取付金具共	1	3	1	5	
手すり	T112HK8	はね上げタイプ, 取付金具共			1	1	
手すり	T112CU2	小便器用, 取付金具共	1			1	
化粧鏡	建築工事	大型鏡	1	1		2	

樹リスト

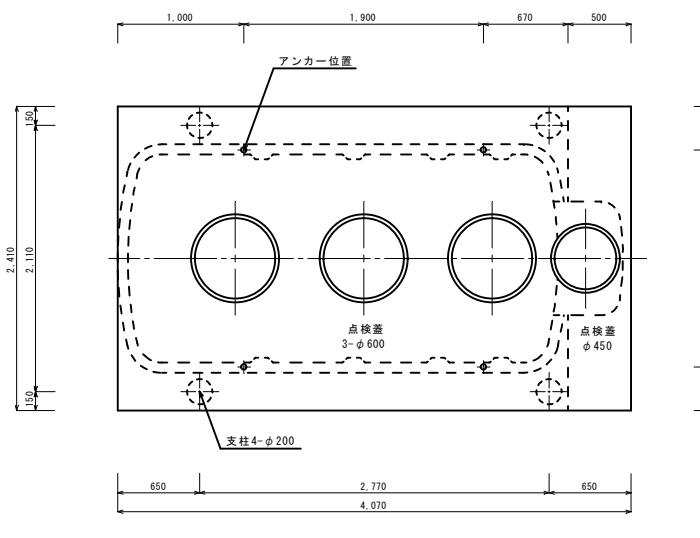
記号	名称	寸法	深さ	形式	ふた	備考
①	防臭樹	300φ	595	-	防護蓋	T&B内蓋共
②	塩ビ製小口径樹	100A-200φ	600	90Y	"	"
③	"	"	640	"	"	"
④	防臭樹	300φ	605	-	"	"
⑤	塩ビ製小口径樹	100A-200φ	615	90Y	"	"
⑥	防臭樹	300φ	635	-	"	"
⑦	塩ビ製小口径樹	100A-200φ	645	90Y	"	"
⑧	"	"	650	"	"	"

リスト中の深さについては参考につき、現地測量の上決定すること。
施工に関しては、所轄の下水道基準に基づき完全に行うこと。
配管勾配は1/100とする。

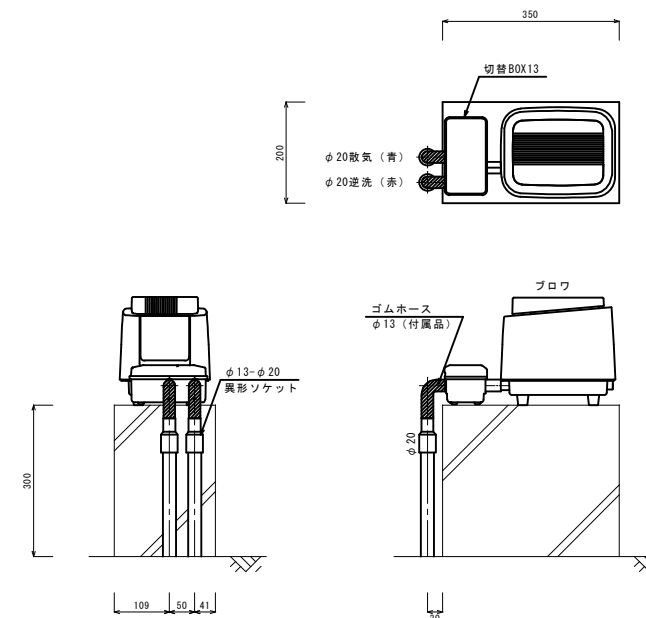


平面図 S = 1/40

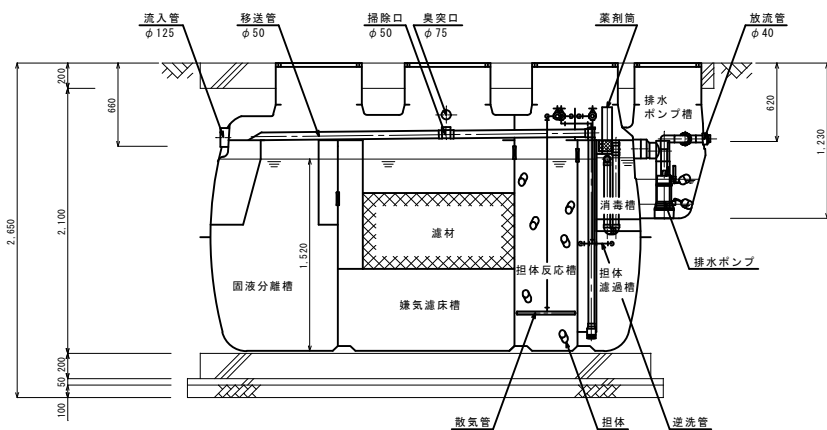
- ① 切替BOXの接続口 (青) に接続
- ② 切替BOXの接続口 (赤) に接続



スラブ平面図 S = 1/40

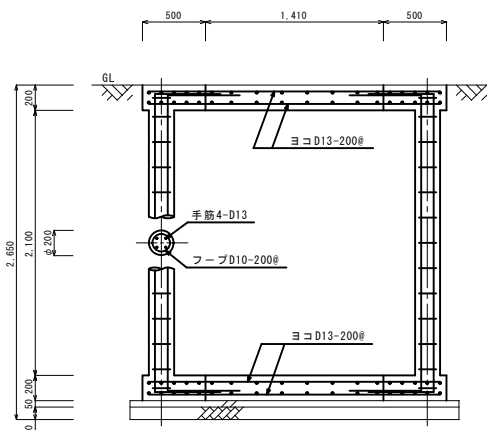


アワー・切替BOX 据付図 (参考) S = 1/10



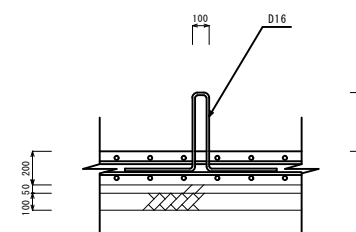
断面図 S = 1/40

タテ上端筋	5-D13	D13-200#	5-D13
タテ下端筋	5-D13	D13-200#	5-D13



タテ上端筋	5-D13	D13-200#	5-D13
タテ下端筋	5-D13	D13-200#	5-D13

配筋断面図 S = 1/40



アンカー取付図 S = 1/NTS

浮上防止具		
名称	サイズ	数量 (個)
ターンバックル	5/8	4

開口仕様	
種類	点検蓋 (丸型) 1500K (安全荷重 15kN)
蓋	FRP製
枠	PP製
備考	ロック付

設計仕様

型式	CXU2-21P
認定番号	4-14K-H-008-2
適合認定番号	型01caf0a0213884
処理対象人員	21人
日平均汚水量	4.2 m ³ /日
流入水水质	BOD 200 mg/L
流出水水质	BOD 20 mg/L

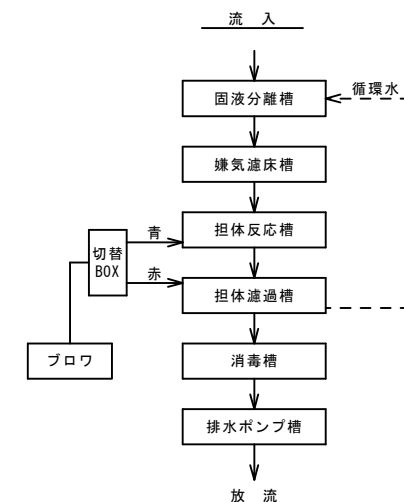
槽名	有効容量 (m ³)
固液分離槽	2.11
嫌気濾床槽	3.11
担体反応槽	1.12
担体濾過槽	0.77
消毒槽	0.05
排水ポンプ槽	0.07

品名	台数	仕様
ブロウ	1	13 A x 120 L/分 x 0.02 MPa x 130 W YLP-120N
排水ポンプ	2	40 A x 110 L/分 x 4.0 m x 150 W 32PN2.15S

[注] 開口の表示は内径寸法とする。

全高は外寸とする。

フローシート



品名	台数	仕様
ブロウ	1	13 A x 120 L/分 x 0.02 MPa x 130 W YLP-120N
排水ポンプ	2	40 A x 110 L/分 x 4.0 m x 150 W 32PN2.15S

[注] 開口の表示は内径寸法とする。

全高は外寸とする。



キタイ設計 (株)

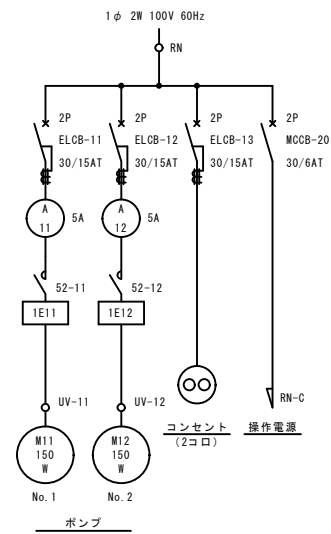
一級建築士319755号 小川 龍二

M-07

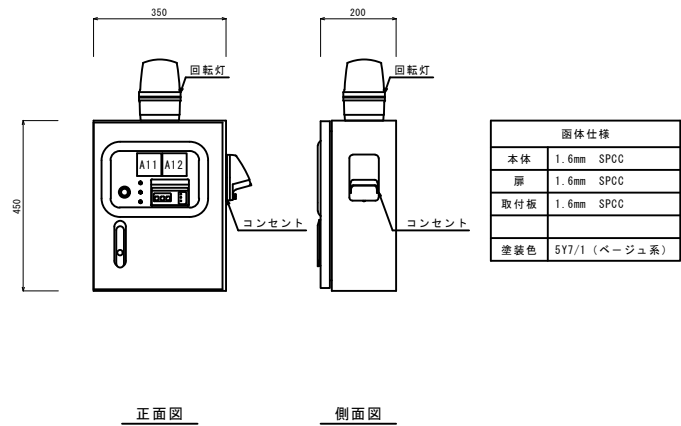
工事名称 旧和知第二小学校屋内多目的グラウンド建築工事

図面名称 浄化槽設備図 詳細図 S-1:30 (A3用 S-1:60)

単線系統図

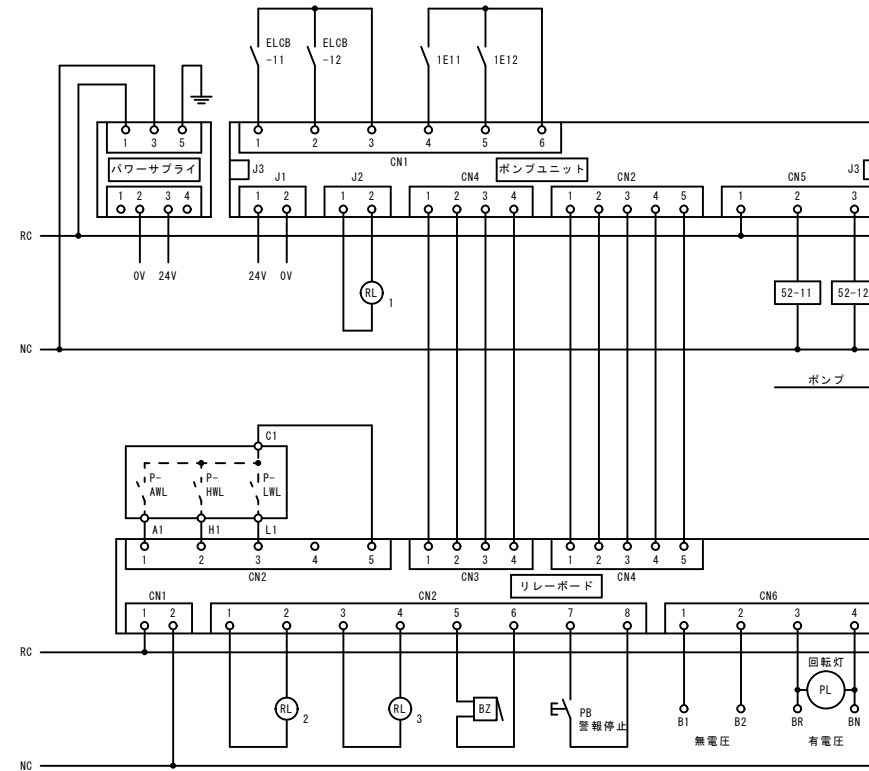


函体寸法図 S=1/10



※ 2次側配管・配線工事 (本工事)

操作回路図



操作パネル図

